都市計画道路三橋筑紫橋線道路建設関係埋蔵文化財調査報告 1

# 坂本町遺跡

遺構編

福岡県柳川市坂本町所在遺跡の調査

福岡県文化財調査報告書第 290 集

2026

九州歴史資料館

# 序

本報告書は、令和４～６年度に都市計画道路三橋筑紫橋線道路建設に伴い南筑後県土整備事務所の執行委任を受けて発掘調査を行った、柳川市坂本町に所在する坂本町遺跡の発掘調査報告書です。

坂本町遺跡の調査では大きく中世と近世の建物・柵列・土坑・溝などから瓦器椀・中世の陶磁器、近世の陶器・磁器などが出土し、これまで知られていなかった柳河城内の武家屋敷地内の歴史が解明されました。

本報告書が、教育・学術研究とともに、文化財愛護思想の普及・定着の一助となれば幸いです。

なお、発掘調査・報告書の作成にいたる間には、南筑後県土整備事務所や柳川市教育委員会の関係諸機関の方々にご協力・ご助言をいただきました。
ここに、深く感謝いたします。

令和８年３月３１日

九州歴史資料館

館長　吉田　法稔

# 例　言

1　本書は都市計画道路三橋筑紫橋線道路建設事業に伴い、令和４～６年度に九州歴史資料館が発掘調査を実施した。福岡県柳川市坂本町に所在する坂本町遺跡の発掘調査の記録である。

2　発掘調査および報告書作成は南筑後県土整備事務所からの執行委任を受け、九州歴史資料館が実施した。

3　本書に掲載した遺構写真の撮影は坂本真一が行い、空中写真撮影はワールド・フォト・サービスによるドローン撮影を委託した。

4　本書に掲載した遺構図の作成は坂本が行った。

5　出土遺物の整理作業は九州歴史資料館にて実施し、出土遺物は、令和８・９年度に遺物編にて報告する予定である。

6　出土遺物および図面・写真等の記録類は、九州歴史資料館にて保管する。

7　本書に使用した第２図は、国土交通省国土地理院発行の１/25,000、「柳川」「羽犬塚」、写真２は昭和 37 年の空中写真（MKU621-C13-8）を一部、改変したものである。本書で使用した方位は座標北である。

8　本書の執筆と編集は坂本が行った。

# 目　次


Ⅰ　はじめに …… 1
　1．調査に至る経過 …… 1
　2．調査・整理の組織と体制 …… 1
Ⅱ　位置と歴史的環境 …… 2
Ⅲ　発掘調査の記録 …… 6
　1．遺跡の概要 …… 6
　2．遺構 …… 6
　　1．建物・柵列 …… 6
　　2．土坑 …… 30
　　3．溝 …… 83
　　4．石敷遺構 …… 102
　　5．ピット …… 102
　　6．第２面の遺構 …… 102
Ⅳ　おわりに …… 106


# 挿図目次


第１図　福岡県柳川市位置図 …… 1
第２図　周辺遺跡分布地図（1/25,000） …… 3
第３図　坂本町遺跡詳細図（1/1,500） …… 5
第４図　坂本町遺跡遺構配置図１〈A～C・F 区〉（1/200） …… 7・8
第５図　坂本町遺跡遺構配置図２〈D・E・G 区〉（1/200） …… 9・10
第６図　A 区１号掘立柱建物実測図（1/60） …… 12
第７図　A 区２・３号掘立柱建物実測図（1/60） …… 13
第８図　A 区１～３号柵列実測図（1/60） …… 14
第９図　B 区４号掘立柱建物実測図（1/60） …… 15
第 10 図　B 区５・６号掘立柱建物実測図（1/40） …… 16
第 11 図　B 区７号掘立柱建物、４号柵列実測図（1/60） …… 17
第 12 図　B 区５～８号柵列実測図（1/60） …… 18
第 13 図　B 区９～ 12 号柵列実測図（1/60） …… 19
第 14 図　B 区 13 ～ 15 号柵列実測図（1/60） …… 20
第 15 図　C 区８号掘立柱建物、16・17 号柵列実測図（1/60） …… 21・22
第 16 図　C 区 18 ～ 23 号柵列実測図（1/60） …… 24
第 17 図　D 区 ９・10 掘立柱建物実測図（1/60） …… 25

第 18 図　D 区 11 号掘立柱建物、24 号柵列実測図（1/60）…… 26
第 19 図　E 区 12・13 号掘立柱建物実測図（1/60）…… 27
第 20 図　F 区 25 ～ 27 号柵列実測図（1/60）…… 28
第 21 図　G 区 14 号礎石建物実測図（1/60）…… 29
第 22 図　A 区 6 ・12・13・18・20・36 号土坑実測図（1/40）…… 31
第 23 図　A 区 1 ～ 5 ・168 号土坑実測図（1/40）…… 33
第 24 図　A 区 7 ～ 11 号土坑実測図（1/40）…… 35
第 25 図　A 区 14・15・17・19 号土坑実測図（1/40）…… 36
第 26 図　A 区 21・22 号土坑実測図（1/40）…… 37
第 27 図　A 区 23 ～ 28 号土坑実測図（1/40）…… 39
第 28 図　A 区 34・35・37・38 号土坑実測図（1/40）…… 41
第 29 図　A 区 39 ～ 45 号土坑実測図（1/40）…… 42
第 30 図　A 区 46 ～ 48 号土坑実測図（1/40）…… 43
第 31 図　B 区 85・90・98・99 号土坑実測図（1/40）…… 45
第 32 図　B 区 29 ～ 33 号土坑実測図（1/40）…… 46
第 33 図　B 区 80 ～ 82・84 号土坑実測図（84 は 1/20、他は 1/40）…… 47
第 34 図　B 区 86 ～ 89・91・92 号土坑実測図（1/40）…… 49
第 35 図　B 区 93 ～ 97 号土坑実測図（96・97 は 1/20、他は 1/40）…… 51
第 36 図　B 区 100・101・106 号土坑実測図（1/40）…… 52
第 37 図　C 区 75・76 号土坑実測図（1/40）…… 53
第 38 図　C 区 66 ～ 72・74 号土坑実測図（1/40）…… 55
第 39 図　C 区 73・77 ～ 79 号土坑実測図（1/40）…… 56
第 40 図　D 区 53 号土坑実測図（1/40）…… 57
第 41 図　D 区 49 ～ 52・54 ～ 57 号土坑実測図（1/40）…… 59
第 42 図　D 区 58 ～ 62 号土坑実測図（1/40）…… 60
第 43 図　D 区 63・65 号土坑実測図（1/40）…… 61
第 44 図　D 区 102 ～ 105 号土坑、52 号溝実測図（1/40）…… 63
第 45 図　D 区 107 ～ 112・114 号土坑実測図（1/40）…… 65
第 46 図　D 区 113・115 ～ 119 号土坑実測図（1/40）…… 66
第 47 図　E 区 120 ～ 124 号土坑実測図（1/40）…… 68
第 48 図　E 区 125・126・128 ～ 131 号土坑実測図（1/40）…… 70
第 49 図　E 区 127・132 ～ 139 号土坑実測図（1/40）…… 72
第 50 図　F 区 140 ～ 143 号土坑実測図（1/40）…… 73
第 51 図　F 区 144・145 号土坑、75・76 号溝実測図（1/40）…… 74
第 52 図　G 区 146 ～ 148 号土坑実測図（146 は 1/20、他は 1/40）…… 76
第 53 図　G 区 149 ～ 154・156 号土坑実測図（1/40）…… 77
第 54 図　G 区 155・157・158 号土坑実測図（157 は 1/40、他は 1/20）…… 79
第 55 図　G 区 159 ～ 162 号土坑実測図（1/40）…… 81

第 56 図　G 区 163 ～ 167 号土坑実測図（1/40）…… 82
第 57 図　A 区 4 ～ 6 号、C 区 38・39 号、B 区 49・50 号溝実測図（1/40）…… 84
第 58 図　A 区 1 ～ 3 ・ 7 ～ 11・13 ～ 17・19 号溝実測図（1/40） …… 86
第 59 図　A 区 20 ～ 22 号溝実測図（1/40） …… 87
第 60 図　B 区 18・44 ～ 48・51 号、C 区 32 ～ 37・40 ～ 43 号溝実測図（1/40） …… 89
第 61 図　D 区 23 ～ 26・31 号溝実測図（1/40）…… 92
第 62 図　D 区 27 ～ 30・53・54 号溝実測図（54 は 1/20、他は 1/40）…… 94
第 63 図　D 区 54 ～ 58 号溝実測図（1/40）…… 95
第 64 図　D 区 59 ～ 64 号溝実測図（1/40）…… 96
第 65 図　E 区　65 ～ 74 号、G 区　77 ～ 81・83 ～ 86 号溝実測図（1/40） …… 99
第 66 図　G 区 石敷遺構実測図（1/20） …… 100
第 67 図　A 区 P114・299・301、B 区 P519、D 区 P331 実測図（1/20） …… 101
第 68 図　第２面 A 区 1 号、D 区 ２～５号土坑実測図（1/40）…… 103
第 69 図　第２面 D 区６～８号土坑、A 区 1 号・D 区２号溝実測図（1/40） …… 104

# 図版目次

図版 1　1　坂本町遺跡合成写真（真上から）　2　坂本町遺跡（A ～ C･F 区）合成写真（真上から）
図版 2　1　坂本町遺跡周辺風景 1（北から）　2　坂本町遺跡周辺風景２（西から）
3　坂本町遺跡周辺風景３（東から）
図版 3　1　A 区全景合成写真（真上から）
図版 4　1　A 区東側（真上から）　2　A 区中央（真上から）
3　A 区西側（真上から）
図版 5　1　B 区全景（真上から）　2　B 区西側（真上から）
3　B 区東側（真上から）
図版 6　1　C 区全景（真上から）　2　F 区全景（真上から）
図版 7　1　D 区全景（真上から）　2　D 区西側（真上から）
3　D 区東側（真上から）
図版 8　1　E 区全景（真上から）　2　E 区西側（真上から）
3　E 区東側（真上から）
図版 9　1　G 区全景（真上から）　2　G 区西側（真上から）
3　G 区東側（真上から）
図版 10　1　A 区 1 号建物（真上から）　2　A 区２号建物（真上から）
3　A 区３号建物（真上から）　4　A 区３号建物柱穴土層（西から）
図版 11　1　A 区 1 ～３号柵列（真上から）
2　B 区４号建物、５～７ ・ ９ ・13・14 号柵列（真上から）
3　B 区５～７号建物、４ ・10・11・12・15 号柵列（真上から）

図版 12　1　B 区 8 号柵列（真上から）
　　2　C 区 8 号建物、16 ～ 23 号柵列（真上から）

図版 13　1　D 区 9 ・ 10 号建物（真上から）　2　D 区 24 号建物（真上から）
　　3　D 区 11 号建物（真上から）　4　E 区 12 号建物（真上から）

図版 14　1　E 区 13 号建物（真上から）　2　F 区 25 ～ 27 号柵列（真上から）
　　3　G 区 14 号礎石建物（真上から）

図版 15　1　A 区 1 号土坑（南から）　2　A 区 2 号土坑（南から）
　　3　A 区 3 号土坑（南から）　4　A 区 3 号土坑土層（南から）
　　5　A 区 4 号土坑（南から）

図版 16　1　A 区 5 号土坑（南から）　2　A 区 6 号土坑（南から）
　　3　A 区 7 号土坑土層（南から）　4　A 区 7 号土坑（南から）
　　5　A 区 8 号土坑（北東から）

図版 17　1　A 区 9 号土坑（南から）　2　A 区 10 号土坑土層（南から）
　　3　A 区 11 号土坑（南から）　4　A 区 12 号土坑（南から）
　　5　A 区 13 号土坑（南から）

図版 18　1　A 区 14 号土坑（南から）　2　A 区 14 号土坑井戸枠（南から）
　　3　A 区 15 号土坑（南から）　4　A 区 17 号土坑（南から）
　　5　A 区 18 号土坑（南から）　6　A 区 19 号土坑（南から）
　　7　A 区 20 号土坑（南東から）

図版 19　1　A 区 21 号土坑土層（南から）　2　A 区 21 号土坑（南から）
　　3　A 区 22 号土坑 1 （北から）　4　A 区 22 号土坑 2 （西から）
　　5　A 区 23 号土坑（南から）

図版 20　1　A 区 24 号土坑（西から）　2　A 区 25 号土坑（北西から）
　　3　A 区 26 号土坑（南から）　4　A 区 28 号土坑（西から）
　　5　B 区 29 号土坑（北から）　6　B 区 30 号土坑（南から）
　　7　B 区 31 号土坑土層（東から）

図版 21　1　B 区 31 号土坑（東から）　2　B 区 32 号土坑（南から）
　　3　B 区 33 号土坑土層（南から）　4　B 区 33 号土坑（南から）

図版 22　1　A 区 34 号土坑（南から）　2　A 区 35 号土坑（南から）
　　3　A 区 36 号土坑（東から）　4　A 区 37 号土坑（南西から）
　　5　A 区 38 号土坑（南東から）　6　A 区 39 号土坑（南から）

図版 23　1　A 区 40 ・ 41 号土坑（南から）　2　A 区 42 号土坑（南西から）
　　3　A 区 43 号土坑（南西から）　4　A 区 44 ・ 45 号土坑（東から）
　　5　A 区 46 ・ 47 号土坑（南から）

図版 24　1　A 区 46 号土坑（南から）　2　A 区 47 号土坑（南から）
　　3　D 区 49 ・ 50 号土坑（南から）　4　D 区 51 号土坑（南から）
　　5　D 区 52 号土坑（西から）

図版 25　1　D 区 53 号土坑（西から）　2　D 区 53 号土坑（南東から）
　　3　D 区 54 号土坑（南から）　4　D 区 55 号土坑（南から）
　　5　D 区 56 号土坑（西から）　6　D 区 57 号土坑（西から）
　　7　D 区 58 号土坑（南から）

図版 26　1　D 区 59 号土坑（南から）　2　D 区 60 号土坑（東から）
　　3　D 区 61 号土坑（東から）　4　D 区 62 号土坑（南から）
　　5　D 区 63 号土坑土層（北東から）　6　D 区 65 号土坑（西から）

図版 27　1　C 区 66 号土坑（南から）　2　C 区 67 号土坑（南から）

3　C 区 68 号土坑（東から）　4　C 区 68 号土坑土層（東から）
5　C 区 69 号土坑（西から）　6　C 区 70 号土坑（南から）

図版 28　1　C 区 71 号土坑土層（南から）　2　C 区 71 号土坑（南から）
3　C 区 72 号土坑土層（南から）　4　C 区 72 号土坑（南から）

図版 29　1　C 区 73 号土坑（南から）　2　C 区 74 号土坑（北から）
3　C 区 77 号土坑（南から）　4　C 区 75 号土坑土層（南から）
5　C 区 79 号土坑（南から）　6　C 区 75 号土坑（南から）

図版 30　1　C 区 76 号土坑（南から）　2　C 区 76 号土坑土層（南から）
3　C 区 78 号土坑（西から）

図版 31　1　B 区 80 号土坑（南から）　2　B 区 81 号土坑（南から）
3　B 区 82 号土坑（西から）　4　B 区 82 号土坑土層（西から）
5　B 区 84 号土坑（南から）

図版 32　1　B 区 85 号土坑土層（東から）　2　B 区 85 号土坑（東から）
3　B 区 86 号土坑（東から）　4　B 区 88 号土坑（南から）

図版 33　1　B 区 89 号土坑（北から）　2　B 区 90 号土坑（南から）
3　B 区 91 号土坑（南から）　4　B 区 92 号土坑（南から）

図版 34　1　B 区 93 号土坑（南から）　2　B 区 94 号土坑（南から）
3　B 区 95 号土坑（南から）　4　B 区 96 号土坑（南から）
5　B 区 97 号土坑（南東から）

図版 35　1　B 区 98 号土坑（北から）　2　B 区 99 号土坑（北から）
3　B 区 100 号土坑（南東から）　4　D 区 102・103 号土坑（南から）
5　D 区 104 号土坑（北から）　6　D 区 105 号土坑（北から）

図版 36　1　B 区 106 号土坑（西から）　2　D 区 107 号土坑（南西から）
3　D 区 108 号土坑（北から）　4　D 区 108 ～ 110 号土坑（北から）
5　D 区 111 号土坑（南から）　6　D 区 113 号土坑（南から）
7　D 区 115 号土坑、54 号溝南（西から）

図版 37　1　D 区 116 号土坑（南から）　2　D 区 118 号土坑（西から )
3　D 区 117 号土坑土層（西から）　4　D 区 117 号土坑（西から）
5　E 区 120 号土坑（東から）　6　E 区 121 号土坑（南から）
7　E 区 122 号土坑土層（北から）　8　E 区 123 号土坑土層（西から）
9　E 区 124 号土坑土層（西から）

図版 38　1　E 区 122 号土坑（北から）　2　E 区 123 号土坑（西から）
3　E 区 125 号土坑（南から）　4　E 区 126 号土坑（南から）
5　E 区 128 号土坑（西から）　6　E 区 129・130 号土坑（西から）
7　E 区 131 号土坑土層（東から）

図版 39　1　E 区 131 号土坑（南から）　2　E 区 132 号土坑（南から）
3　E 区 133・134 号土坑（西から）　4　E 区 135・137 号土坑（東から）
5　E 区 127・138 号土坑（東から）　6　E 区 139 号土坑（南から）
7　F 区 140 号土坑土層（西から）

図版 40　1　F 区 140 号土坑（西から）　2　F 区 141 号土坑（北東から）
3　F 区 142 号土坑（南から）　4　F 区 143 号土坑（西から）
5　F 区 144 号土坑（北から）

図版 41　1　F 区 145 号土坑（北から）　2　G 区 146 号土坑（南から）
3　G 区 147 号土坑（西から）　4　G 区 148 号土坑土層（東から）

5　G区148号土坑（東から）　6　G区149号土坑（東から）
7　G区150号土坑（南西から）

図版42　1　G区151号土坑（南から）　2　G区153号土坑（西から）
3　G区152号土坑（南から）　4　G区154号土坑（南から）
5　G区155号土坑（北から）　6　G区156号土坑（北西から）
7　G区157号土坑（西から）

図版43　1　G区158号土坑（南から）　2　G区161号土坑（北東から）
3　G区163・164・166号土坑（西から）　4　G区163号土坑（南東から）
5　G区165号土坑（東から）　6　G区166号土坑（東から）

図版44　1　A区2号溝土層（北から）　2　A区2号溝（北東から）
3　A区3号溝土層（北から）　4　A区3号溝（南から）

図版45　1　A区4号溝（東から）　2　A区4号溝土層（東から）
3　A区4号溝木製品出土状況（東から）

図版46　1　A区5号溝（東から）　2　A区4・5号溝（南から）
3　A区5号溝土層（東から）　4　A区6号溝土層（北から）
5　A区6号溝（北から）　6　A区7号溝土層（南から）

図版47　1　A区8号溝（南から）　2　A区9・10号溝（南から）
3　A区11号溝（西から）　4　A区13・14号溝土層（北から）

図版48　1　A区17号溝土層（南から）　2　A区19号溝土層（東から）
3　B区18号溝（南から）　4　A区19号溝（東から）
5　A区22号溝（東から）　6　A区20・21号溝（南から）

図版49　1　D区23号溝（南から）　2　D区25号溝土層（東から）
3　D区25号溝（東から）　4　D区26号溝（南東から）

図版50　1　D区31号溝（北から）　2　D区31号溝（南から）
3　D区31号溝土層（南から）　4　D区29・30号溝土層（南から）
5　D区27～30号溝（南東から）

図版51　1　C区32・37号溝土層（南から）　2　C区32・37号溝（南から）
3　C区33号溝土層（南から）　4　C区33号溝（南から）

図版52　1　C区34号溝（南から）　2　C区35号溝（南から）
3　C区36号溝（西から）　4　C区38・39号溝（北から）
5　C区43号溝（南から）　6　C区39号溝土層（東から）
7　C区39号溝（西から）

図版53　1　B区44号溝（北から）　2　B区45号溝土層（北から）
3　B区45号溝（南から）　4　B区45・49号溝（南から）
5　B区46・47号溝（北東から）

図版54　1　B区49号溝（北から）　2　B区50号溝（北から）
3　B区49号溝土層（南から）　4　B区50号溝土層（北から）
5　B区51号溝（南から）

図版55　1　D区53号溝土層（南から）　2　D区54号溝土層（西から）
3　D区54号溝西側（南から）　4　D区54号溝中央（南西から）
5　D区54号溝溜桝遺構（北から）

図版56　1　D区54・55号溝合流部分（北西から）　2　D区56・57号溝（南から）
3　D区60号溝（南東から）　4　D区56・57号溝土層（北から）
5　D区58号溝（西から）　6　D区59号溝（東から）

図版 57　1　D 区 61 号溝（北から）
2　D 区 62 号溝（西から）
3　D 区 63 号溝（南から）
4　D 区 64 号溝（南西から）
5　D 区 64 号溝（東から）
6　E 区 65・66 号溝（西から）
7　E 区 65・66 号溝土層（西から）

図版 58　1　E 区 67・68 号溝（南から）
2　E 区 69・70 号溝（北から）
3　E 区 72 号溝東側（東から）
4　E 区 72 号溝西側（東から）
5　G 区 77・79 号溝西側（東から）
6　G 区 77・79 号溝東側（西から）
7　G 区 78 号溝土層（北から）
8　G 区 84 号溝（北西から）

図版 59　1　G 区石敷遺構（西から）
2　A 区 P114（東から）
3　A 区 P299（東から）
4　A 区 P301（南から）
5　D 区 P331（南から）
6　２面 A 区１号土坑（南から）
7　２面 D 区２・３号土坑（北から）
8　２面 D 区４号土坑（西から）

図版 60　1　２面 D 区５号土坑（東から）
2　２面 D 区７号土坑（東から）
3　２面 D 区８号土坑（南から）
4　２面 D 区８号土坑木製井戸枠（南から）
5　２面 D 区８号土坑土層（南から）
6　２面 A 区１号溝（南から）
7　２面 D 区２号溝（南から）

# 写　真

写真１　城内小学校６年生　坂本町遺跡発掘体験

写真２　昭和 37（1962）年時の坂本町遺跡周辺空中写真

写真３　発掘調査にご協力していただいた方々

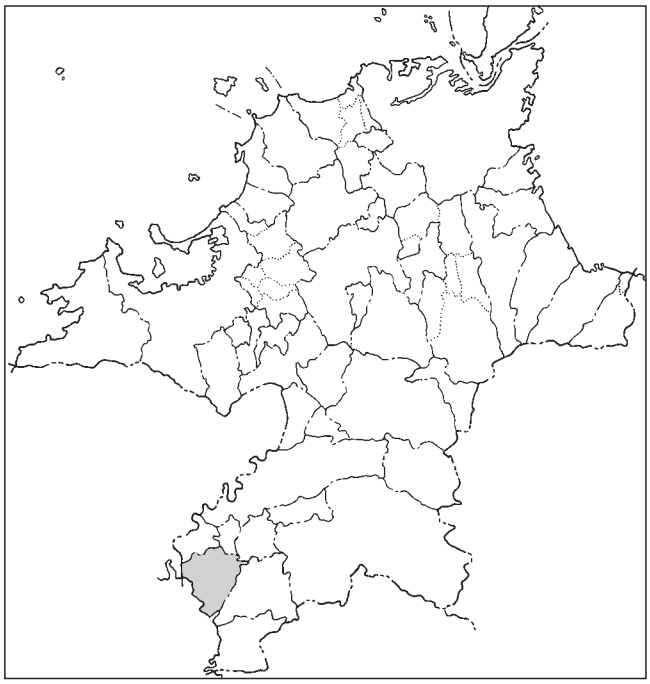


写真１　城内小学校６年生　坂本町遺跡発掘体験（令和５年 10 月 17 日）

# Ⅰ　はじめに

## 1．調査に至る経過

坂本町遺跡は福岡県柳川市坂本町に位置する。都市計画道路三橋筑紫橋線は、坂本町と柳町、新外町の３地区内を東西方向に走る。この道路建設に関して、平成 30 年 10 月 24 日に柳川市教育委員会と福岡県南筑後県土整備事務所都市施設整備課および柳川市都市計画課の３者で、都市計画道路三橋筑紫橋線建設計画に伴う埋蔵文化財の取り扱いについての協議が行われた。その後、福岡県南筑後県土整備事務所より、令和３年６月 28 日付で埋蔵文化財の所在の有無の照会があった。それを受け柳川市教育委員会は、調査対象地の隣接地である柳町遺跡の確認調査を行い、遺構の所在を確認した。また調査対象地が江戸時代の柳河城の堀内の「城内」に位置した武家屋敷地であり、多くの埋蔵文化財が発見される場所であるとの回答を令和３年７月 20 日付で行った。その後、再度、柳川市教育委員会、福岡県南筑後県土整備事務所、福岡県文化財保護課と九州歴史資料館の４者による協議が令和３年９月 28 日に行われた。その際、南筑後県土整備事務所より、令和４年の４月に柳町 400㎡、新外町 1,400㎡、10 月以降には坂本町 3,100㎡の用地買収の手続きが終了し、発掘調査が行える状況となったことが伝えられた。調査対象地は道路建設工事の着工までに調査を終了する必要があることから、九州歴史資料館もこの調査に加わることとなった。令和４年８月１日から、先行して柳川市教育委員会が柳町遺跡の調査を開始し、その後、九州歴史資料館が令和４年 10 月 27 日より坂本町遺跡の発掘調査を開始した。



第１図　福岡県柳川市位置図

## 2．調査・整理の組織と体制

| | 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 |
|---|---|---|---|---|
| ［南筑後県土整備事務所 ］ | | | | |
| 所長 | 田尻英樹 | 長友和也 | 平井信之 | 本田顕子 |
| 副所長 | 武藤　弘 | 武藤　弘 | 野田なるみ | 高嶋正史 |
| | 高橋洋之 | 高橋洋之 | 尾﨑幸太 | 尾﨑幸太 |
| 都市施設整備課長 | 光安幸一 | 光安幸一 | 大藪　泰 | 坂田信之 |
| 副長 | 村瀬和徳 | 松家正登 | 松家正登 | 橋爪博紀 |
| 技術主査 | 江藤貴俊 | 江藤貴俊 | 月足博宣 | 實本慎也 |
| [ 福岡県教育委員会 ] | | | | |
| 教育長 | 吉田法稔 | 吉田法稔 | 寺崎雅巳 | 寺崎雅巳 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 副教育長 | 上田哲子 | 上田哲子 | 上田哲子 | 松永一雄 |
| 教育監 | 深瀬信也 | 山本博康 | 古賀浩利 | 三澄妙子 |
| 教育総務部長 | 松永一雄 | 松永一雄 | 松永一雄 | 田中直喜 |

[ 九州歴史資料館 ]

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 館長 | 城戸秀明 | 城戸秀明 | 城戸秀明（～6. 4.30） | 吉田法稔 |
| | | | 吉田法稔 | |
| 副館長 | 吉村靖徳 | 吉村靖徳 | 吉村靖徳 | 小宮春光 |
| 総務室長 | 黒岩計光 | 黒岩計光 | 山下雄二 | 野美山智美 |
| 総務班長 | 髙山美保子 | 岡本裕子 | 岡本裕子 | 岡本裕子 |
| 文化財調査室長 | 吉村靖徳（兼務） | | | |
| 埋蔵文化財調査室長 | | 吉田東明 | 吉田東明 | 吉田東明 |
| 文化財調査室室長補佐 | | | 入佐友一郎 | 入佐友一郎 |
| 同　文化財調査班長 | 森井啓次 | 進村真之 | 進村真之 | 進村真之 |
| 同　企画主査 | | 坂本真一 | 坂本真一 | 坂本真一 |
| 同　技術主査 | 坂本真一 | | | |

## Ⅱ　位置と歴史的環境

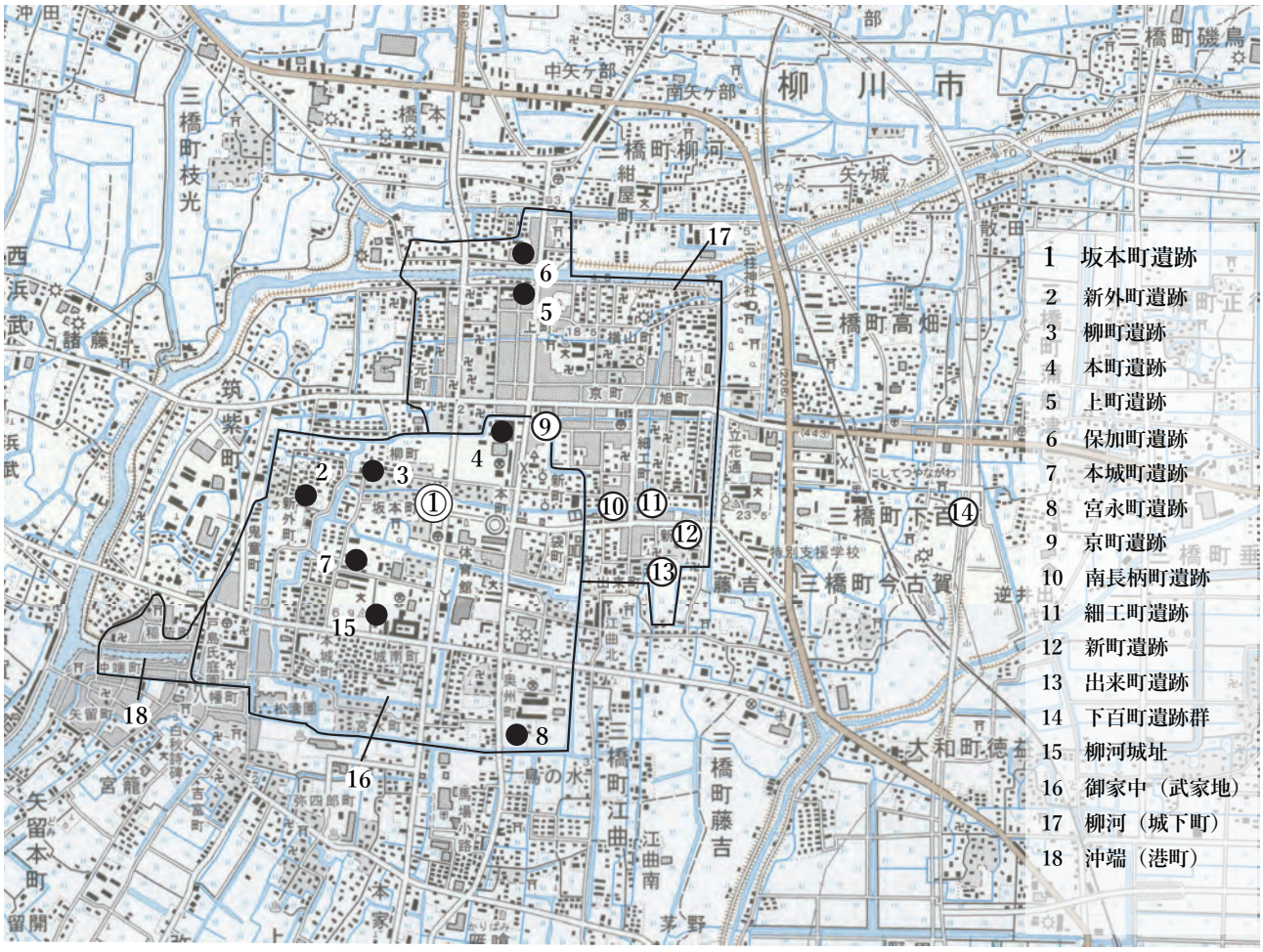
柳河城周辺では、これまで九州歴史資料館と柳川市教育委員会により、発掘調査が行われてきた。当館の発掘調査では、これまで平成 26 年に沖端川に係る出橋の付け替え工事に伴う上町遺跡・保加町遺跡と福岡県立伝習館高等学校建設に伴う本町遺跡がある。周辺遺跡や柳川市内の歴史的環境については上町遺跡で報告した内容については省略する。平成 27 年以後に行われた、柳川市教育委員会と九州歴史資料館の発掘調査の成果に伴う、坂本町遺跡周辺の歴史的環境について述べたい。

坂本町遺跡は柳川市坂本町に位置する。柳川市役所の西側で、調査対象地の東側を国道 385 号線が南北に走る。現在も残る柳河城址を囲む堀の内側にあり、本丸跡地から見ると北側に位置する。南側には日吉神社があり、神社とは水路で隔てられている。この地区については寛政３（1796）年の後家中絵図で詳細に描かれている。これによれば、周辺は武家屋敷地であり、調査対象地には十時などの武家名が読み取れる。また調査対象地北側を東西に延びる道路は、その頃すでに武家屋敷地間にある通路として存在していたことが分かる。明治 33（1900）年の２万分の１の地図では、武家屋敷地のほとんどが田地となっていた。その後、昭和時代では、国土地理院の空中写真（写真２）が参考になる。それによると 1962（昭和 37）年には、調査対象地のＡ・Ｃ・Ｆ区とＢ区西側・Ｄ区西側、Ｆ区は田地であり、それ以外の地区では、すでに住宅等の建物が見える。その後、1980 年前後ではＢ区東側やＤ区西側～中央までが宅地化され、Ａ区西側とＢ区東側の間にも道路が新設され、現在と変らない地形となる。

九州歴史資料館では、坂本町遺跡がある柳河城周辺で平成 27 年に上町遺跡・保加町遺跡・本町遺跡の３遺跡の発掘調査が行われている。また、柳川市教育委員会では、本城町遺跡と宮永町遺跡の発掘調査が行われている。



写真２　昭和 37 (1962) 年時の坂本町遺跡周辺空中写真 国土地理院 (MKU621-C13- 8) ◎は坂本町遺跡




第２図　周辺遺跡分布地図（１/25,000）※国土地理院発行「羽犬塚・柳川」

上町遺跡は出橋を挟んで南側の町人が居住していた「柳河町」に位置する。福岡県道23号線（久留米柳川線）を挟んで、東側を九州歴史資料館が、西側を柳川市教育委員会が調査を行った。調査では建物17棟、柵列16条、土坑32基、溝6条、ピット450基以上を検出する。ここでは遺構面を4時期に分け、出土遺物の検討から第1面を18世紀後半～19世紀頃、第2面を18世紀前半～中頃、第3面は17世紀後半、第4面は17世紀後半以前と分けている。各時期の近世陶器・磁器が出土するが、内面見込みにVOC銘のある染付皿や、16世紀中頃～後半の漳洲窯や景徳鎮の青花皿なども出土する。その他、寛永通寶や洪武通寶などの銅銭が989枚出土する。

保加町遺跡は出橋を挟んで、上町遺跡の北側に位置する。ここでは3次における調査が行われ、建物26棟、土坑45基、溝状遺構31条、柵列7条、カマド5基、窯跡2基を検出する。この遺跡では、最も古い17世紀前半頃の第4面、17世紀後葉～18世紀初頭の第3面、18世紀前葉～19世紀初頭の第2面、19世紀前葉～明治前期の第1面と、4面の遺構面を検出する。「田中道」と呼ばれる17世紀頃に造られた街道やそれに関わる側溝などは検出されていない。しかし、街道に垂直方向で、間口の狭い細長い町屋が発見されている。建物は第1･2面では礎石建物、第3面では礎石建物と掘立柱建物が共存し、第4面では掘立柱建物のみとなる。出土遺物には近世の陶器・磁器以外にも16世紀の李朝陶磁器なども出土する。

本町遺跡は、武家屋敷側の「城内」地区の北西部に位置し、場所は福岡県立伝習館高等学校の敷地内である。調査では江戸時代～明治時代前期の土坑52基、大形土坑3基、溝状遺構43条、大溝遺構9条、方形周溝遺構1基、井戸3基、埋甕遺構1基、墓1基などが検出された。この遺跡では第1面が18世紀後半～明治前期、第2面が17世紀前半～18世紀前半の2面を確認する。詳細な遺構の時期は17世紀後半、18世紀前半、18世紀後半、19世紀前半、19世紀中葉の5時期に分けられる。特に、絵図には見られない17世紀後半の区画溝、18世紀前半～後半の屋敷の区画溝などがある。また遺物では、明治3（1871）年に置かれた文武館に関わる線刻文字の入った火鉢なども出土する。

柳川市教育委員会では本城町遺跡と宮永町遺跡が発掘調査されている。

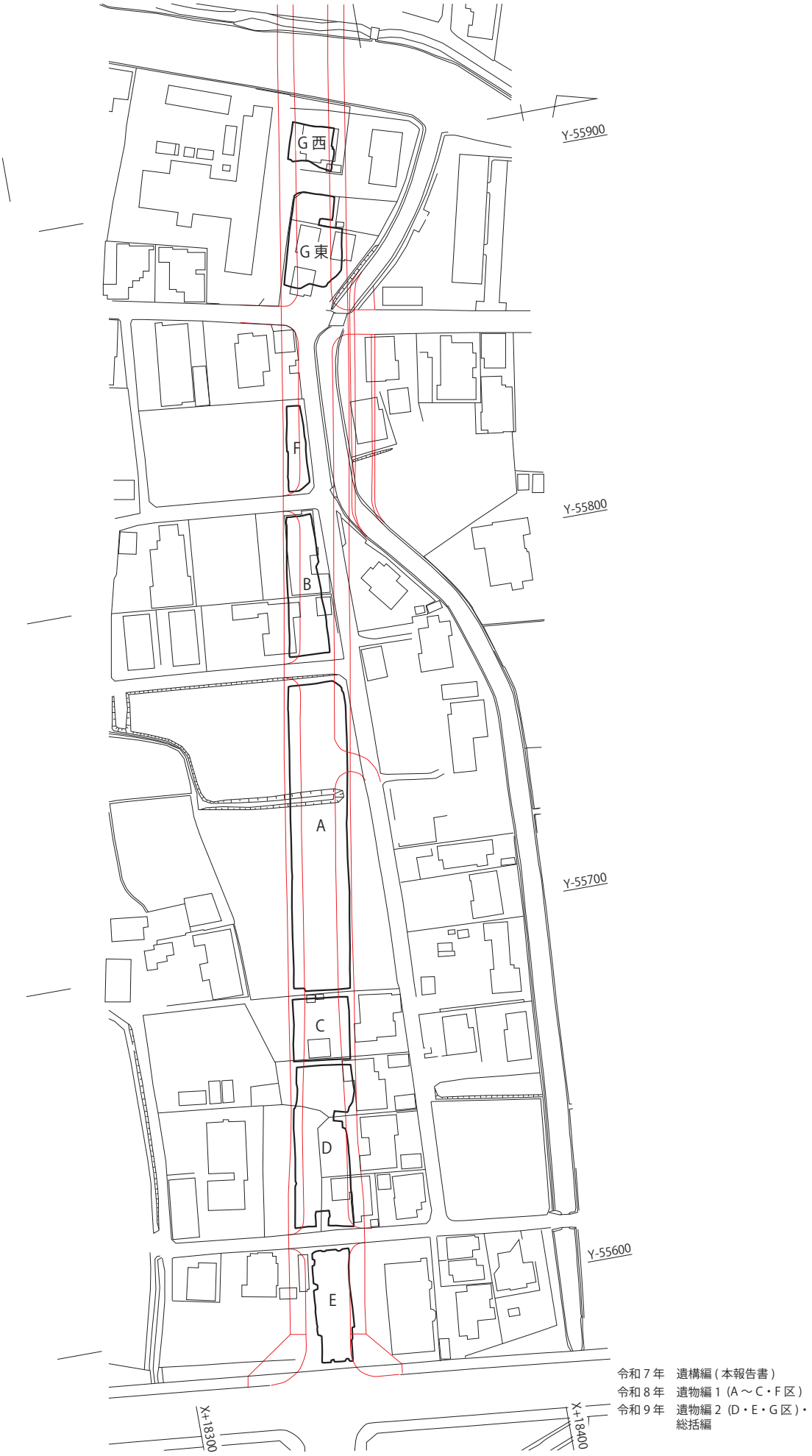
本城町遺跡は柳河城北側の北三の丸での調査で、3面の遺構面を検出する。遺構は土坑19基、溝1条、柵列4条、ピットを検出し、第1面と第2面で検出された柵列は「後家中絵図」に描かれた常福寺に関わる遺構の可能性がある。また第3面では遺構の数は少ないものの、11～12世紀の輸入陶磁器が出土するなど中世の柳河城周辺の状況を知る遺物が出土する。

宮永町遺跡では柳河城本丸から南東に位置し、2面の遺構面を検出する。主な遺構は土坑17基とピットであるが、ここでは柳河城郭に関わる土居基礎遺構を検出する。また土坑の出土遺物に、蒲池焼の可能性がある格子目のタタキを施す上質な土師質土器の灰器片が出土する。

以上、柳河城周辺の近年の調査について記したが、今後の調査により新たな知見が得られることが多い地区である。

参考文献

坂本真一編　2018『上町遺跡－2次調査－』福岡県文化財調査報告書 第264集　九州歴史資料館
秦憲二編　2018『本町遺跡』福岡県文化財調査報告書 第265集　九州歴史資料館
秦憲二・坂本真一編　2019『保加町遺跡』福岡県文化財調査報告書 第270集　九州歴史資料館
橋本清美・大津諒太編　2019『本城町遺跡』柳川市文化財調査報告書 第15集　柳川市教育委員会
橋本清美・大津諒太編　2024『宮永町遺跡』柳川市文化財調査報告書 第18集　柳川市教育委員会




第３図　坂本町遺跡詳細図（１/1,500）

# Ⅲ　発掘調査の記録

## １．遺跡の概要

坂本町遺跡は国道 385 号線の西側、柳川市坂本町９－１の一部、９－４の一部、10 －１の一部・４の一部・５・17、14 －１、16、16 －１・28、20 －１・６、22 －２、23 －３・５、25 －４、26 －１・５、28 － 14 の一部の調査面積 3,820㎡が調査対象地である。発掘調査は調査対象地の関係により、令和４～６年度にかけて実施された。まず令和４年度は、用地買収が終了した調査対象地Ａ区の調査を、令和４年 10 月 27 日より開始した。Ａ区全域の調査を一度に行うことは排土の関係上、不可能なため調査地を大きく３箇所と、調査地西側はさらに南北で２箇所に分けた。Ａ区西側の北部分を残し、その南側までを令和５年３月 23 日に終了した。令和５年度は、令和５年５月９日より調査を開始し、Ａ区西側の北部分から始め、Ｂ区、Ｃ区、Ｄ区、Ｅ区東側までを令和６年３月 25 日まで実施した。令和６年度は、４月 12 日からＥ区中央～西側より開始した。その後、新外町遺跡、Ｆ区、Ｇ区までを令和７年３月 31 日まで実施した。

調査対象地は、調査前まではＡ・Ｆ区のみ田地であったが、それ以外のＢ～Ｅ・Ｇ区は宅地や駐車場であった。そのため、遺構面までの土層はＡ・Ｆ区は耕作土や床土の下、標高 2.5 ｍ前後で遺構面に達するが、Ｂ～Ｅ・Ｇ区の宅地があった場所は、真砂土などの盛土や建物基礎工事により表土から１ｍ下まで攪乱を受けており、標高 2.2 ～ 2.3m になる。土層は第１面では標高 2.5 ｍの緑灰色粘質土、第２面は標高 2.0 ｍでは黄灰色粘質土、その下は標高 1.7 ｍの青灰色粘質土となる。

本遺跡では建物 14 棟、柵列 27 条、土坑 176 基、溝 86 条、ピットなどの遺構を検出した。またそれらの遺構に伴う中世の陶磁器、近世陶器・磁器などを中心にパンケースで 745 箱出土した。

## ２．遺構

### １．建物・柵列（第６～ 21 図、図版 10 ～ 14）

建物 14 棟、柵列 27 条を検出した。調査区ごとに建物と柵列を報告する。

#### Ａ区

Ａ区では掘立柱建物３棟と柵列３条を検出する。

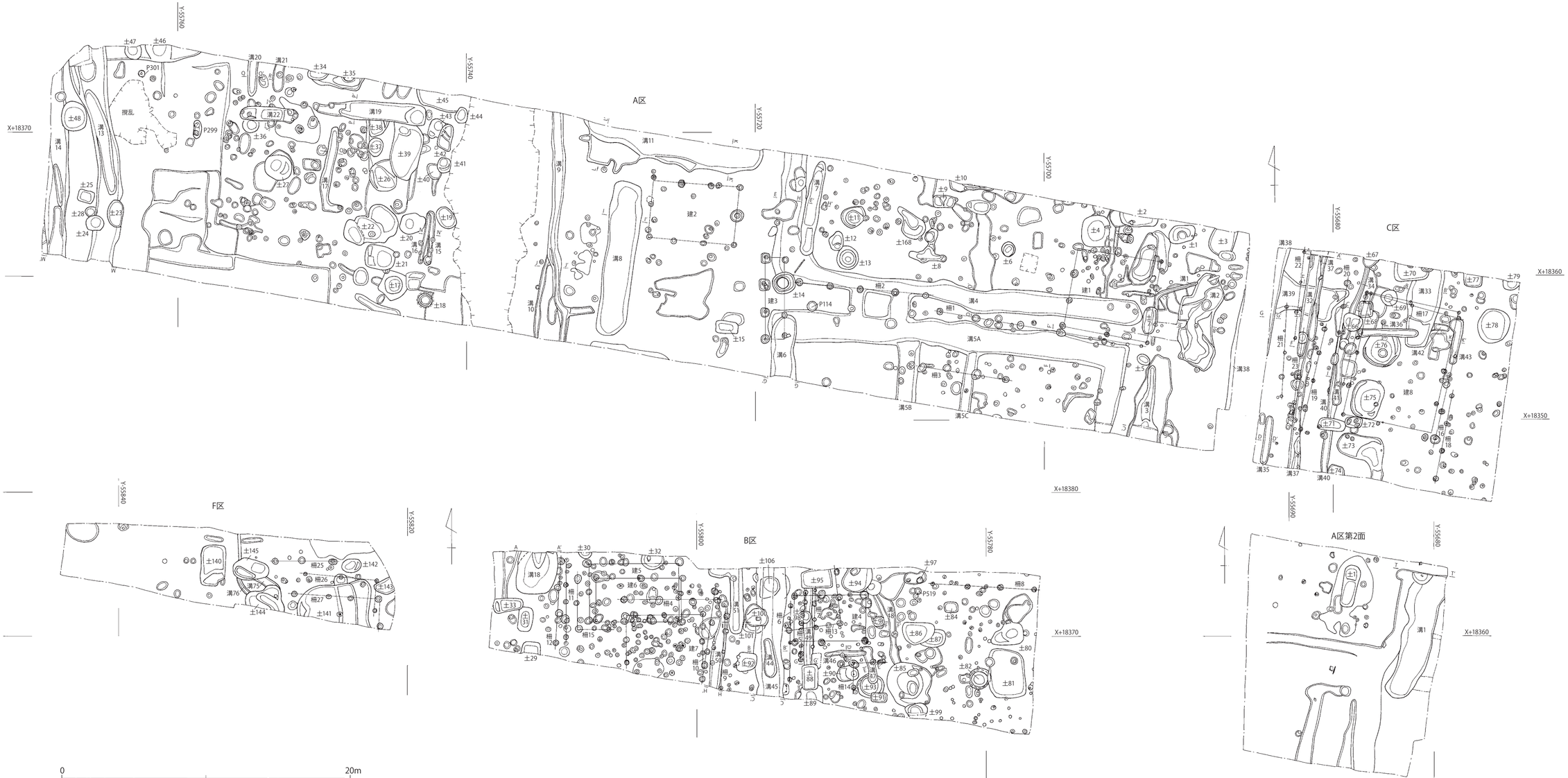
**１号掘立柱建物**（第６図、図版 10）

調査区東側に位置し、２×３間の総柱建物で、N― 11°―Ｅで北寄りに建てられる。柱穴は円形～長円形状で、長さ 0.25 ～ 0.7 ｍ、深さ 0.2 ～ 0.5 ｍ、柱間は南北方向で 1.9 ｍ、東西方向で 3.0 ｍを測る。柱痕跡は径 0.1 ～ 0.2 ｍ程を検出し、北西隅の柱穴からは径 0.12 ｍ程の木柱を確認する。東側の柱列の柱穴１基は７号土坑に切られて消失する。

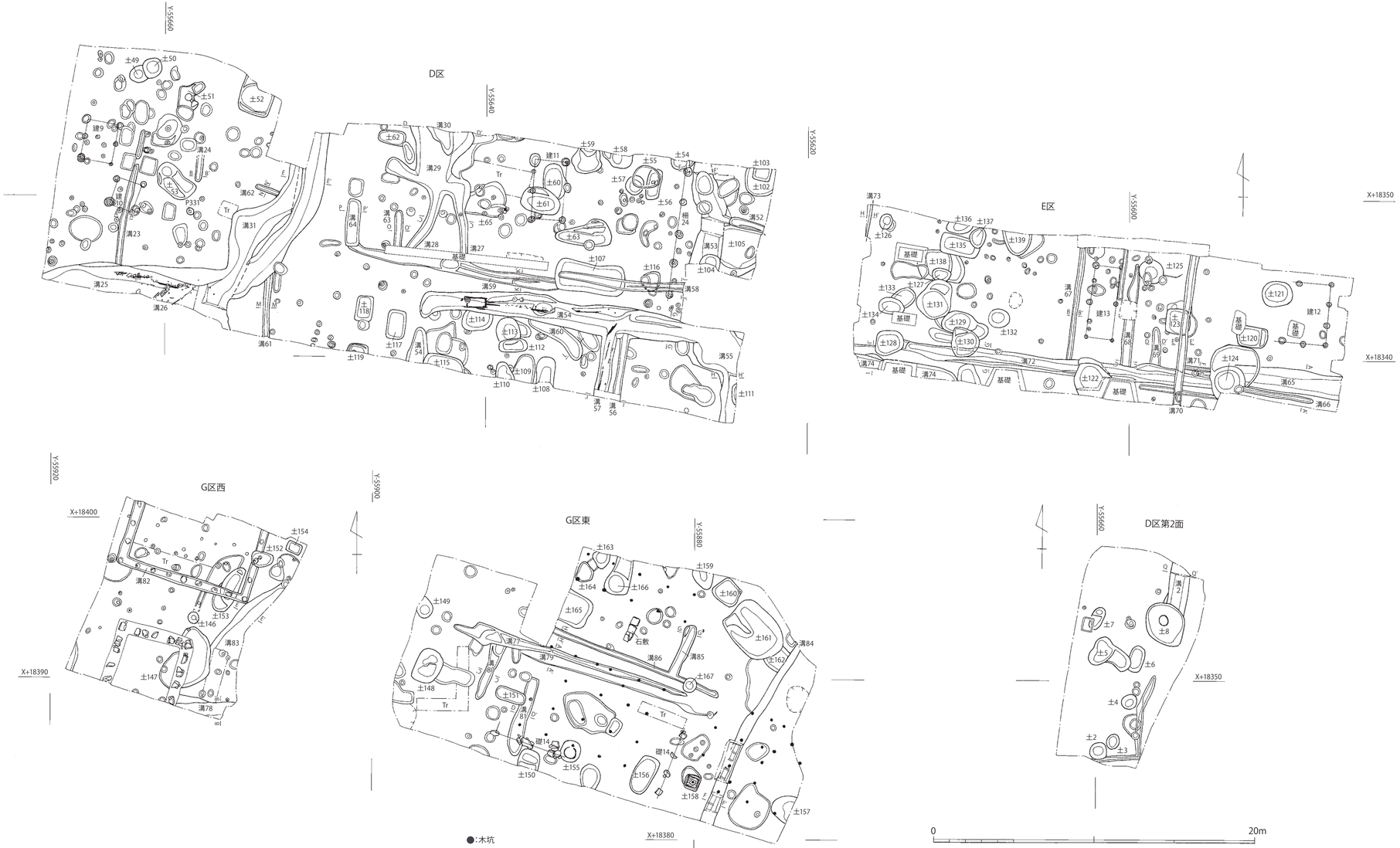
遺物はＰ９・12 から土師器片や瓦器片、白磁片や陶器片が出土する。

**２号掘立柱建物**（第７図、図版 10）

１号掘立柱建物の西側の調査区中央に位置し、３×２間の建物で、N― ５°―Ｅで北寄りに建てられ




第４図　坂本町遺跡遺構配置図１〈Ａ～Ｃ・Ｆ区〉（１/200）




第５図　坂本町遺跡遺構配置図２（D・E・G区）（１/２00）

る。柱穴は円形で、長さ 0.3 ～ 0.5 m、深さ 0.2 ～ 0.6 m、柱間は 1.8 m・2.1 m・2.4 mを測る。柱痕は径 0.15 ～ 0.25 mを一部の柱穴から検出する。西側中央の柱穴は、後世の攪乱を受けて半壊する。

遺物はＰ 103・106・116 から土師質土器の鍋片や瓦質土器片が出土し、近世陶器・磁器を含まないので、中世の可能性がある。

**３号掘立柱建物**（第７図、図版 10）

２号掘立柱建物の南東側に位置し、１×３間の総柱建物で、真北方向に建てられる。東側４基の柱穴は残存状況が良好で、この遺跡で検出した柱穴の中で、唯一の方形の掘り方となる。柱穴は一辺の長さ 0.55 ～ 0.75 m、深さ 0.4 ～ 0.6 mを測る。柱穴の主な埋土は灰色粘質土で、柱痕部分はさらに黄灰色粘質土のブロックが混入する。柱痕は円形～長円形状で、径 0.1 ～ 0.3 mを測る。西側の柱穴は４号溝と５・６号溝を切るが、14 号土坑には切られ柱穴１基が消失する。検出された２基の柱穴は径 0.4 mの円形で、深さ 0.2 ～ 0.3 mを測る。南東隅の柱穴を確認することはできなかったが、底面と思われる場所から礎石として使用された石臼を検出した。

遺物はＰ 110・111・125・126 から土師器片が出土する。

**１号柵列**（第８図、図版 11）

１号掘立柱建物の南側に位置し、４・５号溝の中間に５間検出する。柱列は東西方向に並び東端に向かって遺構面を下げ過ぎたため柱穴の大きさが小さくなる。柱穴は円形～長円形状を呈し、径 0.15 ～ 0.6 m、深さ 0.1 ～ 0.4 m、柱間は 2.7 m・3.0 mを測る。埋土は灰褐色土である。

遺物はＰ 36・42 から土師器片が出土するが図化できない。

**２号柵列**（第８図、図版 11）

１号柵列の西側に位置し、４号溝南側の上端に並行する柱列を４間検出する。柵列は１号柵列よりやや北寄りに東西方向に並ぶ。柱穴は円形～長円形状を呈し、径 0.4 ～ 0.5 m、深さ 0.3 m、柱間は 2.1 m・2.4 mを測る。ほとんどの柱穴で、径 0.2 mの柱痕を確認する。埋土は灰褐色土である。

遺物はＰ 99・100・113 から土師器片と瓦質土器片が出土する。

**３号柵列**（第８図、図版 11）

１号柵列の南側に位置し、５号溝を切る。１号柵列と並行して東西方向に３間検出する。柱穴は円形又はやや崩れた長円形状で、径 0.4 ～ 0.7 m、深さ 0.1 ～ 0.4 m、柱間は 1.8 m・2.5 mを測る。埋土は灰褐色土である。

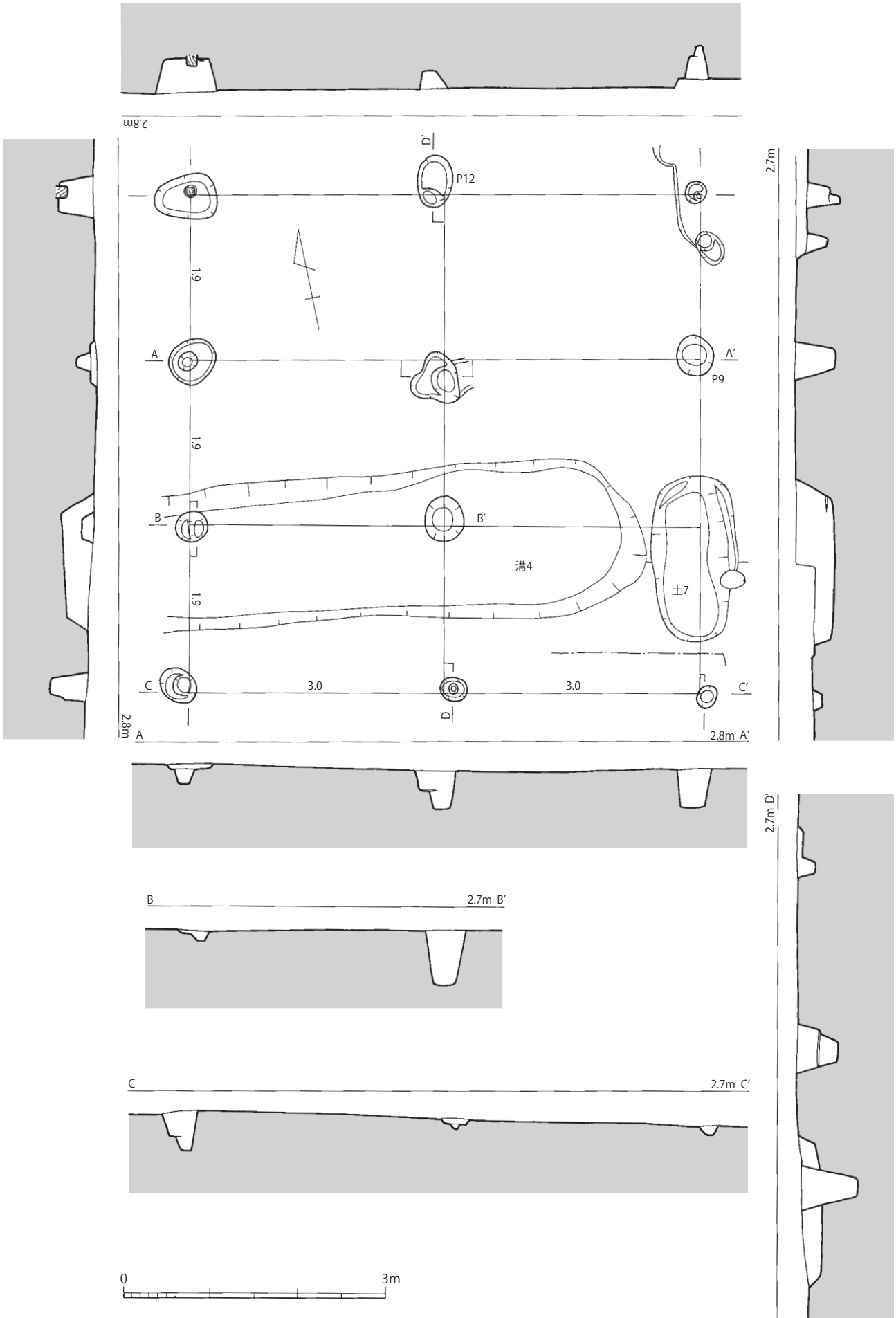
遺物はＰ 47・74・75 から土師器の小片が出土する。

Ｂ区

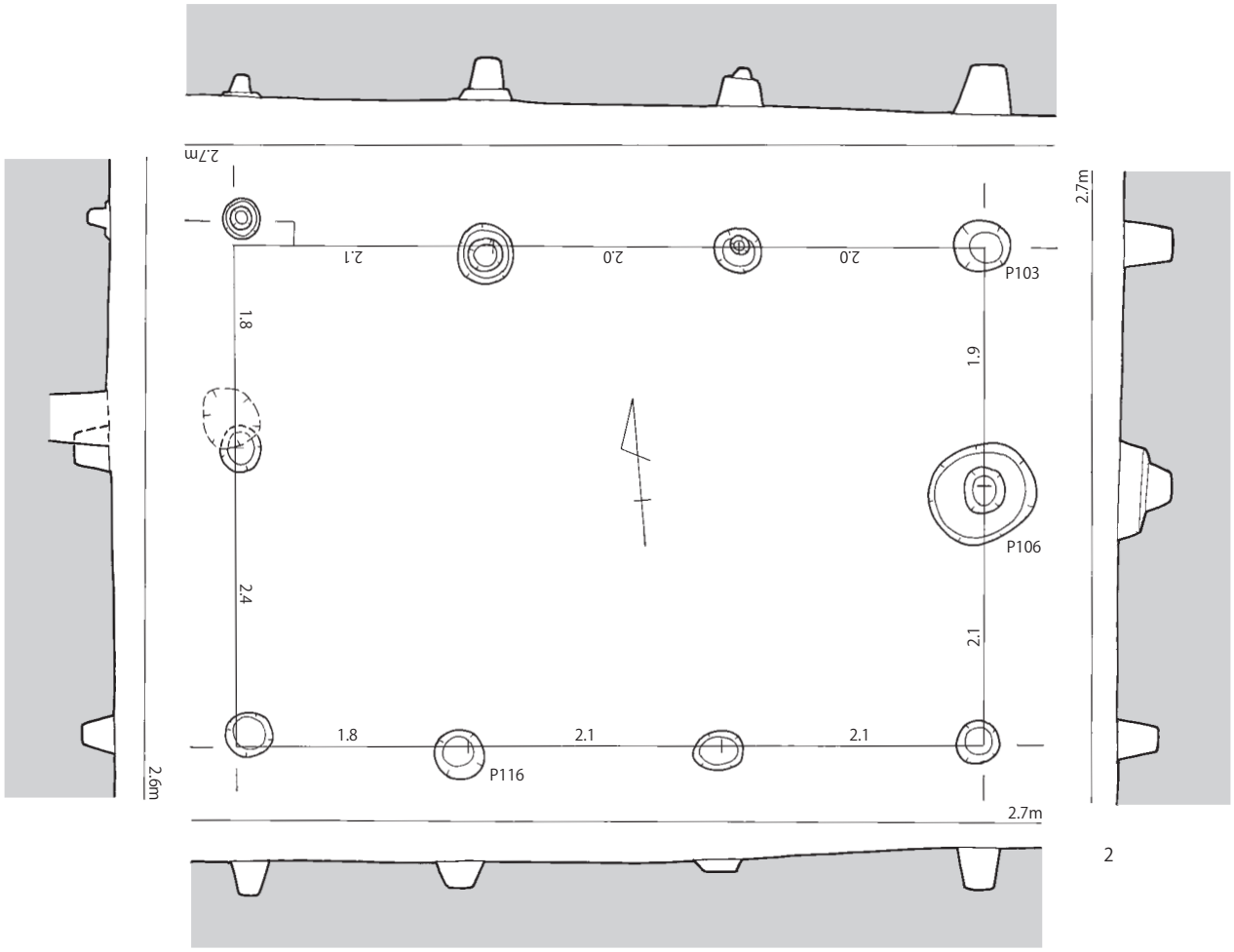
Ｂ区では掘立柱建物４棟、柵列 12 条を検出する。

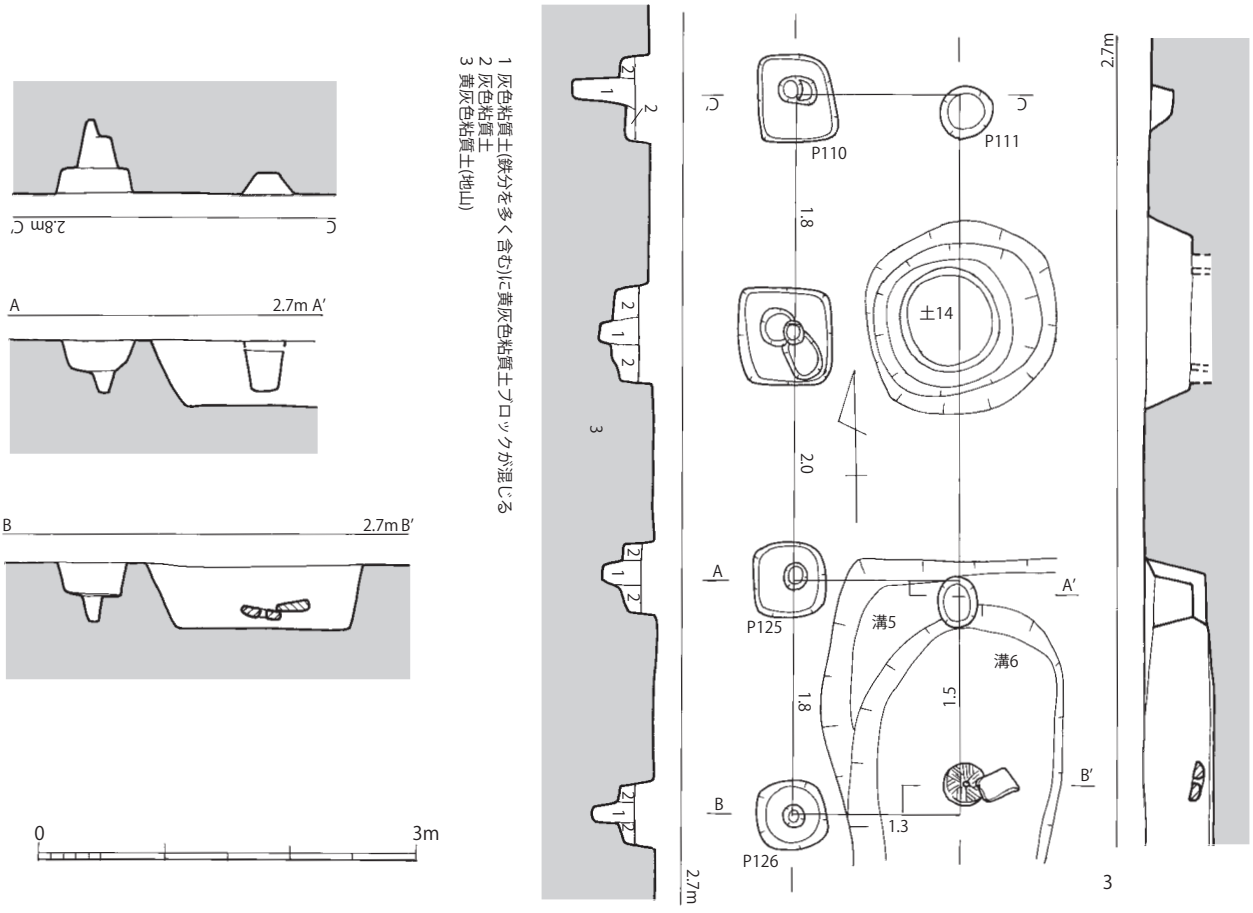
**４号掘立柱建物**（第９図、図版 11）

調査区中央の 45 号溝の東側に位置し、真北に近い方向に建てられた２×１間の建物である。柱穴は

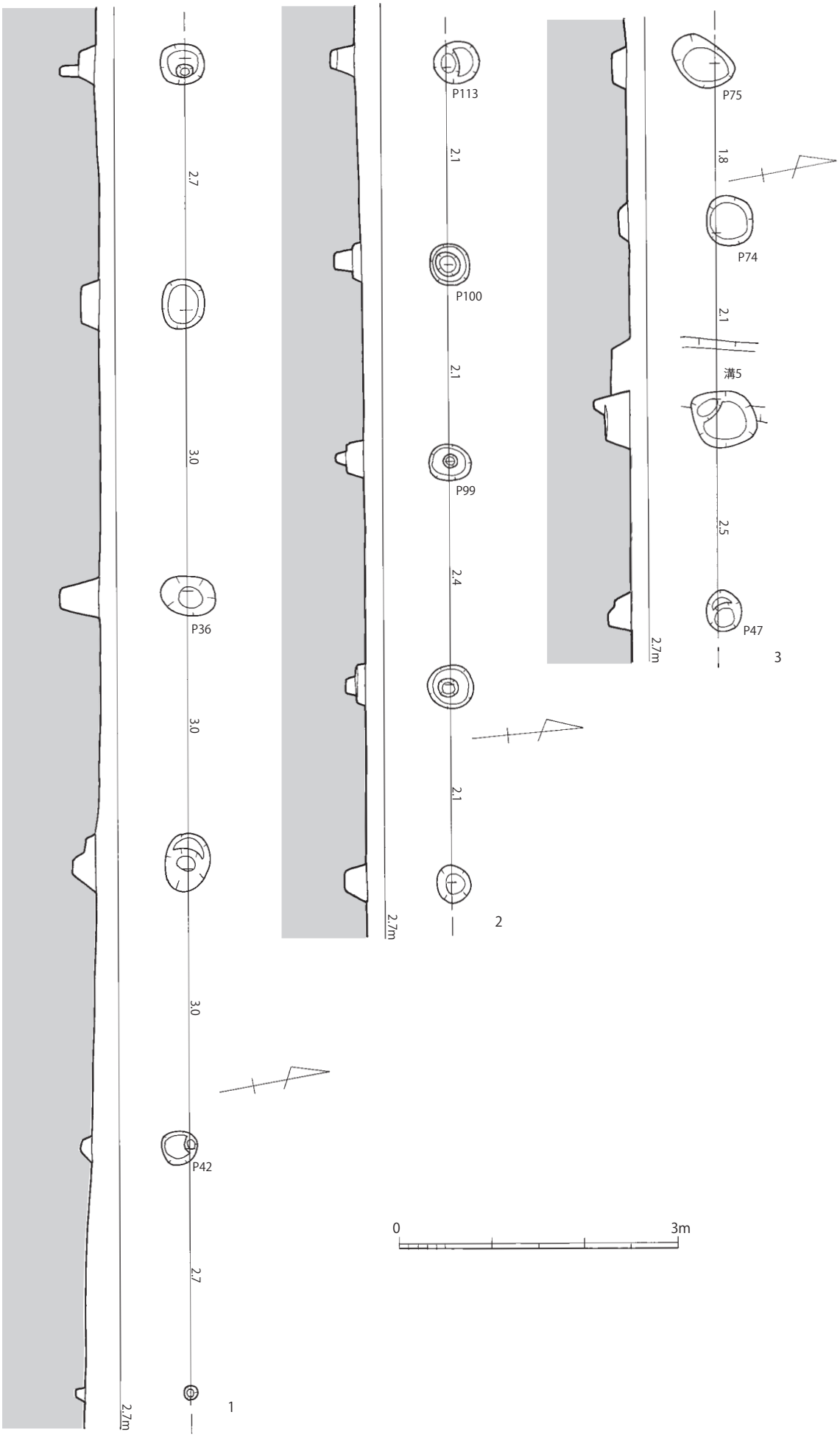



第６図　Ａ区１号掘立柱建物実測図（１/60）




第７図　Ａ区２・３号掘立柱建物実測図（１/60）




第８図　Ａ区１～３号柵列実測図（１/60）

やや崩れた円形で、径 0.4 ～ 0.6 m、深さ 0.5 ～ 0.6 m、柱痕跡は径 0.1 ～ 0.3 mを測る。柱間は南北方向で 3.2 m、東西方向では東側で 3.1 m、西側で 1.8 mと幅が異なる。柱間が 3.0 mを越える幅広の建物か。遺物はＰ 539・577 から陶器片や瓦の小片が出土する。

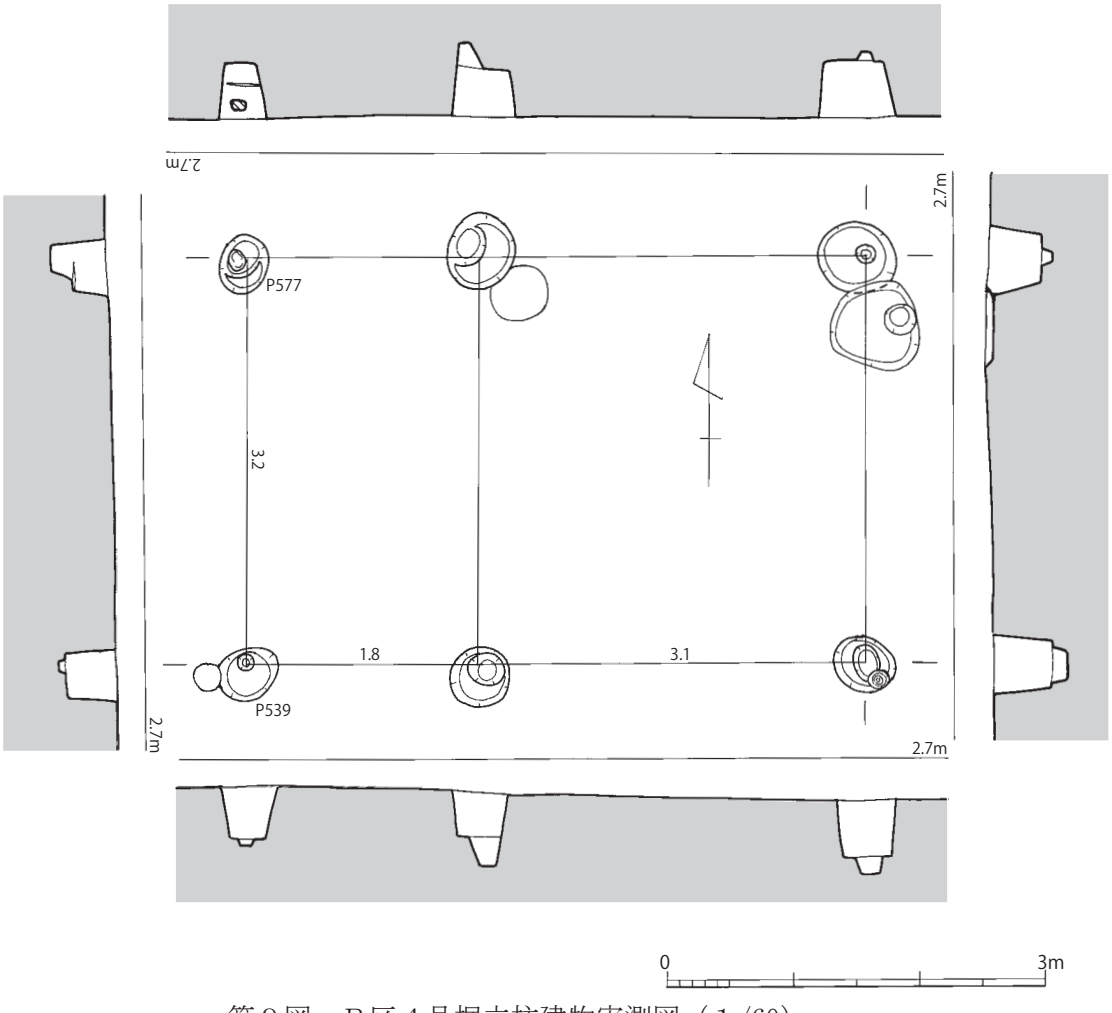
**５・６号掘立柱建物**（第 10 図、図版 11）

５号掘立柱建物は調査区西側の 18 号溝と東側の 50 号溝に挟まれた位置にあり、５号掘立柱建物が６号掘立柱建物に切られている。５号掘立柱建物は３×２間、６号掘立柱建物が２×１間となり、建物が縮小されて同位置に建てられる。柱穴はやや崩れた円形で、径 0.4 ～ 0.6 m、深さ 0.1 ～ 0.5 m、柱痕は径 0.1 mを測る。５号建物の柱間は南北方向で 1.9 m・2.1 m、東西方向で 1.8 m・2.1 m・2.4 mを測る。６号建物の柱間は全ての方向で 3.0 mを測る。

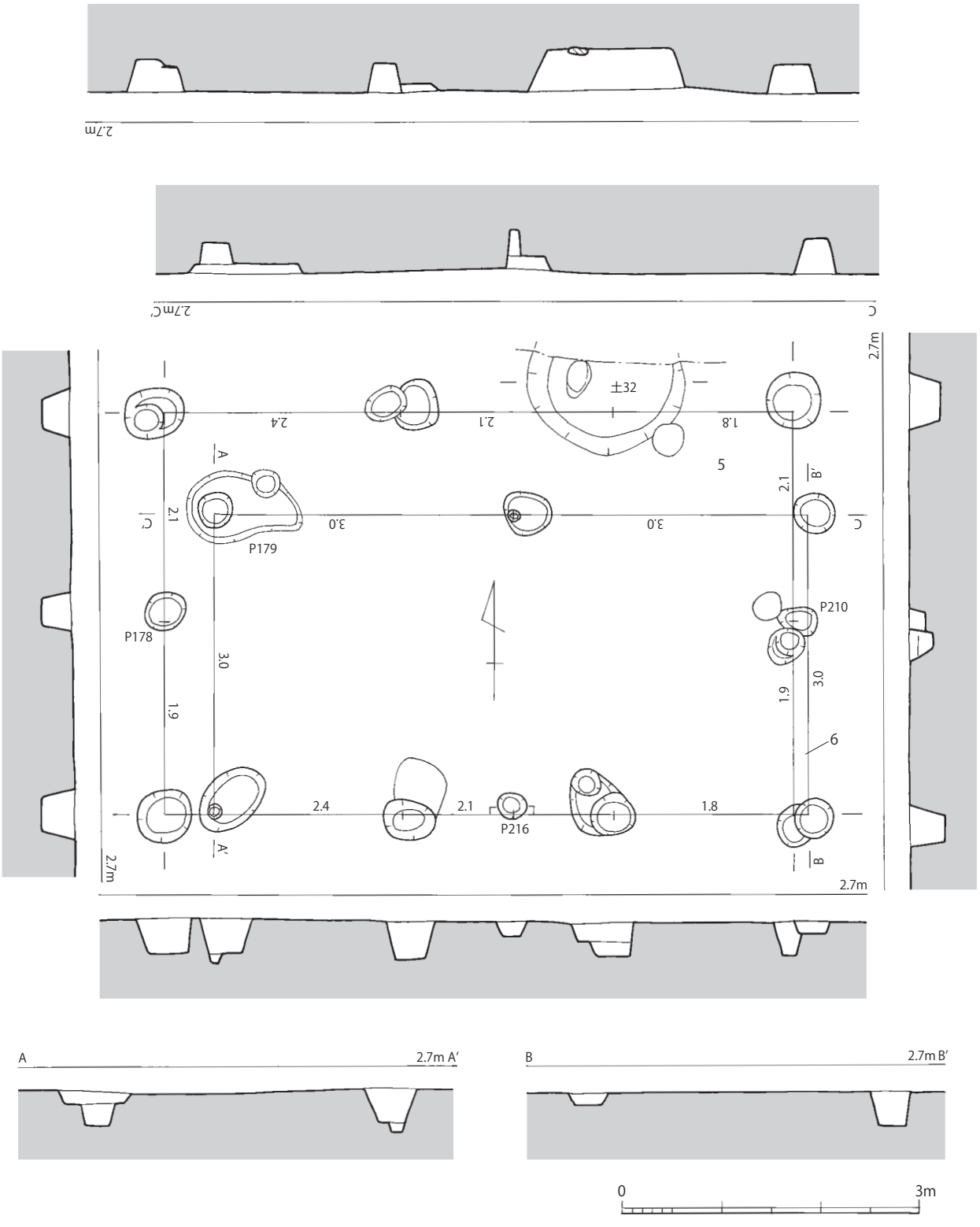
５号掘立柱建物の遺物はＰ 178・210 から土師器片と瓦質土器の小片が出土する。６号建物の遺物はＰ 179・216 から土師器片と瓦質土器の小片が出土する。

**７号掘立柱建物**（第 11 図、図版 11）

５・６号掘立柱建物の南側に位置し、真北に建てられた建物である。東西方向は２間確認できるが、南北方向は調査区外へと延びており、２間以上となる可能性がある。柱穴は円形～長円形状で、径 0.3 ～ 0.5 m、深さ 0.3 ～ 0.4 mを測る。柱間は南北方向で 1.5 m・1.8 m、東西方向は少し幅広となる 2.7 mを測り、北側中央の柱穴は径 0.15 mの柱痕跡を確認する。




第９図　Ｂ区４号掘立柱建物実測図（１/60）

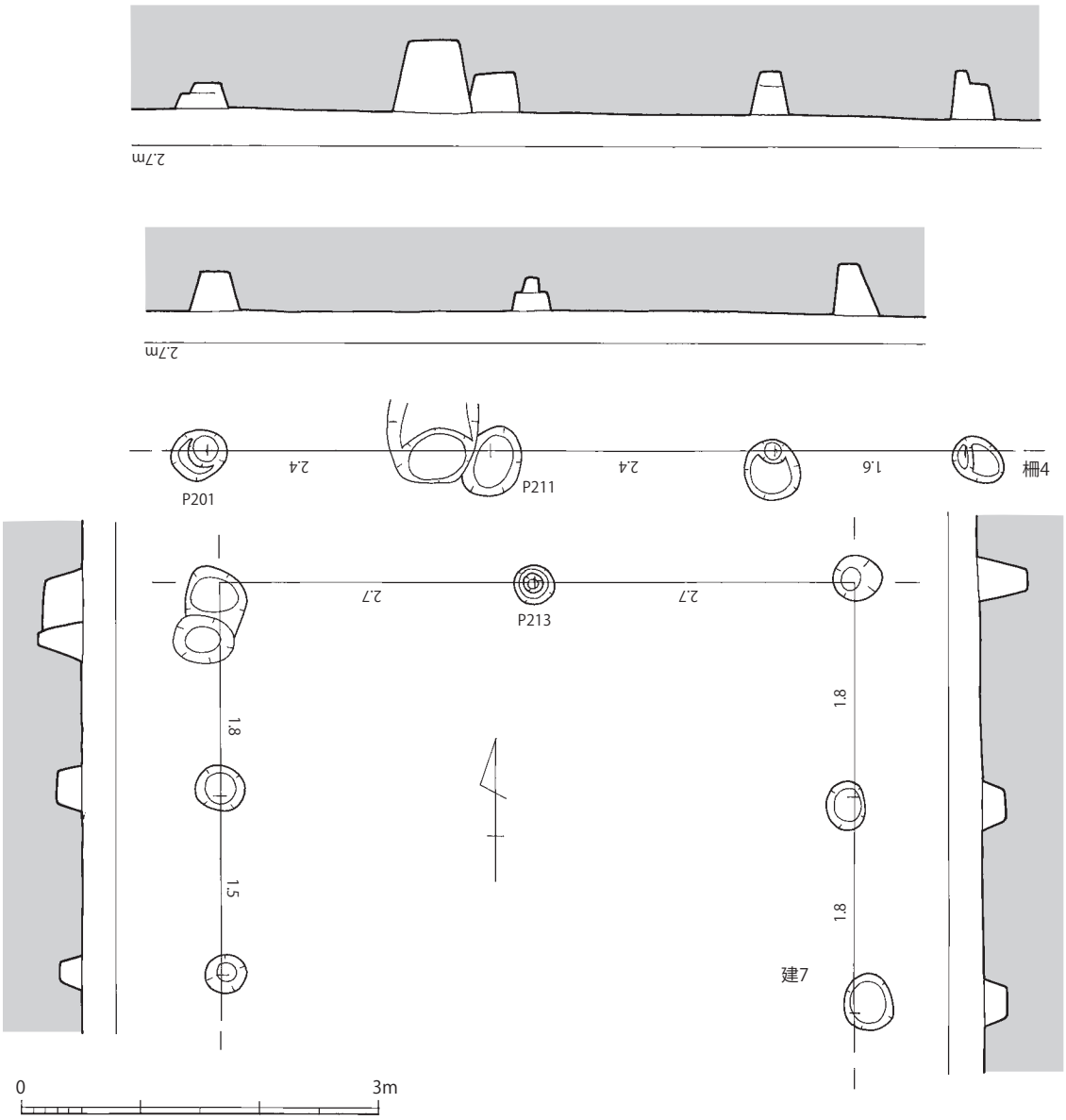



第 10 図　B 区 5 ・ 6 号掘立柱建物実測図（1 /60）

遺物はP 213 から焼土片を出土する。

**4 号柵列**（第 11 図、図版 11）

7 号掘立柱建物の北側に位置し、7 号建物と並列して東西方向に 3 間検出する。柱穴は円形～長円形状で、径 0.45 ～ 0.6 m、深さ 0.2 ～ 0.4 m、柱間は 1.6 m ・ 2.4 m を測る。埋土は灰褐色土である。東端




第 11 図　B区 7 号掘立柱建物、4 号柵列実測図（1 /60）

の柱間の幅が狭くなることから、柵列の柱穴ではない可能性もある。

遺物はP 201 から土師器、土師質土器片・瓦器片、P 211 は他にも瓦片が出土する。

**5～7号柵列**（第 12 図、図版 11）

B区の東側にある 4 号掘立柱建物の西側に位置し、いずれの柵列も南北方向に並ぶ。5・7 号柵列は 49 号溝を挟んだ両側の上端に柱列が並ぶ。6 号柵列は 5 号柵列の西側に位置し、4 号掘立柱建物と並列し、いずれも 2 間検出する。柱穴は円形で、径 0.2 ～ 0.4 m、深さ 0.2 ～ 0.7 m、柱間は 2.1 m・2.6 m・2.0 m を測る。柱痕は径 0.15 m で、7 号柵列の柱列中央の柱痕のみが深さ 0.4 m となり、少し掘り過ぎている。5 号柵列と 7 号柵列は 49 号溝に、6 号柵列は 45 号溝に付設した柵列か。

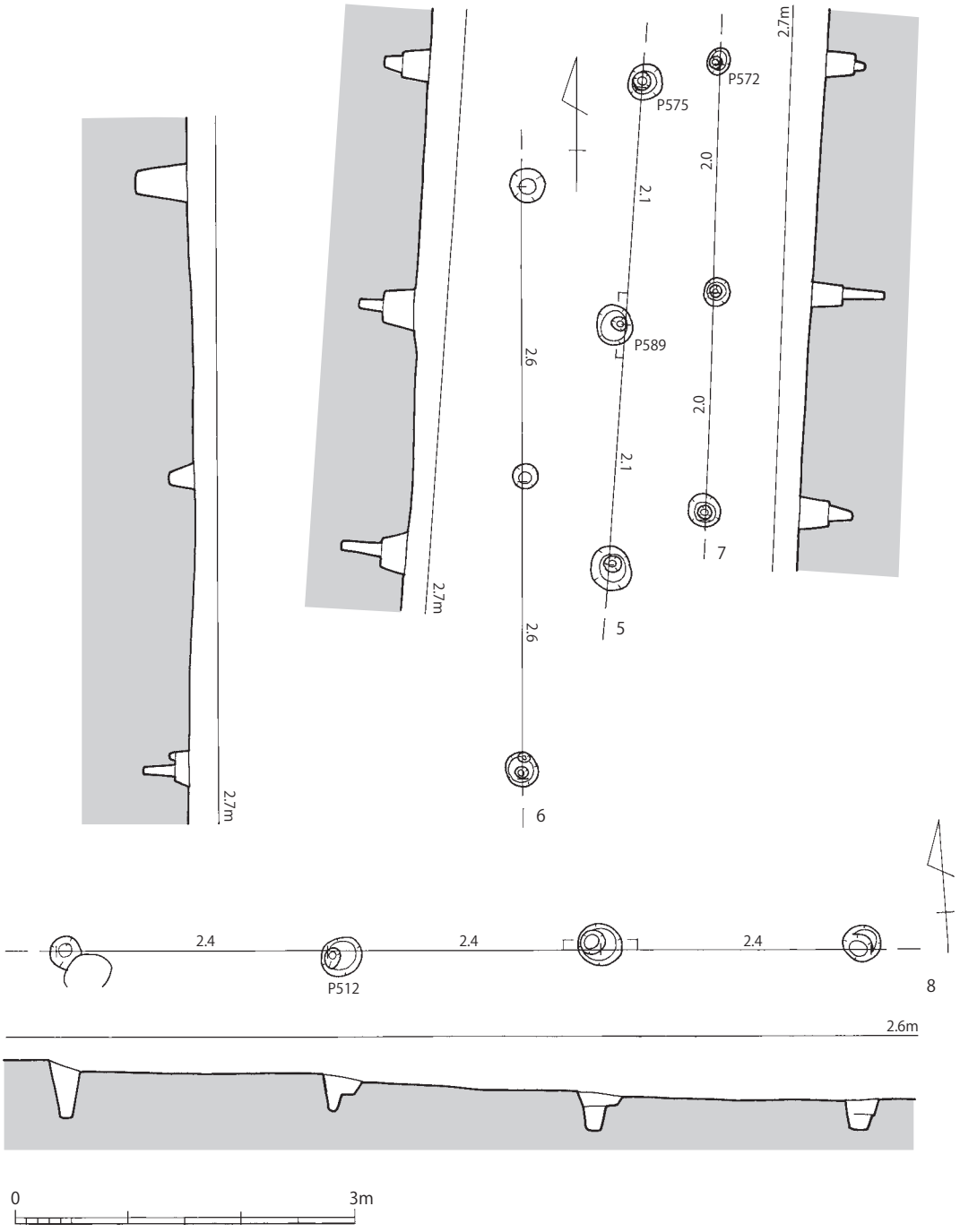
遺物は 5 号建物のP 575・589 から土師器や土師質土器、瓦器片が出土する。7 号掘立柱建物のP 572 から土師器や瓦器の小片が出土する。

**８号柵列**（第 12 図、図版 12）

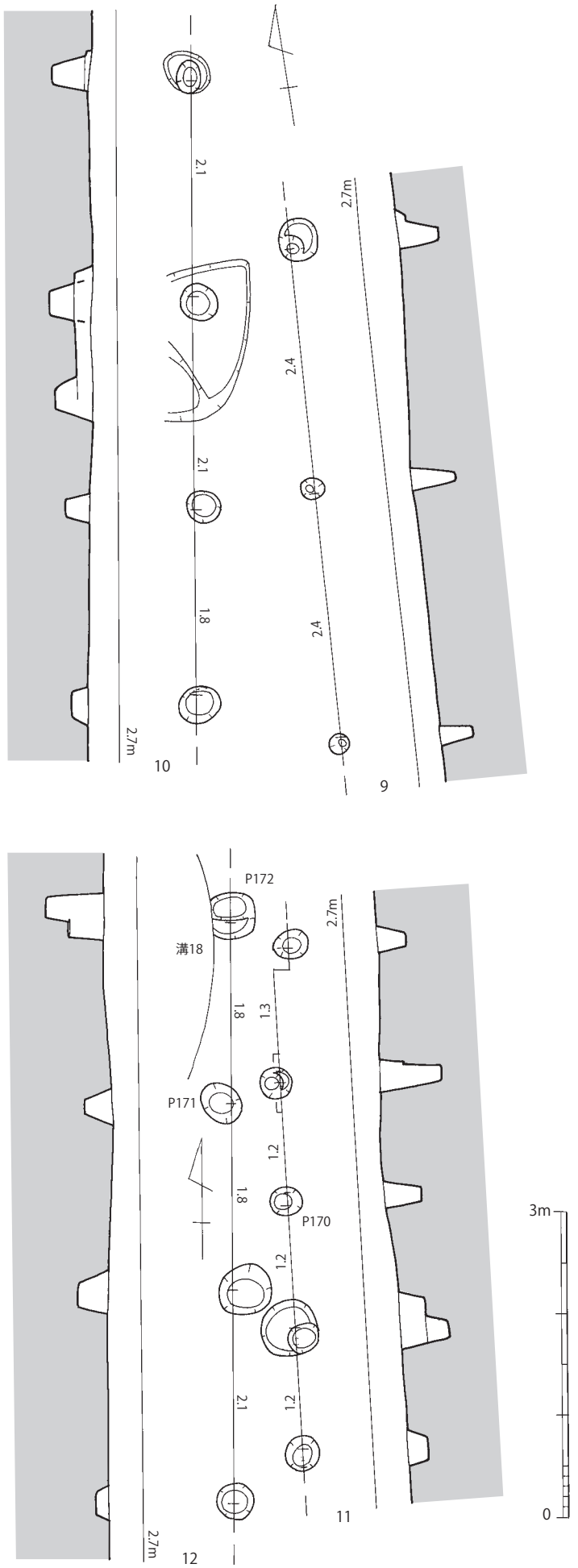
調査区北東端に位置し、東西方向に３間検出する。柱穴は円形で、径 0.3 ～ 0.4 m、深さ 0.3 ～ 0.5 m、柱間は 2.4 mを測る。柱痕は円形で、径 0.15 ～ 0.2 mを検出する。遺物はＰ 512 から焼土片や土師質土器片が出土する。

**９・10 号柵列**（第 13 図、図版 11）

６号柵列の西側に位置し、９号柵列は 50 号溝を切るように並ぶが、10 号柵列は少し間を空けた西側にある。柵列はいずれも南北方向に２間検出し、10 号柵列の方がやや東寄りに並ぶ。柱穴は円形で、径 0.2 ～ 0.5 m、深さ 0.2 ～ 0.4 m、柱間は９号柵列で 2.4 m、10 号柵列で 1.8 m・2.1 mを測る。




第 12 図　Ｂ区５～８号柵列実測図（１/60）




第 13 図　B区9～ 12 号柵列実測図（1/60）

**11・12 号柵列**（第 13 図、図版 11）

5 号掘立柱建物の西側に位置し、18 号溝の東側の間で南北方向に延びる柵列を 2 列検出する。東側の 11 号柵列は 4 間、12 号柵列は 3 間検出する。柱穴は円形で、径 0.3 ～ 0.5 m、深さ 0.1 ～ 0.6 m、柱間は 11 号柵列が 1.2 m・1.3 m、12 号柵列が 1.8 m・2.1 mを測る。遺物は 11 号柵列のＰ 170 からは土師器や土師質土器片が、12 号柵列のＰ 171・172 からは陶磁器と土師質土器片が出土する。

**13 号柵列**（第 14 図、図版 11）

6 号柵列の東側に位置する。西側への柱穴は確認できないが、調査区外の北側に延びることからＬ字に検出する。柱穴は円形で、径 0.3 ～ 0.4 m、深さ 0.15 ～ 0.5 m、柱間は 1.8 mを測る。北側の柱穴からは径 0.1 mの木柱を検出する。遺物はＰ 561・Ｐ 583 に瓦片や瓦質土器の小片が出土する。

**14 号柵列**（第 14 図、図版 11）

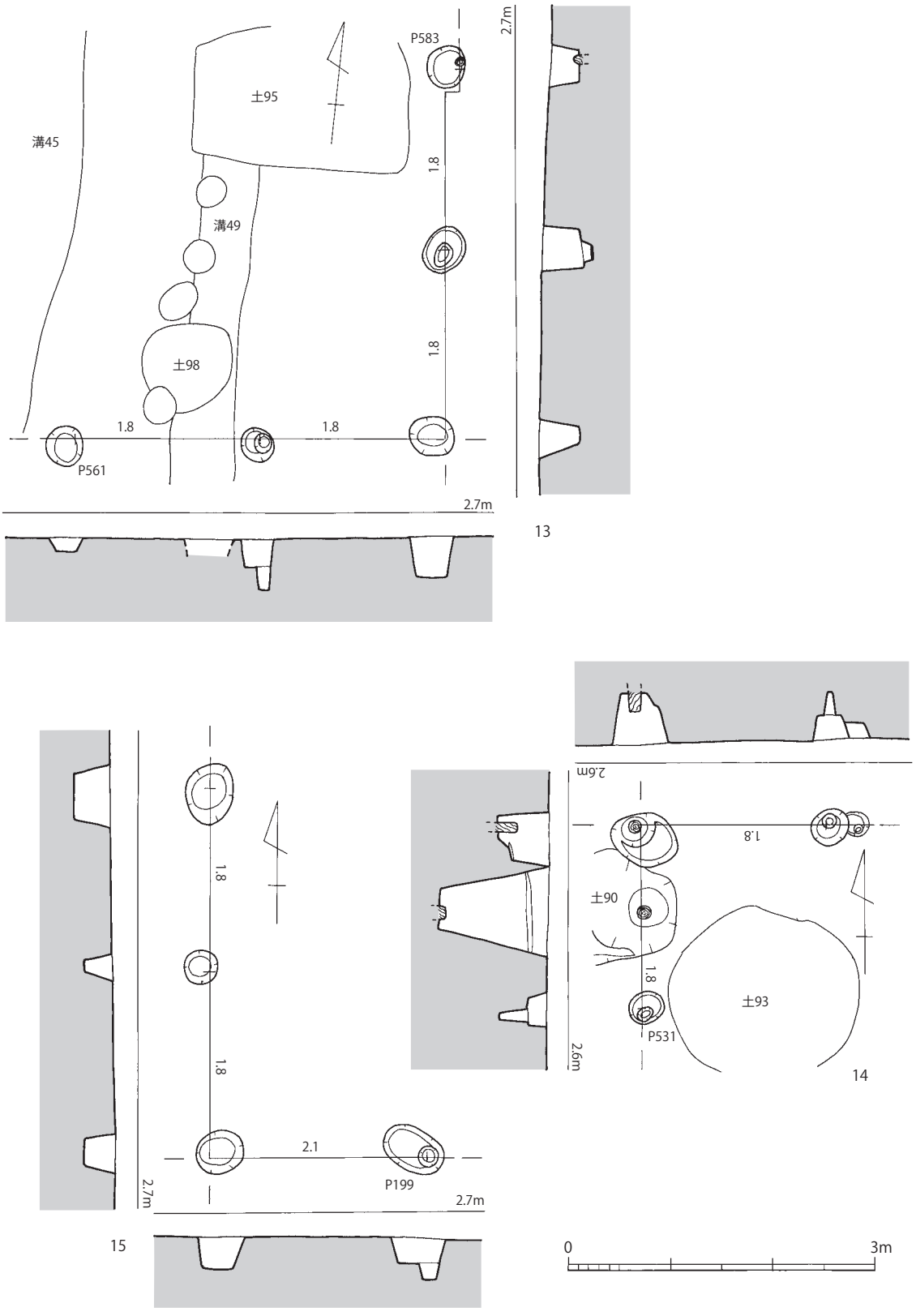
13 号柵列の南東側に位置し、93 号土坑の北側と西側を隠すように柵列がＬ字に並ぶ。柱穴は円形で、径 0.3 ～ 0.6 m、深さ 0.5 m、柱間は 1.8 mを測る。遺物はＰ 531 から瓦器片が出土する。

**15 号柵列**（第 14 図、図版 11）

5 号建物の西側に位置し、建物の南西側にＬ字に柱列が並ぶ。柱穴は円形で、径 0.45 ～ 0.6 m、深さ 0.3 ～ 0.4 m、柱間は南北方向に 1.8 m、東西方向に 2.1 mを測る。遺物はＰ 199 から土師器片と瓦器片が出土する。

Ｃ区

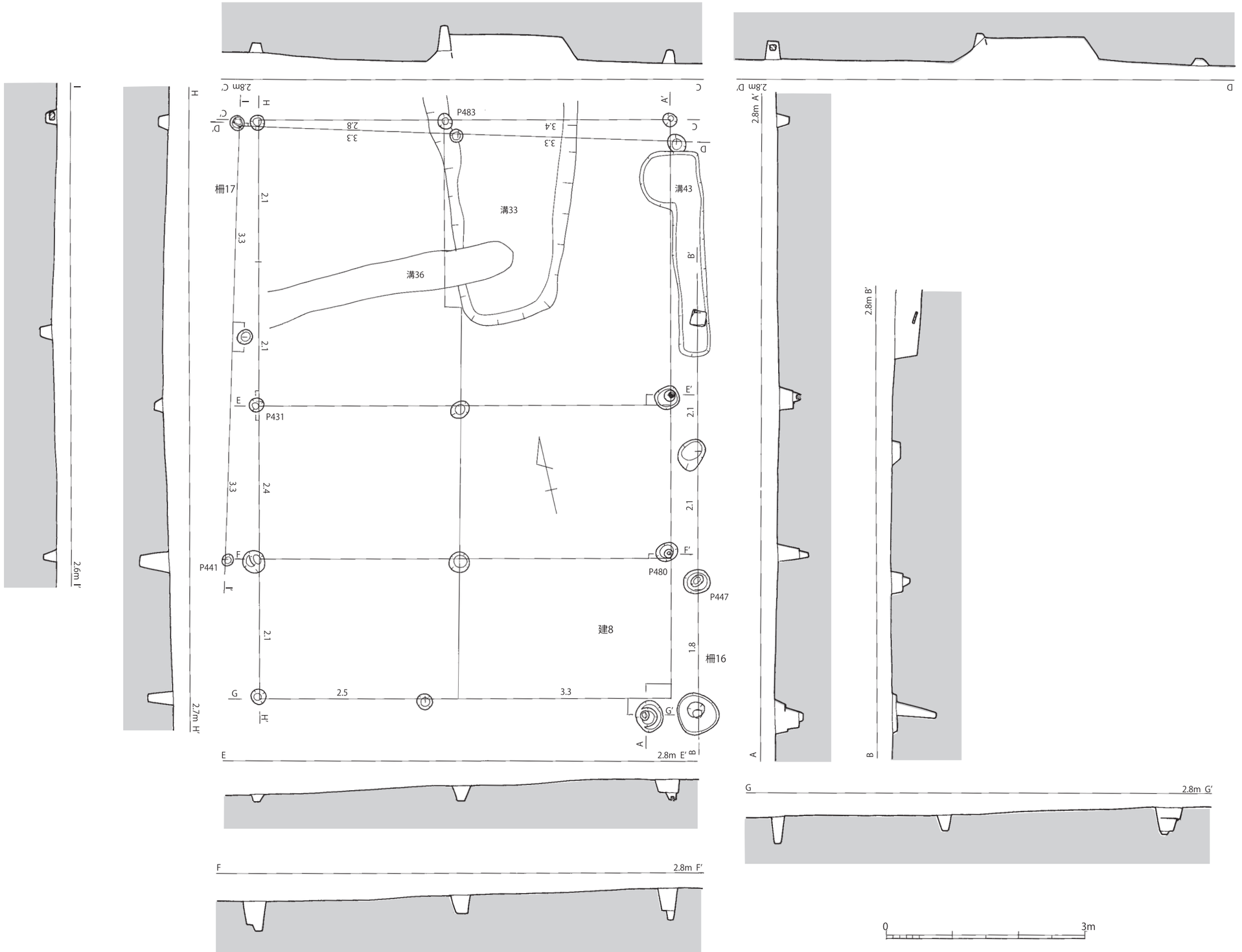
Ｃ区では建物 1 棟、柵列 8 条を検出する。




第 14 図　B区 13 ～ 15 号柵列実測図（1/60）

**８号掘立柱建物**（第 15 図、図版 12）

調査区中央に位置し、N―13°―Eの北北東の向きに建てられた４×２間の総柱建物か。東側の柱列は均一ではないので、３×２間の建物の可能性もある。柱穴は円形で、径 0.2 ～ 0.5 m、深さ 0.2 ～ 0.5




第 15 図　C 区 8 号掘立柱建物、16・17 号柵列実測図（1 /60）

mを測る。柱間は南北方向で2.1 m・2.4 m、東西方向で2.5 m・2.8 m・3.3 m・3.4 mと各柱列により異なる。なお、一部検出されていない柱穴は、36号溝と43号溝に切られている。遺物はP 431・480・483から陶器片・瓦片を検出する。

**16・17号柵列**（第15図、図版12）

16号柵列は8号建物の東側に位置し、南北方向に3間検出する。柵列上の43号溝内には礎板を検出することから、溝を切るか。17号柵列は8号掘立柱建物と重なるように検出し、75号土坑と76号土坑を囲むようにL字に柱列が並ぶ。柱穴は円形で、径0.2 m前後～0.4 m、深さ0.2～0.7 mを測る。礎板は2箇所で検出し、16号柵列の礎板の形状は方形で、長さ0.2 m程、厚さ0.1 m以下の薄い板状になる。17号柵列の礎板の形状は不整形で、長さ0.2 m以下、厚さ0.1 mを測る。遺物は16号柵列のP 447から土師器片が出土する。17号柵列のP 441から土師器片や瓦器片が出土する。

**18号柵列**（第16図、図版12）

16号柵列の東側に位置し、柵列は南北方向に3間検出する。柱穴は円形で径0.3～0.4 m、深さ0.25～0.45 m、柱間は1.8 m・2.1 mを測る。柱痕は円形で径0.1～0.2 mを測る。遺物はP 450から瓦器椀片、P 459からは土師器片が出土する。

**19号柵列**（第16図、図版12）

17号柵列の西側で、37号溝の東側に並列する。柵列は南北方向に4間並ぶ。柱穴は円形～長円形で径0.25～0.45 m、深さ0.2～0.4 m、柱間は1.5 m・1.6 m・2.1 mを測る。柱痕は円形で径0.1 mを測る。

**20号柵列**（第16図、図版12）

19号柵列の東側に位置し、40・41号溝の西側を切る。柵列は南北方向に4間検出する。柱穴は円形～長円形で、径0.2～0.8 m、深さ0.2～0.6 m、柱間は1.8 m・2.1 mを測る。遺物はP 412から瓦片が出土する。

**21号柵列**（第16図、図版12）

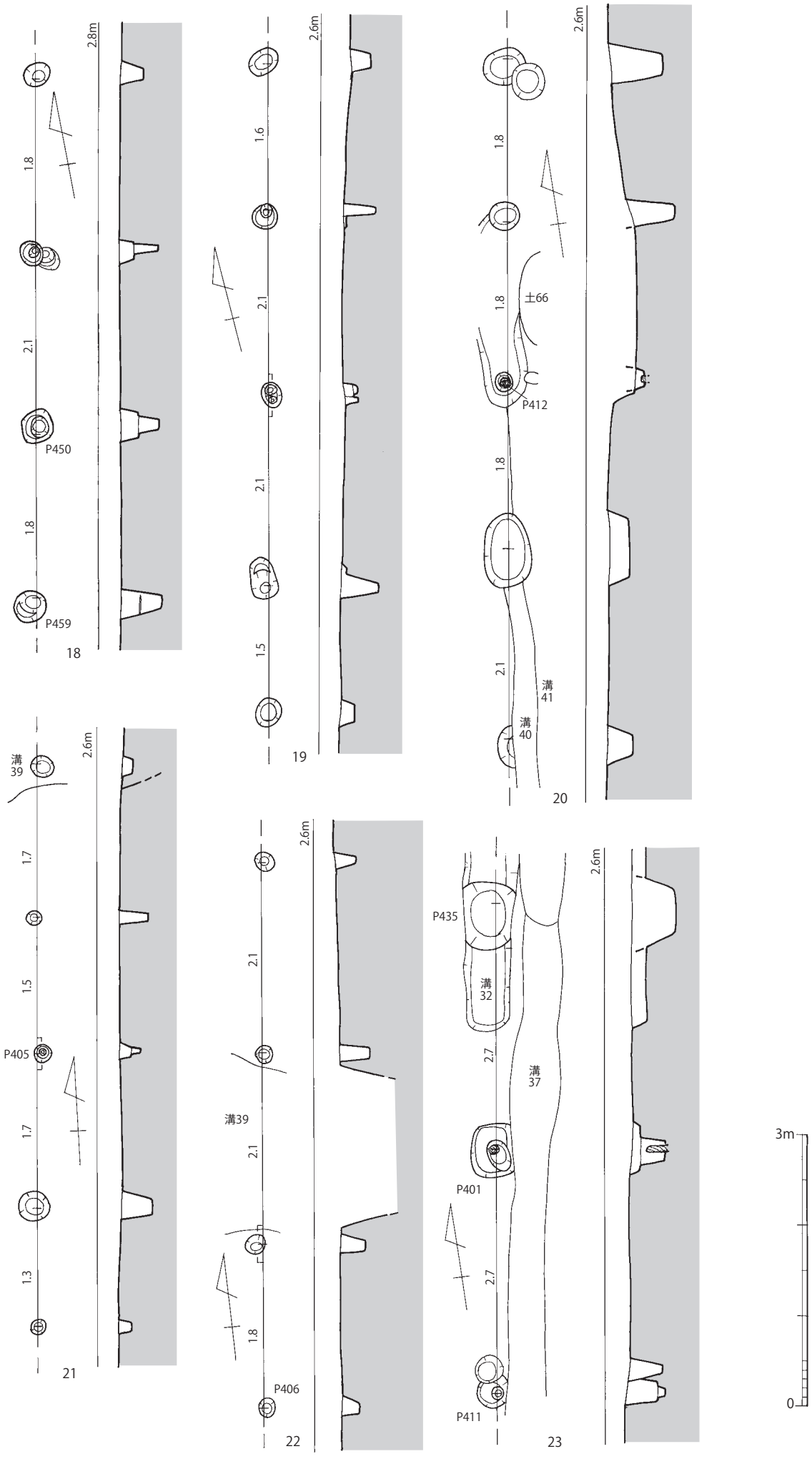
調査区西端に位置し、39号溝を切る。柵列は南北方向に4間検出する。柱穴は円形で、径0.15～0.3 m、深さ0.1～0.35 m、柱間は1.3 m・1.5 m・1.7 mを測る。柱痕は円形で径0.1 mを測る。遺物はP 405から出土する。

**22号柵列**（第16図、図版12）

21号柵列の東側に位置し、柵列は南北方向に3間検出する。柱穴は円形で、径0.2～0.25 m、深さ0.2～0.3 m、柱間は1.8 m・2.1 mを測る。遺物はP 406から陶器片が出土する。

**23号柵列**（第16図、図版12）

22号柵列の東側に位置し、32号溝を切る。柵列は南北方向に2間検出し、37号溝の西側に並列する。柱穴は円形～長円形で、径0.4～0.75 m、深さ0.4～0.5 m、柱間は2.7 mを測る。柱痕は径0.1～0.4

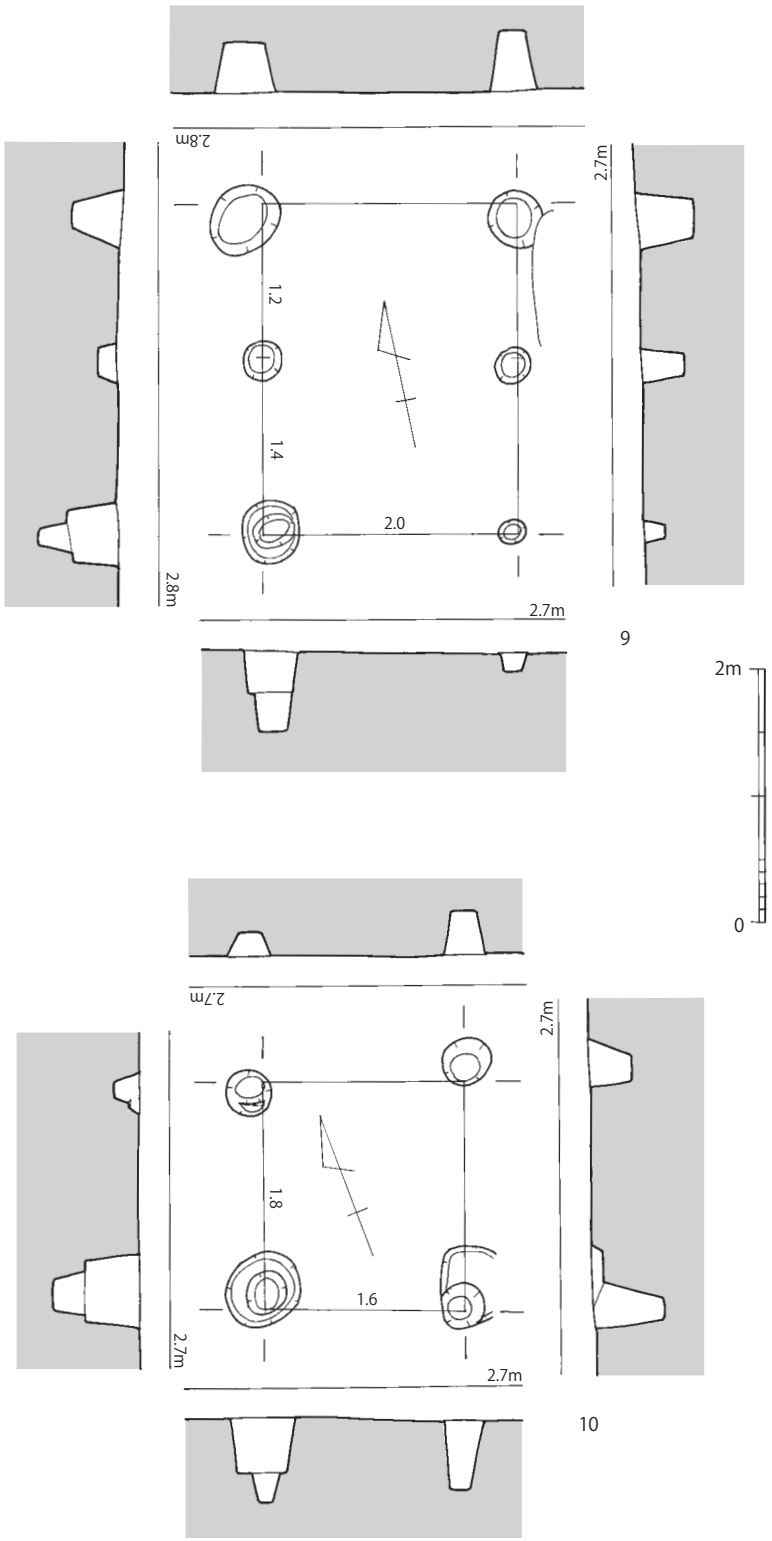



第 16 図　C 区 18 ～ 23 号柵列実測図（1 /60）

mを測り、径0.1 mの木柱を検出する。遺物はP 401・411から陶器や磁器片が出土する。P 435からは瓦片も出土する。

D区

D区では掘立柱建物３棟、柵列は１条を検出する。




第17図　D区９・10掘立柱建物実測図（１/60）

**９号掘立柱建物**（第17図、図版13）

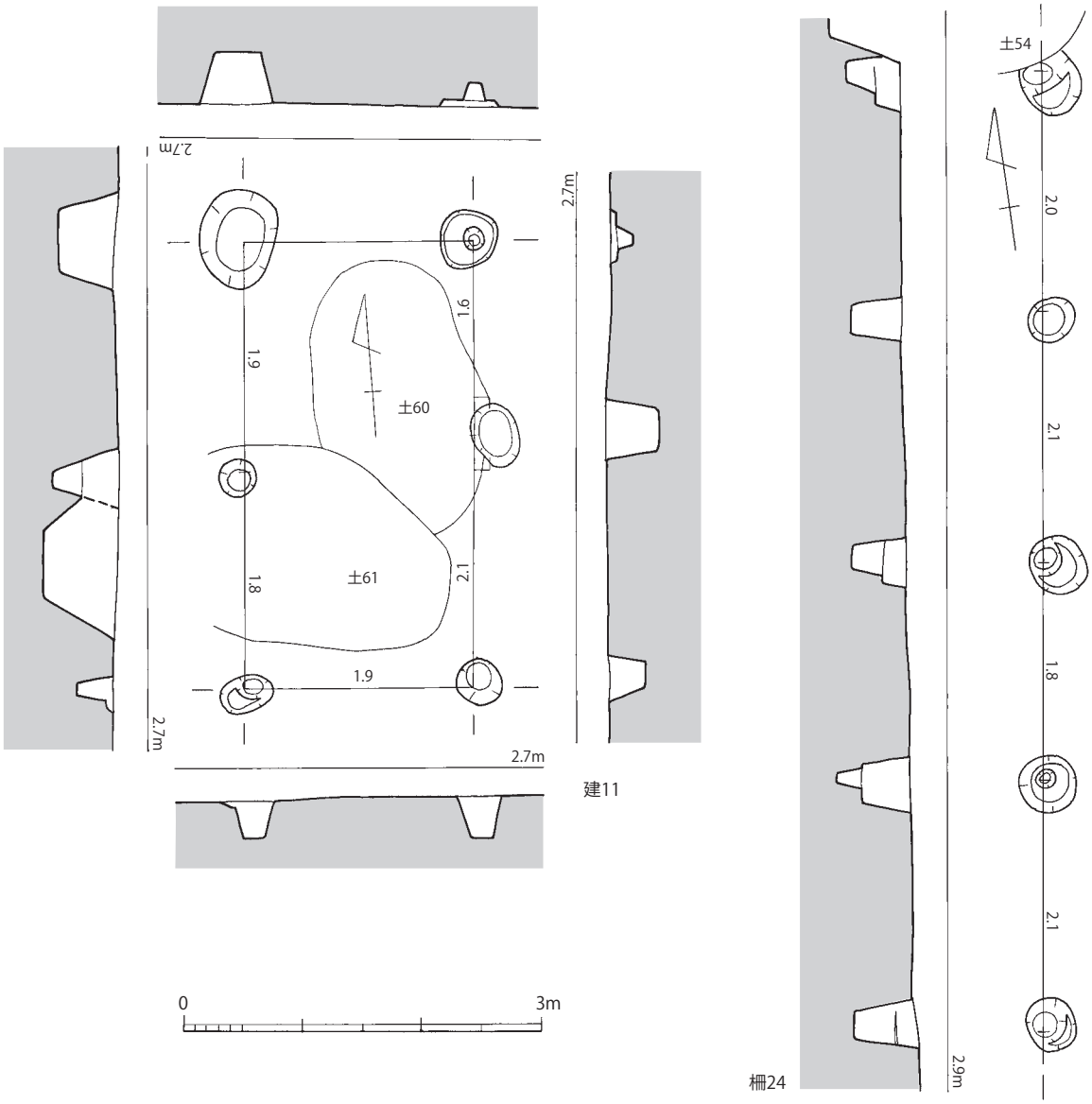
調査区西側に位置し、49号土坑の南側で検出する。２×１間の建物で、N－ 11°－Eの真北に近い方向で建てられる。柱穴は円形で径0.2～0.5 m、深さ0.1～0.6 m、柱間は南北方向で1.2 mと1.4 m、東西方向で2.0 mを測る。

**10号掘立柱建物**（第17図、図版13）

９号掘立柱建物の南東側に位置し、23号溝を跨ぐように検出する。１×１間の建物で、N－ 10°－Eの真北に近い方向で建てられる。柱穴は円形で、径0.4～0.6 m、深さ0.2～0.7 m、柱間は南北方向で1.8 m、東西方向で1.6 mを測る。

**11号掘立柱建物**（第18図、図版13）

調査区東側に位置し、60・61号土坑を囲むように検出する。２×１間の建物で、N－ 5°－Eの真北に近い方向で建てられる。柱穴は円形～長円形で、径0.3～0.8 m、深さ0.2～0.6 m、柱間は南北方向で1.6 m・1.8 m・1.9 m・2.1 m、東西方向で1.9 mを測る。




第 18 図　D区 11 号掘立柱建物、24 号柵列実測図（１/60）

**24 号柵列**（第 18 図、図版 13）

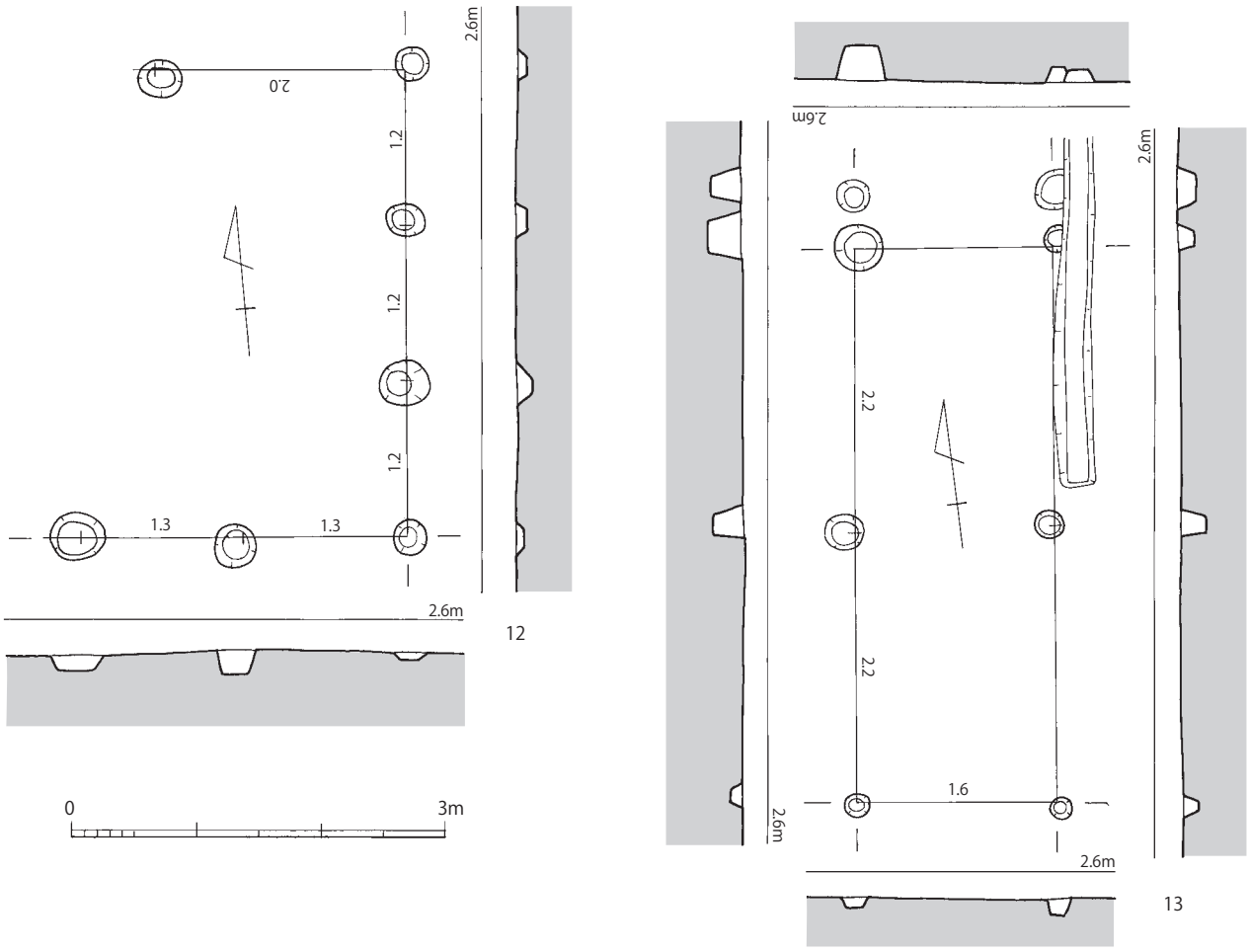
調査区東側の 53 号溝の西側に並行した柱列が 4 間検出する。柱穴は径 0.4 ～ 0.5 m、深さ 0.4 ～ 0.6 m、柱間は 1.8 m・2.0 m・2.1 mを測る。53 号溝と並行することから、溝と関連する柵列の可能性がある。

E区

E区では掘立柱建物２棟を検出する。

**12 号掘立柱建物**（第 19 図、図版 13）

調査区東側に位置し、121 号土坑の東側で検出する。南北方向に３間、東西方向に２間並ぶが、西側の柱列は検出できなかった。検出の際に掘り飛ばした可能性がある。３×２間の建物の可能性があり、N－ 5°－Eの真北に近い方向で建てられる。柱穴は円形～長円形で、径 0.4 ～ 0.6 m、深さ 0.1 ～ 0.3 m、柱間は南北方向で 1.2 m、東西方向で 1.3 m・2.0 mを測る。




第 19 図　E 区 12・13 号掘立柱建物実測図（1 /60）

**13 号掘立柱建物**（第 19 図、図版 14）

12 号建物の西側に位置し、67 号溝と 68 号溝の間で検出する。一部の柱穴は、溝に柱穴が切られている。建物方向はＮ－ 7°－Ｅで、真北に近い方向で建てられた２×１間の建物である。柱穴は円形で径 0.2 ～ 0.6 m、深さ 0.1 ～ 0.4 m、柱間は南北方向で 2.2 m、東西方向で 1.6 mを測る。

Ｆ区

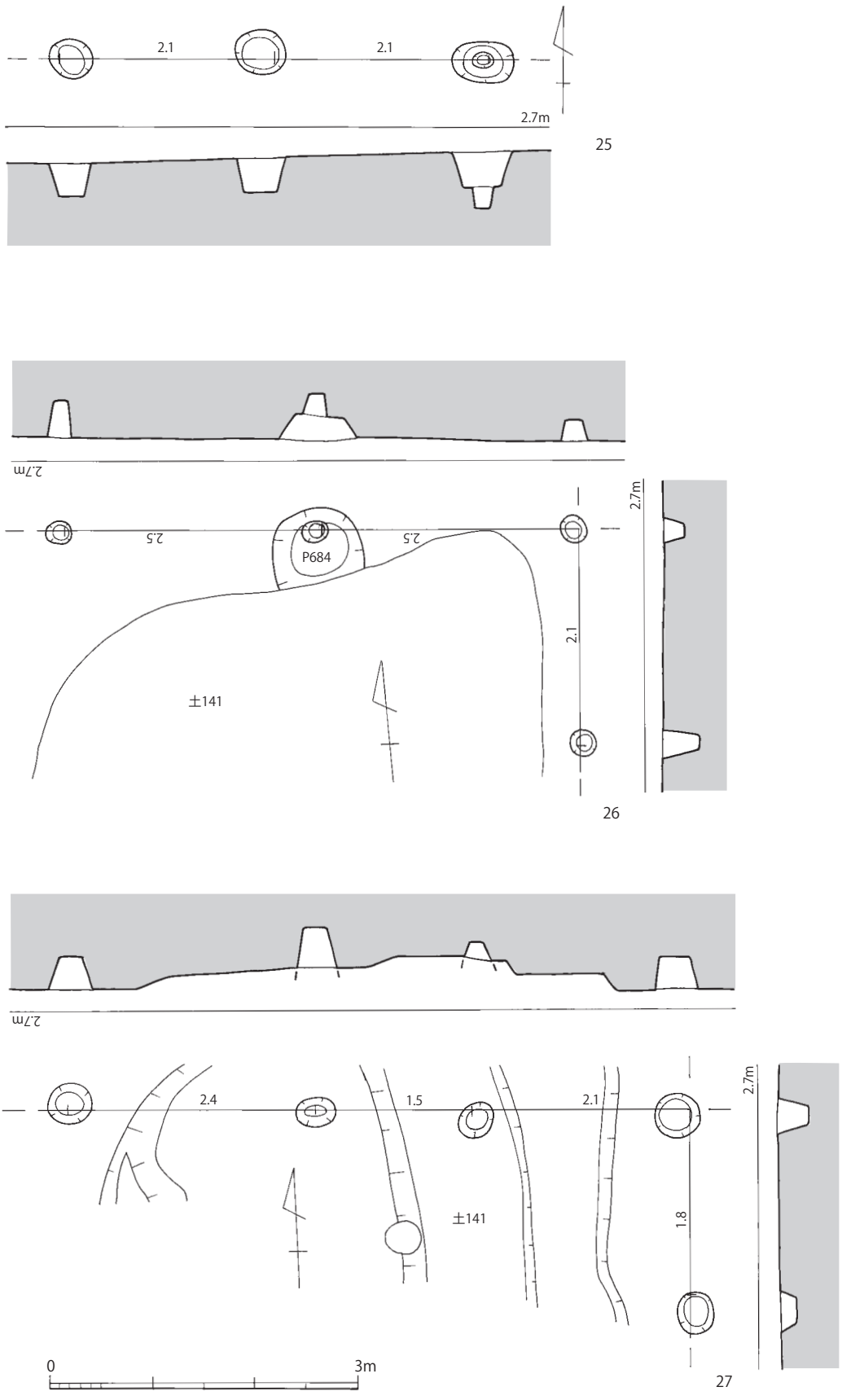
ここでは建物は検出していないが、柵列３条を検出する。

**25 号柵列**（第 20 図、図版 14）

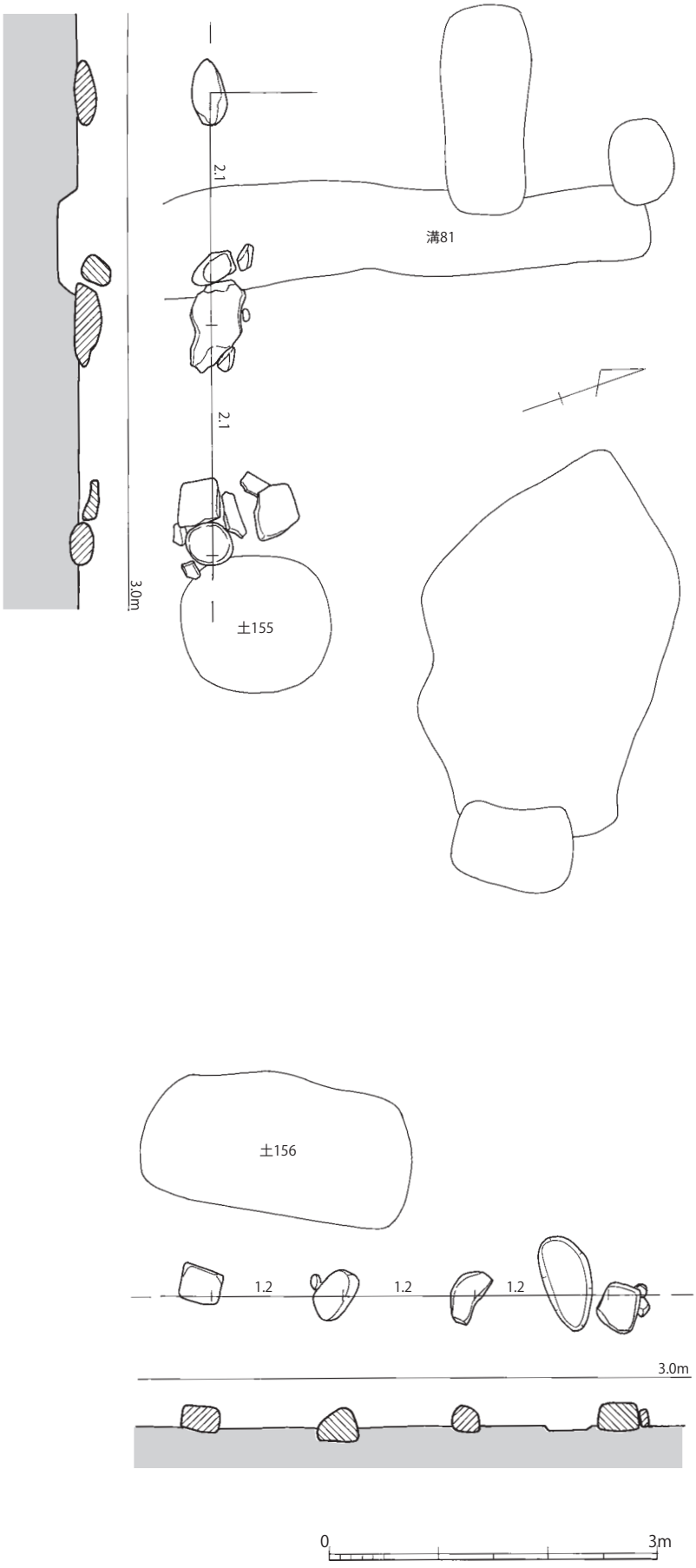
調査区東側にある 142 号土坑の西側に位置し、東西方向に柱列が２間並ぶ。柱穴は円形～長円形で、径 0.4 ～ 0.6 m、深さ 0.3 ～ 0.5 m、柱間は 2.1 m、柱痕は径 0.2 mを測る。２間のみの検出であるが、柱間が等間隔であることから柵列と判断した。遺物は土師器片のみが出土するので、中世の可能性もある。

**26 号柵列**（第 20 図、図版 14）

25 号柵列の南側に位置し、南北方向に１間以上、東西方向に２間並び 141 号土坑を囲むＬ字の柵列か。柱穴は円形で、径 0.2 ～ 0.9 m、深さ 0.2 ～ 0.4 mを測るが、Ｐ 684 のみ他の柱穴よりも掘り方が大きくなる。柱間は南北方向で 2.1 m、東西方向で 2.5 mを測る。遺物は土師器片のみが出土するので、




第 20 図　F 区 25 ～ 27 号柵列実測図（1 /60）




第 21 図　G区 14 号礎石建物実測図（1/60）

中世の可能性もある。

**27 号柵列**（第 20 図、図版 14）

26 号柵列の南側に位置し、141 号土坑を切られる柵列か。南北方向に 1 間以上、東西方向に 3 間並ぶ。柱穴は円形～長円形で、径 0.3 ～ 0.5 m、深さ 0.2 ～ 0.4 m、柱間は南北方向で 1.8 m、東西方向で 1.5 m・2.1 m・2.4 m を測る。遺物は土師器片や瓦器の小片が出土する。近世の陶器や磁器片が出土しないことから中世の可能性もある。

G区

G区では建物 1 棟を検出する。

**14 号礎石建物**（第 21 図、図版 14）

調査区東側に位置し、周辺には 155・156 号土坑がある。今回検出した建物の中で、唯一の礎石建物になる。建物方向はＮ－ 20°－Ｅで北北東の方向で建てられる。礎石は方形や長方形状の長さ 0.4 ～ 0.9 m、厚さ 0.2 mの石を設置する。掘り方は検出できていないが、検出した範囲では南北に 3 間、東西に 3 間以上の建物になるか。柱間は南北方向に 1.2 m、東西方向に 2.1 mを測る。

２．土坑（第 22 ～ 56 図、図版 15 ～ 43）

A 区は 1 ～ 15・17 ～ 28・34 ～ 48・168 号、B 区は 29 ～ 33・80 ～ 82・84 ～ 101・106 号、C 区は 66 ～ 79 号、D 区は 49 ～ 63・65・102 ～ 105・107 ～ 119 号、E 区は 120 ～ 139 号、F 区は 140 ～ 145 号、G 区 146 ～ 167 号となる。時期は大きく中世と近世の２時期に分けられるので、報告書作成時に各区で中世と判明した土坑を先に報告する。なお、井戸と近世墓は、調査当時のまま土坑として報告している。

A区

中世の土坑は６基検出する。

**６号土坑**（第 22 図、図版 16）

調査区東側に位置する、やや崩れた円形の土坑である。径 9.6 ～ 10.3m、深さ 10.5 ｍを測る。断面の形状は縦長の逆台形状である。遺構検出面から 0.7 ｍ下で、僅かに段がつく。埋土は灰色粘質土で、底面近くでは炭や木片が混入していた。

**12 号土坑**（第 22 図、図版 17）

６号土坑の西側に位置する。形状はやや崩れた長円形状の土坑で、長軸 1.32 ｍ、短軸 1.02 ｍ、深さ 0.7 ｍを測る。北側にはテラスがあり、南側に向かってさらに深さ 0.2 ｍ下がる。埋土は灰色粘質土である。

**13 号土坑**（第 22 図、図版 17）

12 号土坑の南側に位置し、北側は 12 号土坑に一部切られている。形状は長円形状で長軸 1.6 ｍ、短軸 1.42 ｍ、深さ 1.4 ｍを測る。断面の形状は遺構検出面から下に、0.3 ～ 0.5 ｍで段があり、そこから底面に向かって垂直に近い形状になる。底面は中央に向かって凹む。埋土は黒褐色粘質土である。

**18 号土坑**（第 22 図、図版 18）

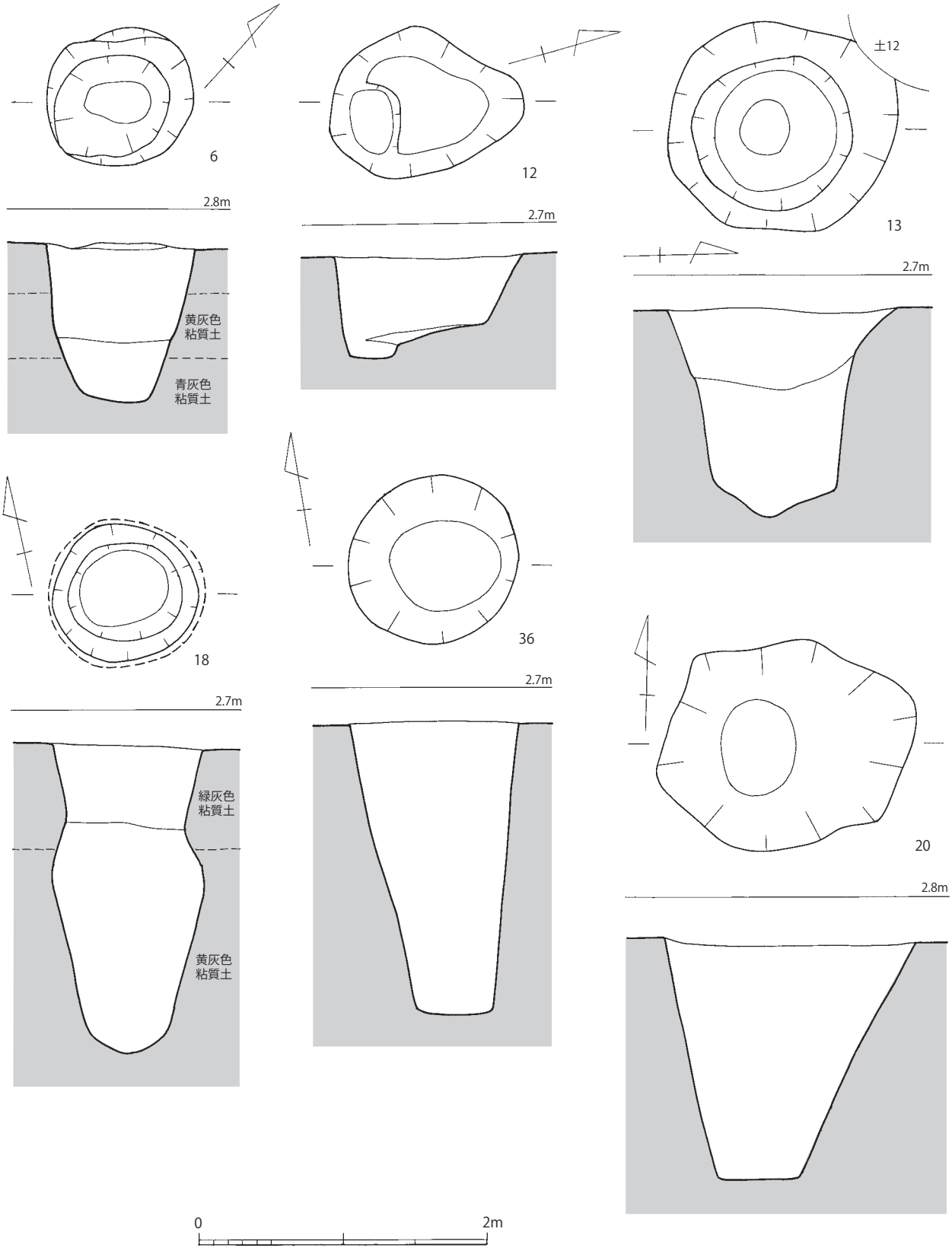
調査区西側の南壁近くに位置する。形状は円形で、径 0.96 ～ 1.02 ｍ、深さ 2.1 ｍを測る。断面の形状は遺構検出面から 0.5 ｍ下で一度窄まるが、さらに 0.5 ｍ下では外に向かって 0.1 ～ 0.15 ｍ程張り出す。それより下では底面に向かって窄まっていき、底面は検出面に比べて 0.5 ～ 0.6 ｍと狭くなる。埋土は灰色粘質土である。

**20 号土坑**（第 22 図、図版 18）

18 号土坑の北側に位置する。形状は不整形で、長軸 1.8 ｍ、短軸 1.4 ｍ、深さ 1.6 ｍを測る。断面の形状は縦長の逆台形状で、底面に向かって狭くなる。埋土は黒灰色粘質土である。

**36 号土坑**（第 22 図、図版 22）

調査区西側に位置し、北側を 22 号溝に切られる。形状は円形で径 1.16 ～ 1.18 ｍ、深さ 2.1 ｍを測る。断面の形状は縦長の逆台形状で、遺構検出面から垂直に近い角度で、底面まで下がる。埋土は灰色粘質土で、平瓦片が出土する。




第 22 図　A区６・12・13・18・20・36 号土坑実測図（１/40）

近世の土坑は 37 基検出する。

**１号土坑**（第 23 図、図版 15）

調査区東側で検出した土坑である。形状は不整形で、長軸 1.8 m、短軸 1.3 mを測る。断面の形状は深さ 0.4 m程で、半円状のテラスがあり、その中央部分は円形状に 0.3 m掘り下がる。埋土は灰褐色土である。

**２号土坑**（第 23 図、図版 15）

１号土坑の西側の北壁際に位置するため、半分程しか検出していない。形状は長方形状で、長軸 2.7 m、短軸 0.8 m以上、深さ 0.4 mを測る。上層は調査前の田地の表土と床土の下に灰褐色土と黒褐色土が互層に混じる。南側では建物の礎石として使用された可能性がある約 0.3 mの平坦な石を検出する。

**３号土坑**（第 23 図、図版 15）

１号土坑の東側に位置し、北壁際で検出したため、全容は把握できていない。南側は、一部ピットに切られているが、形状は長円形状になるか。長さは 1.6 ～ 1.8 m、深さ 0.5 mを測る。断面の形状は中央部分が低くなる逆台形状になる。埋土は、灰褐色土に地山である緑灰色粘質土が混じる。

**４号土坑**（第 23 図、図版 15）

２号土坑の西側に位置し、東側と南東側はピットに切られている。形状は隅丸方形状で、長軸 2.2 m、短軸 1.9 m、深さ 0.3 mを測る。断面の形状はすり鉢状で、底面は平坦である。埋土は灰色土である。

**５号土坑**（第 23 図、図版 16）

調査区東側に位置する。形状は長円形状で長軸 0.94 m、短軸 0.74 m、深さ 0.9 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面中央が凹む。埋土は黒褐色粘質土で、木製の独楽が出土した。

**168 号土坑**（第 23 図）

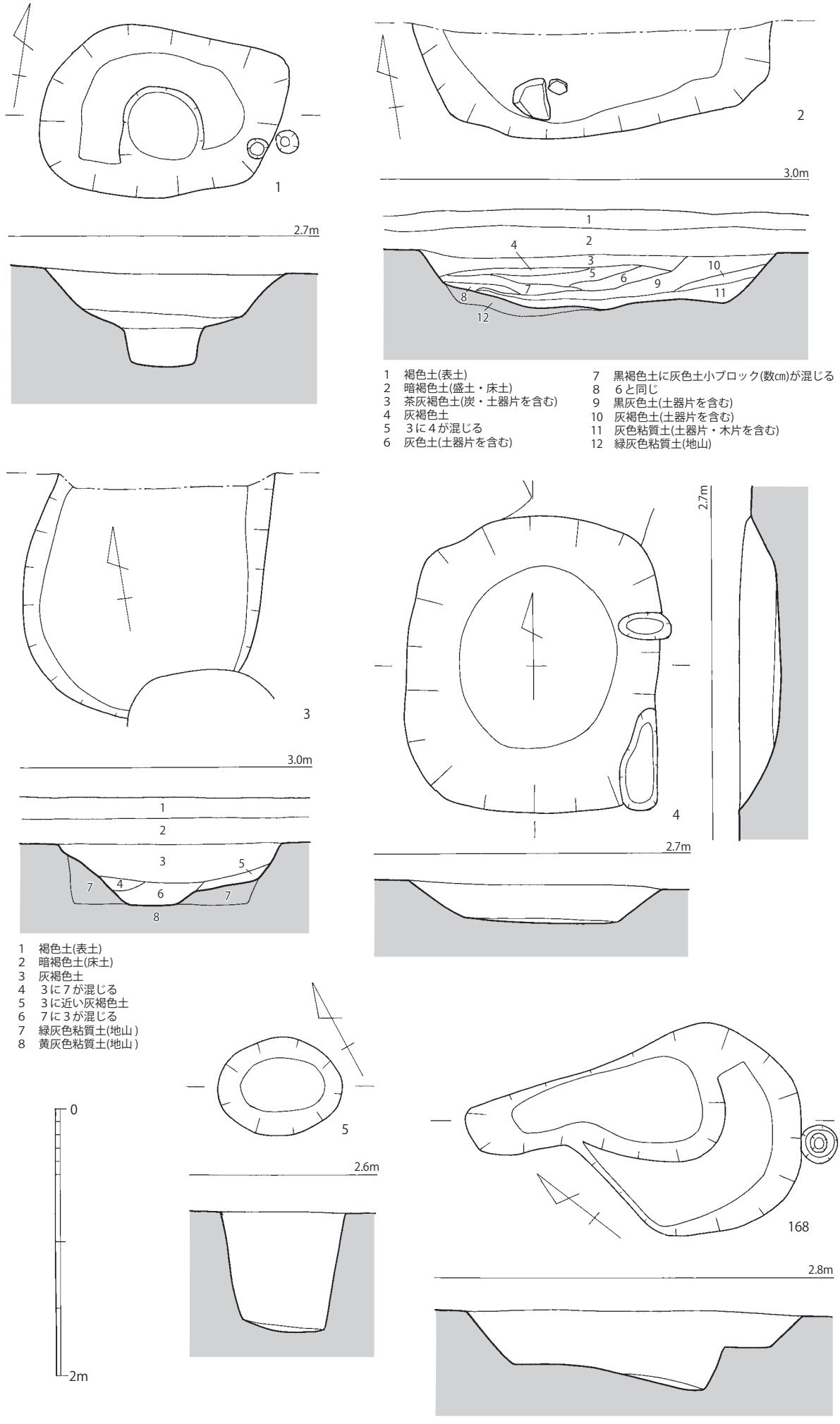
８号土坑の北側に位置し、当初は９号土坑としたが、番号を誤認したため変更した。形状の大部分は円形状で、北西側へ溝状に飛び出す。長軸 2.5 m、短軸 1.56 m、深さ 0.6 mを測る。土坑内は遺構面から 0.26 m下で南側にテラスが半円状に巡るが、北から北西側にかけて、さらに溝状に 0.3 m下がる。埋土は黒灰褐色土で、炭などとともに遺物が混入していた。

**７号土坑**（第 24 図、図版 16）

５号土坑の北側に位置し、東側の小ピット１基に切られている。隅丸長方形状で、長軸 1.88 m、短軸 1.0 m、深さ 4.2 mを測る。北側から東側には、幅の狭い段がある。埋土は大きく３層に分けられる。

**８号土坑**（第 24 図、図版 16）

６号土坑の西側に位置し、北側の円形が崩れた土坑と南側の溝が繋がった遺構である。土坑部分と溝部分は 0.1 m以下の浅い凹みで繋がる。本来はそれぞれ別の遺構であった可能性がある。土坑部分は長軸 1.06 m、短軸 0.82 m、深さ 1.2 m、溝部分は長さ 2.62 m、幅 0.4 ～ 0.5 m、深さ 0.24 mを測る。土坑




第 23 図　A区１～５・168 号土坑実測図（１/40）

部分は遺構検出面近くで、0.1 m以下の浅い不整形状になるが、それより下はほぼ垂直に底面まで下がる。溝部分は東側と南側に浅いテラスがそれぞれ付くが、断面の形状は逆台形状を呈す。埋土は黒褐色土で、炭などとともに遺物が混入していた。

**９号土坑**（第 24 図、図版 17）

８号土坑の北側に位置し、東側は一部、三角形状に尖る。形状は長方形状で、長軸 1.66 m、短軸 0.84 m、深さ 0.4 ～ 0.5 mを測る。底面は中央部分に三角形状のテラスを有し、その部分を境に東西にさらに 0.1 m以上下がる。埋土の黒褐色土には、炭などとともに遺物が混入していた。

**10 号土坑**（第 24 図、図版 17）

９号土坑の北側の調査区北壁際で検出した土坑である。調査区際で検出したため、本来の形状は不明だが、長軸 3.1 m、短軸 0.6 m以上、深さ 0.5 mを測る。埋土は２層分かれ、上層は灰褐色土で、そこからさらに掘り下がる部分のみ黒褐色粘質土が堆積する。

**11 号土坑**（第 24 図、図版 17）

８号土坑の西側に位置し、東側にあるピットに切られる。形状はやや崩れた長円形状で、長軸 1.66 m、短軸 1.36 m、深さ 1.8 mを測る。断面の形状は遺構検出面から 0.2 ～ 0.6 m付近で、テラスを有して大きく広がるが、それより下で円形に窄まり、垂直に底面まで下がる。埋土は灰褐色土と緑灰色土ブロックが混じる。

**14 号土坑**（第 25 図、図版 18）

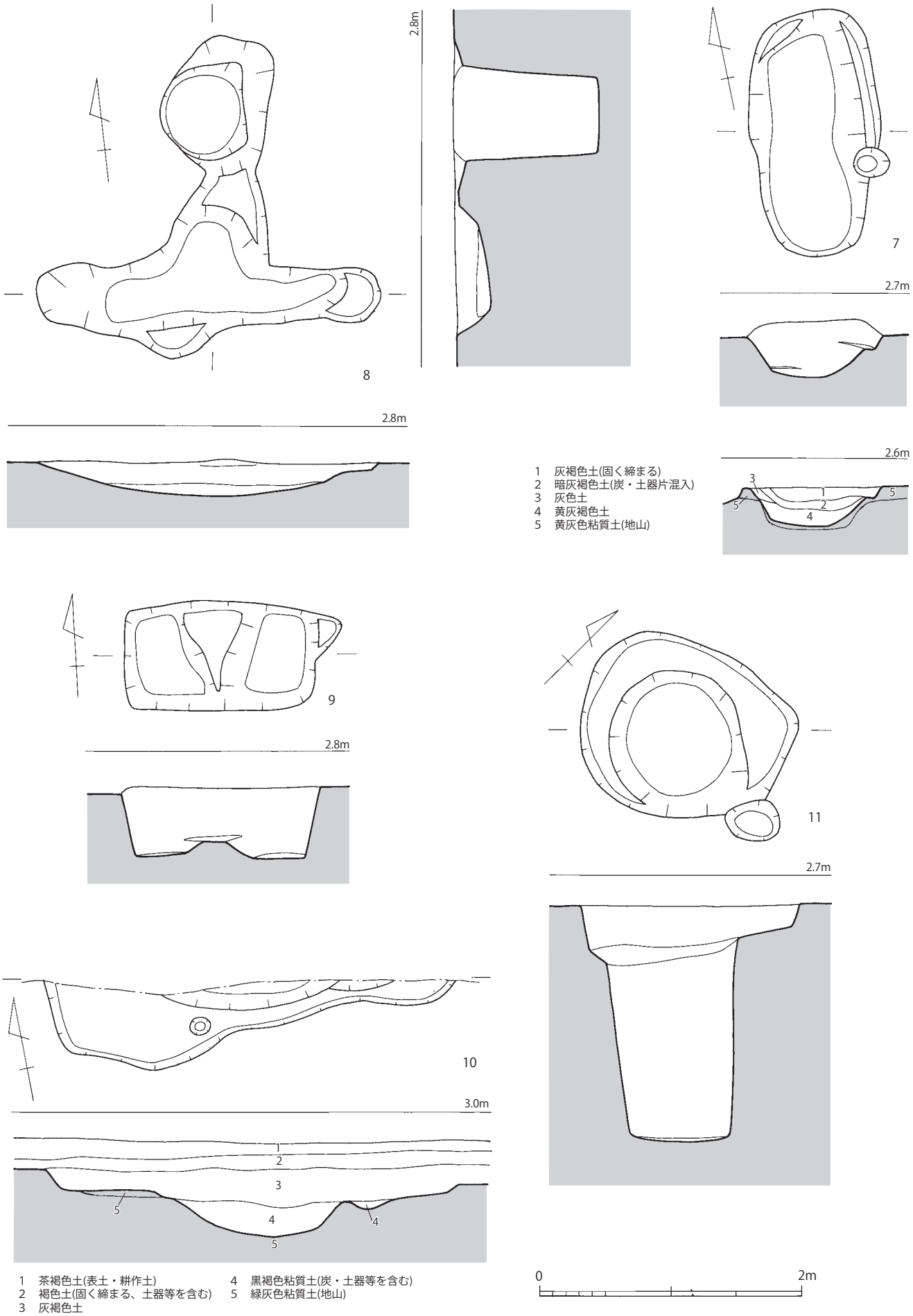
13 号土坑の南西側に位置し、４号溝と５号溝に挟まれる。形状は少し崩れた円形で、径 1.5 m前後、深さ 2.56 mを測る。断面の形状はほぼ垂直に近く、遺構検出面から 0.4 m下に瓦質の井戸枠３個体が上下に連なる状態で検出した。瓦質の井戸枠を設置するために、井戸枠の外側へ 0.3 mほど広く掘られている。瓦質の井戸枠は、円形で径 0.8 m前後、高さ 0.7 m、厚さ 0.02 m以下を測る。上部と下部で端部の厚さがやや異なる作りで、１段目と３段目は厚みがある端部を上部にして設置するが、２段目のみ天地を逆にして設置する。埋土は主に灰褐色粘質土が堆積する。

**15 号土坑**（第 25 図、図版 18）

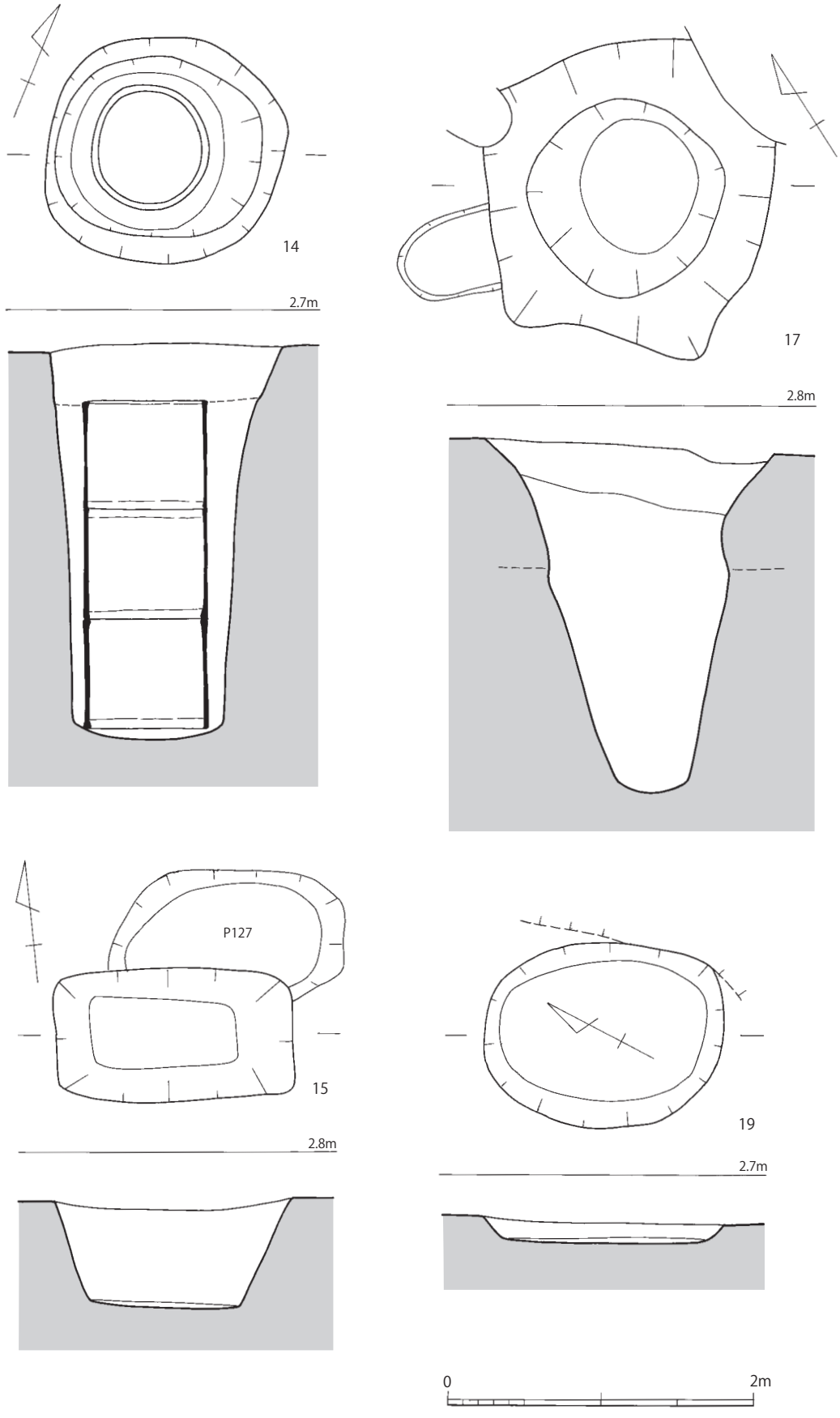
14 号土坑の南西側に位置し、北側にあるピットを切る。形状は長方形で、長軸 1.52 m、短軸 0.88 m、深さ 0.7 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は１層のみで、灰褐色土が堆積する。

**17 号土坑**（第 25 図、図版 18）

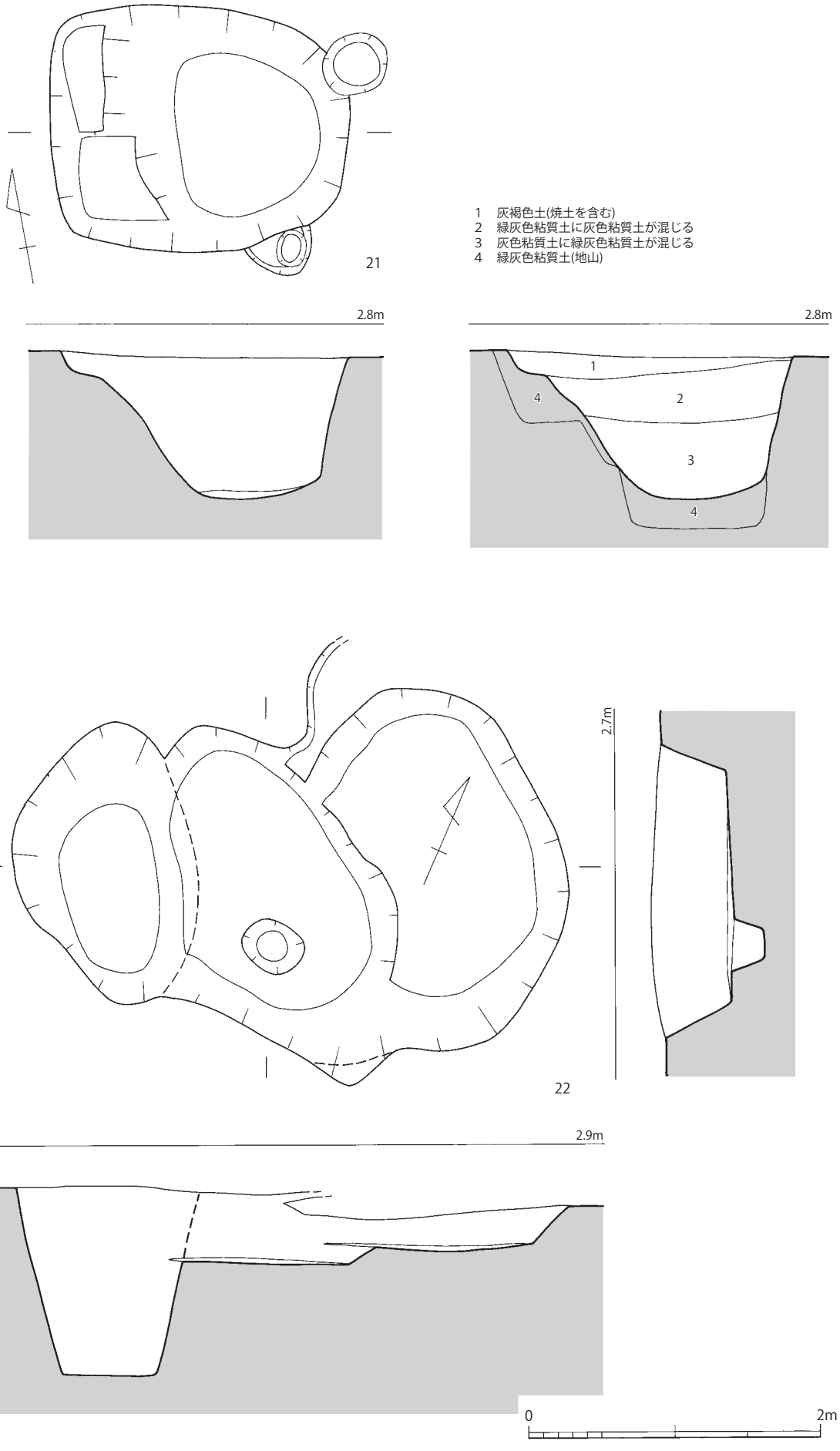
調査区西側に位置し、周りはピットとの切り合いがある。形状は崩れた五角形状で、長軸 2.08 m、短軸 1.88 m、深さ 2.24 mを測る。断面の形状は漏斗状で、遺構検出面から下に 0.2 ～ 0.4 mで緩やかに下がるが、それより下位の幅はさらに狭まり、断面の形状はほぼ垂直に近くなる。埋土は灰褐色土が堆積する。




第 24 図　A区 7 ～ 11 号土坑実測図（1 /40）




第 25 図　A区 14・15・17・19 号土坑実測図（1/40）




第 26 図　A区 21・22 号土坑実測図（1/40）

**19 号土坑**（第 25 図、図版 18）

17 号土坑の北東側に位置し、東側は現代まで使用された水田の排水用の溝に切られる。形状は長円形で、長軸 1.56 m、短軸 1.2 m、深さ 0.1 mを測る。断面の形状は浅い逆台形状である。埋土は灰褐色土が堆積する。

**21 号土坑**（第 26 図、図版 19）

17 号土坑の北側に位置し、周りはピットとの切り合いがある。形状は隅丸長方形状で、長軸 2.05 m、短軸 1.7 m、深さ 0.96 mを測る。断面の形状は東西で異なり、東側はほぼ垂直に近いが、西側は幅 0.2 ～ 0.5 mのテラスが付く。埋土は 3 層に分かれ、上層は灰褐色土、中～下層は灰色粘質土と緑灰色粘質土が堆積する。

**22 号土坑**（第 26 図、図版 19）

21 号土坑の北側に位置し、長円形状の土坑が連なる土坑で、西側に向かって徐々に深くなる。形状は不整形で、長軸 3.8 m、短軸 1.9 ～ 2.5 m、深さ 0.3 ～ 1.3 mを測る。中央部分には径 0.4 m前後、深さ 0.2 mのピット 1 基がある。埋土は灰褐色土や灰色粘質土である。

**23 号土坑**（第 27 図、図版 19）

調査区西側に位置し、13 号溝を切る。形状は長円形状で、長軸 1.8 m、短軸 1.02 m、深さ 0.3 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は灰褐色土である。

**24・28 号土坑**（第 27 図、図版 20）

23 号土坑の西側に位置し、南側の 24 号土坑が北側の 28 号土坑を切る。24 号土坑の形状は長円形で、長軸 1.3 m、短軸 1.04 m、深さ 1.94 mを測る。28 号土坑の形状は円形で、径 0.7 ～ 0.8 m、深さ 1.9 mを測る。いずれの土坑も遺構検出面からほぼ垂直に掘られている。埋土も同じ灰色粘質土である。

**25 号土坑**（第 27 図、図版 20）

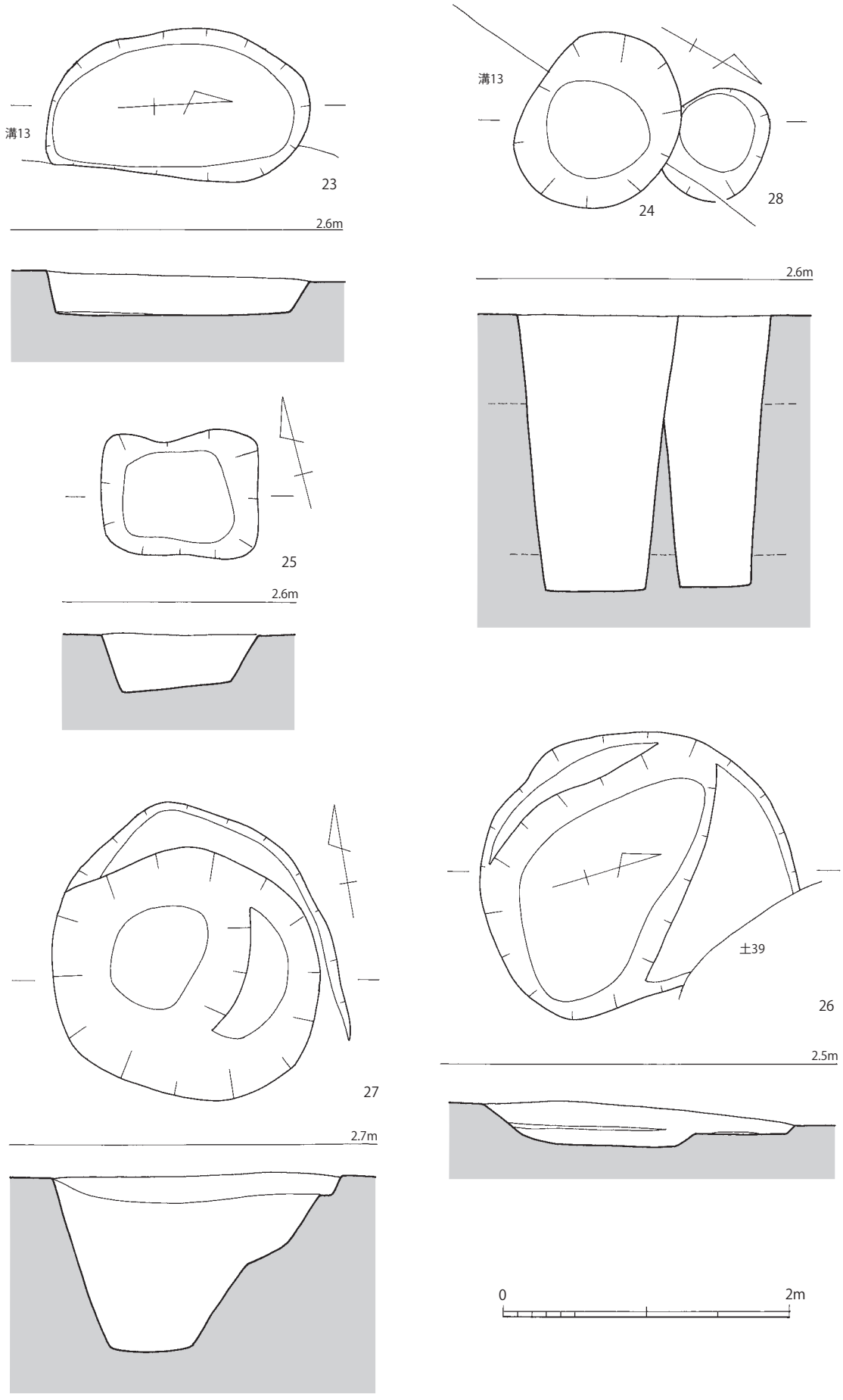
24 号土坑の北側に位置する。形状は北側が窪む長方形状で、長軸 1.1 m、短軸 0.8 ～ 0.88 m、深さ 0.4 mを測る。断面の形状は逆台形状で、西側がやや下がる。埋土は灰褐色土である。

**26 号土坑**（第 27 図、図版 20）

22 号土坑の北側に位置し、北東側を 39 号土坑に切られる。形状は長軸 2.14 m、短軸 1.84 m、深さ 0.3 mを測る。土坑内部は北側と南西側にテラスが付き、南側が低くなる。埋土は灰褐色土である。

**27 号土坑**（第 27 図）

26 号土坑の西側に位置し、西側は 0.1 m程の段差が付く。形状は円形で径 1.8 m前後、深さ 1.2 mを測る。断面の形状は逆台形状だが、東側には遺構検出面から 0.6 m下にテラスが付く。埋土は灰褐色土である。




第 27 図　A区 23 ～ 28 号土坑実測図（1 /40）

**34・35 号土坑**（第 28 図、図版 22）

27 号土坑の北側の北壁際で検出した土坑である。西側の 34 号土坑は 1 / 2 以下の検出だが、形状は長円形状か。長さ 1.4 m、深さ 1.24 mを測る。断面の形状は遺構検出面から垂直に底面まで下がる。埋土は、灰褐色粘質土に粘質の度合いや炭の混入具合で 2 層に分かれる。東側の 35 号土坑は、14 号土坑で検出した瓦質の井戸枠と同じような土坑であるが、ここでは 1 段目のみ抜き取られており、掘り方の形状は不整形状になる。確認できる大きさで幅 1.8 m、深さ 2.3 mを測る。 1 段目が抜き取られているため、埋土は黄灰色粘質土（地山）に灰褐色粘質土が混じる。それより下位には 2 ・ 3 段目が残存していたが、調査区際のため人力で掘り下げることができず、バックホーによる掘削を行い、可能な限り遺物を回収した。

**37 号土坑**（第 28 図、図版 22）

26 号土坑の北側に位置する。形状は長円形状で、長軸 1.3 m、短軸 1.0 m、深さ 0.9 mを測る。断面の形状は逆台形状だが、底面中央に向かって掘り下がる。埋土は灰褐色土である。

**38 号土坑**（第 28 図、図版 22）

37 号土坑の北側に位置し、19 号溝に切られる。そのため形状は不明だが、長さ 1.2 ～ 1.4 m、深さ 0.5 mを測る。東側は遺構検出面から 0.4 m下にテラスが付き、西側に向かってさらに 0.1 m程下がる。これも埋土は灰褐色土である。

**39 号土坑**（第 29 図、図版 22）

26 号土坑の北側に位置し、北側を 19 号溝に切られている。形状は長円形状で、長軸 3.9 m、短軸 2.1 m、深さ 0.2 ～ 0.4 mを測る。北側はピット状に一段下がるが、断面の形状は逆台形状になる。埋土は灰褐色土である。

**40・41 号土坑**（第 29 図、図版 23）

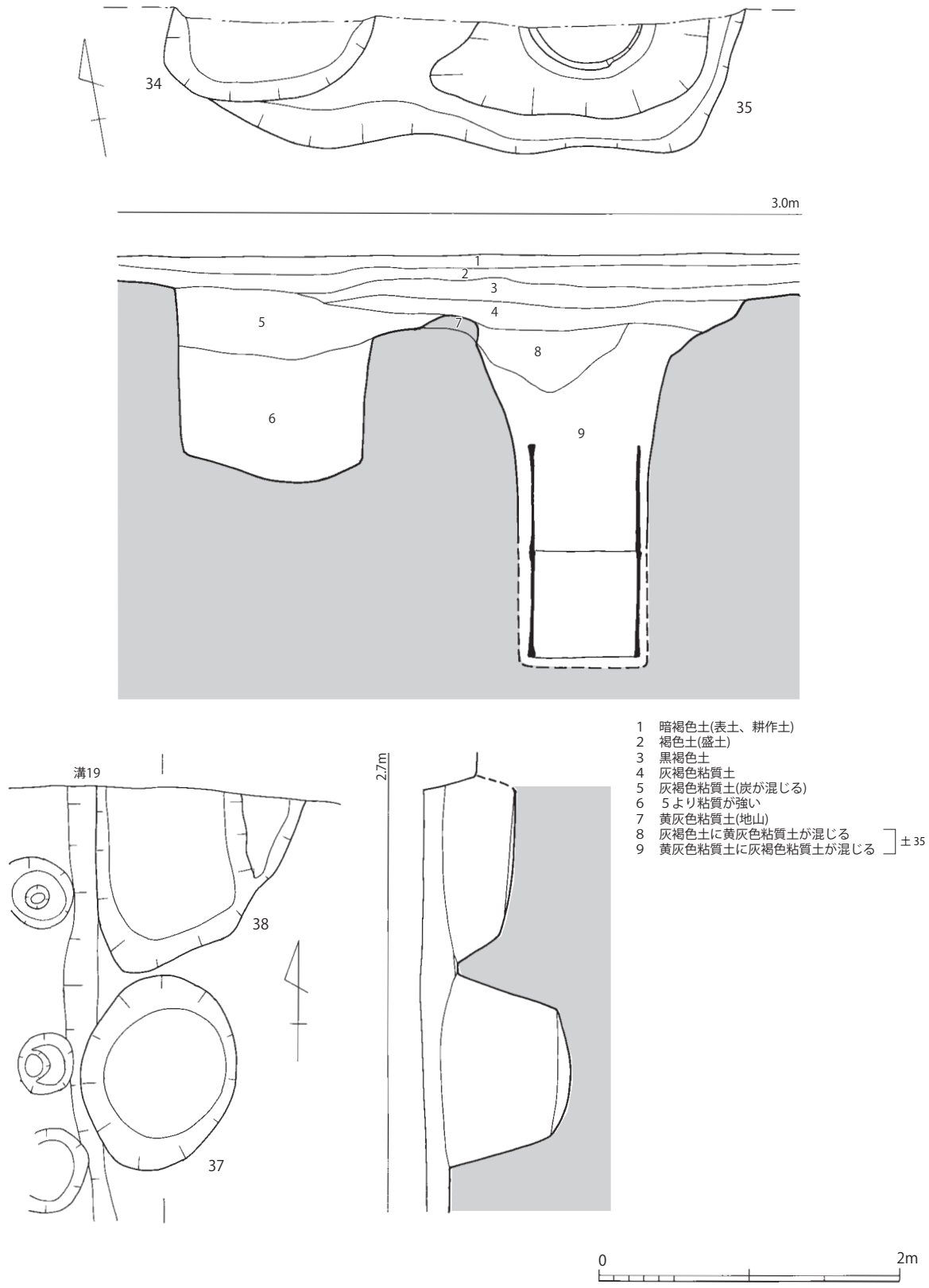
19 号土坑の北側に位置し、41 号土坑が 40 号土坑を切る。いずれも円形状で、径 1.0 m前後、深さ 0.2 mと 0.3 mを測る。断面の形状は逆台形状だが、41 号土坑は遺構検出面から 0.2 m下で南側にテラスが付く。いずれも埋土は暗褐色土である。

**42・43 号土坑**（第 29 図、図版 23）

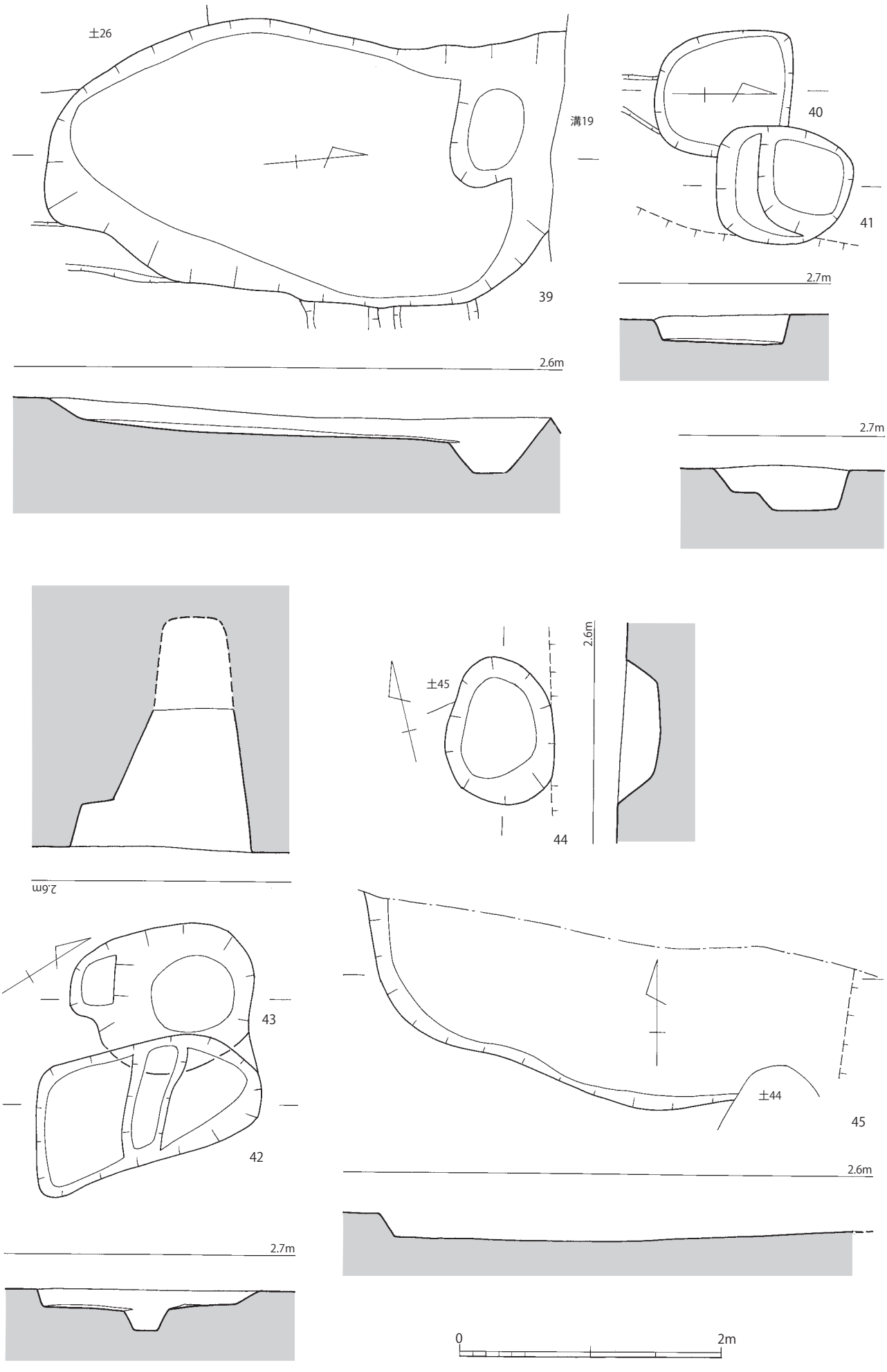
41 号土坑の北側に位置し、42 号土坑が 43 号土坑を切る。東側の 42 号土坑は長方形状で、長軸 1.7 m、短軸 0.9 m、深さ 0.1 ～ 0.3 mを測る。断面の形状は、底面中央が一段下がる。埋土は暗灰褐色土である。西側の 43 号土坑はやや崩れた円形状で、径 1.3 m前後、深さ 1.1 mを測る。南側は遺構検出面から 0.4 m下で、段が付く。断面の形状は、勾配が急な掘り方になるが、底面はさらに 0.7 m下まで垂直に掘り下がる可能性がある。埋土は 42 号土坑と同様である。

**44 号土坑**（第 29 図、図版 23）

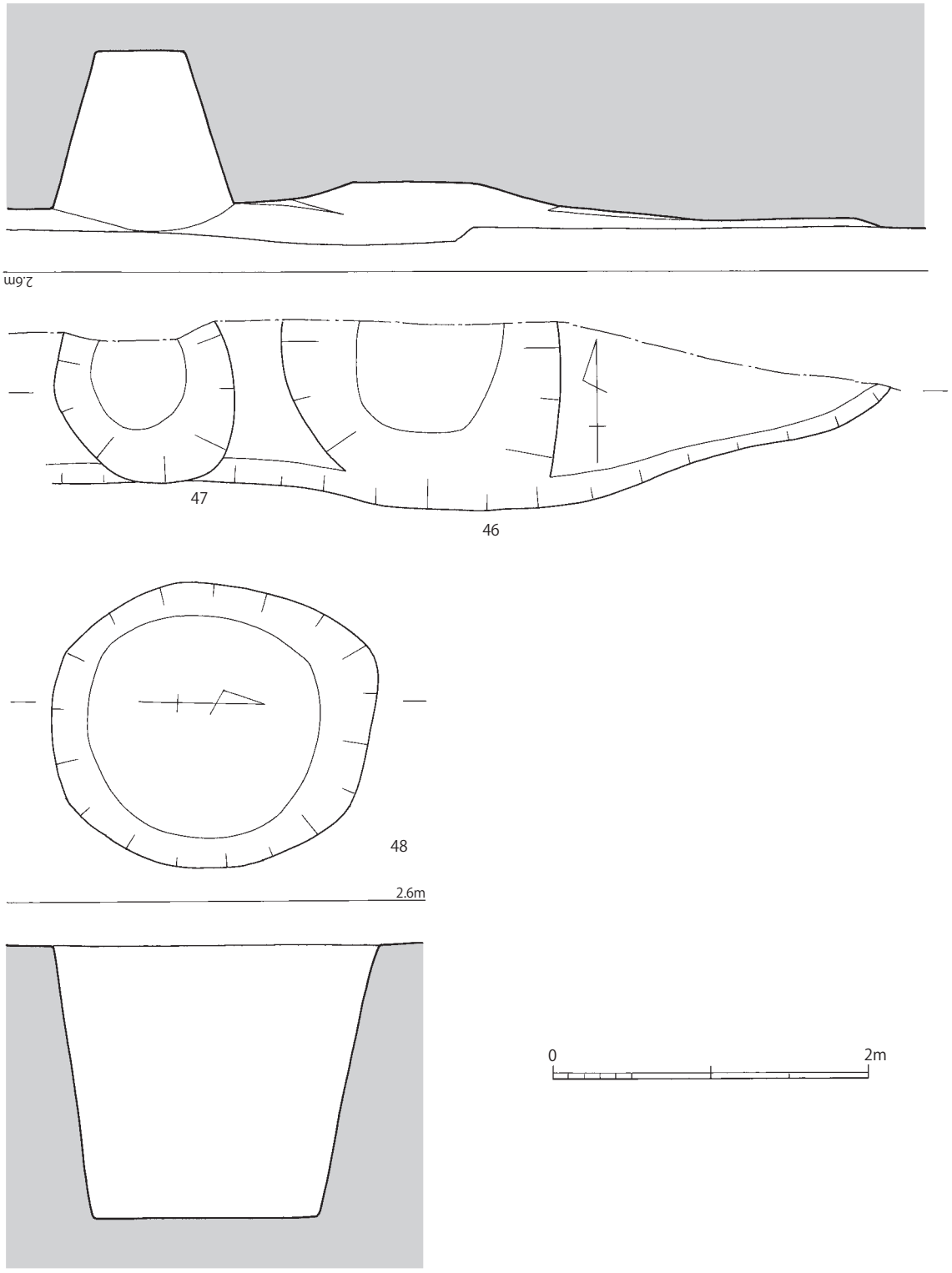
42 号土坑の北側に位置し、東側を攪乱溝に切られるが北側の 45 号土坑を切る。形状は長円形状で、




第 28 図　A区 34・35・37・38 号土坑実測図（1 /40）




第 29 図　A区 39 ～ 45 号土坑実測図（1 /40）




第 30 図　A区 46 ～ 48 号土坑実測図（1 /40）

長軸 1.1 m、短軸 0.8 m、深さ 0.3 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は灰褐色土である。図化できる遺物はない。

**45 号土坑**（第 29 図、図版 23）

44 号土坑の北側に位置し、それに切られる北壁際で検出した土坑である。形状は調査区際で検出したため不明で、長さが 3.8 mあることから溝の可能性もある。深さは 0.2 m程の浅い溝状の遺構になる。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は灰褐色土である。

**46・47 号土坑**（第 30 図、図版 23・24）

23 号土坑の北側に位置し、調査区西側の北壁際で溝状に窪む。西側にある深い遺構を 47 号土坑とし、東側の浅い凹んだ遺構を 46 号土坑とした。46 号土坑は長軸 1.7 m、短軸 1.2 m以上、深さ 0.4 mを測る。47 号土坑は円形状で、径 1.1 m前後、深さ 1.14 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面に向かって窄まる。埋土は灰褐色土である。

**48 号土坑**（第 30 図）

47 号土坑の南西側の調査区西壁近くにあり、調査区西側に位置する。形状は長円形で長軸 2.04 m、短軸 1.82 m、深さ 1.74 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は主に灰色粘質土が堆積する。

B 区

中世の土坑は 4 基を検出する。

**85・99 号土坑**（第 31 図、図版 32）

82 号土坑の西側に位置し、調査区南壁側に位置する。南側にある 99 号土坑に切られる。85 号土坑は遺構検出面から 0.3 m下で東側に弧状の段が付き、底面はさらに長円形状に一段掘り下がる。土坑の形状はやや崩れた円形で、径 3.1 m、深さ 1.28 mを測る。断面の形状は緩やかで、上層の灰褐色土と緑灰色粘質土が混じる 1 層のみが 0.4 m程厚く堆積するが、それより下位の層は 0.2 m以下と薄く底面中央に向かってレンズ状に堆積する。主な埋土は黒色粘質土に灰色粘質土や緑灰色粘質土などが混じる。

99 号土坑は調査区南壁際で検出したため、1 / 2 程しか掘削できていない。検出した形状は不整形で、長軸 1.5 m、短軸 0.86 m以上、深さ 1.5 mを測る。掘り方は上層から中層にかけて比較的緩やかだが、底面付近では垂直に下がる。埋土は 4 層に分かれる。

**90 号土坑**（第 31 図、図版 33）

85 号土坑の西側に位置し、北側のピットと接する。形状はやや崩れた長円形状で、長軸 1.48 m、短軸 1.08 m、深さ 1.16 mを測る。遺構検出面から下に 0.3 mで西側に段が付き、そこからさらに 0.6 m前後で瓦器椀が出土する。断面の形状は東側で垂直に落ちるが、西側はそれよりもやや緩やかになる。埋土は灰色粘質土が堆積する。

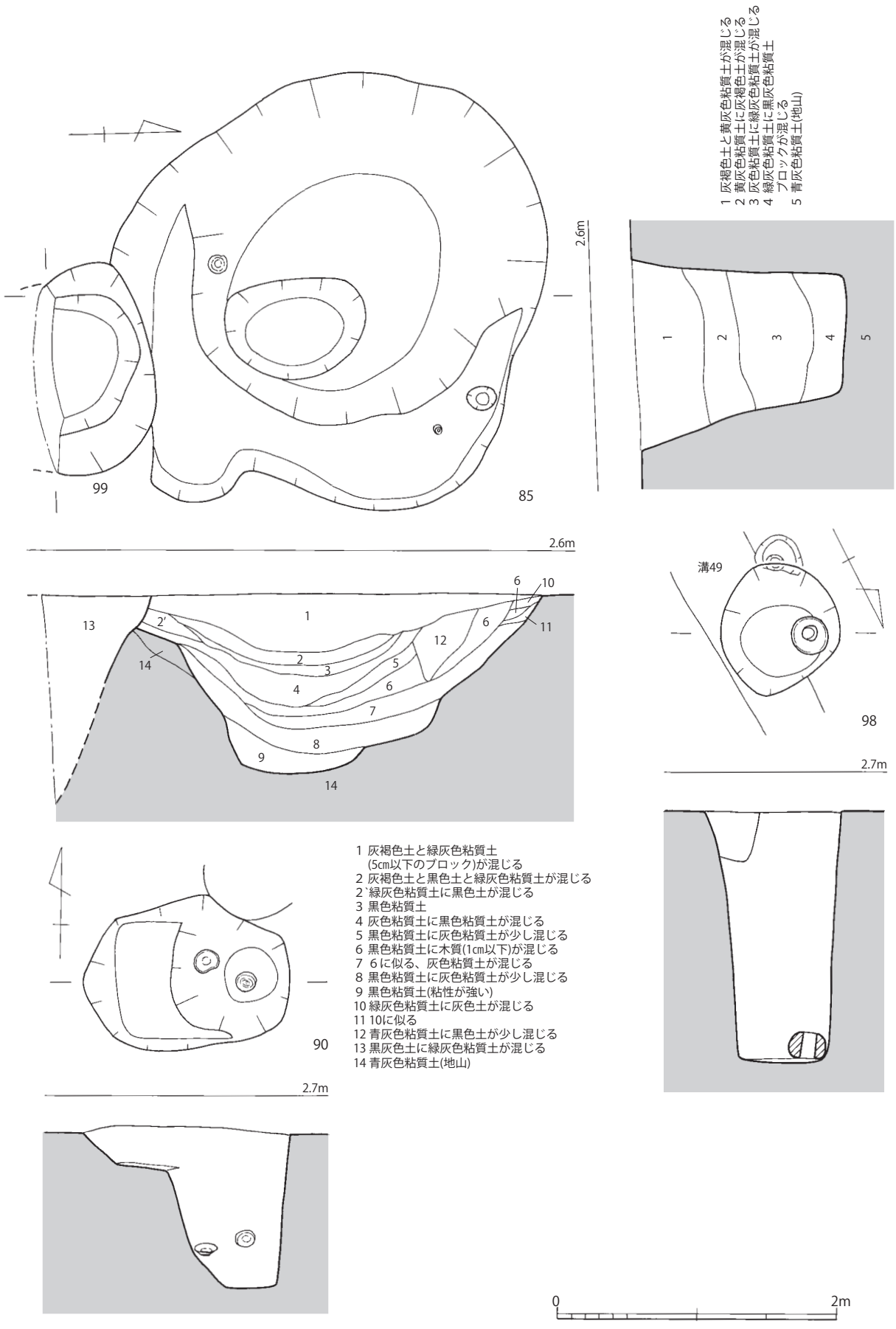
**98 号土坑**（第 31 図、図版 35）

95 号土坑の南側に位置し、49 号溝とピットに切られる。形状は円形で、径 0.9 m前後、深さ 1.8 mを測る。掘り方はほぼ垂直で、底面から石塔の一部が出土した。埋土は灰褐色土が堆積する。

近世の土坑は 23 基検出する。

**29 号土坑**（第 32 図、図版 20）

調査区西側の南壁際に位置し、表土から 1.0 mの宅地造成土の下、標高 2.5 mで遺構を検出する。形状は方形状で、長さ 1.3 m、深さ 0.62 mを測る。断面の形状は逆台形状で、埋土は 2 層が堆積する。



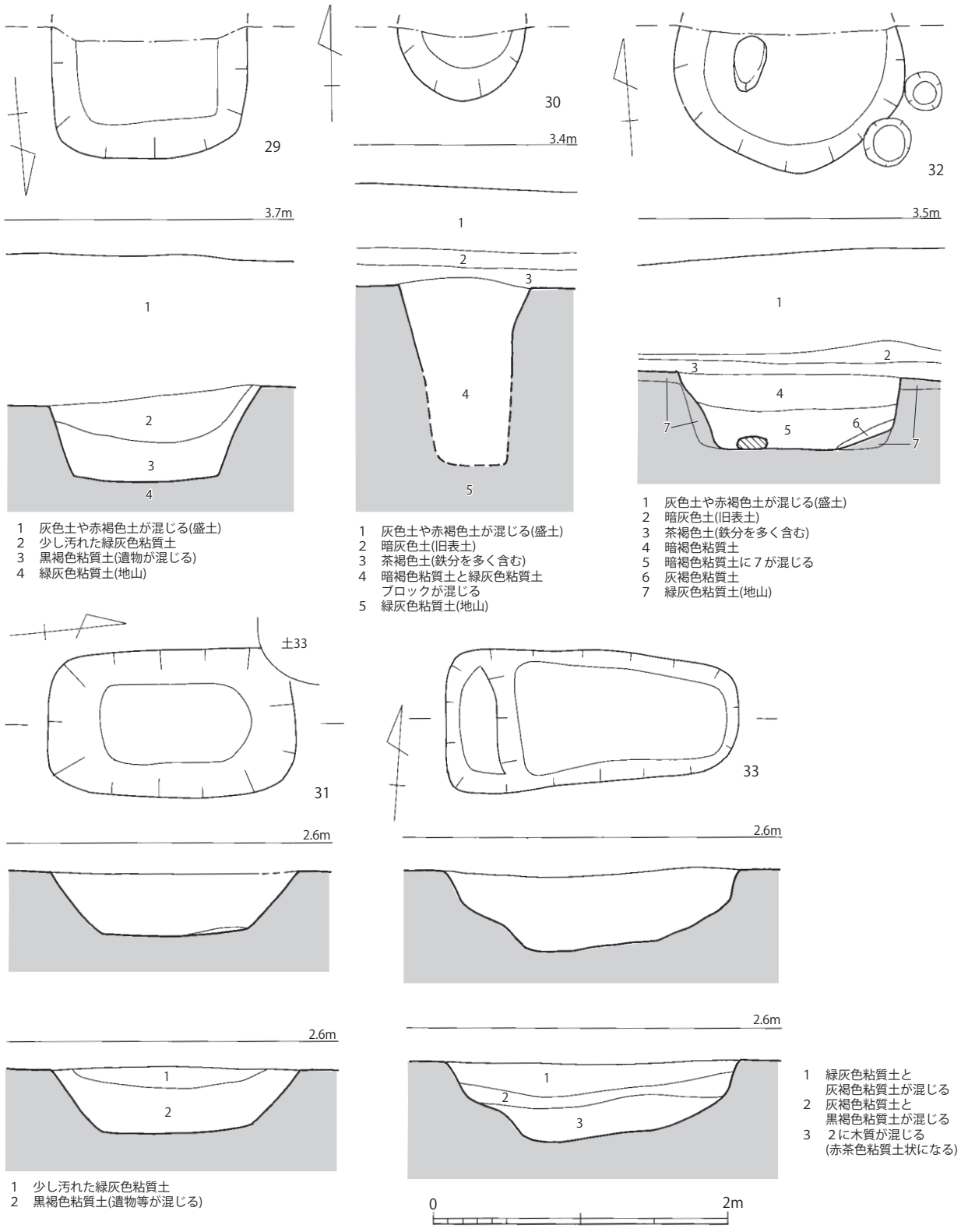

第 31 図　B 区 85・90・98・99 号土坑実測図（1 /40）

### 30 号土坑（第 32 図、図版 20）

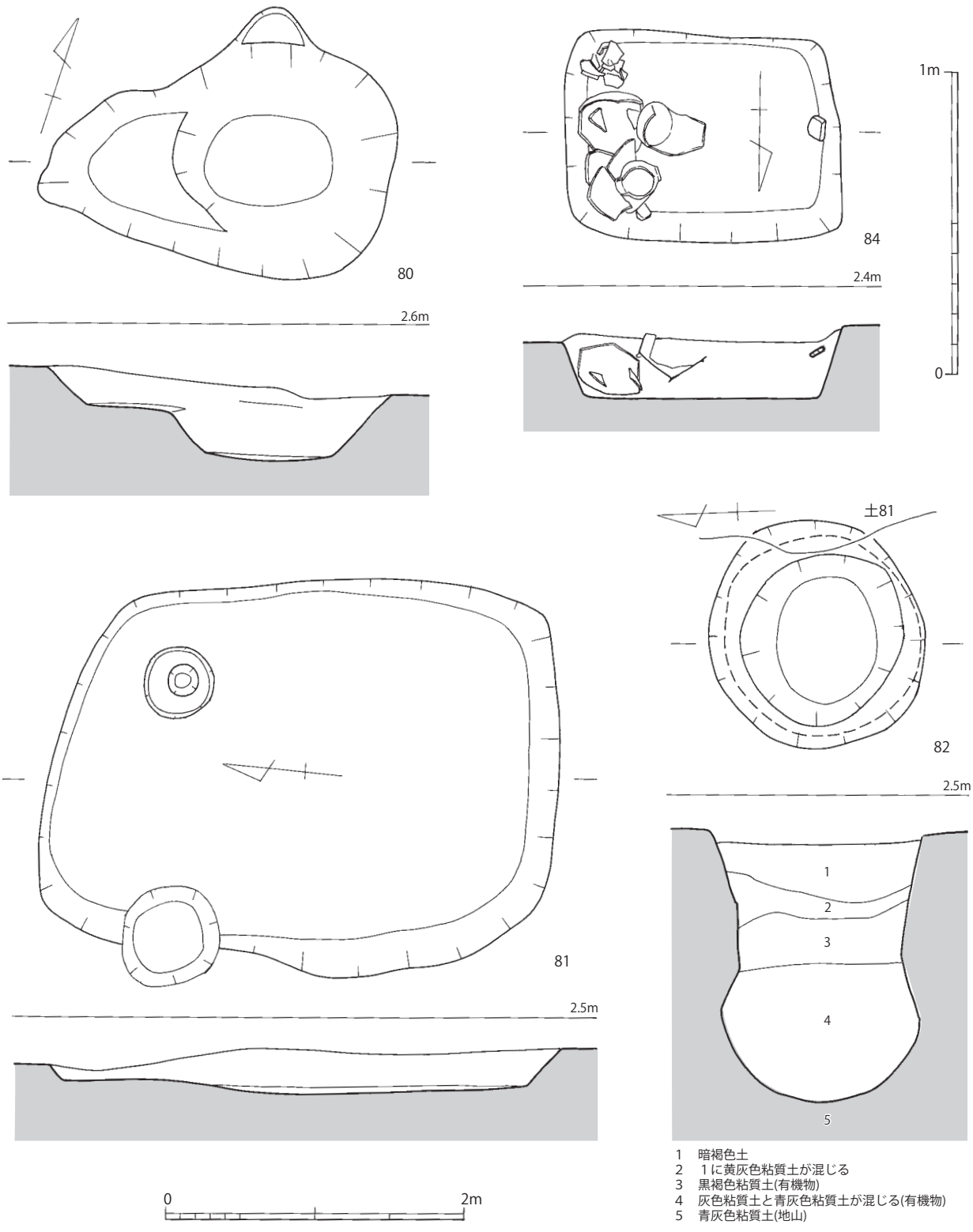
29 号土坑の北側に位置し、調査区北壁際で検出する。半円状のみの検出になるが、径 0.88 ｍを測る。深さ 0.7 ｍ程まで掘削したが、本来は、さらに 0.6 ｍ下がる可能性がある。埋土は茶褐色土や暗褐色粘質土に地山である緑灰色粘質土が堆積する。

### 31 号土坑（第 32 図、図版 21）

29 号土坑の北側に位置し、調査区西側に位置する。北東隅を 33 号土坑に切られるが、形状は隅丸長




第 32 図　B 区 29 ～ 33 号土坑実測図（1 /40）




第 33 図　B 区 80 ～ 82・84 号土坑実測図（84 は 1 /20、他は 1 /40）

方形で、長軸 1.7 m、短軸 0.98 m、深さ 0.4 m を測る。断面の形状は逆台形状で、埋土は緑灰色粘質土や黒褐色粘質土の 2 層が堆積する。

**32 号土坑**（第 32 図、図版 21）

30 号土坑の東側に位置し、調査区北壁際で検出する。これも半円形のみの検出になるが、径 1.58 m、

深さ 0.5 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は３層で、暗褐色粘質土や灰褐色粘質土が堆積する。なお底面で検出した 0.2 ～ 0.4 mの石は、５号建物の礎板になるか。

**33 号土坑**（第 32 図、図版 21）

31 号土坑のすぐ北側に位置し、それを切る。西側は遺構検出面から 0.3 m下に段が付く。形状は隅丸長方形状で、長軸 2.0 m、短軸 1.0 m、深さ 0.5 mを測る。断面の形状は緩やかで、灰褐色粘質土に緑灰色粘質土や黒褐色粘質土が混じる３層が堆積する。

**80 号土坑**（第 33 図、図版 31）

調査区東壁の中央部分に位置し、表土剥ぎ時に東側を少し掘りすぎている。形状は西側に延びる崩れた長円形状で、西側は遺構検出面から 0.26 m下に段が付く。北側は半円状に張り出し、そこにも段が付く。長軸 2.36 m、短軸 1.5 ～ 1.8 m、深さ 0.6 mを測る。埋土は暗灰褐色土である。

**81 号土坑**（第 33 図、図版 31）

80 号土坑の南側に位置し、２基のピットに切られる。形状は隅丸長方形状で、長軸 3.44 m、短軸 2.66 m、深さ 0.3 mを測る。底面は浅い北側から中央に向かって深くなる。埋土は暗灰色土である。

**82 号土坑**（第 32 図、図版 31）

81 号土坑の西側に位置し、それに東側の一部を切られる。形状は円形で、径 1.5 m前後、深さ 1.8 mを測る。遺構検出面から 0.8 ～ 0.9 m下付近までは垂直に近い掘り方だが、それより下位では張り出し、底面に向かって緩やかに落ちる。埋土は暗褐色土・黒褐色粘質土・灰褐色粘質土等が堆積し、４層に分けられる。

**84 号土坑**（第 32 図、図版 31）

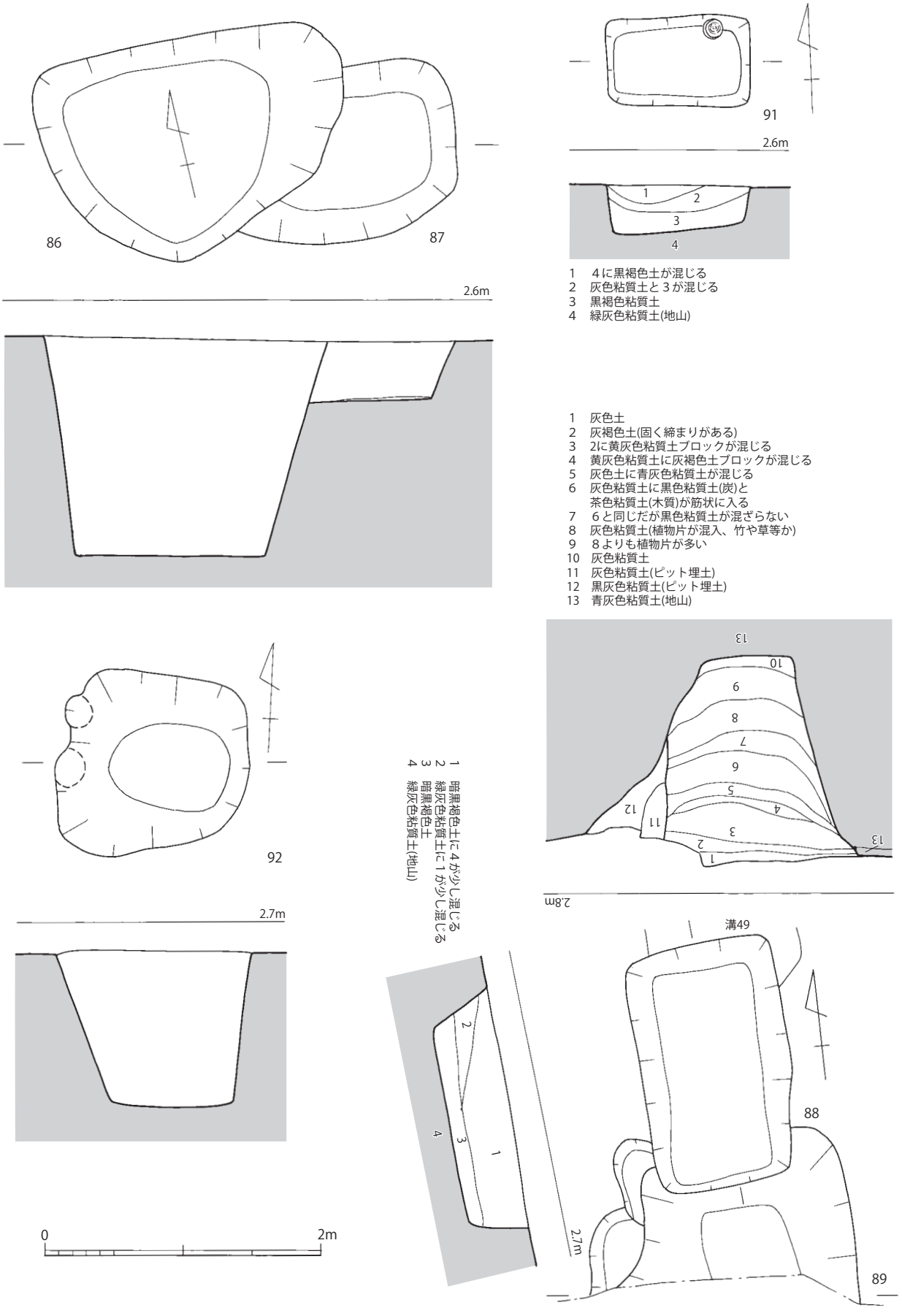
80 号土坑の北西側に位置し、調査区北壁側で検出する。形状は長方形で、長軸 1.84 m、短軸 1.42 m、深さ 0.5 m以下を測る。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は暗灰褐色土の１層で、遺物が東側に集中して検出する。

**86・87 号土坑**（第 34 図、図版 32）

84 号土坑の南西側に位置し、86 号土坑が 87 号土坑を切る。86 号土坑の形状は少し崩れた長方形状で、長軸 2.2 m、短軸 1.6 m、深さ 1.6 mを測る。87 号土坑の形状は長方形状で、長軸 1.66 m、短軸 1.22 m、深さ 0.4 mを測る。この２つの断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は黒褐色土が堆積する。

**88 号土坑**（第 34 図、図版 32）

90 号土坑の西側に位置し、南側にある 89 号土坑を切る。形状は隅丸長方形状で、長軸 1.74 m、短軸 1.1 m、深さ 0.46 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は暗黒褐色土に緑灰色粘質土が混じり、３層に分かれる。




第 34 図　B 区 86 ～ 89・91・92 号土坑実測図（1 /40）

**89 号土坑**（第 34 図、図版 33）

88 号土坑の南側に位置し、東側はピットを切るが、88 土坑に北側を切られる。調査区南壁際で検出するため、１／２程しか検出していない。形状は方形状で、長さ 1.4 m、深さ 1.5 mを測る。断面の形状は、ほぼ垂直に近い掘り方で、底面に向かってやや窄まる。埋土は 10 層堆積し、主に灰褐色土と灰色粘質土に黄灰色粘質土や青灰色粘質土が混じる。底面は中央に向かってレンズ状に凹む。

**91 号土坑**（第 34 図、図版 33）

85 号土坑の西側に位置し、宅地に使用された丸太杭（幅 0.15 m）に切られるが、北側の 93 号土坑を切る。形状は長方形状で、長軸 1.02 m、短軸 0.6 m、深さ 0.34 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は西側に向かって下がる。埋土は黒褐色土に灰色粘質土が混じる３層が堆積する。

**92 号土坑**（第 34 図、図版 33）

88 号土坑の西側に位置し、径 0.2 m程のピットに上面を切られる。形状はやや崩れた方形状で、長さ 1.4 m前後、深さ 1.14 mを測る。断面の形状は逆台形状で、ほぼ垂直に底面まで下がる。埋土は灰褐色粘質土である。

**93 号土坑**（第 35 図、図版 34）

91 号土坑の北西側に位置し、それに切られる。形状は円形で、径 1.8 m前後、深さ 1.45 mを測る。断面の形状は遺構検出面から下に 0.5 mで一度窄まるが、さらに 0.6 m下では上端よりも外へ張り出す。それより下位では、底面まで緩やかに落ちる。埋土は灰色粘質土である。

**94 号土坑**（第 35 図、図版 34）

95 号土坑の東側に位置し、調査区北壁際で検出する。調査区際のため全容は不明だが、長さ 2.12 m、深さ 0.4 mを測る。底面中央に向かって、浅いピット状に窪む。埋土は３層に分かれる。

**95 号土坑**（第 35 図、図版 34）

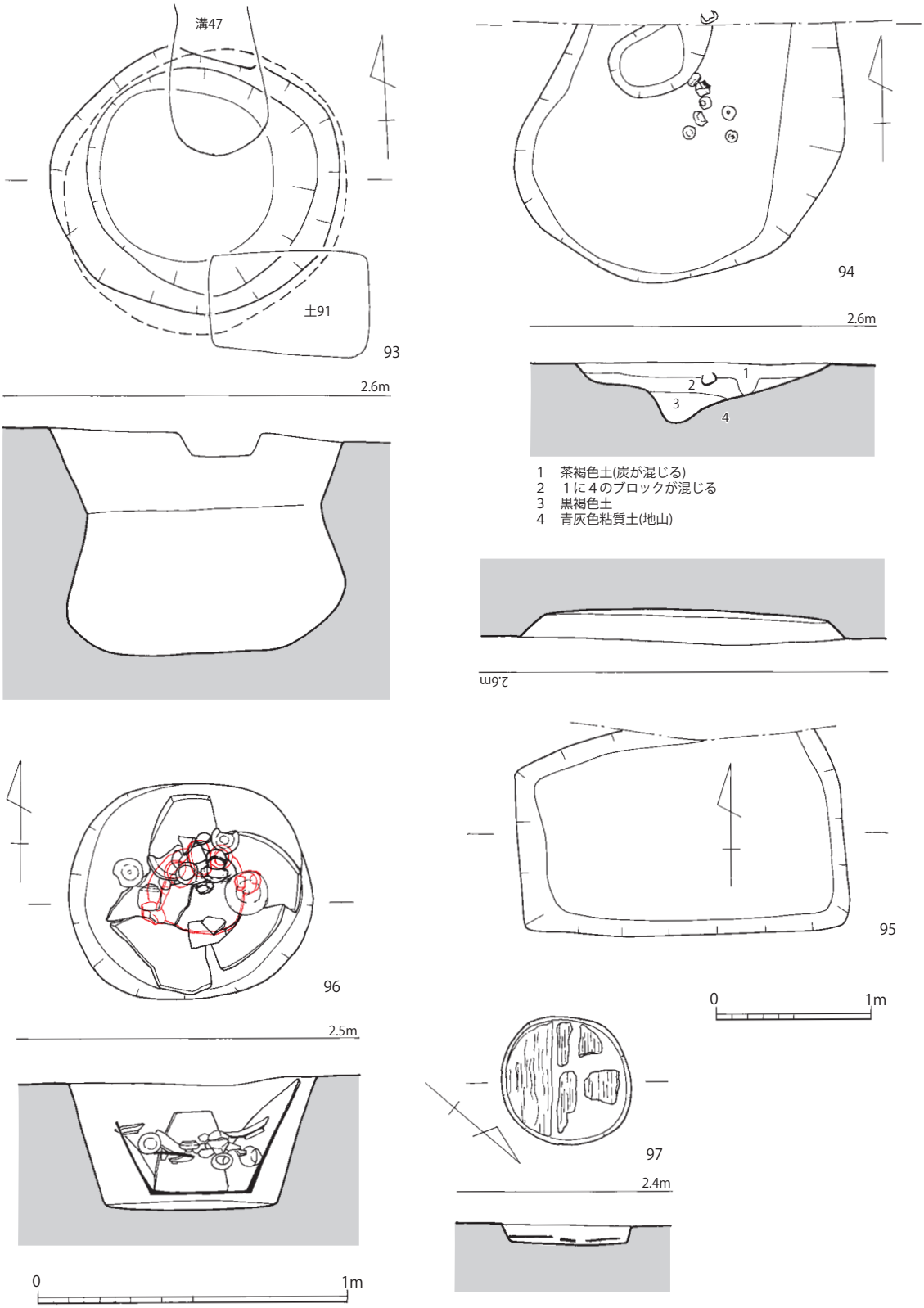
94 号土坑の西側に位置し、これも調査区北壁際で検出する。形状は長方形で、長軸 2.1 m、短軸 1.3 m、深さ 0.2 mを測る。断面の形状は逆台形状で、埋土は暗灰褐色土である。

**96 号土坑**（第 35 図、図版 34）

94 号土坑の南側に位置する。形状は円形で、径 1.3 ～ 1.4 m、深さ 0.8 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。土坑内部には甕が置かれ、その中に遺物を投棄する。甕の上部は削平されていて残存していない。

**97 号土坑**（第 35 図、図版 34）

84 号土坑の北西側に位置し、大部分は削平されていた。形状は円形で、径 0.82 m、深さ 0.1 mを測る。上部は削平されていて残存していないが、底面には木製の丸桶の底板が残存していたことから、墓の可能性がある。埋土は灰褐色土である。




第 35 図　B 区 93 ～ 97 号土坑実測図（96・97 は 1 /20、他は 1 /40）

**100・101 号土坑**（第 36 図、図版 35）

92 号土坑の北側に位置する。100 号土坑は 45 号溝を切るが、101 号土坑は 45 号溝に切られる。100 号土坑は深さ 0.1 m以下の浅い土坑である。形状は北側に延びる長円形状で、長軸 1.6 m、短軸 1.5 mを測る。101 号土坑は 100 号土坑の下で検出する。形状は不整形で、長軸 1.7 m、短軸 1.5 m、深さ 1.5 mを測る。断面の形状は西側でほぼ垂直に落ちるが、東側はやや緩やかになる。埋土は灰褐色土と灰色粘質土である。

**106 号土坑**（第 36 図、図版 36）

100 号土坑の北側に位置し、45 号溝に切られるが、東側に上端が一部残存する。土坑の大部分は溝に切られているので、形状は不明である。溝の底面に残存する部分で、長軸 1.5 m、短軸 1.34 mを測る。深さは残存する部分で 0.7 mだが、本来の上端の位置からでは、深さ 1.3 m程になる。埋土は灰色粘質土である。

C 地区

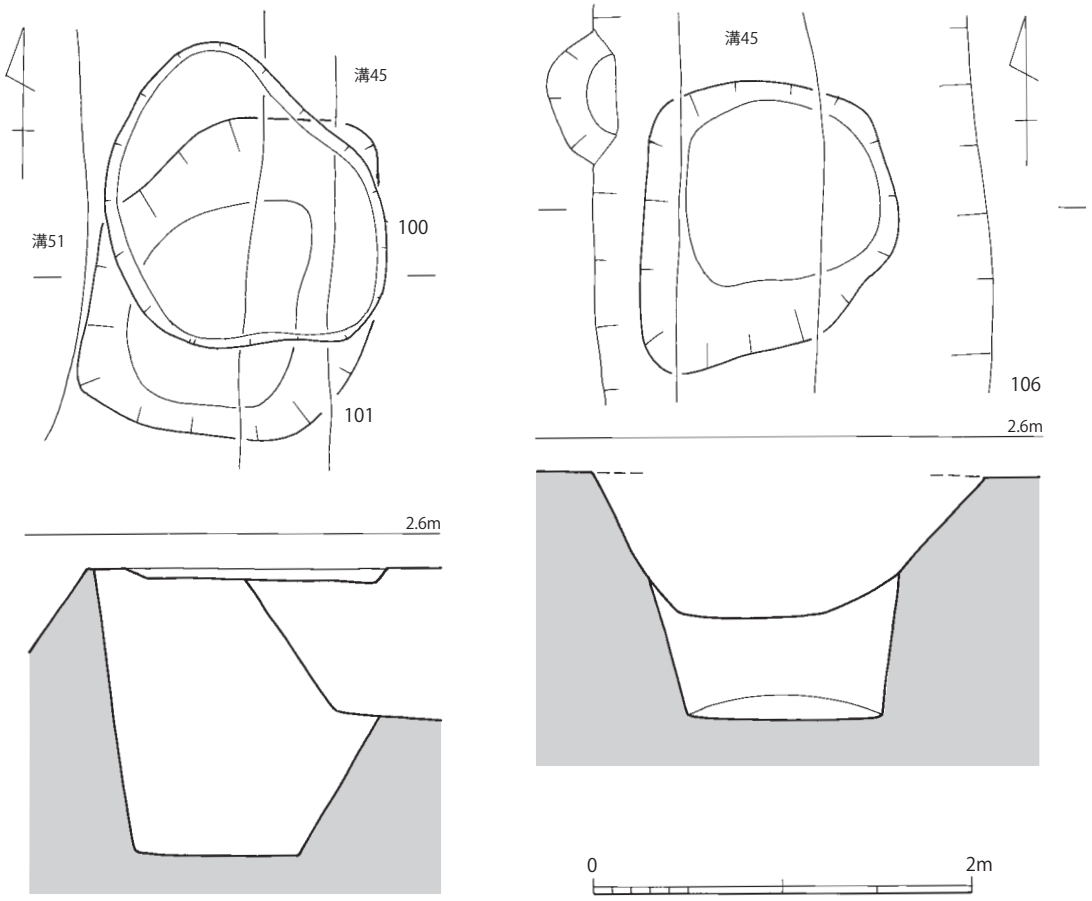
中世は２基のみである。

**75 号土坑**（第 37 図、図版 29）

調査区中央やや南側に位置する。西側は遺構検出面から下に 0.2 m程で、三日月状に段が付く。南側にも遺構検出面から 0.7 m下に段が付く。形状は長円形状で、長軸 2.74 m、短軸 2.06 m、深さ 1.14 mを測る。断面の形状は緩やかな逆台形状で、底面中央に向かって穏やかに窪む。埋土は暗褐色粘質土や灰色粘質土が堆積し、４層に分層できる。

**76 号土坑**（第 37 図、図版 30）

75 号土坑の北側に位置し、36 号溝に北側を切られる。遺構検出面から 0.1 ～ 0.3 m下に東側から南側にかけて段が付く。形状は円形で、径 2.5 m前後、深さ 1.5 mを測る。75 号土坑とは異なり、底面中央には、円形で径 0.6 mのピット状の掘り込みがある。埋土は褐灰色～暗灰褐色粘質土、下層には灰色粘質土が




第 36 図　B 区 100・101・106 号土坑実測図（１/40）

堆積する。

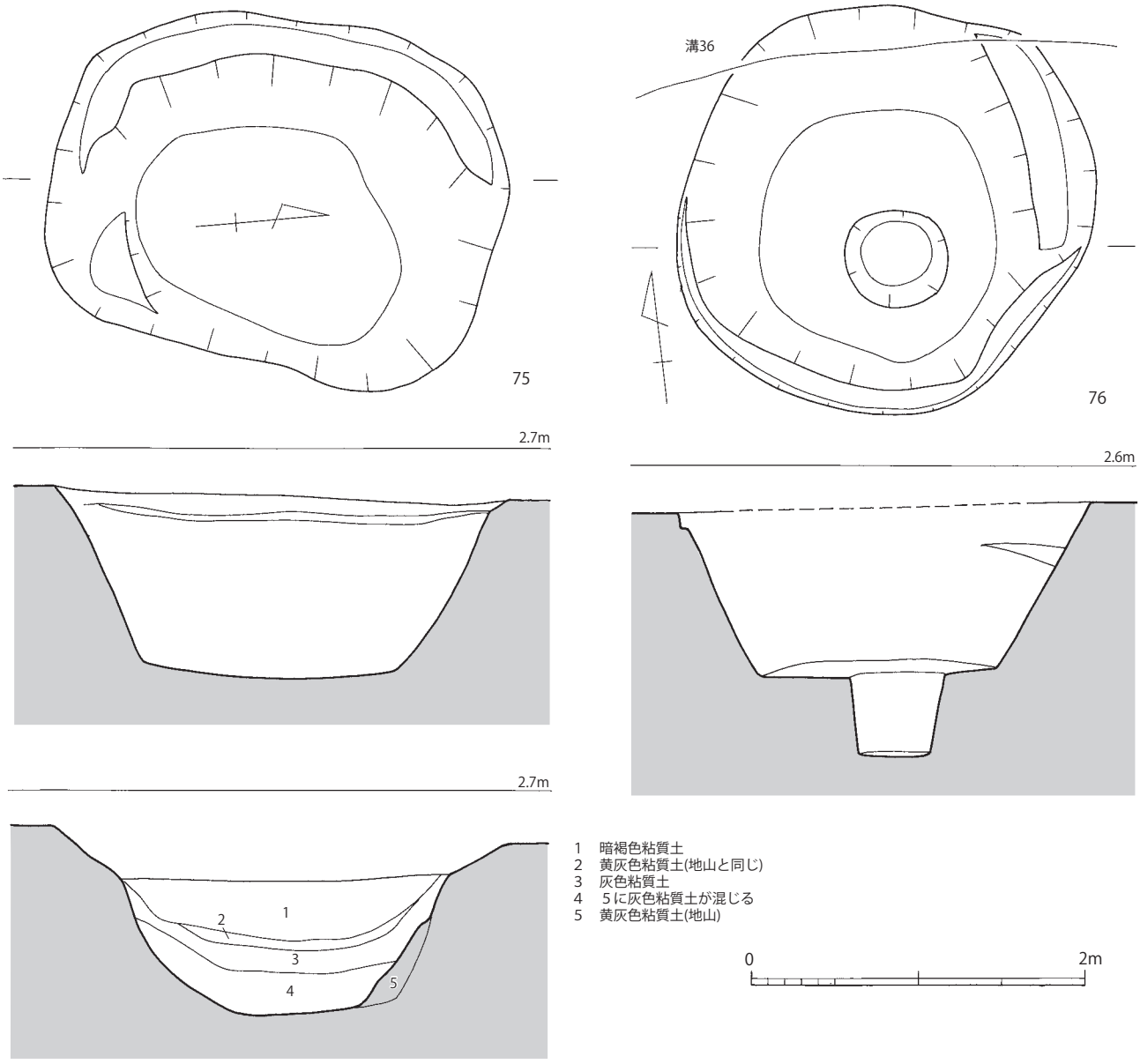
近世の土坑は 12 基検出する。

**66 号土坑**（第 38 図、図版 27）

調査区西側の北壁側に位置し、41 号溝を切る。西側には遺構検出面から 0.8 m下で、段が付く。形状はやや崩れた長円形状で、長軸 1.4 m、短軸 1.2 m、深さ 1.0 mを測る。埋土の上層は黒灰色土に砂利が混じり、下層は灰色粘質土である。

**67 号土坑**（第 38 図、図版 27）

66 号土坑の北側に位置し、調査区北壁際でピットを切る。調査区際で検出したため、全容は不明だが半円形状で検出し、長さ 1.1 m、深さ 0.15 mを測る。断面の形状は逆台形状で、埋土は黒褐色土である。




第 37 図　C区 75・76 号土坑実測図（1/40）

**68 号土坑**（第 38 図、図版 27）

66 号土坑の北側に位置する。形状は長方形で、長軸 1.2 m、短軸 1.0 m。深さ 0.7 mを測る。北～東側にかけては少し掘り過ぎたため、段が付く。断面の形状は逆台形状だが、底面は中央に向かって窪む。埋土は上層に薄い灰褐色土、下層は厚い灰色粘質土が堆積する。

**69 号土坑**（第 38 図、図版 27）

68 号土坑の北東側に位置する。土坑の北側上部には、木杭が打ち込まれているが、この土坑とは関係なく、攪乱である。形状は円形で、径 1.1 m、深さ 1.0 mを測る。埋土の上層は暗灰粘質土、下層は黄灰色粘質土に灰色粘質土が混じる。

**70 号土坑**（第 38 図、図版 27）

67 号土坑の東側に位置し、これも調査区北壁際で検出する。33 号溝を切るが、東側をピットに切られる。全容は不明だが、長さ 2.4 m、深さ 0.5 mを測る。埋土は、黒褐色土に粗砂や遺物の混入度合で３層に分かれるなか、東側には、この遺構に切り込むピット状の掘り込みがあった可能性がある。

**71 号土坑**（第 38 図、図版 28）

66 号土坑の南側に位置し、72 号土坑とピットに切られる。形状は長方形で、長軸 1.88 m、短軸 0.86 m、深さ 0.3 mを測る。断面の形状は逆台形状だが、底面中央に向かって窪む。埋土は暗褐色土と暗黒色土の 2 層が堆積する。

**72 号土坑**（第 38 図、図版 28）

71 号土坑の東側に位置し、それを切る。形状は長方形状で、長軸 1.14 m、短軸 0.8 m、深さ 0.54 mを測る。断面の形状は逆台形状だが、底面は 0.2 ～ 0.4 mのピット状の窪みがあり、凸凹になる。埋土は主に灰褐色土や灰色粘質土の 2 層が堆積する。

**73 号土坑**（第 39 図、図版 29）

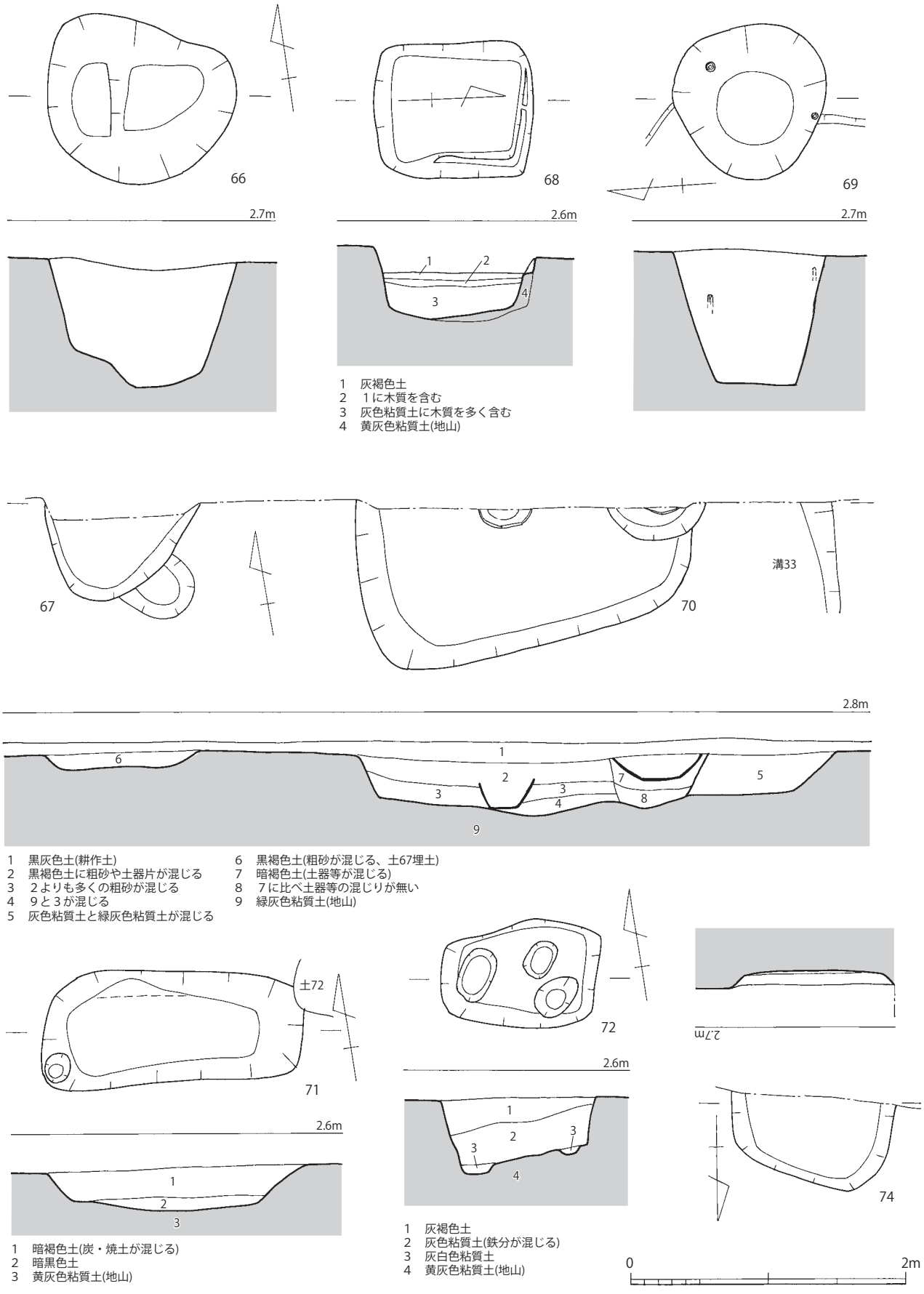
72 号土坑の南側に位置し、調査区南壁際で検出する。長円形状の土坑と浅い溝状遺構が合体したような遺構で、浅い凹み部分は、深さ 0.1 m以下と、かなり浅い遺構になる。中央部分の形状は不整形で、長軸 2.0 m、短軸 1.8 m、深さ 0.4 mを測る。埋土は暗褐色砂質土に粗砂や炭、焼土が混じる。

**74 号土坑**（第 38 図、図版 29）

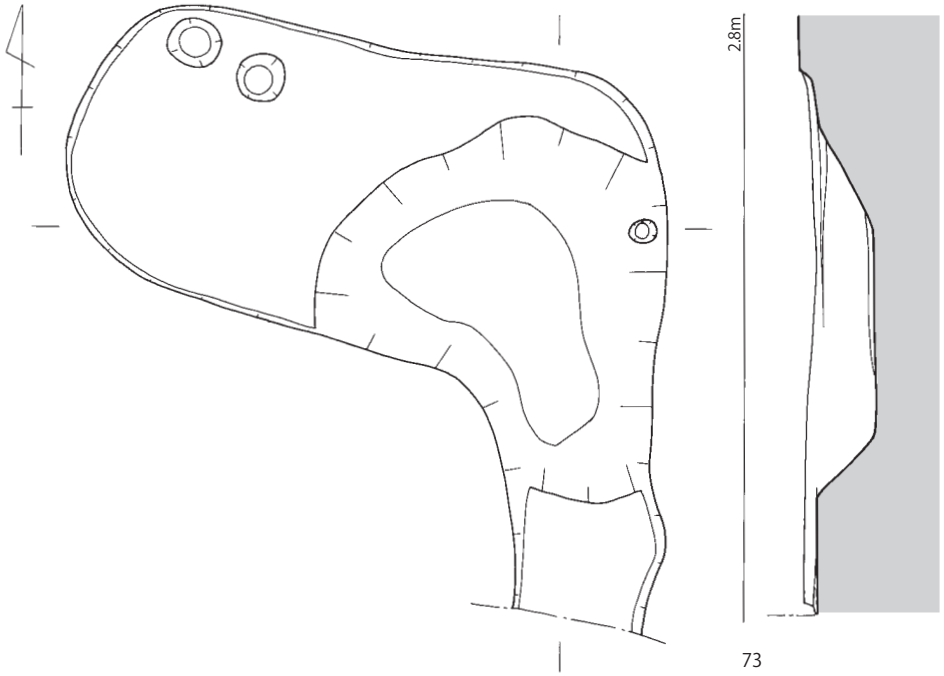
73 号土坑の南側に位置し、調査区南壁際で検出する。調査区際で全容は把握できないが、長さ 1.14 m、深さ 0.1 mの浅い土坑である。埋土は灰褐色土のみ堆積する。

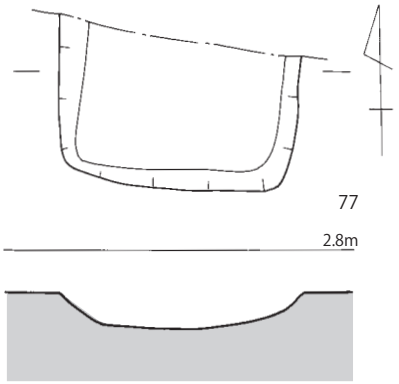
**77 号土坑**（第 39 図、図版 29）

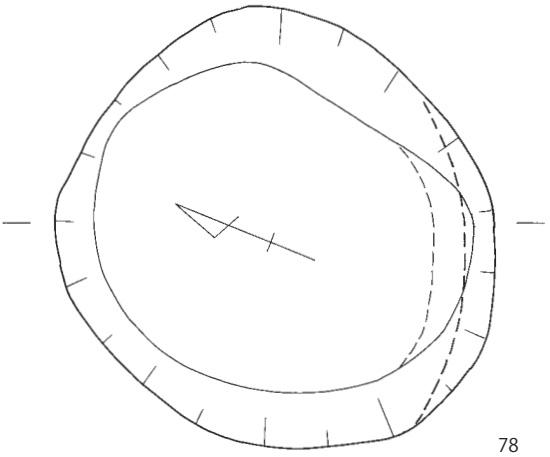
70 号土坑の東側に位置し、調査区北壁際で検出する。全容は把握できないが、形状は方形状で、長さ 1.26 m、深さ 0.2 mを測る。断面の形状は緩やかな逆台形状で、埋土は暗褐色土が堆積する。

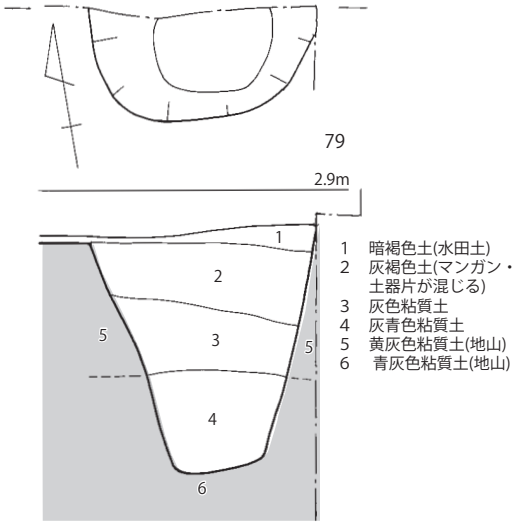


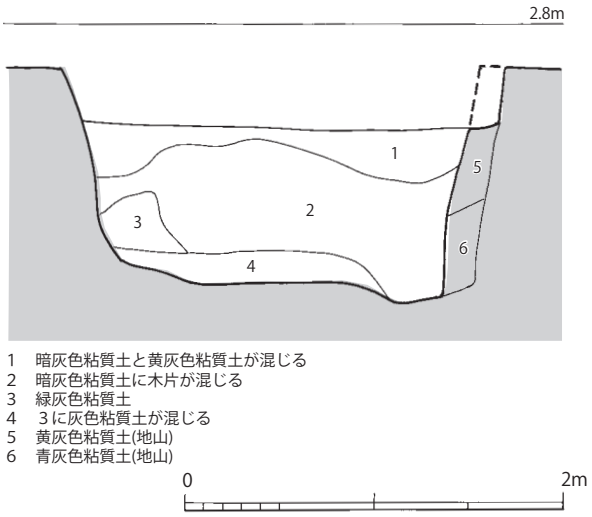

第 38 図　C 区 66 ～ 72・74 号土坑実測図（1 /40）



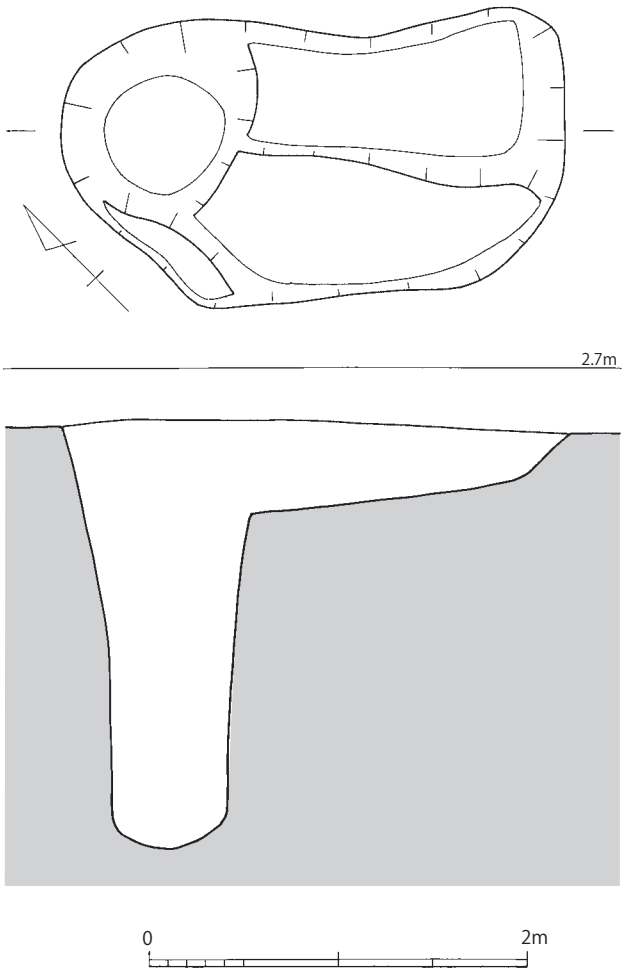




第 39 図　C 区 73・77 ～ 79 号土坑実測図（1 /40）




第 40 図　D区 53 号土坑実測図（１/40）

**78 号土坑**（第 39 図、図版 39）

77 号土坑の南側に位置し、調査区東側で検出する。形状は円形で径 2.3 m、深さ 1.2 mを測る。掘り方はほぼ垂直に近いが、底面は凸凹で、東側が低くなる。埋土の上層～下層は暗灰色粘質土に黄灰色粘質土や木片が混じる。下層は緑灰色粘質土に灰色粘質土が混じる。

**79 号土坑**（第 39 図、図版 29）

77 号土坑の東側に位置し、調査区北東隅で検出する。全容は把握できないが、形状は半円状で、長さ 1.2 m、深さ 1.3 mを測る。断面の形状は、傾斜が急な掘り方で、底面に向かって狭まる。埋土は灰褐色土、灰色～灰青色粘質土の３層が堆積する。

D 区

中世は 53 号土坑のみだが、近世は 32 基検出する。

**53 号土坑**（第 40 図、図版 25）

調査区西側中央に位置し、10 号建物跡の東側で検出する。形状は不整形だが、本来は西側の径 1.0 mの円形の井戸状の遺構に、深さ 0.25 ～ 0.5 mの浅い段が付属する遺構になるか。長軸 2.65 m、短軸 1.5 m、深さ 2.25 mを測る。埋土は灰色粘質土である。

**49・50 号土坑**（第 41 図、図版 24）

53 号土坑の北側で、調査区西側の北壁側で検出し、50 号土坑が 49 号土坑を切る。49 号土坑の形状は円形で、径 1.0 m、深さ 1.0 mを測る。50 号土坑の形状も円形で、径 1.2 ～ 1.3 m、深さ 0.8 mを測る。49 号土坑の方が幅が狭く深い。底面の形状は底面中央に向かって窪む。埋土は黒褐色土や暗灰褐色土に炭が混じる。

**51 号土坑**（第 41 図、図版 24）

50 号土坑の東側に位置し、調査区西側で検出する。形状は不整形で、長さ 1.6 ～ 1.8 m、深さ 0.2 mを測る。中央部分は径 0.4 mの甕の底部が埋設されていて、さらに深さ 0.2 m掘り下がる。南側は中央の甕の底部に向かって延び、長さ 0.2 m以下、深さ 0.1 m以下の溝が付く。東側は 0.8 × 0.6 mのピットがあり、深さ 0.3 mを測る。出土した甕の底部には尿石が付着しており、トイレ遺構と思われる。埋土は暗灰褐色土である。

**52 号土坑**（第 41 図、図版 24）

調査区北側に位置し、51 号土坑の東側、調査区北壁際で検出する。形状は方形～長方形で、１辺の長さは 2.0 ｍ以上を測る。断面の形状は逆台形状で、底面は南北に段が付くが、深さ 0.5 ｍを測る．埋土は灰色粘質土である。

**54 号土坑**（第 41 図、図版 25）

調査区東側に位置し、北壁際のコンクリート基礎の下で検出したため、半分程しか掘削できていない。形状は長円形状で、径 1.5 ｍ以下、深さ 0.45 ｍを測る。東側には検出面から 0.2 ｍの深さで、底面に向かって下がるテラスが付く。埋土は、灰色粘質土や黒灰色粘質土に地山である黄灰色粘質土が混じる。

**55・56・57 号土坑**（第 41 図、図版 25）

54 号土坑の西側に位置し、調査区東側で検出する。55 号土坑が 56 号・57 号土坑を切る。55 号土坑の形状はやや崩れた長円形で、径 1.4 ～ 1.65 ｍ、深さ 0.2 ｍを測る。南東隅では、遺物がまとまって出土する。東側にある 56 号土坑の形状は長方形で、長さ 2.0 × 0.9 ｍ、深さ 0.55 ｍを測る。西側の 57 号土坑の形状は円形で、径 1.2 ｍ前後、深さ 1.3 ｍを測る。いずれも断面の形状は逆台形状である。埋土は、55 号土坑は黒灰色粘質土、56・57 号坑は灰色粘質土である。

**58 号土坑**（第 42 図、図版 25）

55 号土坑の西側に位置し、調査区北壁際で検出する。調査区際のため半分程しか検出していないが、形状は長円形状で、径 1.9 ｍ、深さ 1.2 ｍを測る。西側には検出面から 0.2 ｍの深さで、テラスが付く。断面の形状は、検出面からほぼ垂直に掘り下がり、底面中央に向かって窪む。埋土は上層に暗褐色土が 0.4 ｍ程堆積し、その下層に木質片を含む暗茶褐色粘質土や黒灰色粘質土が堆積する。

**59（64）号土坑**（第 42 図、図版 26）

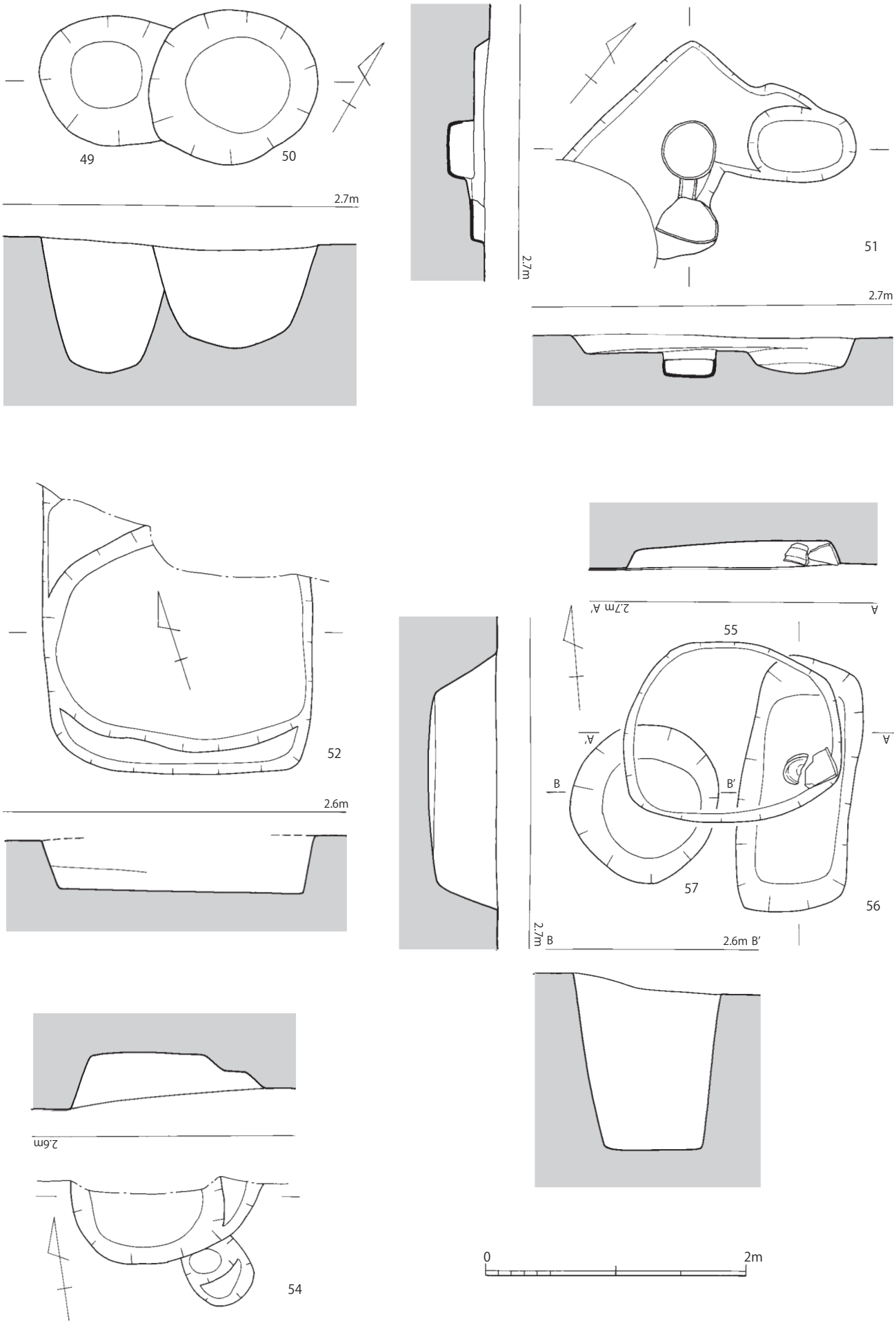
58 号土坑に西側に位置し、調査区北際のコンクリート基礎の下で検出する。これも調査区際で検出したため、北側の１／３は把握できていない。形状は不整形状で、長軸 1.7 ｍ、深さ 0.5 ｍを測る。断面の形状は逆台形で、南側はテラス状になり、北に向かってさらに掘り下がる可能性がある。埋土は暗褐色土に地山である黄灰色粘質土が混じる。調査の際に番号を誤り、59 号と 64 号の番号は重複する。

**60 号土坑**（第 42 図、図版 26）

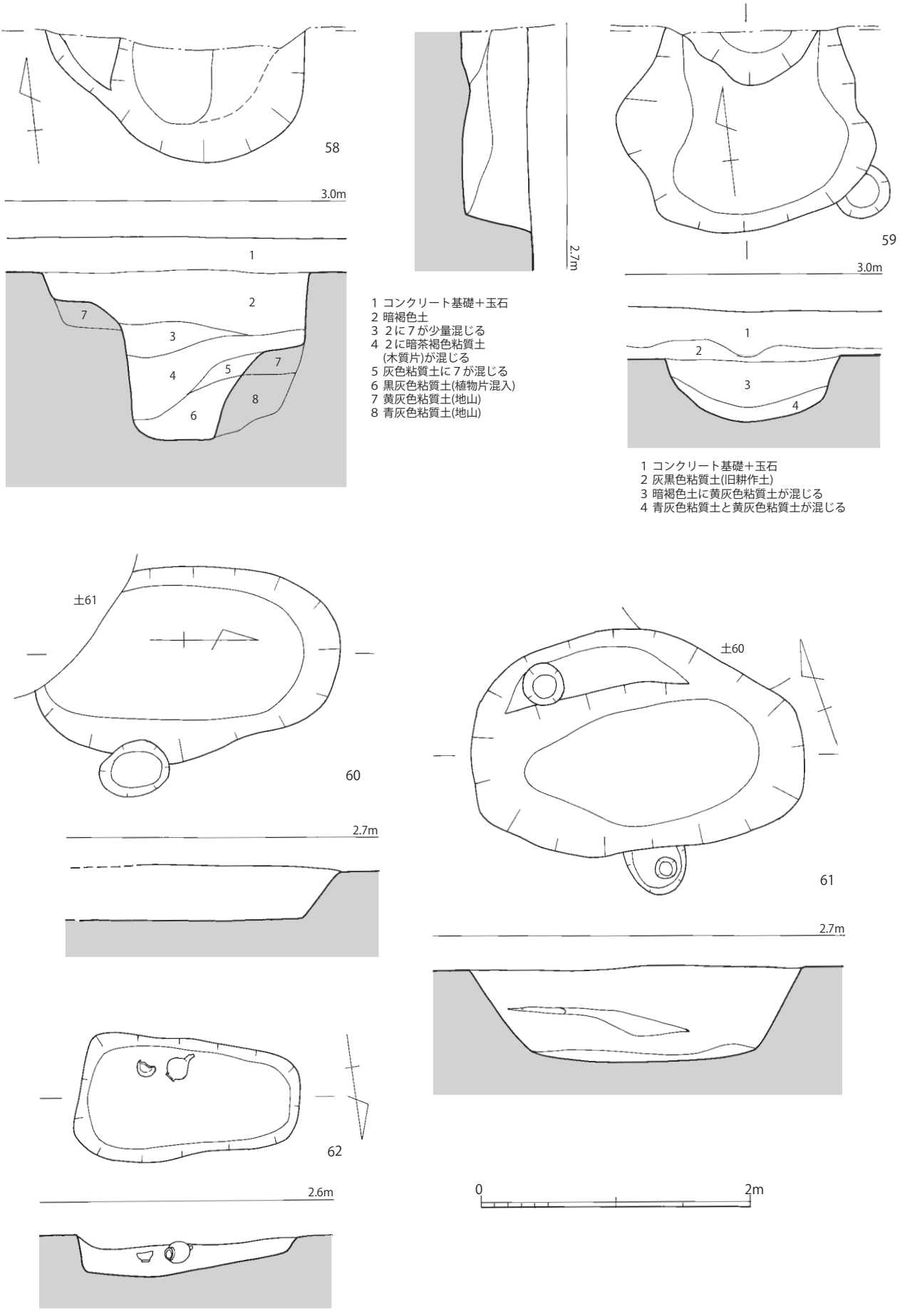
59 号土坑の西側に位置し、61 号土坑に南側、ピットに東側を切られる。形状は長円形状で、長さ 2.2 × 1.5 ｍ、深さ 0.4 ｍを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は灰色粘質土である。

**61 号土坑**（第 42 図、図版 26）

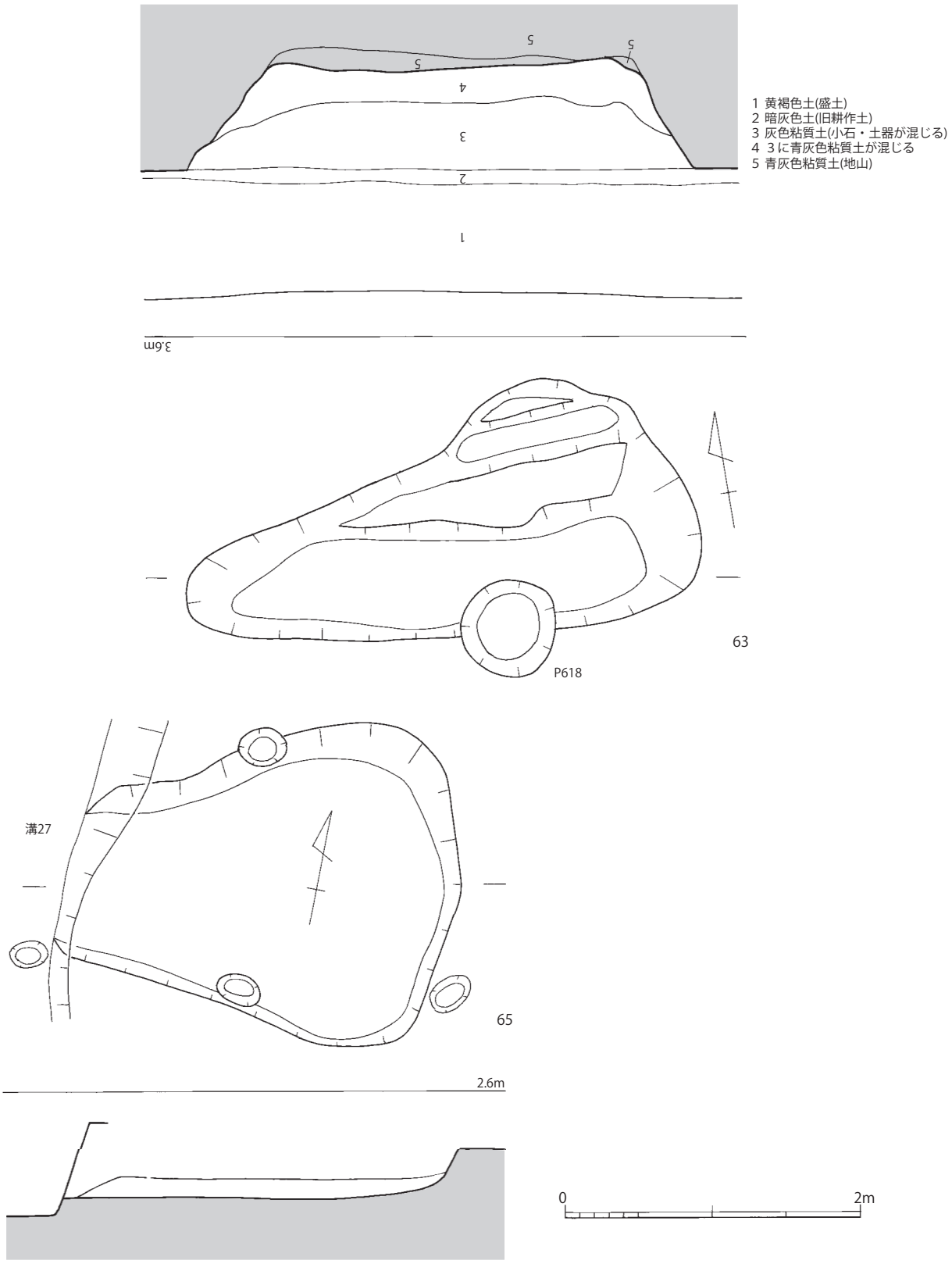
60 号土坑の南側に位置し、それを切る。形状は長円形状で、長さ 2.45 × 1.7 ｍ、深さ 0.7 ｍを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は中央に向かって緩やかに窪む。北側にテラスが付くが、それを切るピットは別遺構か。埋土の上層は灰色粘質土に粗砂が混じるが、下層は黄灰色粘質土が混じる。




第 41 図　D区 49 ～ 52・54・57 号土坑実測図（1 /40）




第 42 図　D区 58 ～ 62 号土坑実測図（1 /40）




第 43 図　D区 63・65 号土坑実測図（1 /40）

**62 号土坑**（第 42 図、図版 26）

61 号土坑の西側に位置し、調査区中央の北壁近くで検出する。形状は隅丸台形状で、長さ 1.65 × 0.95 m、深さ 0.3 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は東側に向かって深くなる。遺物は陶器の壺などが比較的まとまって出土する。埋土は灰色粘質土である。

**63 号土坑**（第 43 図、図版 26）

61 号土坑の南東側で検出するが、南側を P 618 に切られる。形状は北側に向かって突出する不整形状で、北側に向かって徐々に深くなる。長軸 3.5 m、短軸 1.7 m、深さ 0.7 mを測る。底面が深い北側の断面の形状は逆台形状になるが、南北線上では階段状になる。埋土の上層は灰色粘質土、下層はそれに青灰色粘質土が混じる。

**65 号土坑**（第 43 図、図版 26）

27・29 号溝の東側と 61 号土坑の西側に挟まれた位置にあり、地山が確認できていない場所を、さらに 0.2 m程掘り下げた時に検出する。形状はやや崩れた長円形状で、長軸 2.7 m、短軸 2.15 m、深さ 0.3 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面に向かって緩やかに掘り下がる。埋土は灰色粘質土である。

**102・103 号土坑**（第 44 図、図版 35）

調査区北東隅で検出した土坑で、103 号土坑が 102 号土坑を切る。いずれもコンクリート基礎のある調査区際で検出したため、全容は把握できない。102 号土坑の形状は長円形状で、径 2.0 m以上、深さ 0.1 ～ 0.5 mを測る。底面は西側が深く、東側は浅い。103 号土坑の形状は方形で、1 辺の長さ 1.1 m、深さ 0.9 mを測る。断面の形状は逆台形～方形状で、検出面から深さ 0.3 mで、掘り方の角度が垂直になる。埋土は暗灰色土や黒灰色粘質土が堆積する。

**104 号土坑**（第 44 図、図版 35）

調査区東側で検出し、南北方向に延びる 53 号溝に切られる。形状は長円形で、径 1.25 m、深さ 1.7 mを測る。53 号溝に切られているが、深さは 2.0 m以上になる。断面の形状は、逆台形～方形状で、底面に向かって窄まっていく。埋土は灰色粘質土が堆積し、粘質の強弱で上下に分層する。

**105 号土坑・52 号溝**（第 44 図、図版 35）

調査区東側に位置し、102・103 土坑の南側で検出する。北側は 52 号溝、東側は調査区際、西側は 104 号土坑と 53 号溝に切られる。全容は把握できていないが、形状は長円形状で、長軸 2.7 m、深さ 0.9 mを測る。埋土は 4 層に分層でき、暗灰色粘質土に地山である黄灰色粘質土が混じる。

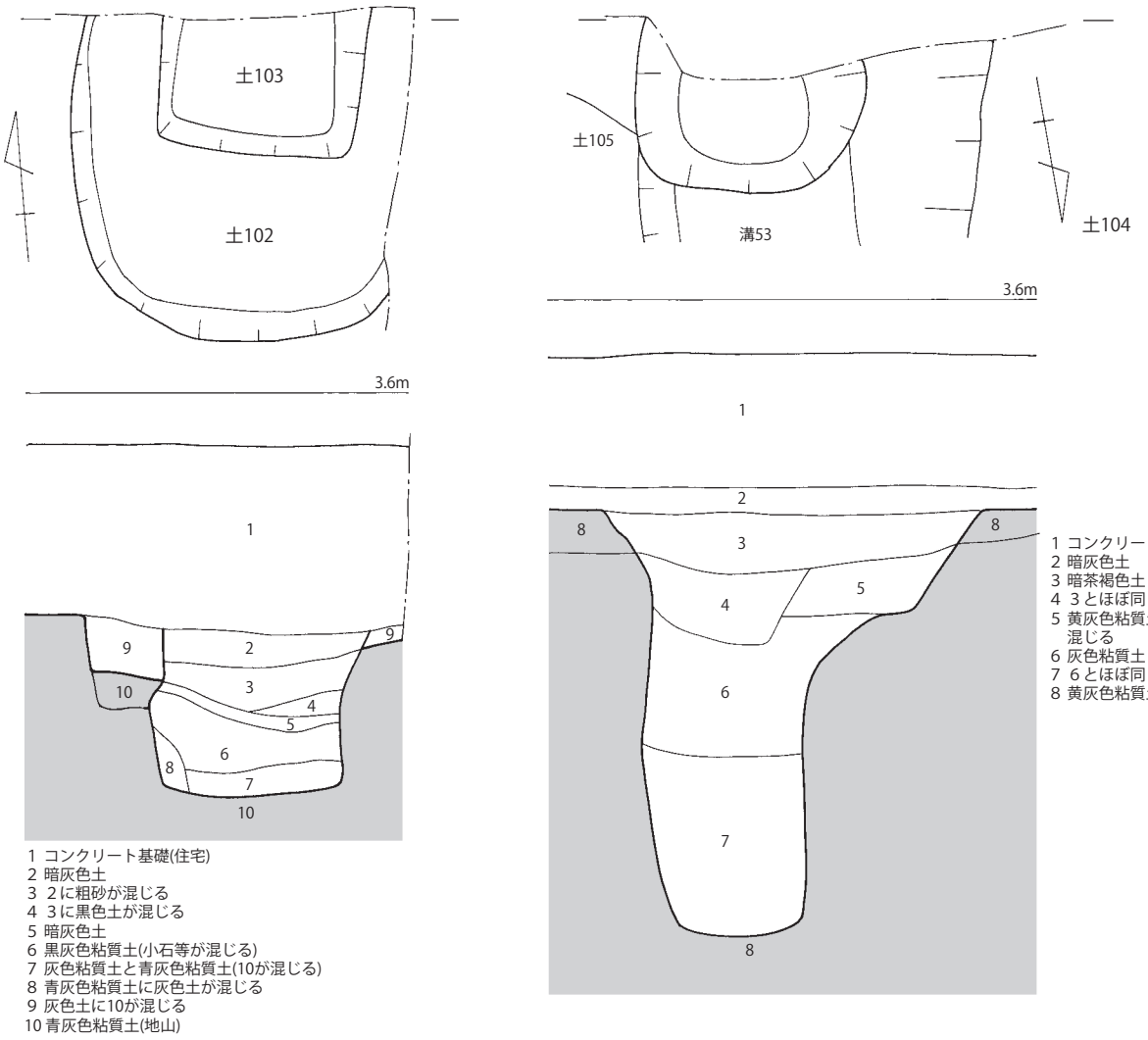
52 号溝は 105 土坑の北側に位置し、それを切るが、西側は 53 号溝に切られる。東西方向に延び、長さ 2.2 m、幅 0.4 ～ 0.6 m、深さ 0.4 mを測る。埋土は暗灰色土の 1 層のみである。

**107 号土坑**（第 45 図、図版 36）

調査区東側に位置し、63 号土坑の南側で検出する。土坑の中央部分を 58 号溝に切られる。形状は東西方向に隅丸長方形状で、長軸 4.4 m、短軸 2.0 m、深さ 0.5 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面中央に向かって窪む。埋土は暗褐色土で、陶器片などの遺物が多量に出土した。

**108 ～ 110 号土坑**（第 45 図、図版 36）

調査区中央付近の南壁際で検出し、110 号土坑が 109 号土坑を切る。108 号土坑の形状は不整形で、




第 44 図　D区 102 ～ 105 号土坑、52 号溝実測図（1 /40）

長軸 1.85 m以上、短軸 1.1 m、深さ 1.0 mを測る。埋土は上層に灰褐色土、下層に黒茶色粘質土が堆積する。109 号土坑の形状も不整形で、長軸 1.7 m以上、短軸 1.4 m、深さ 0.25 mを測る。埋土は灰褐色土 1 層のみである。110 号土坑の形状も不整形で、長軸 1.05 m以上、短軸 1.2 m、深さ 0.4 m以下を測る。埋土は灰黒色土で、２層の旧水田土に近いことからかなり新しい遺構か。

**111 号土坑**（第 45 図、図版 36）

調査区東側の東壁際に位置し、104 号土坑の南側で検出する。形状は不整形で、長さ 1.3 m、深さ 0.5 mを測る。断面の形状は逆台形状で、北側はなだらかに底面に向かって下がる。埋土は灰褐色土が堆積する。

**112 号土坑**（第 45 図）

調査区東側に位置し、110 号土坑の北側で検出する。113 号土坑南側の上部を切る。形状は隅丸長方形で、長軸 1.8 m、短軸 0.8 m、深さ 0.2 mを測る。断面の形状は逆台形状で、なだらかに底面に向かって下がる。埋土は灰褐色土が堆積する。

**113 号土坑**（第 46 図、図版 36）

調査区東側に位置し、110 号土坑の北側で検出する。南側は 112 号土坑に南側の上部を切られる。形状はやや崩れた円形で径 1.5 ～ 1.65 m、深さ 1.2 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は中央に向かって窪む。埋土は灰色粘質土が堆積する。

**114 号土坑**（第 45 図）

調査区東側に位置し、113 号土坑の西側で検出する。54 号溝に北側 1 / 3 を切られる。形状は長円形で、径 1.9 m、深さ 0.25 mを測る。112 号土坑と同様な形状である。埋土は灰褐色土が堆積する。

**115 号土坑**（第 46 図、図版 36）

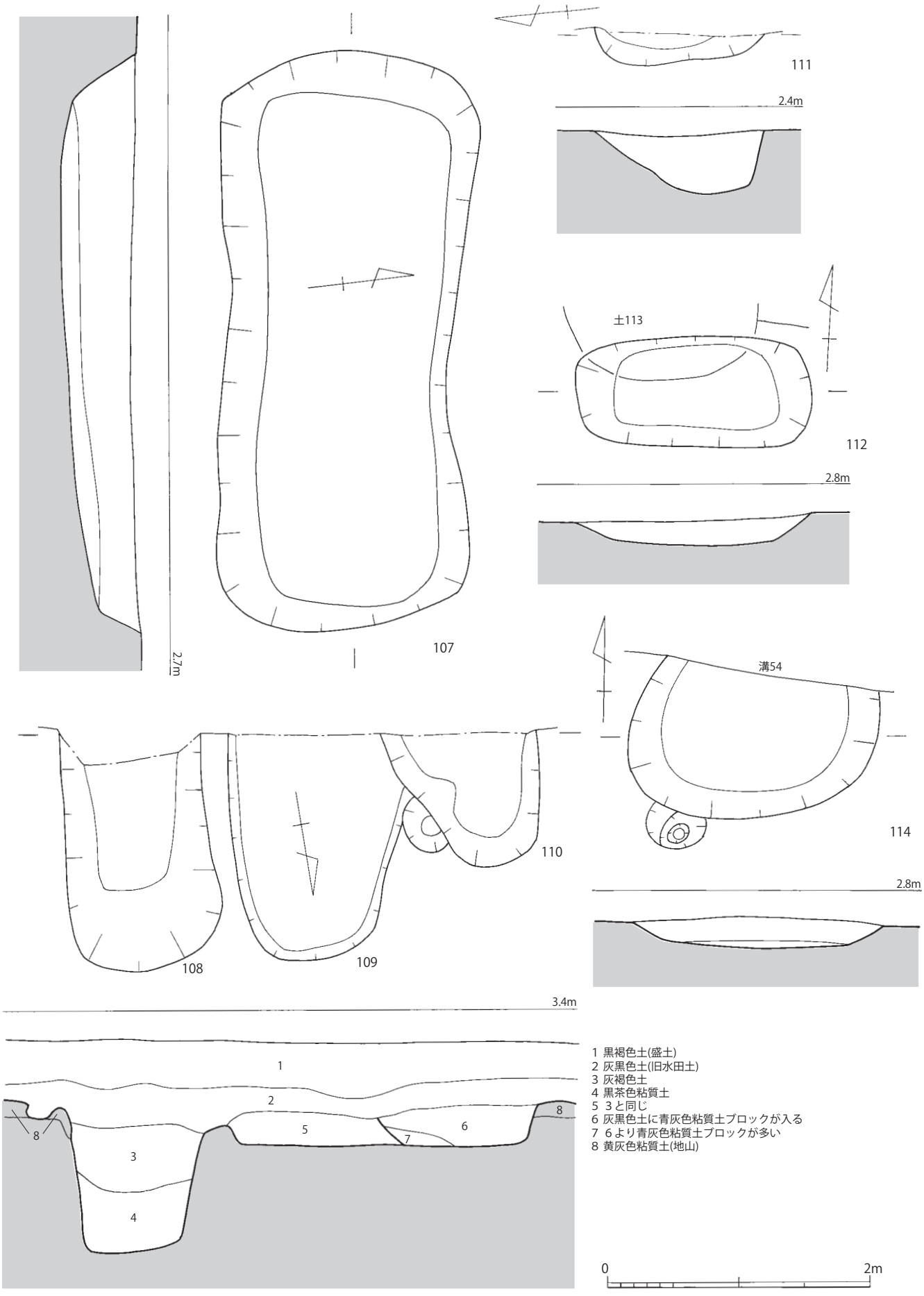
調査区東側に位置し、南壁際で検出した土坑で、54 号溝を切る。長さ 3.0 m、深さ 0.8 mを測る。断面の形状は逆台形状で、埋土は、灰褐色土や暗灰褐色粘質土に地山である緑灰色粘質土が堆積する。

**116 号土坑**（第 46 図、図版 37）

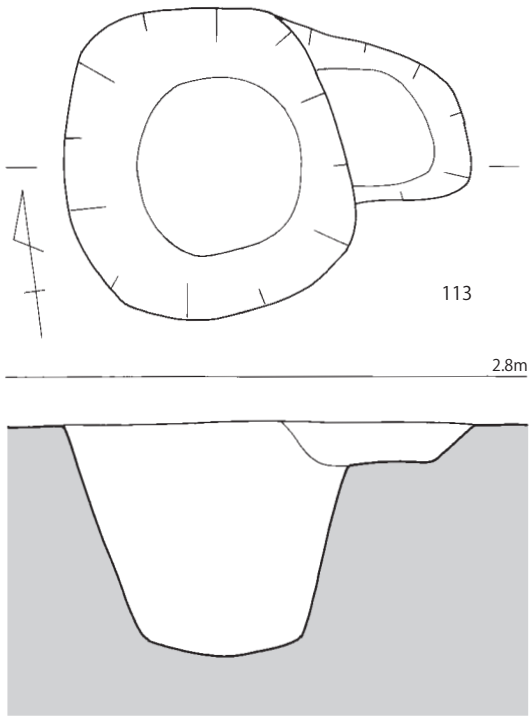
調査区東側で検出し、58 号溝に切られる。形状はやや崩れた円形状で、径 1.2 m前後、深さ 1.5 mを測る。検出面から深さ 0.6 m程で、一度窄まるが、それより下位の掘り方は上端よりオーバーハングしながら、底面に至る。埋土は灰色粘質土である。

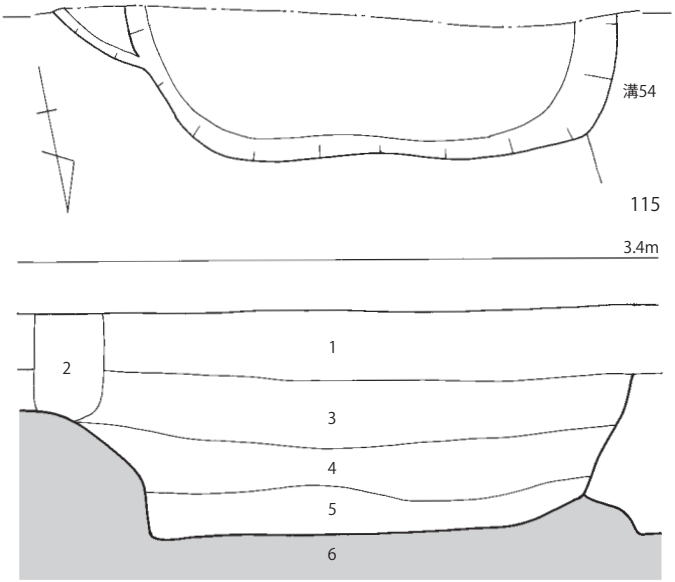
**117 号土坑**（第 46 図、図版 37）

調査区中央南側に位置し、115 号土坑の西側で検出する。形状は隅丸長方形で、長軸 1.8 m、短軸 1.15 m、深さ 0.55 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は中央に向かって窪む。埋土は暗灰褐色土で、炭などが混じることから、廃棄土坑か。

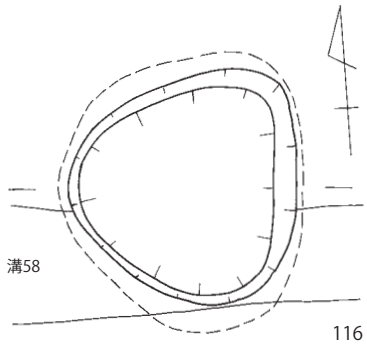


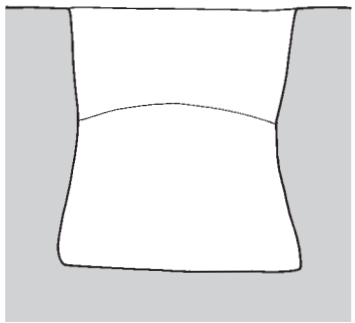

第 45 図　D区 107 ～ 112・114 号土坑実測図（1/40）

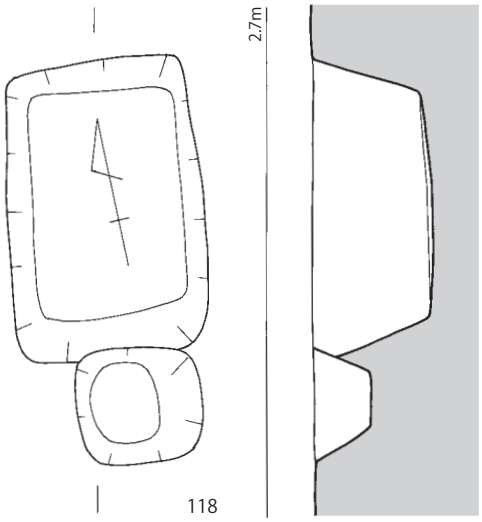


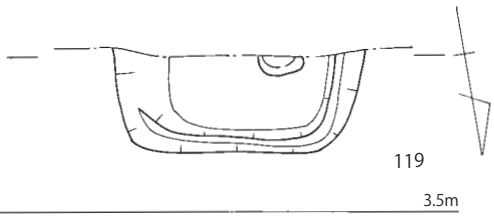



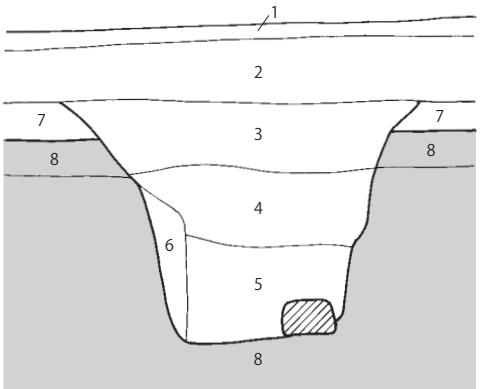

1 バラス・アスファルト
2 撹乱土・コンクリート基礎
3 灰褐色土と緑灰色粘質土ブロックが混じる
4 暗褐色粘質土
5 4と緑灰色粘質土が混じる
6 緑灰色粘質土(地山)



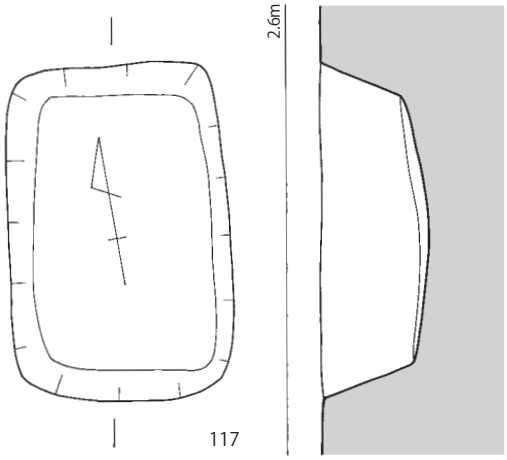






1 バラス・アスファルト
2 撹乱土(盛土)
3 暗褐色土
4 暗灰色土と青灰色粘質土が混じる
5 暗灰色粘質土
6 7と8が混じる
7 暗褐色土(包含層)
8 黄灰色粘質土(地山)







第 46 図　D区 113・115 ～ 119 号土坑実測図（1 /40）

**118 号土坑**（第 46 図、図版 37）

調査区中央南側に位置し、117 号土坑の西側で検出する。南側をピット 1 基に切られる。形状は 117 号土坑と同様の隅丸長方形状で、長軸 1.55 m、短軸 1.05 m、深さ 0.55 mを測る。埋土は灰色粘質土である。土坑の大きさはやや狭いが、断面の形状や埋土も同様なことから、117 号土坑と同じ廃棄土坑か。

**119 号土坑**（第 46 図）

調査区中央南側に位置し、118 号土坑南側で検出する。南壁際で検出し、全容は把握できていない。形状は方形で、1 辺の長さ 1.3 m、深さ 1.25 mを測る。断面の形状は、検出面から深さ 0.6 mまでは緩やかに掘り下がるが、それより下は垂直に落ちる。埋土は 3 層あり、上層の暗褐色土は固く締まるが、それより下層の暗灰色粘質土は粘質が強い。底面付近では、礫石 1 点が出土する。

E 区

土坑は 20 基検出する。

**120 号土坑**（第 47 図、図版 37）

調査区東側で検出した土坑で、建物基礎に一部切られるなど西側を掘り下げ過ぎている。形状は隅丸長方形状で、長軸 1.5 m以上、短軸 1.3 m、深さ 0.3 mを測る。東側は深さ 0.2 m下でテラスが付く。埋土は暗灰色粘質土と緑灰色粘質土が 0.15 mずつ互層に堆積する。

**121 号土坑**（第 47 図、図版 37）

調査区東側に位置し、120 号土坑の北側で検出する。形状は長円形状で径 1.6 ～ 1.8 m、深さ 1.25 m、を測る。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は灰色粘質土が堆積する。

**122 号土坑**（第 47 図、図版 37・38）

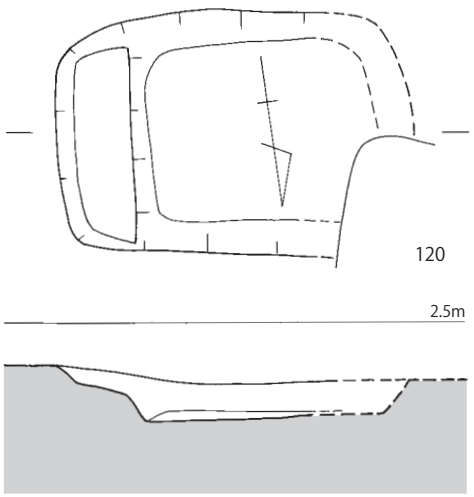
調査区中央の南壁際に位置し、72 号溝を切る。調査区際で検出したため、全容は把握できないが、形状は円形で、径 2.4 m以上、深さ 1.1 mを測る。埋土は底面中央に向かって窪むレンズ状に堆積し、上層の暗灰褐色粗砂質土は 0.4 m程の厚みがある。中層は灰褐色粘質土が堆積し、層の間には黒褐色粘質土が薄く重なりながら堆積する。下層は有機物を含む黒褐色粘質土のみが堆積する。

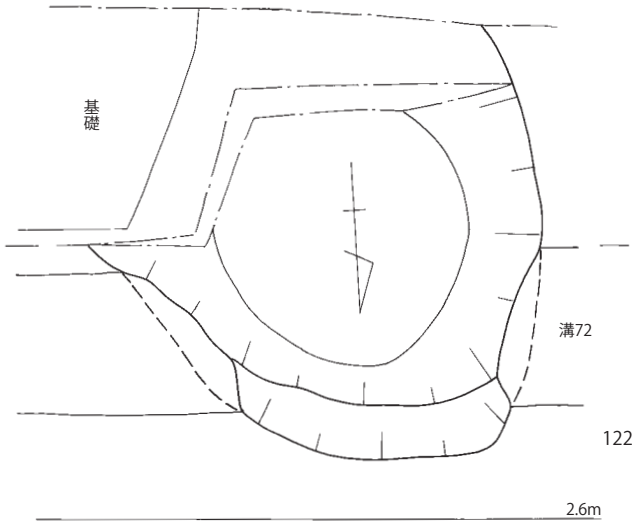
**123 号土坑**（第 47 図、図版 37・38）

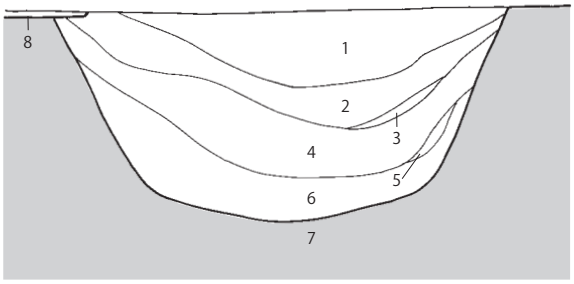
調査区東側の中央に位置し、東側の 70 号溝やピットを切る。北側は掘り過ぎているが、形状は方形で 1 辺 1.6 ～ 1.7 m、深さ 0.6 mを測る。埋土は上層に暗褐色土、下層は瓦を置き、その上に木片を敷きつめた所に暗褐色粘質土が堆積する。

**124 号土坑**（第 47 図、図版 37）

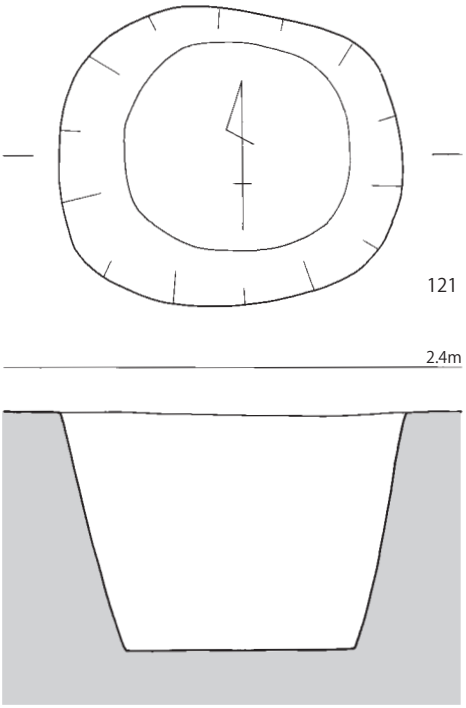
調査区東側の南寄りに位置し、65・66 号溝を切る。南壁際にはコンクリート基礎があるため、全ては掘削できない。形状は長円形状で、径 3.0 ～ 3.8 m、深さ 0.9 mを測る。北側は上面から 0.2 m以下の

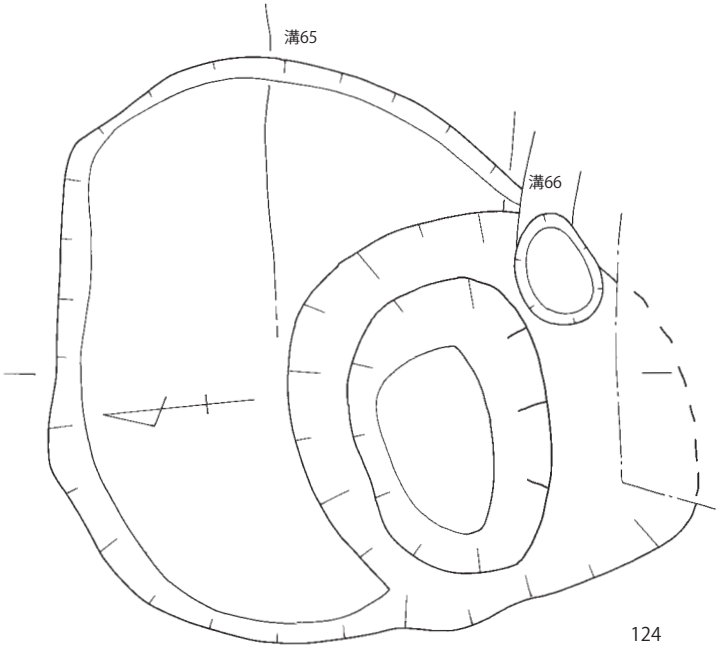


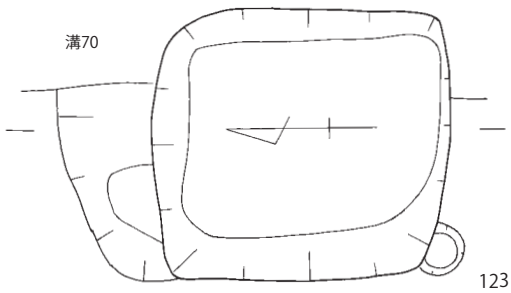



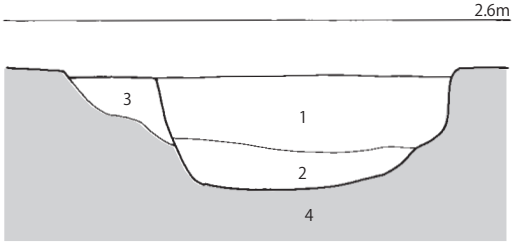




1 暗灰褐色粗砂質土
2 灰褐色粘質土に青灰色粘質土が混じる
3 黒褐色粘質土
4 灰褐色粘質土(木片を多く含む)
5 黒褐色粘質土
6 黒褐色粘質土(植物片が多く混じる)
7 青灰色粘質土(地山)
8 コンクリート基礎(掘り方)橙色土

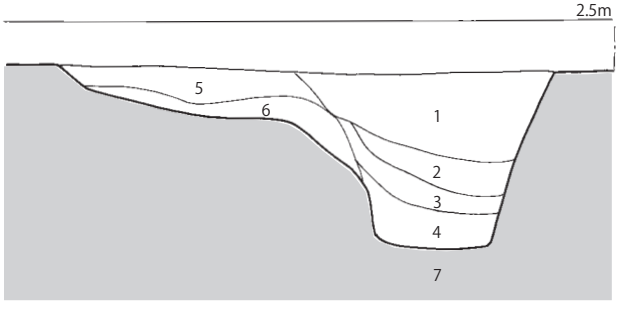


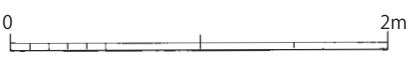




1 暗褐色土に青灰色粘質土が混じる
2 暗褐色粘質土
3 2と4が混じる
4 青灰色粘質土(地山)




1 灰黒褐色土に青灰色粘質土ブロックが混じる(粗砂含む)
2 6に木質片が多く混じる
3 黒色粘質土(木質片を多く含む)
4 黒灰色粘質土(木質片を多く含む)
5 灰褐色土
6 灰黒褐色粘質土
7 青灰色粘質土(地山)




第 47 図　E区 120 ～ 124 号土坑実測図（1/40）

深さで弧状のテラスがあり、南側の中心部分では最大で径 2.3 mを測る。埋土の上層は灰黒褐色土や灰黒褐色粘質土、下層は黒色～黒灰色粘質土が堆積する。

**125 号土坑**（第 48 図、図版 38）

調査区中央の北寄りに位置し、周辺のピットに切られている。形状は円形で、径 1.4 ～ 1.6 m、深さ 1.3 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は中央に向かって緩やかに窪む。埋土は上層に灰褐色土、下層は暗灰色粘質土で木質を多く含む。

**126 号土坑**（第 48 図、図版 38）

調査区西側の角に位置し、東側のピットを切る。形状は長円形で、径 0.8 ～ 0.9 m、深さ 0.7 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面には平坦である。埋土は灰褐色粘質土である。

**128 号土坑**（第 48 図、図版 38）

調査区西側の南寄りに位置し、72 号溝を切る。形状は方形に近い形状で、長軸 1.7 m、短軸 1.4 m、深さ 0.2 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面中央部は窪む。埋土は黒褐色土である。

**129・130 号土坑**（第 48 図、図版 38）

調査区西側に位置し、128 号土坑の東側で検出した。130 号土坑が 129 号土坑と 72 号溝、P 672 を切る。129 号土坑の形状は不整形で、長軸 2.9 m、短軸 1.0 ～ 1.4 m、深さ 0.2 ～ 0.7 mを測る。130 号土坑の形状はやや崩れた円形で、径 1.8 m前後、深さ 0.5 mを測る。129 号土坑は東側にテラスが付くので、断面の形状は階段状、130 号土坑の断面の形状は逆台形状になる。130 号土坑の北側には検出面から下の中位で、テラスが付く。埋土は灰褐色粘質土が堆積する。

**131 号土坑**（第 48 図、図版 39）

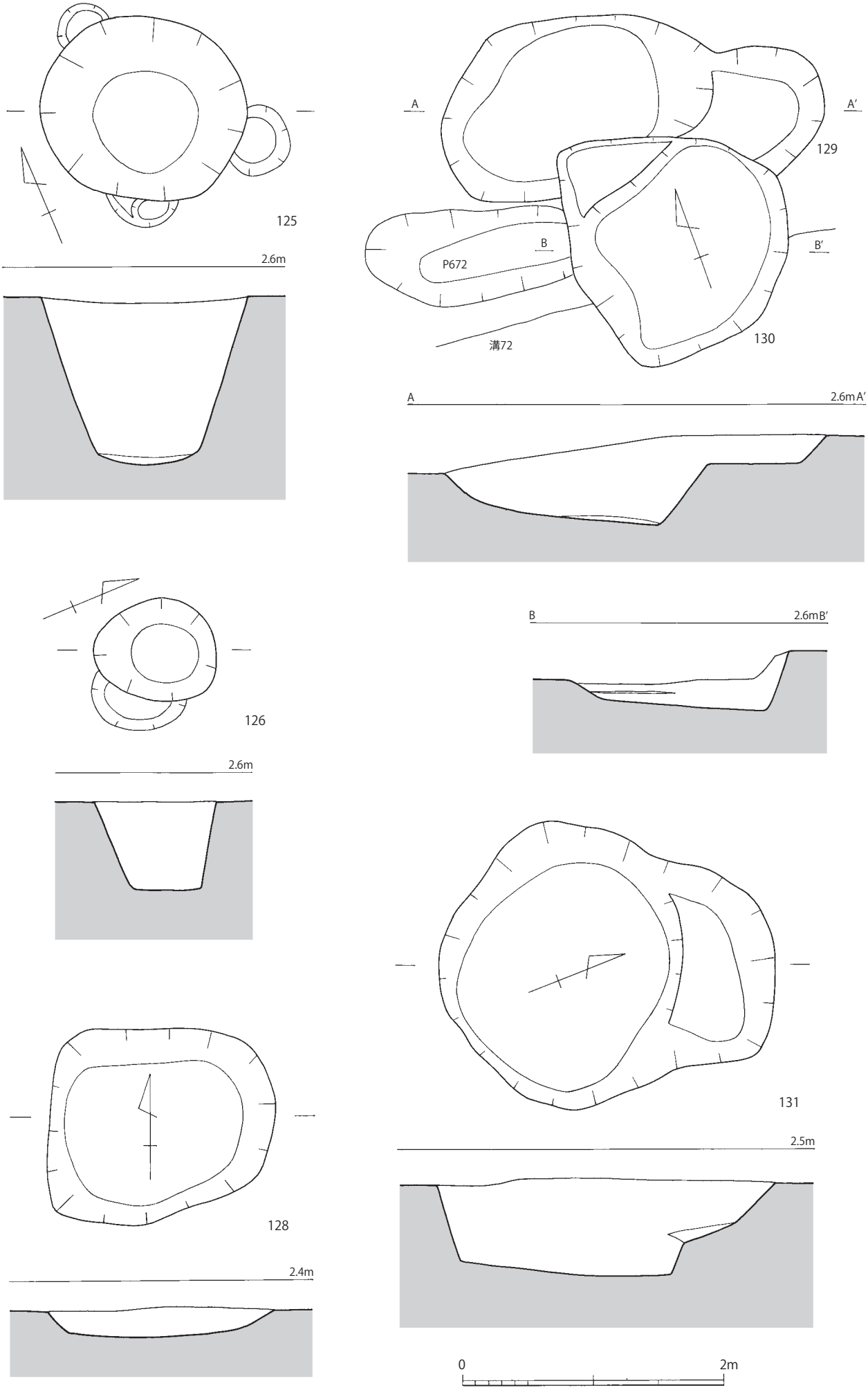
調査区西側に位置し、129 号土坑の北側で検出する。形状はやや崩れた長円形状で、長軸 2.6 m、短軸 1.5 ～ 2.2 m、深さ 0.7 mを測る。北側には検出面から深さ 0.5 m程で斜行するテラスが付く。埋土は黒褐色土である。

**132 号土坑**（第 49 図、図版 39）

調査区西側に位置し、131 号土坑の東側で検出する。形状は長円形で、径 1.2 ～ 1.3 m、深さ 1.3 mを測る。断面の形状は逆台形で、検出面から底面まで窄まりながら傾斜する。埋土の上層は灰色土に粗砂が混じるが、下層は灰色粘質土に有機物が混じる。

**133・134 号土坑**（第 49 図、図版 39）

調査区西側に位置し、131 号土坑の西側で検出する。133 号土坑は 134 号土坑に切られるが、134 号土坑の南側は現代の建物基礎に壊されている。133 号土坑の形状は長円形状で、径 1.1 m以上、深さ 0.2 mを測る。134 号土坑の形状も長円形状で、径 1.0 ～ 1.6 m、深さ 0.9 mを測る。133 号土坑の断面の形状は逆台形状で、134 号土坑は深いため、傾斜がある。埋土はいずれも黒褐色土である。




第 48 図　E 区 125・126・128 ～ 131 号土坑実測図（1 /40）

135 号土坑（第 49 図、図版 39）

調査区西側に位置し、131 号土坑の北側で検出する。東側を 137 号土坑に切られるが、127・138 号土坑の北側を切る。形状は隅丸長方形で、長軸 2.4 m、短軸 1.3 m、深さ 0.9 m以下を測る。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦ではなく、西側に向かって下がる。埋土は黒褐色粘質土である。

136 号土坑（第 49 図）

調査区西側に位置し、135 号土坑の北側で検出する。調査区北壁際で検出したため、全容は把握できないが、形状は長円形状で、径 1.7 m以下、深さ 0.3 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は黒褐色粘質土である。

137 号土坑（第 49 図、図版 39）

調査区西側の 135 号土坑の東側に位置し、それを切る。形状は長円形で、径 0.9 ～ 1.3 m、深さ 0.6 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は中央に向かって窪む。埋土は黒褐色土である。

127・138 号土坑（第 49 図、図版 39）

調査区西側に位置し、135 号土坑の南側で検出する。小規模の 127 号土坑が 138 号土坑を切るが、127 号土坑は 101 号土坑、138 号土坑は 135 号土坑に切られる。138 号土坑の形状は長円形状で、長軸 3.0 m、短軸 1.8 m、深さ 0.3 m以下を測る。127 号土坑の形状は長円形状で、長軸 1.2 m、短軸 0.8 m、深さ 0.6 mを測る。138 号土坑の断面の形状は逆台形状であるが、127 号土坑の断面の形状は西側に下がる逆台形状になる。埋土は黒褐色土である。

139 号土坑（第 49 図、図版 39）

調査区西側に位置し、137 号土坑の東側で検出する。調査区北壁際で検出したため、全容は把握できないが、形状は長円形状で、径 1.9 m、深さ 0.3 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は緩やかに中央に向かって窪む。なお、東側のテラスは検出の際に掘り過ぎている。埋土は 1 層のみで地山である青灰色粘質土に粗砂が混じる。

F 区

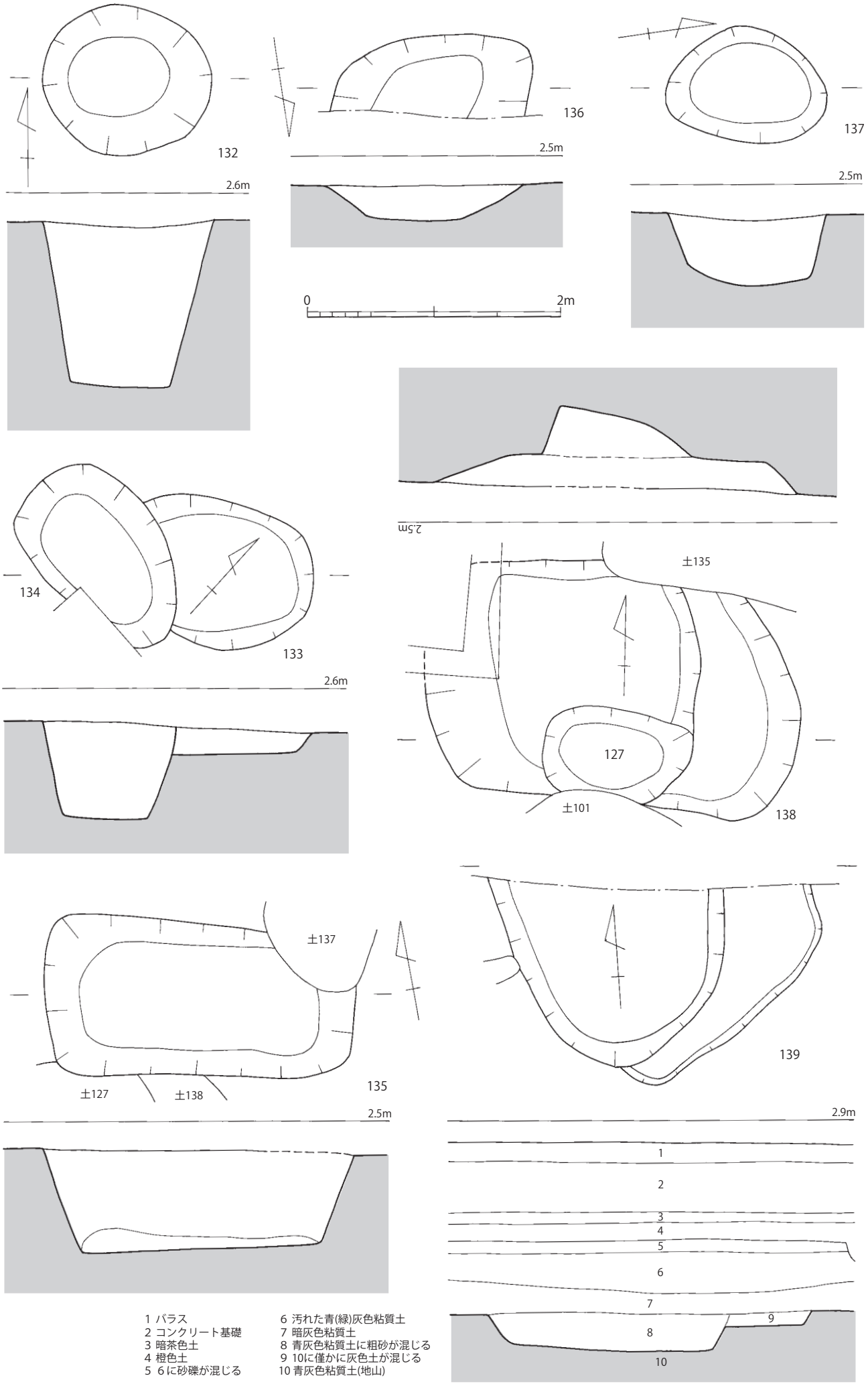
土坑は 6 基検出する。

140 号土坑（第 50 図、図版 39・40）

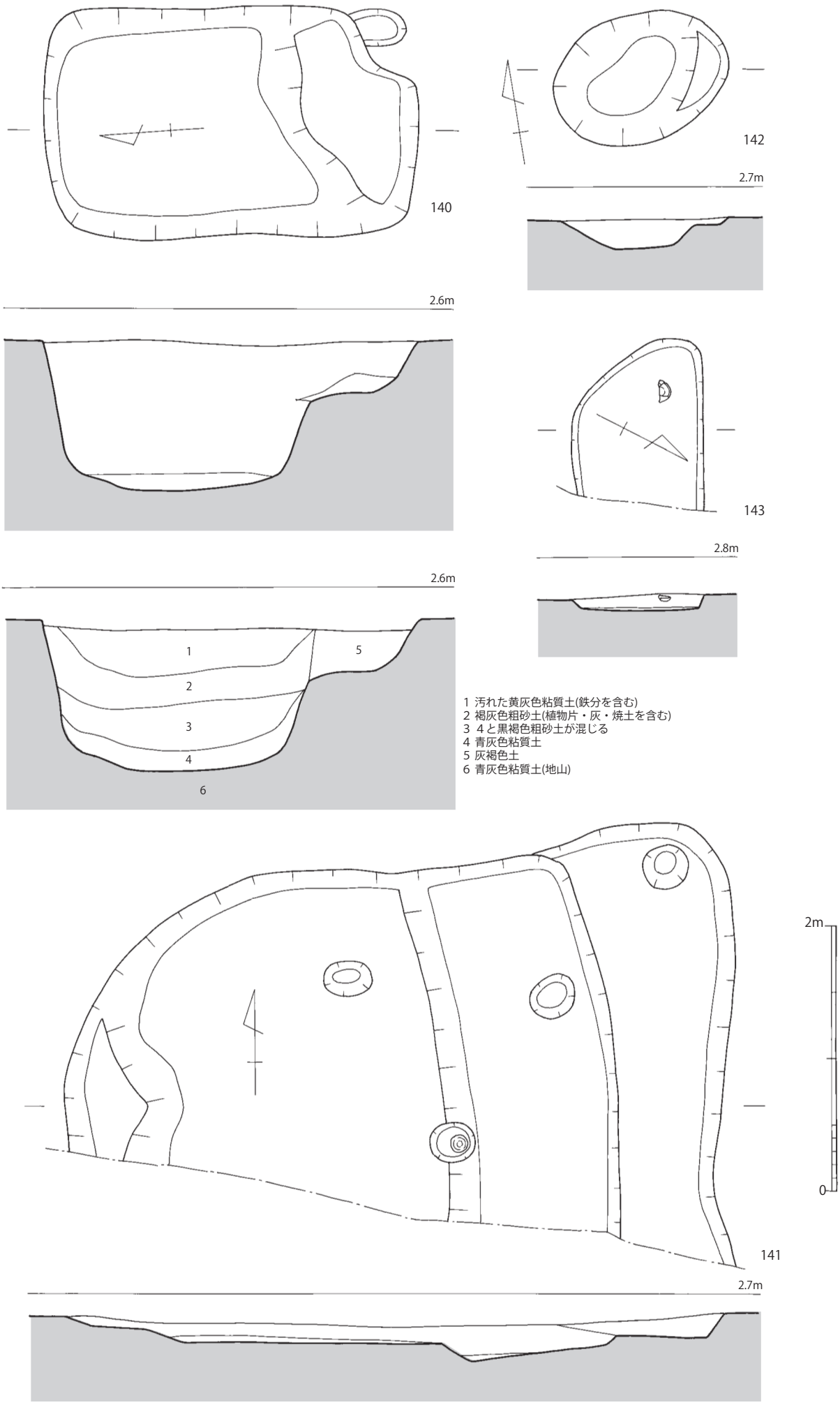
調査区中央付近に位置し、南側にあるピットを切る。形状は長方形状を呈し、長軸 2.84 m、短軸 1.7 m、深さ 1.14 mを測る。断面の形状は丸みのある逆台形状で、南側は遺構検出面から 0.4 m下に段が付き、底面まで緩やかに下がる。埋土は大きく 5 層に分かれる。

141 号土坑（第 50 図、図版 40）

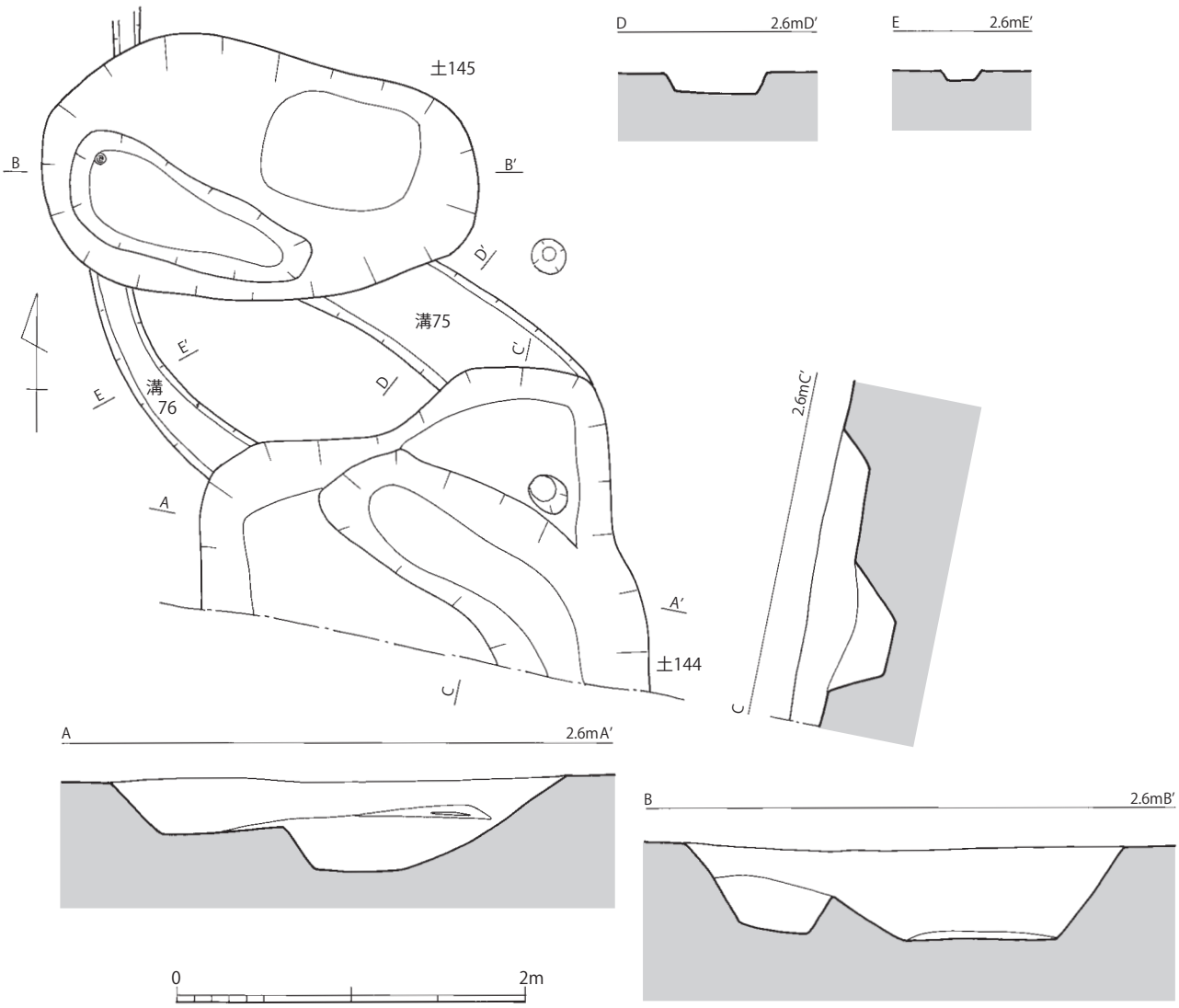
140 号土坑の東側に位置し、調査区南壁際で検出する。調査区際で検出したため、全容は不明だが、長軸 5.0 m、短軸 2.5 m以上、深さ 0.1 ～ 0.3 mを測る。底面中央に向かって階段状に窪む。土坑内




第 49 図　E 区 127・132 ～ 139 号土坑実測図（1 /40）




第 50 図　F 区 140 ～ 143 号土坑実測図（1 /40）




第 51 図　F 区 144・145 号土坑、75・76 号溝実測図（1 /40）

部は、いくつかのピットに切られている。埋土は灰褐色土である。

**142 号土坑**（第 50 図、図版 40）

141 号土坑の北側に位置し、東側に浅い段が付く。形状は長円形状で、長軸 1.3 m、短軸 1.0 m、深さ 0.2 mを測る。埋土は灰色土である。

**143 号土坑**（第 50 図、図版 40）

142 号土坑の南東側に位置し、調査区東壁際で検出する。形状は台形状で、長軸 1.3 m以上、短軸 1.0 m、深さ 0.1 mを測る。瓦器椀が出土したので土坑としたが、しっかりとした掘り方は見えない。浅い凹みを土坑とした。埋土は灰褐色土である。

**144 号土坑**（第 51 図、図版 40）

141 号土坑の西側に位置し、調査区南壁際で検出する。形状は不整形で、長軸 2.6 m、短軸 1.7 m以上、深さ0.5 mを測る。土坑の北側と西側には段が付き、中央部分は溝状に一段掘り下がる。北側の段にはピット状の径 0.2 m、深さ 0.1 mの浅い掘り込みがある。埋土は灰褐色土である。

**145 号土坑、75・76 号溝**（第 51 図、図版 41）

144 号土坑の北側に位置し、144 号土坑とは 75・76 号溝で繋がる。形状は長円形状で長軸 2.5 m、短軸 1.5 m、深さ 0.5 mを測る。土坑内には２つの底面があることから、切り合いのある２つの土坑だった可能性がある。埋土は灰褐色土である。

75・76 号溝は 144・145 号土坑の間に位置し、その２つの土坑に切られる。75 号溝は長さ 0.8 m、幅 0.6 m、76 号溝は長さ 1.3 m　幅 0.2 ～ 0.3 mを測る。深さは共に 0.1 mと浅く、埋土も灰褐色土である。

Ｇ区

土坑は 22 基検出する。

**146 号土坑**（第 52 図、図版 41）

西調査区の中央に位置する。ピット状の遺構に、甕が埋設されていた。掘り方部分の形状は円形で、径 0.7 m、深さ 0.4 mを測る。甕は口縁部から体部上半までを欠損するが、それより下位は残存する。埋土は灰褐色土である。

**147 号土坑**（第 52 図、図版 41）

西調査区の南側に位置し、146 号土坑の南側で検出する。土坑の中心部分を礎石建物の布掘り状遺構やピットに切られている。形状は長円形で、長軸 4.1 m、短軸 2.7 m、深さ 0.35 mを測る。断面の形状は、逆台形で、底面は平坦である。埋土は炭混じりの灰褐色土である。

**148 号土坑**（第 52 図、図版 41）

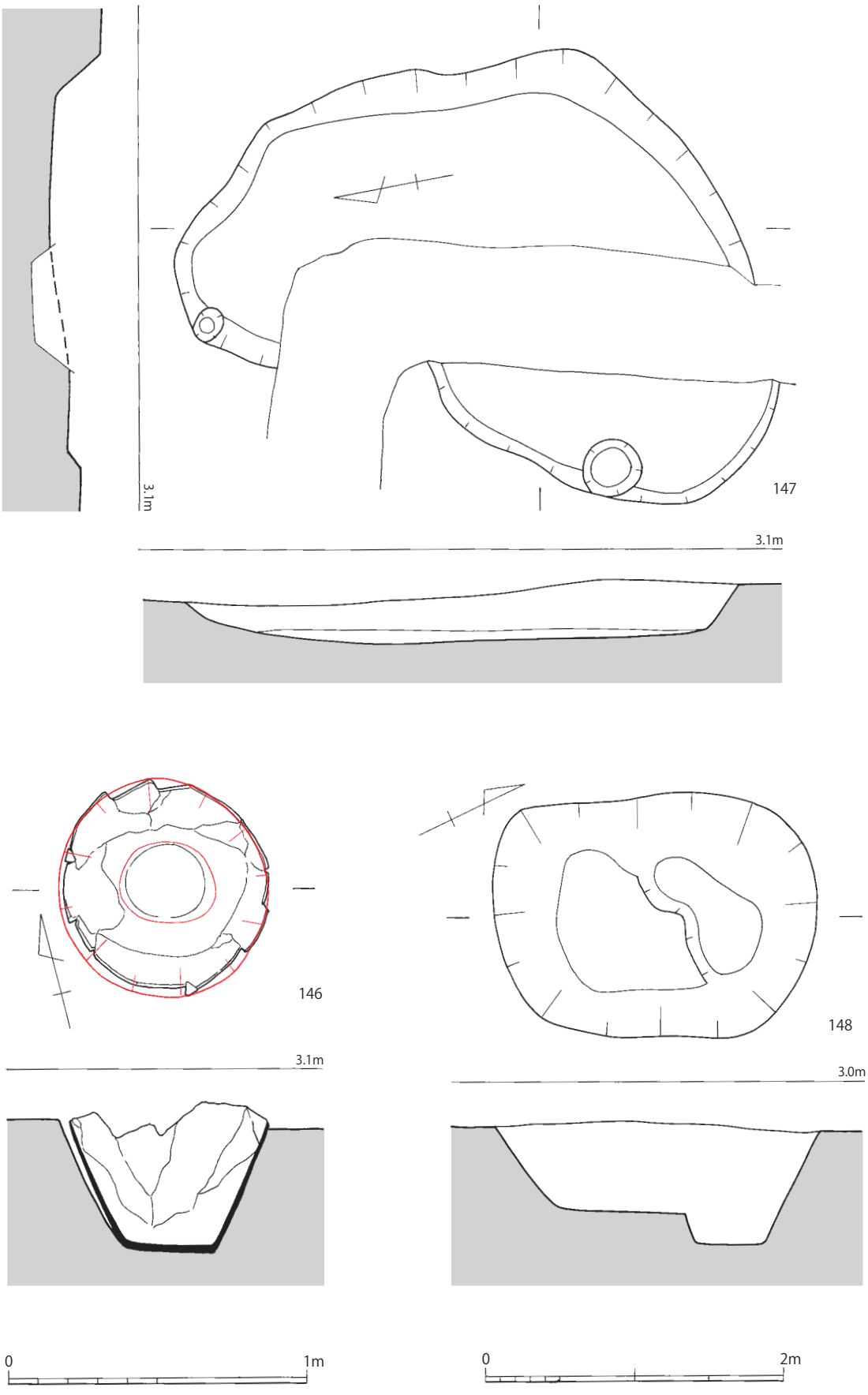
東調査区の西側に位置し、149 号土坑の南側で検出する。形状は長円形状で、長軸 2.2 m、短軸 1.65 m、深さ 0.8 mを測る。断面の形状は逆台形状に、北側がさらに 0.2 m程一段下がる階段状になる。埋土は灰褐色土である。

**149 号土坑**（第 53 図、図版 41）

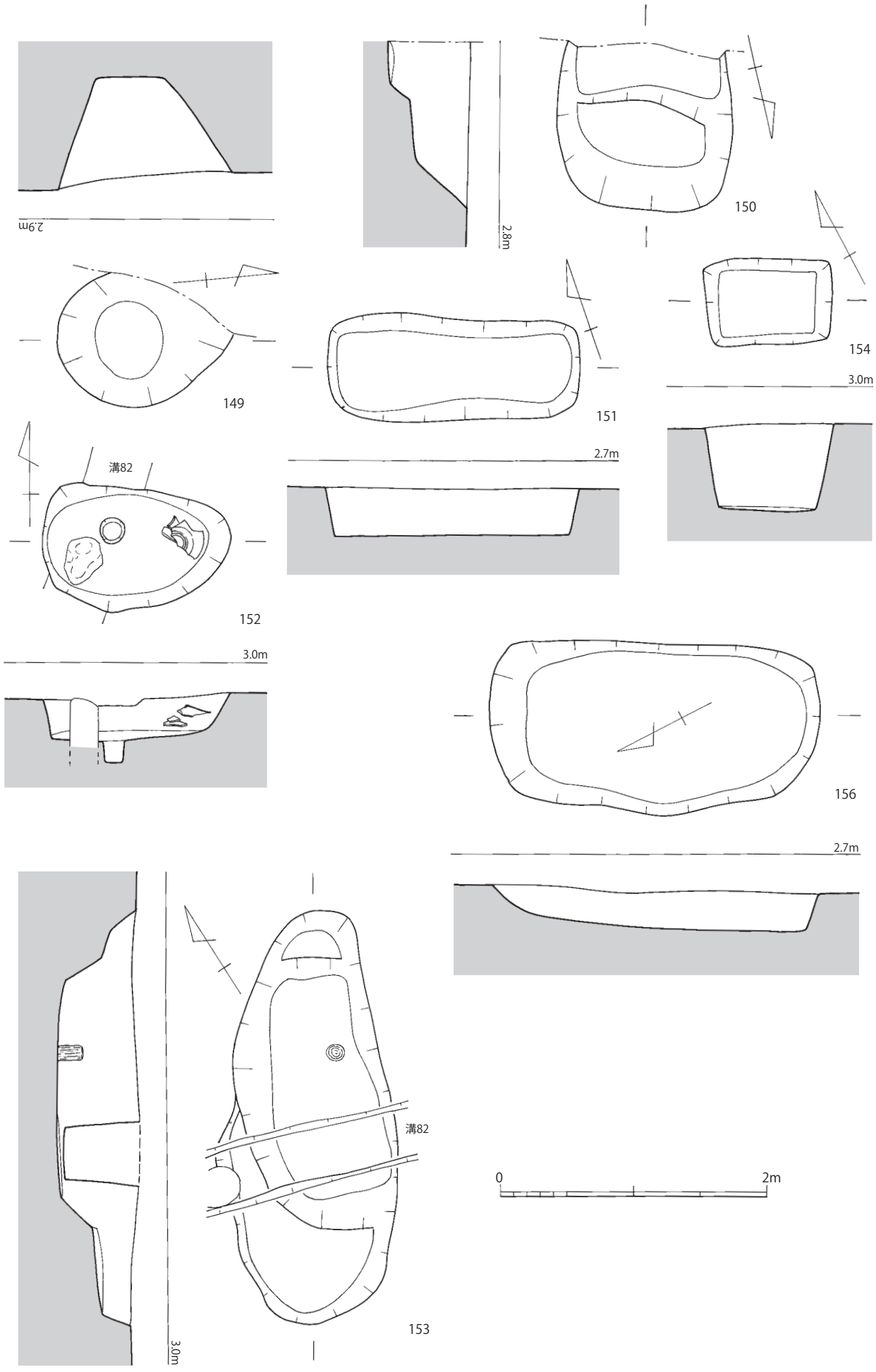
東調査区の西壁中央に位置し、148 号土坑の北側で検出する。西側部分は調査区際となるため、全容は把握できないが、形状は長円形状で、長軸 1.3 m、短軸 1.0 m、深さ 0.8 mを測る。断面の形状は逆台形で、底面は平坦である。埋土は灰色粘質土である。

**150 号土坑**（第 53 図、図版 41）

東調査区の南壁際中央付近に位置し、14 号建物の南側で検出する。調査区南壁際で検出したため、全容は把握できないが、形状は隅丸長方形状で、長軸 1.35 m、短軸 1.25 m以上、深さ 0.4 ～ 0.6 mを測る。断面の形状は、北側にテラスが付き、南側が階段状に下がる。埋土の上層は灰褐色土で、下層は灰褐色土に青灰色粘質土が混じる。




第 52 図　G 区 146 ～ 148 号土坑実測図（146 は 1 /20、他は 1 /40）




第 53 図　G区 149 ～ 154・156 号土坑実測図（1/40）

**151 号土坑**（第 53 図、図版 42）

東調査区の西側に位置し、150 号土坑の北側で検出する。東側にある 81 号溝を切る。形状は隅丸長方形で、長軸 1.9 m、短軸 0.75 ～ 0.8 m、深さ 0.35 mを測る。断面の形状は傾斜が急な逆台形で、底面は平坦である。埋土は灰色土である。

**152 号土坑**（第 53 図、図版 42）

西調査区の北側に位置し、146 号土坑の北東で検出する。土坑の上面を現代のコンクリート基礎の布掘りに切られ、内部にもコンクリート製の径 0.2 mの竪杭が打ち込まれ破壊される。形状は長円形で、長軸 1.4 m、短軸 0.95 m、深さ 0.35 mを測る。断面の形状は、西側は急傾斜だが、東側は緩傾斜となる逆台形状である。底面は平坦であるが、径 0.2 m以下、深さ 0.2 mのピット状の掘り込みを検出する。埋土は灰褐色土で、遺物は東側から集中して出土する。

**153 号土坑**（第 53 図、図版 42）

西調査区の東側に位置し、146 号土坑の北東側で検出する。この土坑も現代の布掘りに切られ、内部に竪杭が打ち込まれ破壊される。形状は南北に長い長円形で、長軸 3.15 m、短軸 0.65 ～ 1.35 m、深さ 0.2 ～ 0.6 mを測る。南北にテラスが付き、南側は弧状になる。断面の形状は、底部中央がさらに 0.4 m程下がる逆凸形状になる。埋土は暗褐色土である。

**154 号土坑**（第 53 図、図版 42）

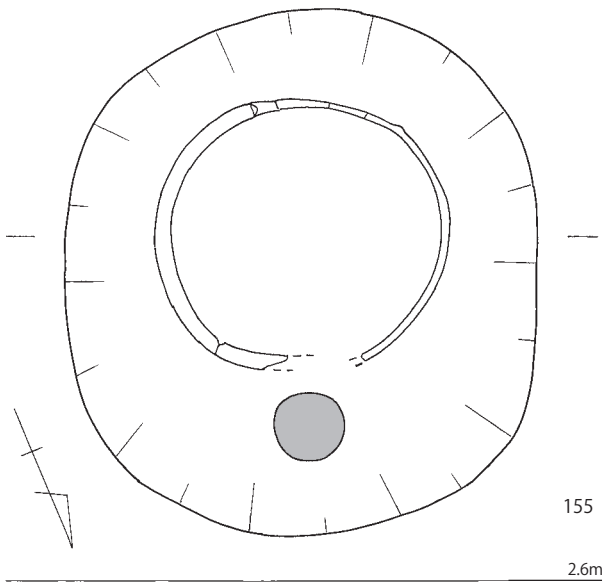
西調査区の北東隅に位置し、152 号土坑の北東側で検出する。形状は長方形で、長軸 0.95 m、短軸 0.65 m、深さ 0.65 mを測る。断面の形状は逆台形で、底面は平坦である。埋土は灰褐色土に粗砂や炭が混じる。

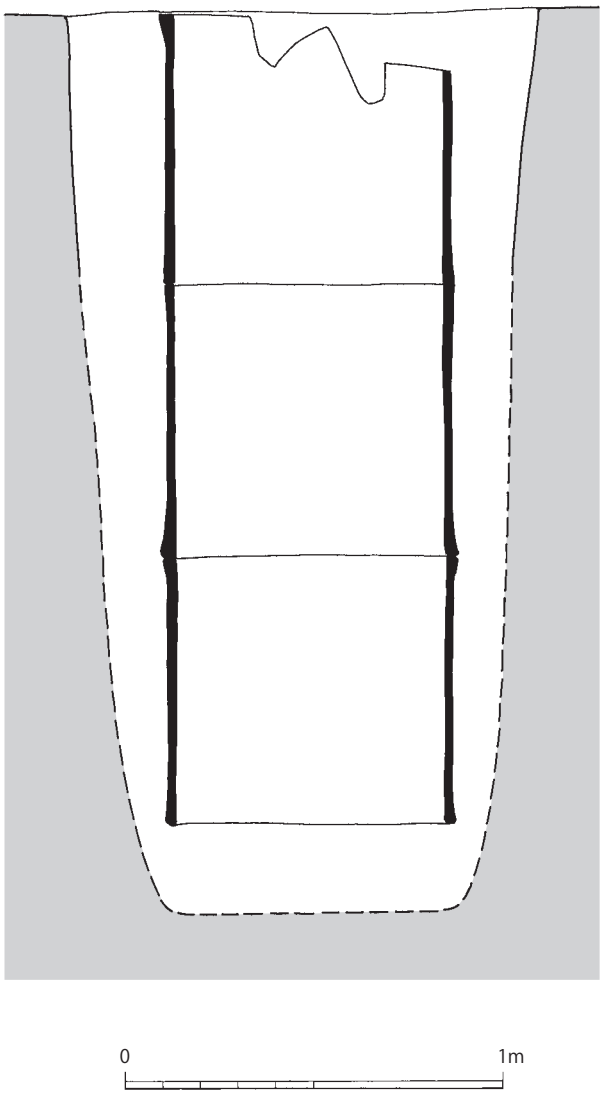
**155 号土坑**（第 54 図、図版 42）

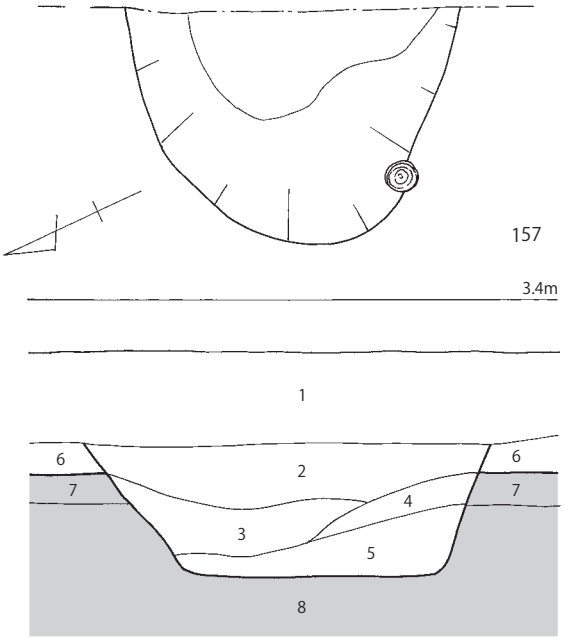
東調査区の南側に位置し、150 号土坑の北東側で検出する。北側は調査以前に建てられた住宅の基礎下に打ち込まれていた丸太材により、破壊される。形状は南北にやや長い長円形で、径 1.25 ～ 1.4 m前後、深さ 2.35 mを測る。断面の形状はほぼ垂直に近く、遺構検出面から瓦質の井戸枠を検出し、上段の 1 個体のみ人力掘削を行った。それより下の掘削は危険なためバックホーによる掘削を行い、井戸枠および遺物を回収した。この瓦質の井戸枠も上下に連なる状態で検出した。掘り方は瓦質の井戸枠を設置するために、井戸枠の外側へ 0.2 m程広く掘られる。瓦質の井戸枠は、円形で径 0.8 m前後、高さ 0.7 m、厚さ 0.02 m以下を測る。これも 14 号土坑と同様に上部と下部で端部の厚さがやや異なる作りで、1 段目と 3 段目は厚みのある端部を上部にして設置するが、2 段目のみ天地を逆にして設置する。埋土は主に灰褐色粘質土が堆積する。

**156 号土坑**（第 53 図、図版 42）

東調査区の南壁側中央に位置し、155 号土坑の東側で検出する。形状は丸みのある長方形で、長軸 2.5 m、短軸 1.2 ～ 1.3 m、深さ 0.3 mを測る。断面の形状は逆台形で、底面は南側が低く傾斜する。埋土は灰色粘質土である。

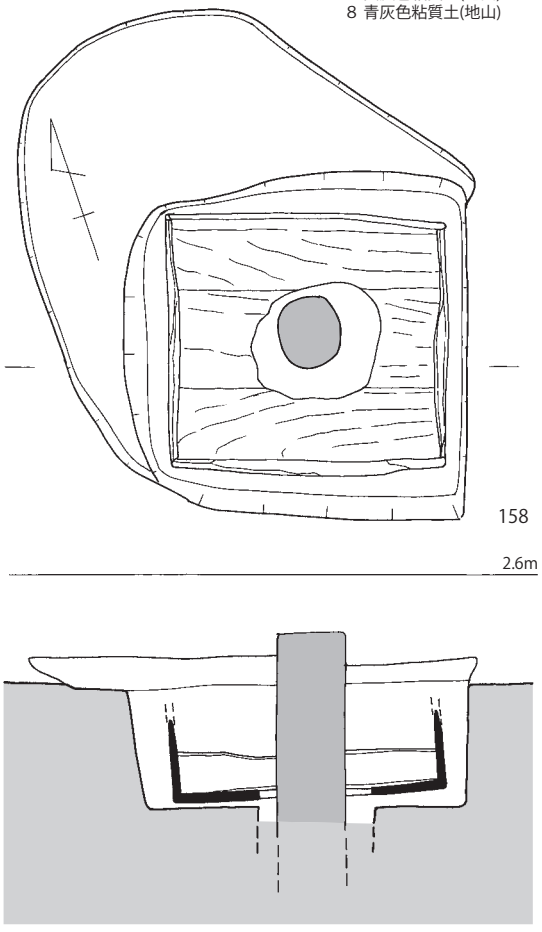



1 褐色土にバラスが混じる(盛土)
2 暗褐色土
3 暗灰色粘質土
(木質・炭が混じる)
4 2と3が混じる
5 3に青灰色粘質土が混じる
6 2に7が混じる
7 黄灰色粘質土(地山)
8 青灰色粘質土(地山)




第 54 図　G 区 155・157・158 号土坑実測図（157 は 1 /40、他は 1 /20）

**157 号土坑**（第 54 図、図版 42）

東調査区の東壁の南寄りに位置し、84 号溝の東側で検出する。調査区東壁際で検出したため、形状は半円形で、径 1.7 m、深さ 0.7 mを測る。断面の形状は逆台形で、底面は平坦である。埋土の上層は暗褐色土で、それより下層は暗灰色粘質土に地山である青灰色粘質土が混じる。

**158 号土坑**（第 54 図、図版 43）

東調査区の南東側に位置し、156 号土坑の東側で検出する。土坑中心部は、調査前に建てられた住宅基礎の下に打ち込まれていた丸太材により、上部は破壊される。掘り方の形状は方形で、1 辺の長さ 0.9 m、深さ 0.3 mを測る。土坑内部の木棺墓は、底面の板材を側面の板材で嵌め込む構造で、1 辺の長さ 0.7 m前後を測る。木棺に使用された板材の大きさは、底面の板材が長軸 0.75 m、短軸 0.2 ～ 0.25 m、厚さ 0.02 mを測る。幅の長い方を東西方向に 3 枚並べて、1 面を構成する。底面の構造から 1 辺 0.7 m前後の真四角になる。側面も幅の長い方を横に置き、おそらく 3 枚ほど並べていた可能性がある。埋土は灰色粘質土である。内部からは埋葬に関わるものは出土していない。

**159 号土坑**（第 55 図）

東調査区の北壁中央に位置し、土坑内部には建物基礎の丸太材が打ち込まれ破壊される。調査区壁際で検出したため、全容は把握できない。形状は不整形で、長さ 1.3 m、深さ 0.5 mを測る。断面の形状は、緩やかに底面まで下がる半円状である。埋土は 2 層で、灰褐色土に灰黄色土が混じる。

**160 号土坑**（第 55 図）

東調査区の北側に位置し、159 号土坑の東側で検出する。東側はピットに切られる。形状はやや崩れた長方形状で、長軸 1.7 m、短軸 1.5 m、深さ 0.2 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は灰褐色土である。

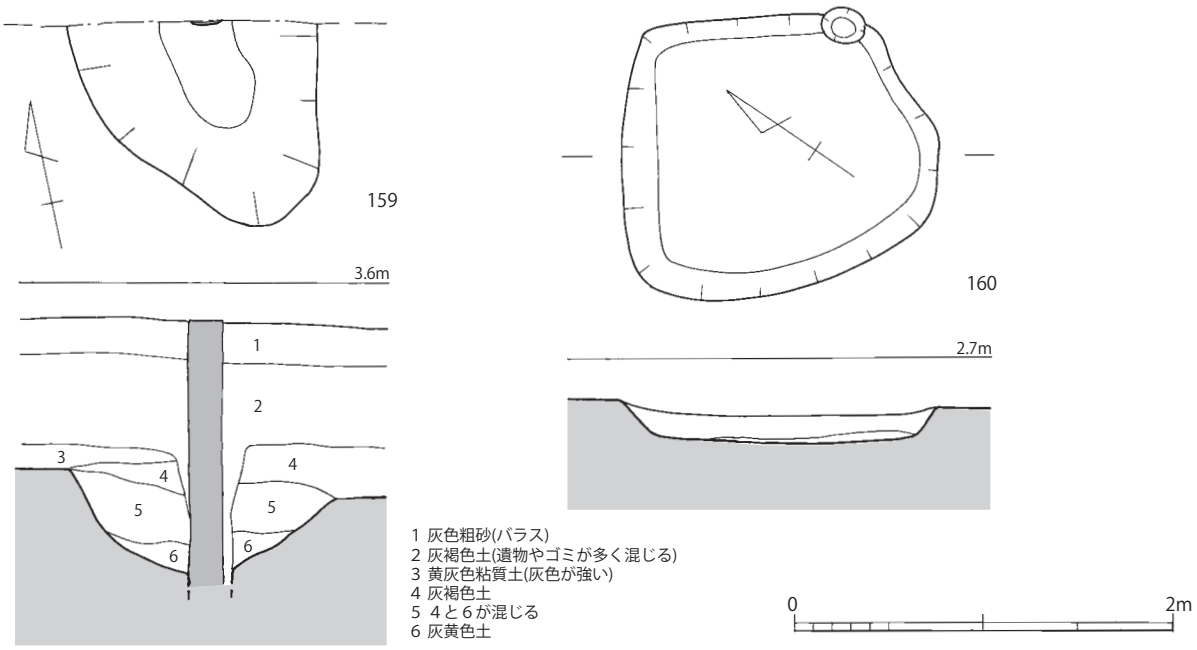
**161・162 号土坑**（第 55 図、図版 43）

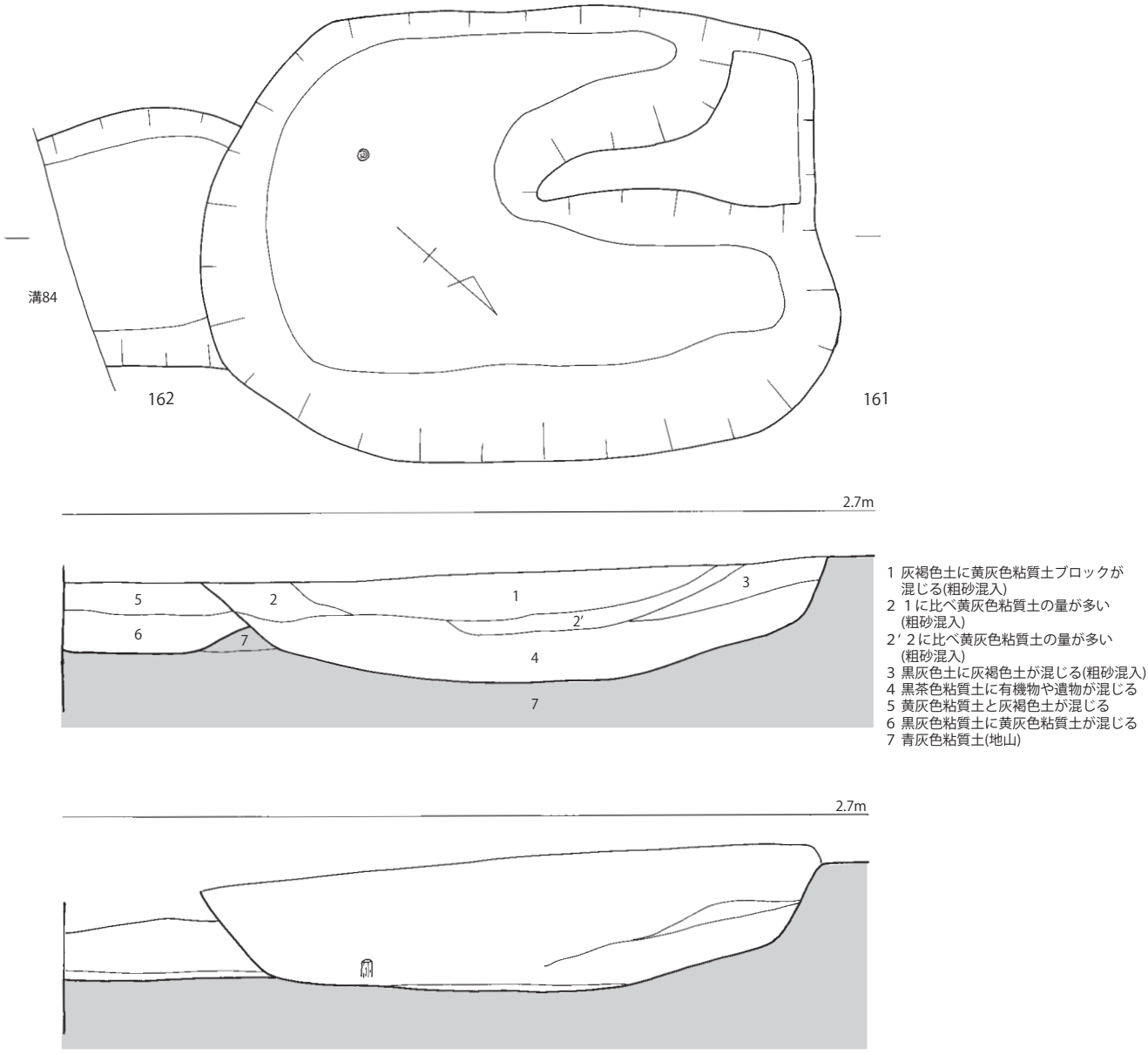
東調査区の北東側に位置し、160 号土坑の南東側で検出する。161 号土坑が 162 号土坑を切るが、162 号土坑は東側の 84 号溝にも切られる。161 号土坑の形状は、丸みのある長方形状で、長軸 3.9 m、短軸 2.75 m、深さ 0.65 mを測る。北西側はテラス状の高まりがあるが、少し掘り過ぎている。断面の形状は逆台形で、底面が中央に向かって窪む。埋土はレンズ状に堆積し、灰褐色土、黒灰色土、黒茶色粘質土に粗砂や有機物と地山である青灰色粘質土が混じる。

162 号土坑の形状は半円形状で、径 1.6 m、深さ 0.45 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は 2 層で、灰褐色土と黒灰色粘質土に黄灰色粘質土が混じる。

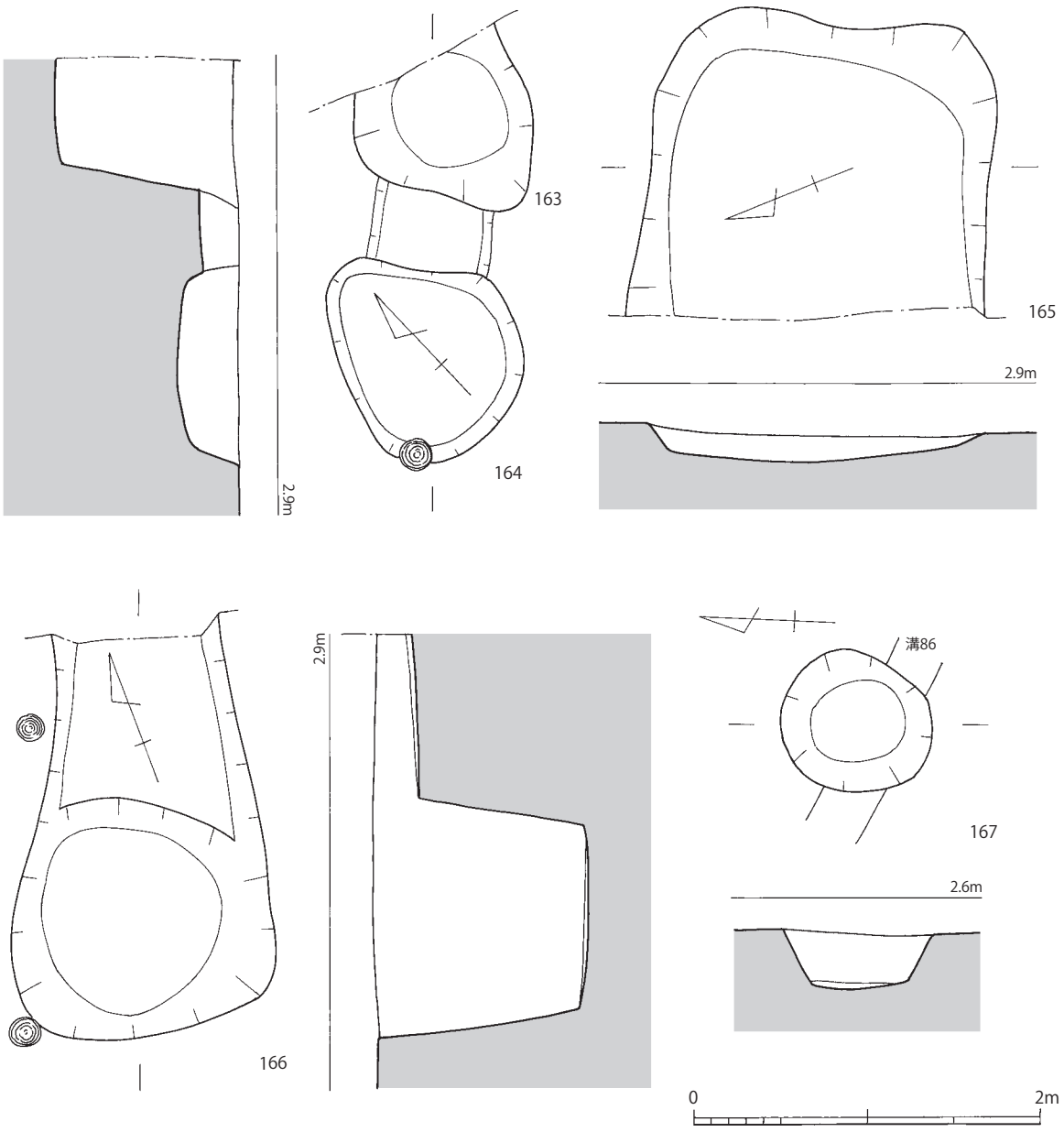
**163 号土坑**（第 56 図、図版 43）

東調査区の北側隅に位置し、調査区北壁際で検出したため全容は把握できていない。南側にある 164 号土坑とは長さ 0.45 m、幅 0.7 m、深さ 0.25 mの溝状の遺構で繋がる。形状はやや崩れた円形で径 1.1 m前後、深さ 1.0 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は灰褐色土に粗砂が混じる。




第 55 図　G区 159 ～ 162 号土坑実測図（1 /40）




第 56 図　G区 163 ～ 167 号土坑実測図（1 /40）

**164 号土坑**（第 56 図、図版 43）

東調査区の北東隅に位置し、163 号土坑の南西側に位置する。形状はやや崩れた円形で、径 1.1 ～ 1.2 m、深さ 0.35 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は中央部分に向かって窪む。埋土は 163 号土坑と同じ灰褐色土に粗砂が混じる。

**165 号土坑**（第 56 図、図版 43）

東調査区の北東隅に位置し、164 号土坑の南側で検出する。形状は隅丸方形で、 1 辺の長さ 2.0 m、深さ 0.2 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は中央部分に向かって窪む。埋土は灰色土の 1 層のみである。

**166 号土坑**（第 56 図、図版 43）

東調査区の北東付近に位置し、163 号土坑の東側で検出する。調査区北壁際で検出したため、全容は

把握できないが、南側の長円形の土坑に浅い溝が付く。南側の土坑の形状は長円形で、径 1.35 ～ 1.5 m、深さ 1.25 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。北側の溝部分は幅 1.0 ～ 1.25 m、深さ 0.25 mを測る。北側に向かって幅は狭くなり、底面も緩やかに上がる。埋土は灰褐色土である。

**167 号土坑**（第 56 図）

東調査区の中央付近に位置し、86 号溝を切る。形状は円形で、径 0.8 ～ 0.85 m、深さ 0.3 mを測る。断面の形状は逆台形で、底面は平坦ではなく、東側に下がる。埋土は黒灰色土である。

３．溝（第 57 ～ 65 図、図版 44 ～ 58）

溝は A 区 1 ～ 11・13 ～ 17・19 ～ 22 号、B 区 18・44 ～ 51 号、C 区 32 ～ 43 号、D 区 23 ～ 31・52 ～ 64 号、E 区 65 ～ 74 号、F 区 75・76 号、G 区 77 ～ 86 号となる。

A区

４号～６号溝は中世である。

**４号溝**（第 57 図、図版 45・46）

調査区東側に位置し、２号溝の西側で検出する。溝の西側は、14 号土坑や７号溝に切られているが、溝幅はコーナー部分で最も広くなり、約 3.0 mとなる。溝の南側には、この溝と５号溝の間に並行する１・２号柵列がある。溝は北から東に延びるＬ字状で、長さ 34.6 m、幅 1.0 ～ 1.6 m、深さ 0.4 mを測る。断面の形状は逆台形状で、北側は緩傾斜であるが、南側は垂直に近い傾斜となる。底面は中央北寄りが、最も低くなる。埋土は３～４層に分層でき、灰褐色土と灰色粘質土が堆積する。

**５号溝**（第 57 図、図版 46）

調査区東側に位置し、４号溝の南側で検出する。溝は、南北方向に延びる溝が２条付く。溝の西側は６号溝により再度、南北方向に掘られる。溝は西と南に延びる逆Ｌ字状で長さ 31.2 m、幅 1.0 ～ 2.3 m、深さ 0.4 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は中央南寄りが最も低くなる。埋土は４層に分層でき、褐色土や灰褐色土、灰色粘質土などが堆積する。

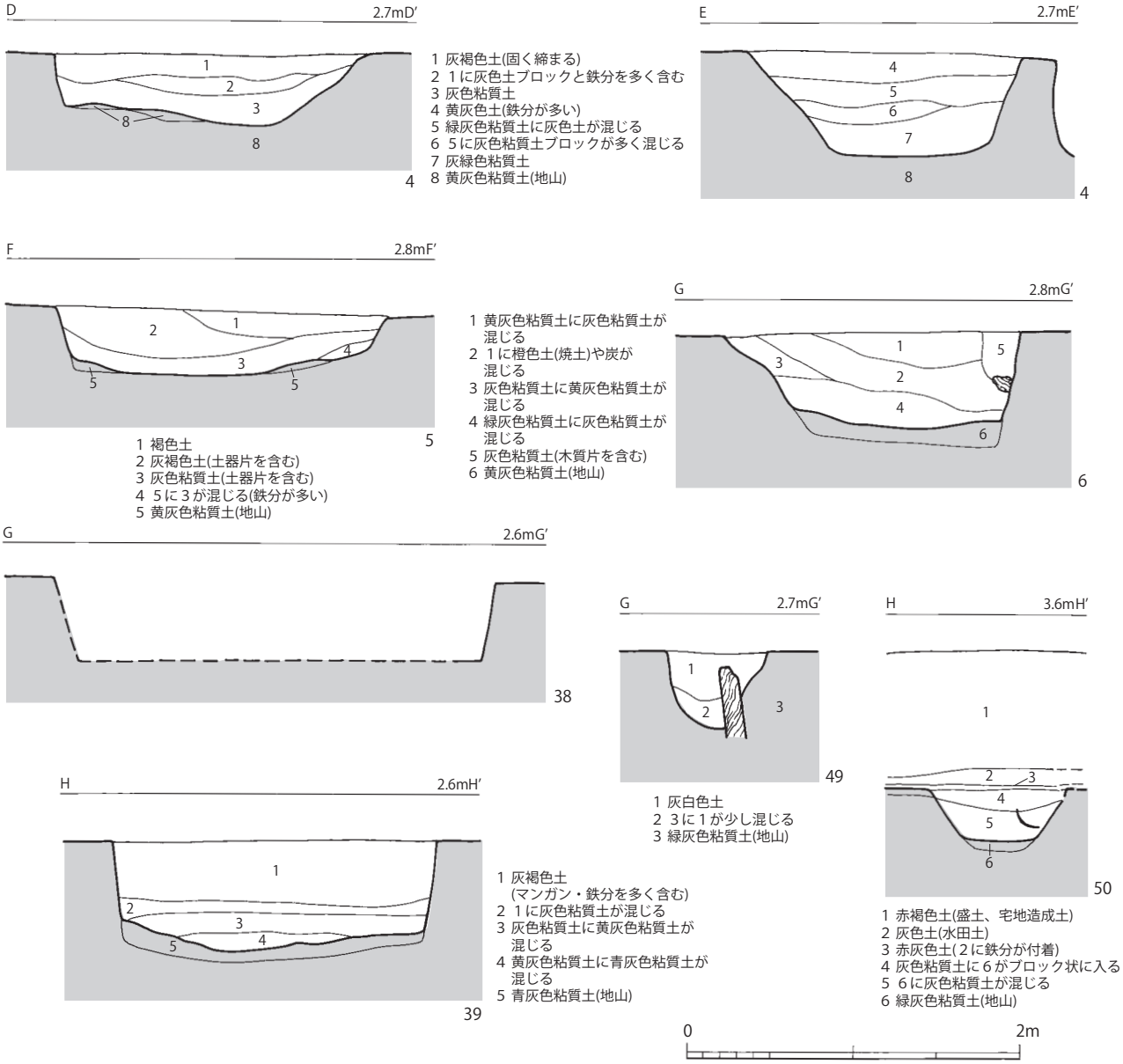
**６号溝**（第 57 図、図版 46）

調査区東側に位置し、５号溝の西側を切る。溝は南北方向に延び、長さ 4.4 m、幅 1.4 ～ 1.8 m、深さ 0.55 mを測る。断面の形状は東側に緩傾斜になる逆台形状で、底面の中央部分が窪む。埋土は５層に分層でき、灰色粘質土に黄灰色粘質土や橙色土、緑灰色粘質土が混じる。

以下、近世である。

**１号溝**（第 58 図）

調査区東側に位置し、１号土坑の南側で検出する。溝は東から南へ延びる逆Ｌ字状で、７号土坑に切られるが、長さ 6.5 m、幅 0.2 ～ 0.3 m、深さ 0.2 m以下を測る。浅い溝であるが、断面の形状は逆台形で、底面は平坦である。埋土は灰色粘質土である。




第 57 図　A区４～６号、C区 38・39 号、B区 49・50 号溝実測図（１/40）

**２号溝**（第 58 図、図版 44）

調査区東側に位置し、１号溝の東側で検出する。溝は南北方向に蛇行しながら延び、長さ 6.6 m、最大幅 2.5 m、深さ 0.5 mを測る。東側の断面の形状は、緩やかな傾斜であるが、西側は上面から深さ 0.2 mで急傾斜になる。埋土の上層は灰褐色土で、それより下位は灰褐色粘質土や灰色土が堆積するが、地山との境が判別しにくい。

**３号溝**（第 58 図、図版 44）

調査区東側に位置し、２号溝の南側で検出する。溝は南北方向に直線状に延び、長さ 6.0 m以上、最大幅 2.3 m、深さ 0.6 mを測る。断面の形状はすり鉢状で、底面は中央に向かって深くなる。埋土の上層は灰色土と灰色粘質土の２層で、それより下位は灰色粘質土と黄灰色粘質土の混入の度合いで２層に分層する。

**７号溝**（第 58 図、図版 46）

調査区中央の北壁側に位置し、６号溝の北側で検出する。溝は４号溝を切り、南北方向に直線状に延

びる。長さ 6.5 m、最大幅 1.1 m、深さ 0.65 mを測る。断面の形状は傾斜が急な逆台形で、底面は平坦である。埋土の上層は黒灰褐色土や黒褐色粘質土に緑灰色粘質土が混じるが、下層は灰褐色粘質土が堆積する。４号溝が埋没後に掘られた区画溝か。

**８号溝**（第 58 図、図版 47）

調査区中央に位置し、７号溝の西側で検出する。溝は南北方向に直線状に延び、長さ 10.8 m、幅 2.2 m、深さ 0.55 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面の中央に向かって窪む。埋土はレンズ状に堆積し、灰色砂質土や、灰色粘質土に黒色粘質土や黄灰色粘質土が混じる。

**９・10 号溝**（第 58 図、図版 47）

調査区中央に位置し、８号溝の西側で検出する。９号溝は南北方向に延びるが、南側では 10 号溝を切る位置から蛇行する。長さ 16.0 m、幅 0.4 ～ 1.0 m、深さ 0.4 mを測る。10 号溝は長さ 5.8 m、幅 0.2 ～ 0.4 m、深さ 0.1 mを測る。断面の形状は逆台形と方形で、底面は平坦である。埋土は灰褐色土であるが、９号溝の下層のみ黄灰色粘質土のブロックが混じる。

**11 号溝**（第 58 図、図版 47）

調査区中央の北壁際に位置し、８号溝の北側にある。調査区際にあるため、幅は不明確だが、溝は東西方向に直線状に延び、長さ 12.5 m、幅 1.5 m以上、深さ 0.35 ～ 0.85 mを測る。断面は逆台形状で、底面は中央に向かって下がる。埋土は黒灰褐色粘質土が堆積する。

**13 号溝**（第 58 図、図版 47）

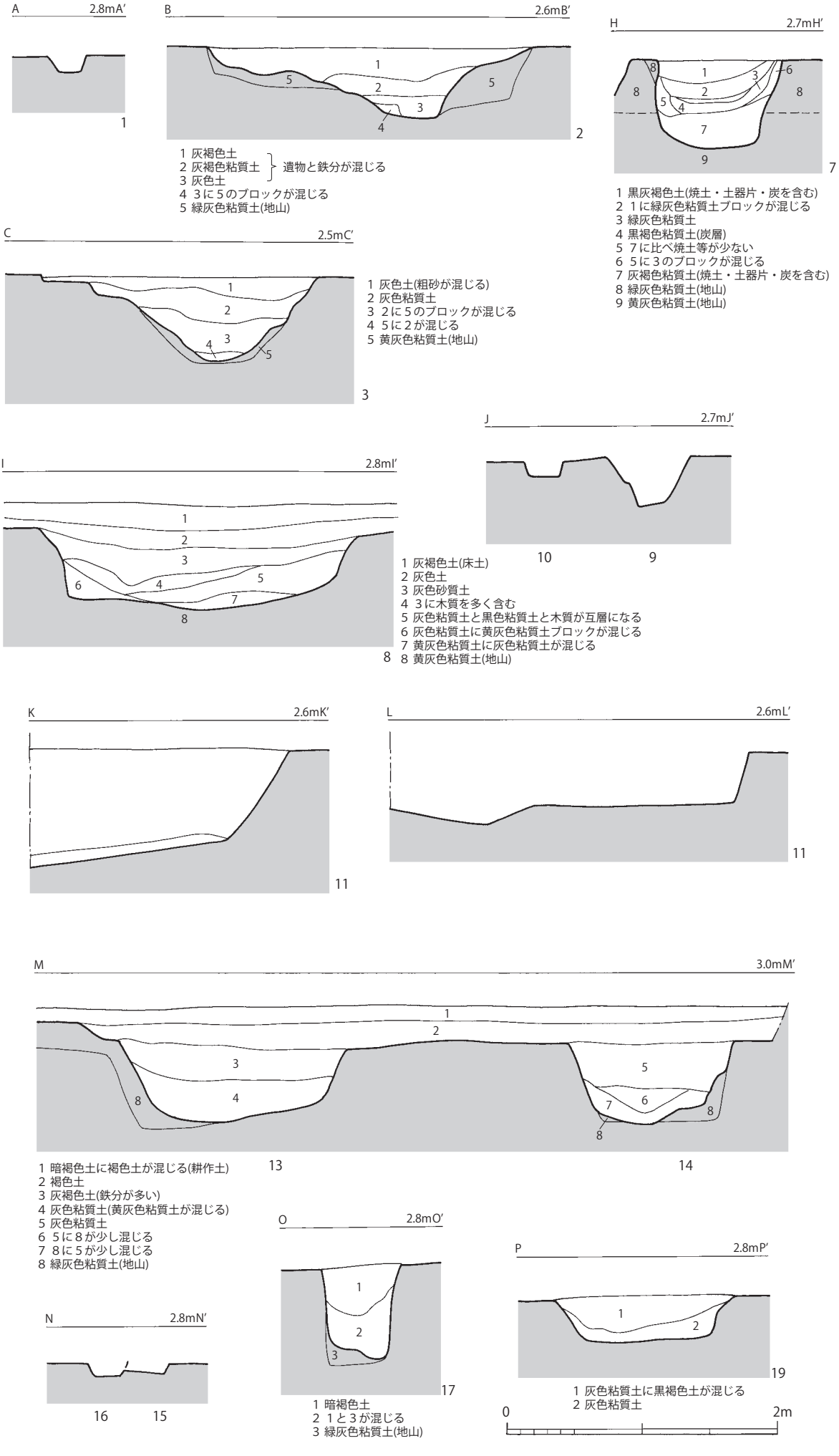
調査区西側に位置し、調査区西壁際にある 14 号溝の東側にある。南側にある 23・24 号土坑に切られる。溝は、やや弧状に曲がりながら南北方向に延び、長さ 15.0 m、幅 1.6 ～ 2.7 m、深さ 0.55 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は東側にやや下がる。埋土は２層に分層し、灰褐色土と灰色粘質土が堆積する。

**14 号溝**（第 58 図、図版 47）

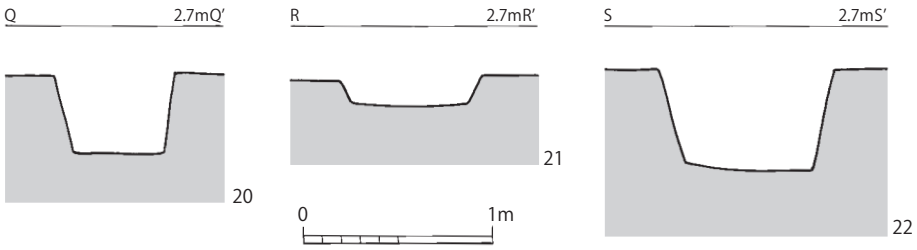
調査区西壁際に位置し、13 号溝の西側で検出する。北側にある 48 号土坑やピットに切られる。溝は南北方向に延び、長さ 13.0 m、幅 1.3 m、深さ 0.6 mを測る。西側はテラス状に段が付くことから、断面の形状は少し乱れた逆台形状になる。埋土は灰色粘質土に緑灰色粘質土が混じる。

**15・16 号溝**（第 58 図）

調査区西側に位置し、10 号溝の西側で検出する。両溝ともピットに切られるが、いずれも南北方向に延びる。15 号溝と 16 号溝は北側で重なり、16 号溝が切る。15 号溝は長さ 3.8 m、幅 0.4 m、深さ 0.1 m以下を測る。16 号溝は長さ 3.5 m、幅 0.4 m、深さ 0.1 m以下を測る。断面の形状は逆台形で、底面は平坦である。埋土は灰色粘質土である。




第 58 図　A区 1 ～ 3 ・ 7 ～ 11 ・ 13 ～ 17 ・ 19 号溝実測図（1 /40）




第 59 図　A区 20 ～ 22 号溝断面実測図（1 /40）

**17 号溝**（第 58 図、図版 48）

調査区西側に位置し、16 号溝の西側で検出する。溝は北と東へ延びるＬ字状に、長さ 7.0 ｍ、幅 0.5 ～ 0.7 ｍ、深さ 0.7 ｍを測る。断面の形状は方形で、底面は東側へ下がる。埋土は２層に分層でき、暗褐色土に緑灰色粘質土が混じる。

**19 号溝**（第 58 図、図版 48）

調査区西側に位置し、17 号溝の北側で検出する。南側にある 38・39 号土坑を切る。溝は東西方向に直線状に延び、東側と西側で幅が異なる。長さ 7.5 ｍ、幅 0.5 ～ 1.4 ｍ、深さ 0.35 ｍを測る。埋土は２層に分層でき、灰色粘質土に黒褐色土が混じる。

**20 号溝**（第 59 図、図版 48）

調査区西側に位置し、19 号溝の北西側で検出する。21 号と同様に調査区北壁際で検出したため、全容は把握できない。溝は南北方向に延び、長さ 2.3 ｍ、幅 0.6 ｍ、深さ 0.4 ｍを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は灰褐色粘質土である。

**21 号溝**（第 59 図、図版 48）

調査区西側に位置し、20 号溝の東側で検出する。20 号溝と同様に調査区北壁際で検出したため、全容は把握できない。溝の方向も 20 号溝と同様に延び、長さ 1.8 ｍ、幅 0.75 ｍ、深さ 0.15 ｍを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は灰褐色粘質土である。

**22 号溝**（第 59 図、図版 48）

調査区西側に位置し、20・21 号溝の南側で検出する。溝はピットに切られているが、西側の 36 号溝を切る。溝は東西方向に延び、長さ 4.0 ｍ、幅 0.9 ｍ、深さ 0.55 ｍを測る。断面の形状は逆台形で、底面は南側に下がる。埋土は暗灰色粘質土である。

Ｂ区

**49 号溝**（第 57 図、図版 53・54）

調査区中央に位置し、北側の 95・98 号土坑と南側の 88・89 号土坑に切られる。溝の両端には５・７号柵列があり、この溝と並行する。溝は南北方向に延び、長さ 5.3 ｍ、幅 0.6 ｍ前後、深さ 0.45 ｍを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は緩やかに中央に向かって下がる。埋土は２層に分層でき、灰白色土が堆積する。

**50 号溝**（第 57 図、図版 54）

調査区中央に位置し、49 号溝の西側で検出する。溝は調査区南壁外まで南北方向に延び、長さ 6.5 m、幅 0.4 ～ 0.9 m、深さ 0.3 mを測る。断面の形状は緩やかな逆台形で、底面は平坦である。埋土は２層に分層でき、灰色粘質土に緑灰色粘質土などが混じる。

**18 号溝**（第 60 図、図版 48）

調査区西側に位置し、11 号柵列の西側で検出する。調査区北壁外まで南北方向に延び、長さ 3.0 m、幅 2.8 m、深さ 0.9 mを測る。中央部分はさらに深くなり、長さ 1.1 m、幅 0.9 mを測る。断面の形状は緩やかな三角形状で、底面は中央部分が最も深くなる。主な埋土は黒茶褐色土、黒灰色粘砂土が堆積する。

**44 号溝**（第 60 図　図版 53）

調査区中央に位置し、49 号溝の西側で検出する。45 号溝の上面を切り、瓢箪形に南北方向に延びることから溝とした。溝は長さ 2.7 m、幅 0.6 ～ 1.0 m、深さ 0.2 mを測る。断面は逆台形で、底面は東側に下がる。埋土は灰褐色土である。

**45 号溝**（第 60 図、図版 53）

調査区中央に位置し、49 号溝の西側で検出する。溝の西端は 92・100・101 号土坑に、上面を 44 号溝に切られるが、北側の 106 号土坑を切る。調査区南北壁外まで南北方向に延び、長さ 9.0 m以上、幅 1.7 ～ 2.1 m、深さ 0.75 mを測る。断面の形状は逆台形で、底面は西側に下がる。埋土は３層に分層でき、上層は灰褐色土で、中～下層は灰色粘質土に緑灰色粘質土ブロックの混入度合いで分層できる。

**46 号溝**（第 60 図、図版 53）

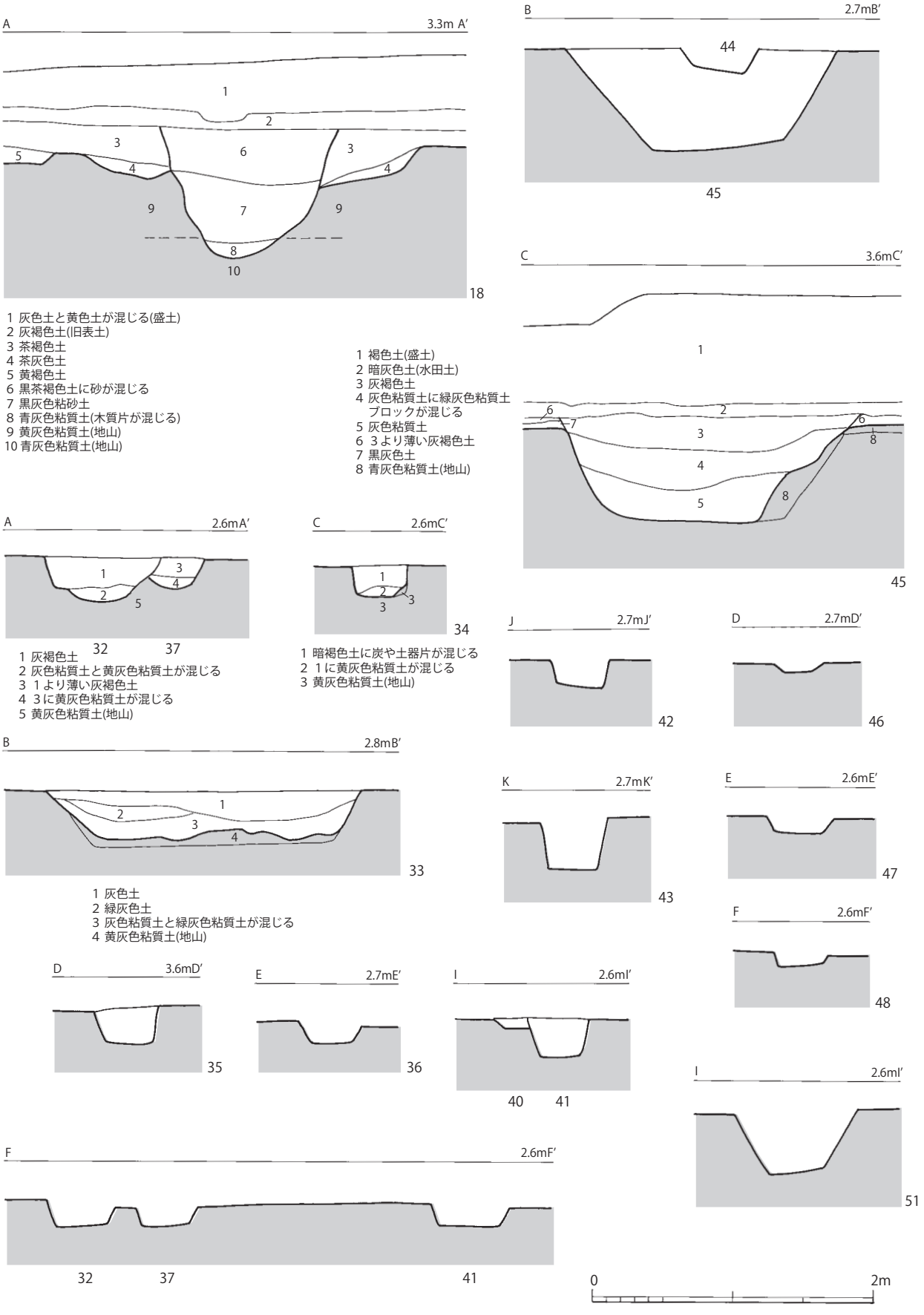
調査区中央の東寄りに位置し、49 号溝の東側で検出する。東端では 47 号溝を切る。溝は東西方向に延び、長さ 2.9 m、幅 0.2 ～ 0.4 m、深さ 0.1 mを測る。断面の形状は逆台形で、底面は平坦である。埋土は灰褐色土である。

**47 号溝**（第 60 図、図版 53）

調査区中央の東寄りに位置し、46 号溝の西側で検出する。46 号溝には切られるが、南側の 93 号土坑の上面を切る。溝は南北方向に延び、長さ 2.6 m、幅 0.5 ～ 0.7 m、深さ 0.1 mを測る。断面の形状は逆台形で、底面は平坦である。埋土は灰褐色土である。

**48 号溝**（第 60 図）

調査区東側に位置し、47 号溝の東側で検出する。南側の 85 号土坑に切られるが、溝は南北方向に延び、長さ 5.0 m、幅 0.4 ～ 0.6 m、深さ 0.1 mを測る。断面の形状は逆台形で、底面は平坦である。埋土は灰褐色土である。




第 60 図　B 区 18・44 ～ 48・51 号、C 区 32 ～ 37・40 ～ 43 号溝実測図（1 /40）

**51 号溝**（第 60 図、図版 54）

調査区中央の北壁際に位置し、45・50 号溝の間で検出する。調査区北壁外まで延びるが、長さ 4.5 m以上、幅 0.9 m前後、深さ 0.45 mを測る。北壁際では西側で折れ曲がり、幅が 2.3 mの逆Ｌ字状になる。断面の形状は逆台形で、底面は平坦である。埋土は灰色粘質土である。

Ｃ区

**38 号溝**（第 57 図、図版 52）

調査区西壁際に位置し、西壁際で検出したため全容は把握できない。溝は南北方向に延び、長さ 7.5 m以上、幅 1.0 m以上、深さ 0.45 mを測る。２つの調査区に跨るため、掘削できていない部分も多いが、断面の形状は逆台形状か。埋土は灰褐色土で、下層はさらに粘質が強くなる。

**39 号溝**（第 57 図、図版 52）

調査区西側に位置し、38 号溝の東側で検出する。38 号溝に切られるが、東西方向に延び、長さ 4.6 m、幅 1.8 ～ 3.0 m、深さ 0.65 mを測る。断面の形状は垂直に傾斜する長方形状で、底面は傾斜し、中央部分が最も窪む。埋土の上層は灰褐色土が 0.4 m程堆積し、その下層に灰色粘質土に黄灰色粘質土が混じるなどの４層で構成する。

**32 号溝**（第 60 図、図版 51）

調査区西側に位置し、38 号溝の東側で検出する。37 号溝と中央部分の 39 号溝を切る。溝は調査区北壁外まで南北方向に延び、長さ 7.4 m以上、幅 0.7 ～ 0.9 m、深さ 0.3 mを測る。断面の形状は緩やかな逆台形で、底面はなだらかである。埋土は２層に分層でき、上層は灰褐色土、下層は灰色粘質土が堆積する。

**33 号溝**（第 60 図、図版 51）

調査区中央に位置し、32 号溝の東側で検出する。北側の 70 号土坑と南側の 36 号溝に切られる。溝は調査区北壁外まで南北方向に延び、長さ 5.5 m以上、幅 1.4 ～ 2.4 m、深さ 0.35 mを測る。断面の形状は逆台形で、底面は平坦ではなく凸凹がある。埋土の上層は灰色土で、下層の灰色粘質土との間に、緑灰色粘質土が堆積する。

**34 号溝**（第 60 図、図版 52）

調査区中央西寄りに位置し、32 号溝の東側で検出する。北側の 67 号土坑と南側の 66 号土坑に切られ、西側の 41 号溝に繋がる可能性がある。溝は南北方向に延びるが、周囲を土坑や溝に切られていて、溝の長さは不鮮明である。溝の大きさは長さ 2.3 m以上、幅 0.9 m前後、深さ 0.25 m以下を測る。断面の形状は方形で、底面は平坦である。埋土は２層に分層でき、暗褐色土に炭や黄灰色粘質土の混入具合で分層する。

35 号溝（第 60 図、図版 52）

調査区南西隅に位置し、38 号溝の南側で検出する。溝は調査区南壁際まで南北方向に延び、長さ 3.4 m、幅 0.4 m前後、深さ 0.25 mを測る。断面の形状は逆台形で、底面は平坦である。埋土は灰褐色土である。

36 号溝（第 60 図、図版 52）

調査区中央に位置し、33 号溝の西側で検出する。溝は 33 号溝を切り、東西方向に延び、長さ 4.2 m、幅 0.5 m、深さ 0.15 mを測る。断面の形状は逆台形で、底面は平坦である。埋土は灰褐色土である。

37 号溝（第 60 図、図版 51）

調査区西側に位置し、32 号溝の東側で検出する。溝は 32 号溝に切られ、調査区南北壁外まで南北方向に延び、長さ 15.3 m以上、幅 0.5 m前後、深さ 0.2 mを測る。32 号溝に切られているが、断面の形状は緩やかな逆台形か。埋土は、灰褐色土と灰褐色土に黄灰色粘質土が混じる２層に分層できる。

40・41 号溝（第 60 図）

調査区中央西寄りに位置し、37 号溝の東側で検出する。41 号溝は 40 号溝の北側で検出し、40 号溝を切る。40 号溝は調査区南壁外まで南北方向に延び、長さ 7.6 m以上、幅 0.5 m前後、深さ 0.1 mを測る。41 号溝は北側で 66 号土坑に切られるが、これも南北方向に延び、長さ 5.2 m、幅 0.3 ～ 0.5 m、深さ 0.15 ～ 0.3 mを測る。断面の形状はいずれも逆台形で、底面は平坦である。埋土は灰褐色土である。

42 号溝（第 60 図）

調査区中央東寄りに位置し、33 号溝の東側で検出する。溝は 33 号溝に切られるが、東西方向に延び、長さ 1.2 m、幅 0.4 m、深さ 0.2 mを測る。断面の形状は逆台形で、底面は平坦である。埋土は灰褐色土である。

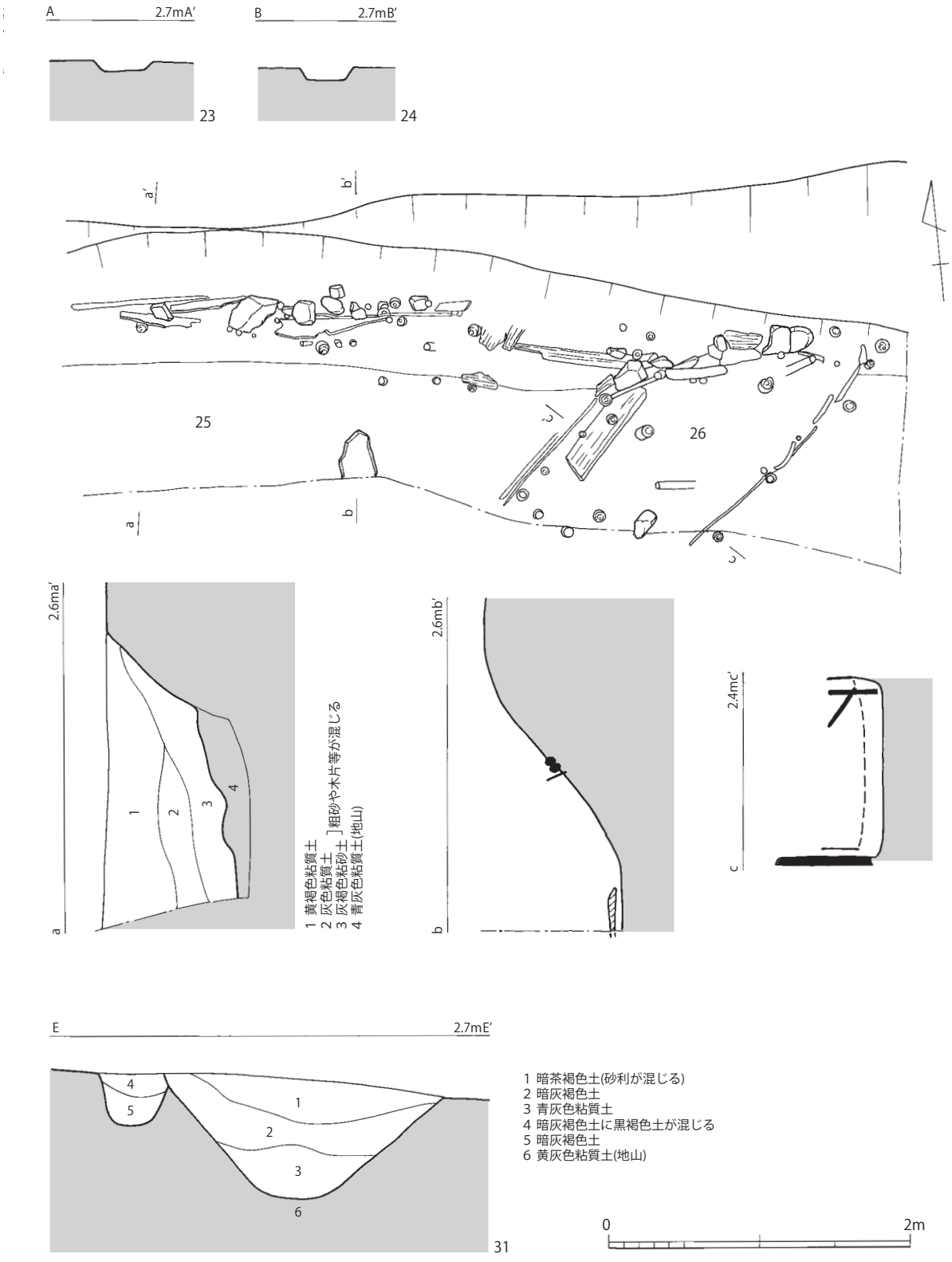
43 号溝（第 60 図、図版 52）

調査区東側に位置し、42 号溝の東側で検出する。溝の内部からは、８号掘立柱建物の礎板を検出する。溝は南北方向に延び、長さ 3.1 m、幅 0.4 ～ 0.9 m、深さ 0.35 mを測る。断面の形状は急傾斜な逆台形で、底面は平坦である。埋土は灰褐色土である。

Ｄ区

23 号溝（第 61 図、図版 49）

調査区西側に位置し、25 号溝の北側で検出する。溝の南側は 25 号溝に切られ、溝は北側の途中で切れて２つに分かれる。溝は南北方向に延び、長さ 1.8 mと 6.4 m、幅 0.25 mと 0.4 m前後、深さ 0.1 m以下を測る。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は灰褐色土である。




第 61 図　D区 23 ～ 26・31 号溝実測図（1 /40）

**24 号溝**（第 61 図）

調査区西側に位置し、23 号溝の東側で検出する。溝は北側で消失するが、南北方向に延び、長さ 1.5 m、幅 0.4 m、深さ 0.1 m以下を測る。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は 23 号溝と同様な灰褐色土である。

**25・26・31 号溝**（第 61 図、図版 49・50）

調査区西側に位置し、25・26 号溝は南壁際、31 号溝は調査区南北壁外まで延びる。25・31 号溝は調査の進捗状況により、別々に掘削したため別番号を付したが、本来は同一の溝である。26 号溝は 25 号溝内で、杭や板材により区画された溝に番号を付した。

調査区南壁際で検出したため、25 号溝は溝幅の 1 / 2 以下しか検出できていない。溝は東西方向に延び、長さ 12.0 m、幅 2.6 m以上、深さ 0.75 m以上を測る。25 号溝の東側で合流する 31 号溝は、調査区南北壁外まで南北方向に延び、長さ 13.0 m以上、幅 2.0 ～ 3.9 m、深さ 0.75 mを測る。断面の形状は 31 号溝で緩やかな逆三角形状で、底面の中央が最も低くなる。25 号溝の埋土は黄褐色粘質土と灰色や灰褐色粘質土に青灰色粘質土が混じる。東側の 31 号溝の埋土は 3 層に分層でき、暗茶褐色土や暗灰褐色土と青灰色粘質土が堆積する。西側の 31 号溝内の埋土は暗灰褐色土や黒褐色土が堆積する。

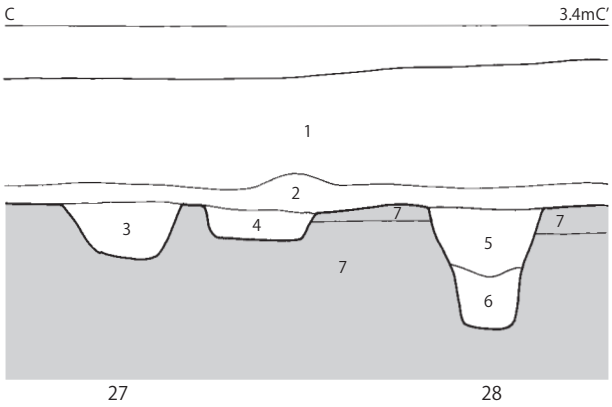
25 号溝の北斜面には、長さ 1.0 m以下の横板を設置し、それが動かないように径 0.1 m前後の杭や 0.1 ～ 0.4 mの大きさの石で板の前後を固定する。25 号溝の底面東側では先述した横板と杭列とは別に、北東～南西方向に横板と杭で構成された 26 号溝が、長さ 1.7 m以上、幅 1.2 m、深さ 0.7 m以下を測る。ここも長さ 0.7 m以下、高さ 0.25 m、厚み 0.03 mの横板の前後を径 0.1 m程の杭で固定し、南側に向けて排水していたのかも知れない。

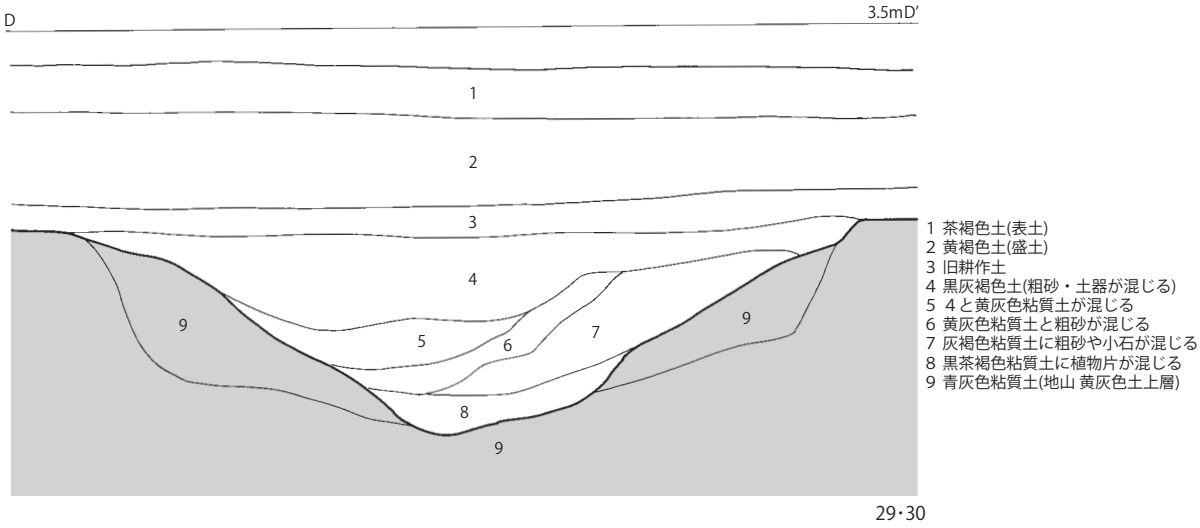
**27・28・29・30 号溝**（第 62 図、図版 50）

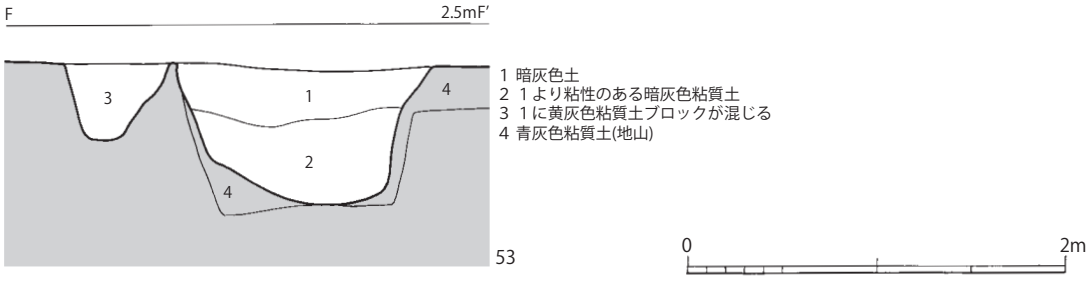
調査区中央北壁寄りに位置し、31 号溝の東側で検出する。南側にある 27・28 号溝は北側の 29 号溝に合流し、29 号溝は幅広い溝となる。また北壁際の 29 号溝が、一段下がる部分を 30 号溝としたため、本来は同じ溝である。27・28 号溝は南側のコンクリート基礎まで南北方向に延び、長さ 4.6 m、3.8 m、幅は共に 0.5 m、深さ 0.3 m、0.6 mを測る。南側の 64 号溝に合流する可能性がある。北側の 29 号溝の合流部分は、幅 1.0 mと拡幅する。29 号溝は長さ 4.0 m、幅 2.4 ～ 4.0 m、深さ 0.3 ～ 0.4 mを測る。30 号溝は長さ 1.5 m、幅 1.3 m、深さ 1.0 mを測る。断面の形状は 27・28 号溝で逆台形状、29・30 号溝は逆三角形状に近いが、底面はいずれも平坦である。27・28 号溝の埋土は灰色粘質土、29・30 号溝は黄灰色粘質土や灰褐色粘質土、黒茶褐色粘質土が堆積する。南側の浅い 27・28 号溝から北側の深い 29・30 号溝に水が流れていたか。

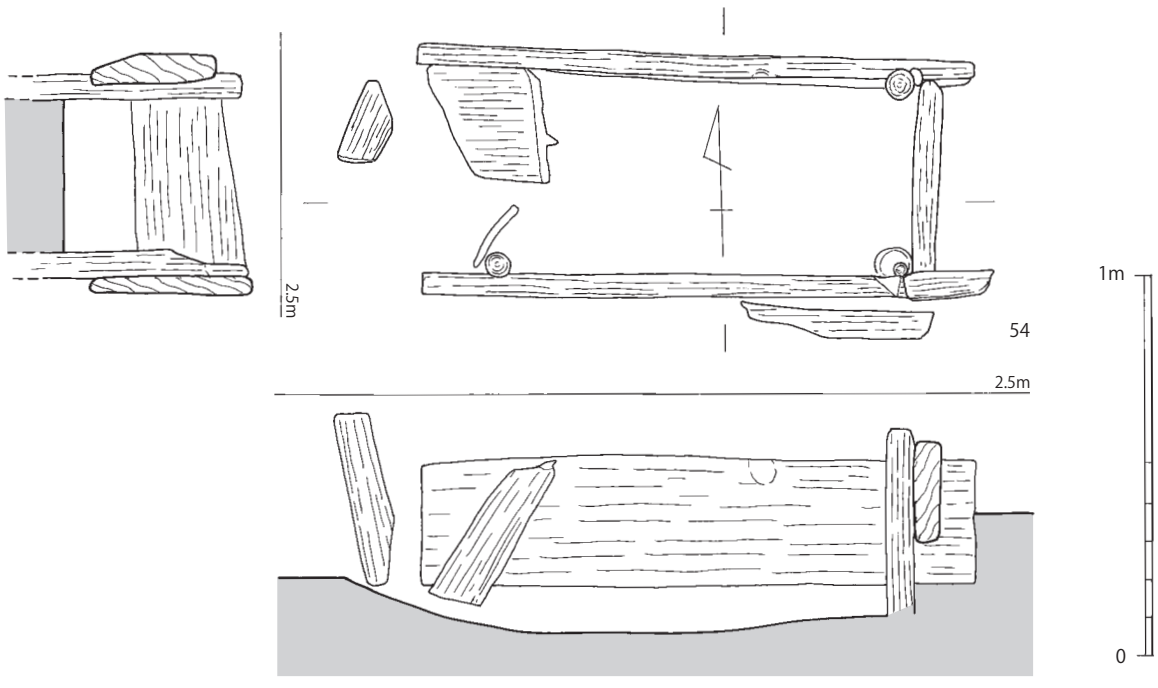
**53 号溝**（第 62 図、図版 55）

調査区東側に位置し、54 号溝の北側で検出する。溝の南側では 104・105 号土坑を切る。溝は調査区南北壁際までやや蛇行しながらも南北方向に延び、長さ 6.3 m以上、幅 1.2 ～ 2.4 m、深さ 0.35 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は緩やかに窪む。埋土は 2 層に分層でき、暗灰色土や暗灰色粘質土が堆積する。

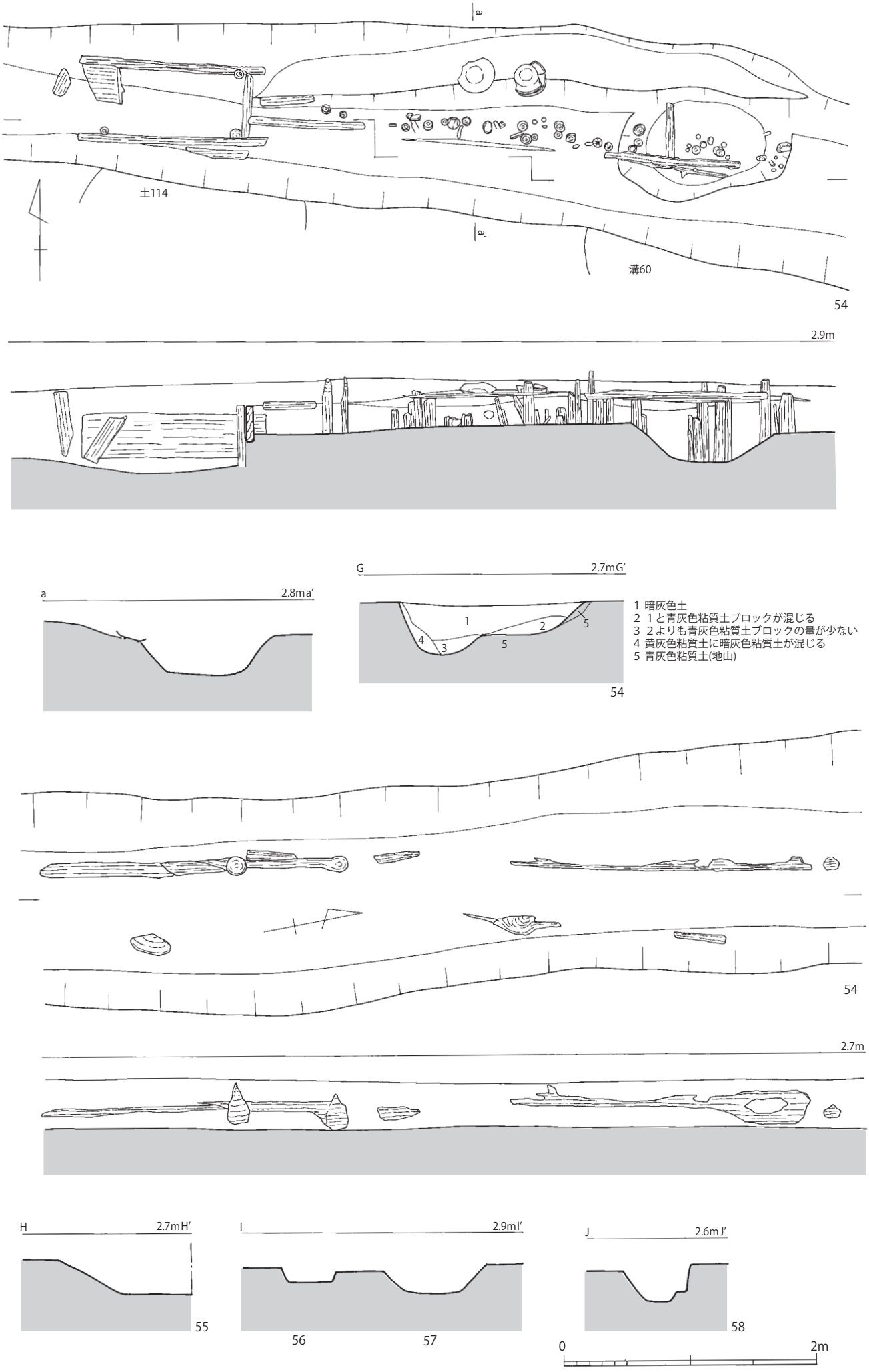


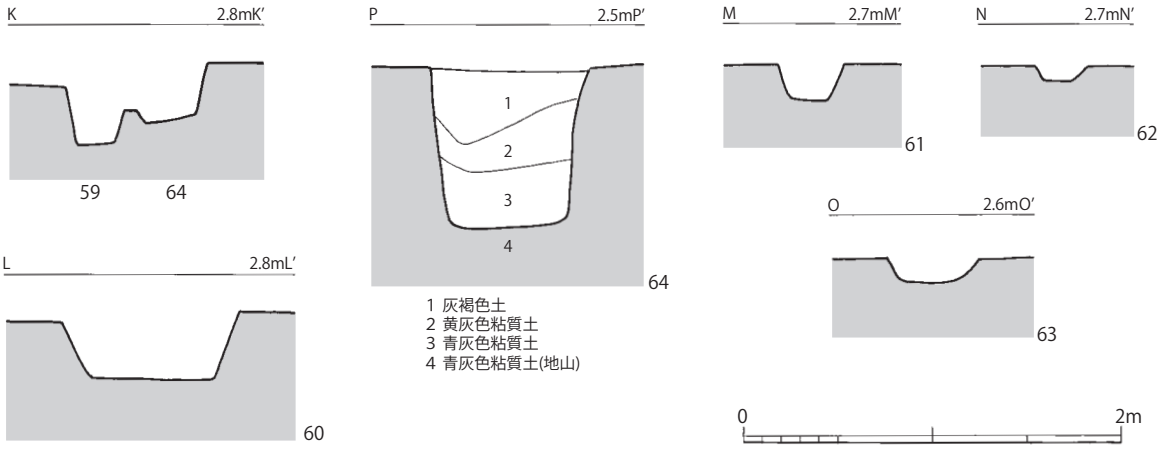




第 62 図　D区 27 ～ 30・53・54 号溝実測図（54 は 1 /20、他は 1 /40）




第 63 図　D区 54 ～ 58 号溝実測図（1 /40）




第 64 図　D区 59 ～ 64 号溝実測図（1/40）

**54 号溝**（第 62・63 図、図版 55・56）

調査区東側に位置し、53 号溝の南側で検出する。溝は調査区東壁まで東西方向に延び、東壁際で 55 号溝と合流する。西側はＬ字状に南側へ屈曲するが、そのまま南壁までは続かず 0.7 m幅の陸橋になる。この陸橋より南側も溝が続くことから、54 号溝南として同一の溝と判断した。長さ 21.0 m以上、幅 1.1 ～ 1.9 m、深さ 0.35 mを測る。断面の形状は緩やかな逆台形状や階段状で、底面は平坦である。埋土は、暗灰色土に黄灰色や青灰色粘質土が混じる。溝の北側のテラスに、大皿が２枚出土する。

溝の西側の底面には、長さ約 20 mの範囲に多数の径 0.4 m以下の杭を打ち、その杭の上面に横木を設置する。この部分の東側は長軸 0.7 m、短軸 0.45 m、深さ 0.15 mの長円形状の窪みがある。西側は木製の板材を組み合わせた溜枡を設置する。溜枡の横板は縦 0.17 m、横 0.74 m、厚さ 0.03 mを測る。縦板は縦 0.25 m以上、横 0.25 m、厚さ 0.03 mを測る。横板に縦板を打ち込み、さらにその内側の四隅に径 0.05 mの杭で固定する。検出の際には西側の板材は割れて破損していた。

**55 号溝**（第 63 図、図版 56）

調査区東壁際に位置し、54 号溝の東側で検出する。調査区東壁際で検出したため、全容は把握できないが、南北方向に延びて 54 号溝と合流する。北側の 53 号溝との関係は電柱があり掘削しておらず不明である。溝は長さ 4.5 m以上、幅 1.0 m以上、深さ 0.25 mを測る。断面の形状は緩やかに傾斜し、底面は平坦である。埋土は 54 号溝と同様であることから同一の溝の可能性がある。54 号溝との合流部分は幅が 3.0 m以上となる。

**56・57 号溝**（第 63 図、図版 56）

調査区東側の南壁際に位置し、54 号溝の南側で検出する。２つの溝は北側で 54 号溝と合流するが、南側は調査区南壁外まで南北方向に延びる。東側の 56 号溝は長さ 4.2 m以上、幅 0.5 m前後、深さ 0.1 m以下を測る。西側の 57 号溝は長さ 3.8 m、幅 0.8 ～ 0.9 m、深さ 0.25 mを測る。断面の形状は逆台形状で、57 号溝の底面は中央に向かって窪む。２つの溝の埋土は暗灰色土である。

57 号溝内は溝の側面に板材を横方向に置き、それを支える杭を 0.4 m間隔で設置していた。西側に設置された板材は腐食し、大きく２箇所に分けられる。残存部分では長さ 1.2 m、幅 0.05 m、高さ 0.15 m以下を測る。東側は残存状況が悪く、板材片が数箇所残存するのみであった。本来は溝の両側面に設置していた可能性がある。

**58 号溝**（第 63 図、図版 56）

調査区東側の中央に位置し、54 号溝の北側で検出する。溝は 107 号・116 号土坑を切る。調査区東壁外まで東西方向に延び、長さ 7.8 m以上、幅 0.5 m前後、深さ 0.3 mを測る。断面の形状は階段状で、底面は平坦である。埋土は灰色粘質土である。

**59・64 号溝**（第 64 図、図版 56・57）

調査区東側の中央に位置し、58 号溝の西側で検出する。59 号溝は東側を 107 号土坑に切られるが、西側は 64 号溝に切られる。59 号溝は東西方向に延び、長さ 6.5 m、幅 0.4 m、深さ 0.2 mを測る。59 号溝を切る 64 号溝は東西方向に延び、長さ 13.0 m、幅 0.5 m前後、深さ 0.2 mを測る。西側では北側へと向きを変え、さらに深さ 0.2 m程深く掘削されてＬ字状になる。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。64 号溝の埋土は灰褐色土である。

**60 号溝**（第 64 図、図版 56）

調査区東側の南寄りに位置し、54 号溝の南側で検出する。溝は 54 号溝に切られるが、やや北寄りの東西方向に延び、長さ 4.0 m、幅 0.9 m前後、深さ 0.3 mを測る。断面の形状は逆台形で、底面は平坦である。埋土は灰色粘質土である。

**61 号溝**（第 64 図、図版 57）

調査区西側の南寄りに位置し､31 号溝の南側で検出する。溝は 31 号溝に切られるが､南北方向に延び、長さ 4.0 m、幅 0.4 m、深さ 0.2 mを測る。断面の形状は逆台形で、底面は平坦である。埋土は灰褐色土である。

**62 号溝**（第 64 図、図版 57）

調査区西側の北寄りに位置し､31 号溝の西側で検出する。溝は 31 号溝に切られるが､東西方向に延び、長さ 1.5 m、幅 0.3 m、深さ 0.1 mを測る。断面の形状は逆台形で、底面は平坦である。埋土は 61 号溝と同様な灰褐色土である。

**63 号溝**（第 64 図、図版 57）

調査区中央に位置し、29 号溝の西側で検出する。溝はコンクリート基礎に破壊されるが、南北方向に延び、長さ 2.2 m、幅 0.5 m、深さ 0.1 mを測る。断面の形状は緩やかな逆台形で、底面は中央に向かって下がる。埋土は灰色粘質土である。

Ｅ区

**65 号溝**（第 65 図、図版 57）

調査区南東隅に位置し、12 号建物の南側で検出する。溝の東側は、調査区東壁際まで東西方向に延びるが、西側は 124 号土坑に切られる。長さ 6.8 m以上、幅 1.35 ～ 1.5 m、深さ 0.6 mを測る。溝の西側付近では、幅が狭くなる。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は灰色粘質土に緑灰色粘

質土が混じる。

**66 号溝**（第 65 図、図版 57）

調査区南東隅に位置し、65 号溝の南側で検出する。溝は西側にある 124 号土坑に切られるが、東西方向に延び、長さ 4.4 m、幅 0.3 m、深さ 0.15 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は灰色粘質土である。溝の位置関係から、72 号溝と同一の可能性もある。

**67 号溝**（第 65 図、図版 58）

調査区中央に位置し、72 号溝の北側で検出する。溝は、調査区北壁際まで南北方向に延び、長さ 6.9 m以上、幅 0.4 m、深さ 0.2 m以下を測る。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は灰色土である。

**68 号溝**（第 65 図、図版 58）

調査区中央に位置し、67 号溝の東側で検出する。溝は南側を 72 号溝に切られるが南北方向に延び、長さ 6.3 m、幅 0.2 ～ 0.6 m、深さ 0.3 m以下を測る。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は３層に分層でき、暗褐色土に黄灰色や青灰色粘質土が混じる。

**69 号溝**（第 65 図、図版 58）

調査区中央に位置し、68 号溝の東側で検出する。溝は南側を 72 号溝に切られるが南北方向に延び、長さ 2.3 m、幅 0.5 m前後、深さ 0.2 mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は灰色土である。

**70 号溝**（第 65 図、図版 58）

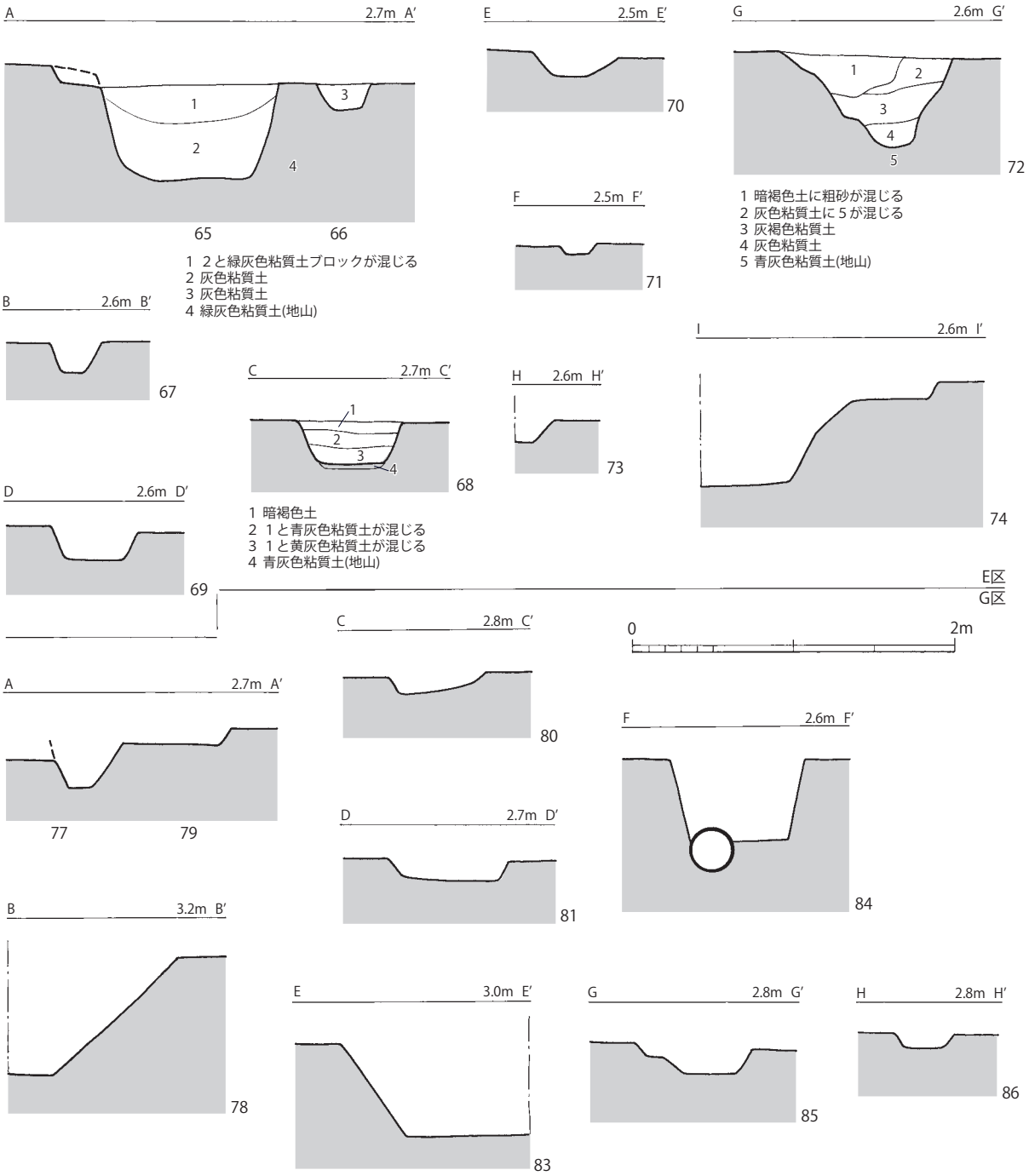
調査区中央の東寄りに位置し、69 号溝の東側で検出する。溝は、調査区南北壁際まで南北方向に延び、長さ 9.4 m以上、幅 0.5 m、深さ 0.15 m以下を測る。断面の形状は緩やかな逆台形状で、底面は平坦である。埋土は灰色土である。

**71 号溝**（第 65 図）

調査区中央の東寄りに位置し、70 号溝の東側で検出する。溝は東側を 124 号土坑、西側を 70 号溝に切られるが東西方向に延び、長さ 1.6 m、幅 0.2 m以下、深さ 0.1 m以下を測る。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は灰色土である。

**72 号溝**（第 65 図、図版 58）

調査区南側に位置し、67 ～ 69 号溝の南側で検出する。溝は、122・124・128・130 号土坑と 70 号溝に切られるが、東西方向に延び、長さ 19.2 m、幅 0.6 ～ 1.2 m、深さ 0.55 mを測る。断面の形状は逆三角形で、底面に向かって尖る。埋土は暗褐色土・灰色粘質土・灰褐色粘質土である。




第 65 図　E 区 65 ～ 74 号、G 区 77 ～ 81・83 ～ 86 号溝実測図（1 /40）

**73 号溝**（第 65 図）

調査区北西隅に位置し、126 号土坑の西側で検出する。溝は、調査区北壁と西壁際で検出したため全容は把握できないが、南北方向に延び、長さ 2.0 m以上、幅 0.3 m以上、深さ 0.15 m以下を測る。残存状況から断面の形状は逆台形状で、底面は平坦か。埋土は灰色粘質土である。

**74 号溝**（第 65 図）

調査区南西隅に位置し、72 号溝の南側で検出する。溝は、調査区西壁から南壁際まで東西方向に延び、長さ 6.5 m以上、幅 0.8 m以上、深さ 0.65 mを測る。溝は北側で少し乱れて、テラス状になるが、概ね断面の形状は逆台形状で、底面は中央に向かって下がる。埋土は灰色粘質土である。

F区については、土坑の頁で説明している。

G区

82号溝は、現代の建物基礎の布掘り遺構に番号を付したので除外する。

**77・79号溝**（第65図、図版58）

東調査区の中央に位置し、149号土坑の東側で検出する。77号溝が埋没後に、79号溝が再度掘り直されている。いずれも東西方向に延びるが、77号溝は長さ15.2m、幅0.2～1.2m、深さ0.3mを測る。79号溝は77号溝の南側へ0.5～0.7m拡幅され、溝幅は77号溝幅を足した1.1m、長さ12.8m、深さ0.1mを測る。断面の形状はいずれも逆台形で、底面は平坦である。埋土は暗褐色土で、掘削の際に両溝の埋土の差があまり判別できなかった。79号溝の長さは、さらに77号溝の西側まで延びる可能性がある。

**78号溝**（第65図、図版58）

西調査区の東側に位置し、調査区南壁際で検出する。調査区際で検出したため、全容は把握できていいない。溝は東西方向に延び、長さ3.8m以上、幅1.0m以上、深さ0.7mを測る。断面の形状は逆台形状で、底面は平坦である。南壁際での土層観察から、埋土は暗灰色粘質土に黄灰色粘質土ブロックが混じる。

**80号溝**（第65図）

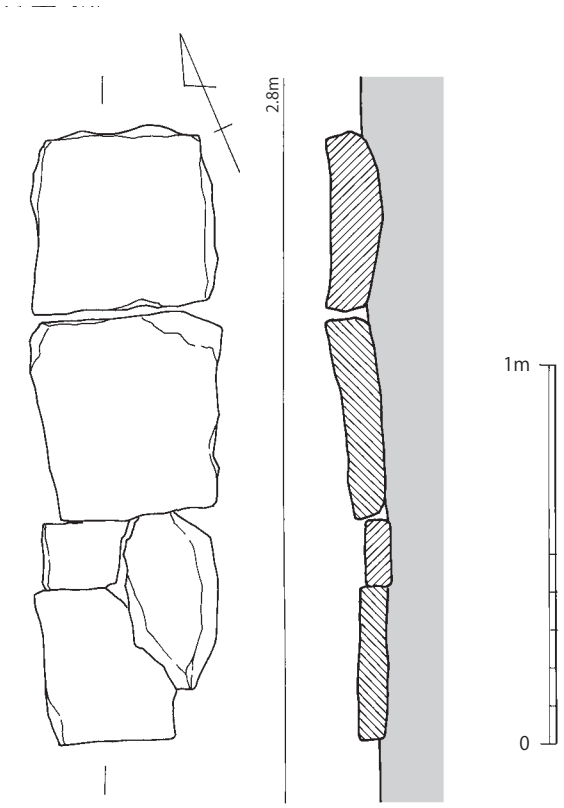
東調査区の西側に位置し、77号溝の南側で検出する。北側の77号溝に切られ、その溝へ向かって下がる。溝は南北方向に延び、長さ3.7m、幅0.5～0.9m、深さ0.1mを測る。断面の形状は逆台形状で､底面は東側へ傾く。埋土は77･79号溝と同じ、暗褐色土である。

**81号溝**（第65図）

東調査区の中央南寄りに位置し、80号溝の東側で検出する。北側の151号土坑と南側の14号礎石建物に切られる。溝は南北方向に延び、長さ5.0m、幅0.7～0.9m、深さ0.1mを測る。断面の形状は逆台形で、底面は平坦である。埋土は灰色土と黄灰色粘質土が混じる。

**83号溝**（第65図）

西調査区の東側に位置し、78号溝の北側で検出する。調査区東壁際で検出したため全容は不明だが、




第66図　G区石敷遺構実測図（1/20）

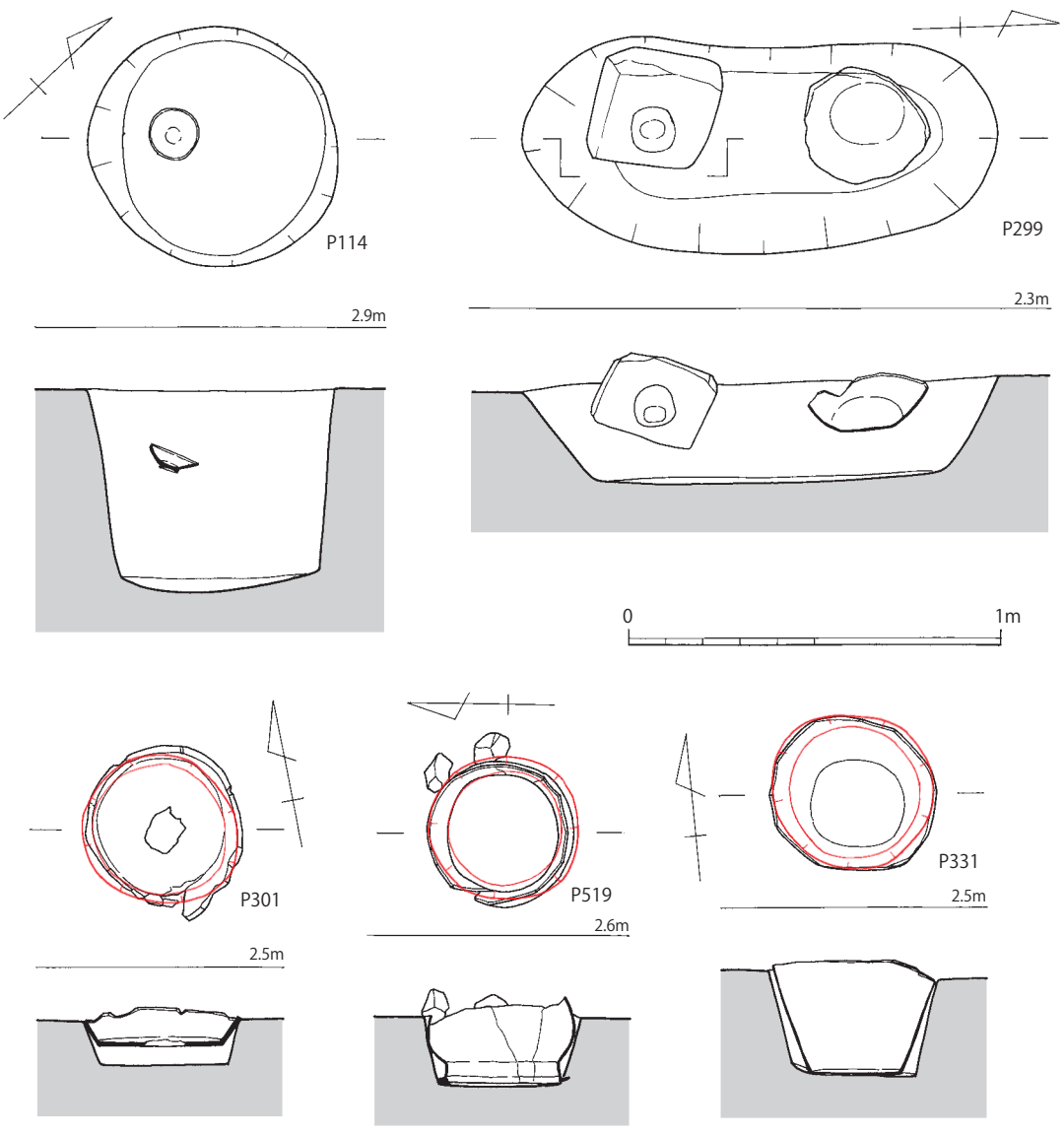
南側を 147 号土坑に切られる。溝は東寄りの南北方向に延び、長さ 6.0 m以上、幅 1.9 m、深さ 0.55 m を測る。断面の形状は逆台形で、底面は平坦である。埋土は暗褐色土である。

**84 号溝**（第 65 図、図版 58）

東調査区の東側に位置し、158 号土坑の東側で検出する。北側にある 162 号土坑を切る。溝は南北方向に延び、長さ 12.7 m、幅 0.4 ～ 0.8 m、深さ 0.5 mを測る。断面の形状は逆台形で、底面は平坦である。埋土は灰色粘質土である。溝内には長さ 0.6 m、幅 0.3 m、厚さ 0.05 m以下の陶管が、接合部を南向きに埋設されていた。南側からの水を北側の堀へと送水していたと思われる。住宅基礎の丸太材により破壊されていたが、現在も水が絶え間なく流れていたため、陶管の回収は行っていない。

**85 号溝**（第 65 図）

東調査区の中央に位置し､77 号溝の北側で検出する。溝は南側の 86 号溝と合流する。南北方向に延び、長さ 3.2 m、幅 0.55 ～ 0.7 m、深さ 0.15 mを測る。断面の形状は北側のみ階段状で、底面は平坦である。埋土は灰色粘質土である。




第 67 図　A区P 114・299・301、B区P 519、D区P 331 実測図（1 /20）

**86 号溝**（第 65 図）

東調査区の中央に位置し、77 号溝の北側で検出する。溝は東西方向に延び、長さ 11.0 m、幅 0.3 ～ 0.4 m、深さ 0.1 mを測る。断面の形状は逆台形で、底面は平坦である。埋土は灰色粘質土である。85 号溝とは埋土の差がなかったので、同時期の溝か。

４．石敷遺構（第 66 図、図版 59）

G 区東調査区の中央北寄りに位置し、86 号溝の北側で検出する。検出した石は 1 辺 0.45 ～ 0.6 m、厚さ 0.15 m以下を測る。３枚の石は南北方向に縦向きに並べられ、長さ 1.6 m、幅 0.5 m前後のみ残存していた。石の表面は平坦に割られていて、標高 2.6 ～ 2.7 mの間で水平を意識して設置されていた。南側の石は、土圧により割れていた。石材は花崗岩を使用する。

５．ピット（第 67 図、図版 59）

A 区 P 114 は調査区東側中央に位置し、4・5 号溝の間で検出する。形状は円形で、径 0.6 m、深さ 0.55 mを測る。断面の形状は方形に近い逆台形で、底面は中央に向かって窪む。埋土は灰色粘質土で、上層から瓦器椀の完形品が 1 点出土する。

A 区 P 299 は調査区西側中央に位置し、22 号溝の西側で検出する。形状は長円形で、長軸 1.28 m、短軸 0.55 m、深さ 0.25 mを測る。断面の形状は逆台形で、底面は平坦である。埋土は灰褐色土で、ピット上面からは、瓦質土器の鉢の底部と、中央に窪む石が出土する。

A 区 P 301 は調査区西側北寄りに位置し、P 299 の北西側で検出する。内底の中央を穿孔した甕片を検出し、掘り方の形状は円形で、径 0.4 m、深さ 0.1 mを測る。断面の形状は逆台形になるが、甕は底面より少し浮くことから、少し掘り過ぎの感がする。埋土は灰褐色土である。

B 区 P 519 は調査区東側北壁際に位置し、97 号土坑の南側で検出する。ピット掘削後に甕を逆さまに置き、甕の周囲を石で囲む。甕の体部中位から底部にかけては、消失する。掘り方の形状は円形で、径 0.4 m、深さ 0.2 m以下を測る。

D 区 P 331 は調査区西側中央に位置し、53 号土坑の南側で検出する。甕の口縁部から体部上位は欠損するが、体部中位から底部にかけてはピット内に残存する。掘り方の形状は円形で、径 0.4 m、深さ 0.3 m以下を測る。断面の形状は逆台形で、底面は平坦である。埋土は暗灰色粘質土である。

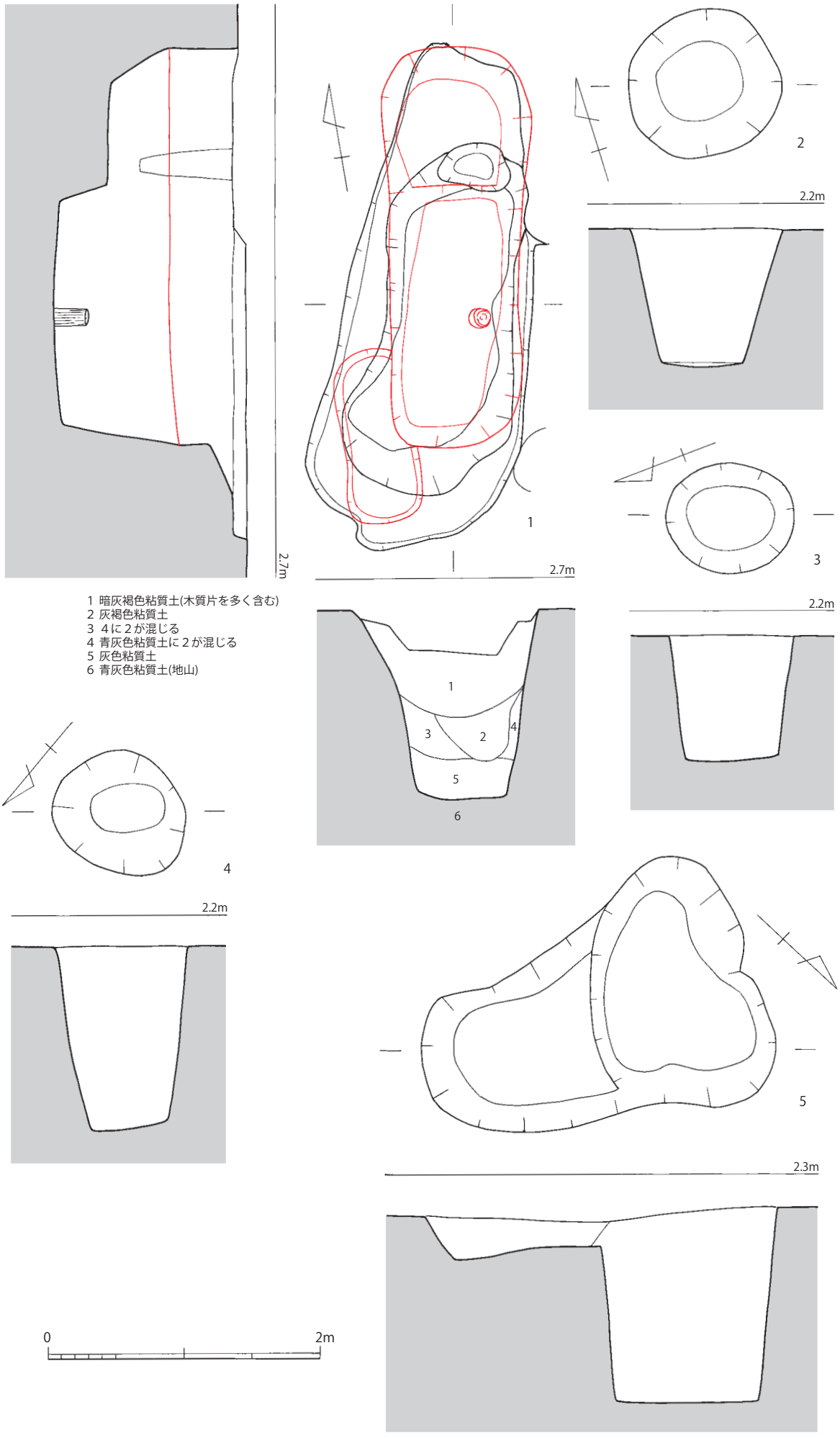
６．第２面の遺構（第 68・69 図、図版 59・60）

第１面は緑灰色粘質土を遺構面としたが、それより 0.5 m程下げた黄灰色粘質土を第２面として、A 区の東側とD区西側の、一部の範囲で検出した。他の場所では埋め戻しの際に、トレンチを入れたが遺構を検出することはできなかった。

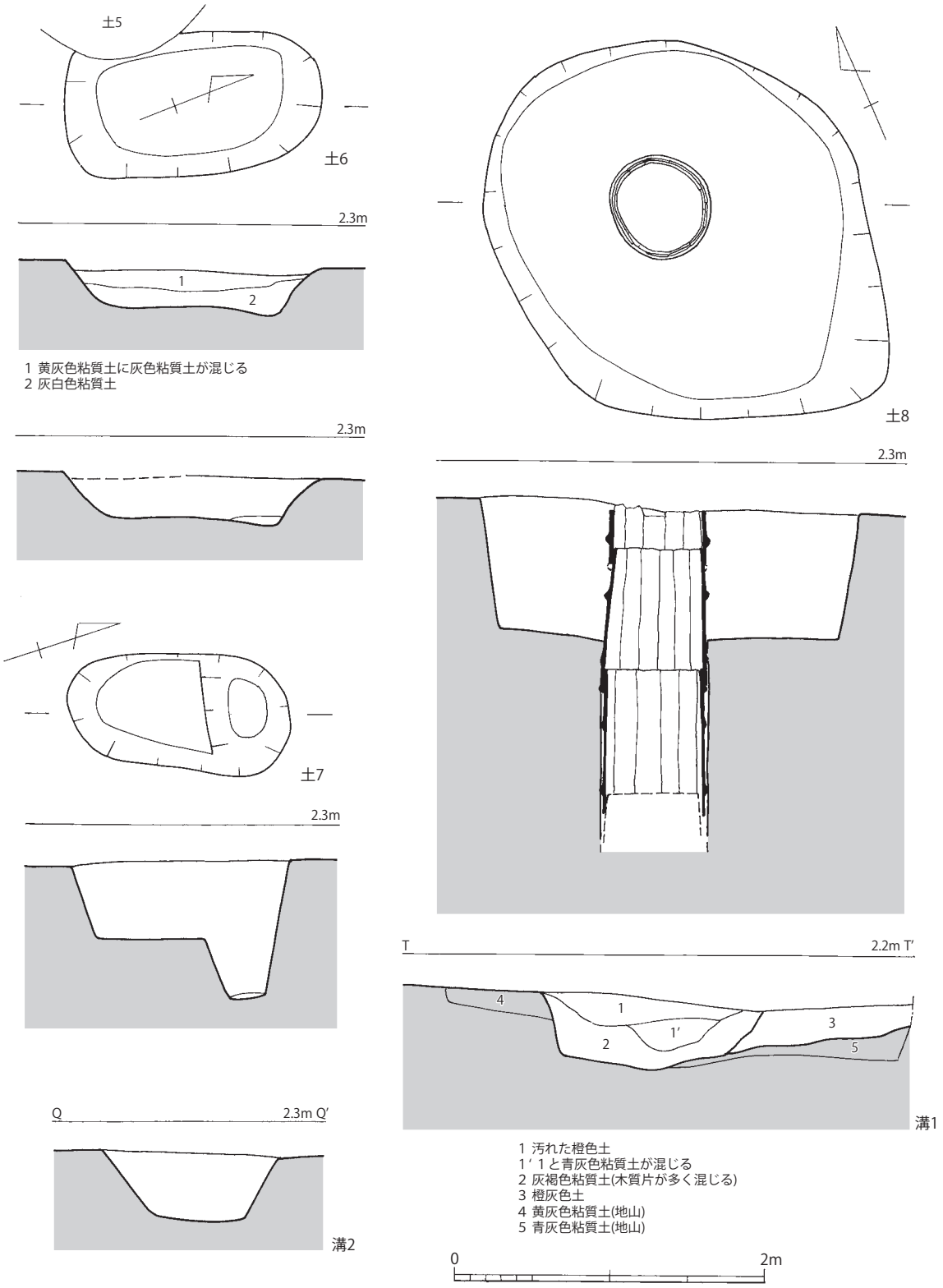
土坑

**１号土坑**（第 68 図、図版 59）

A 区東側北寄りに位置し、上面では遺構番号を付していない浅い窪み部分の下層で検出する。形状は隅丸長方形状で、長軸 3.3 m、短軸 1.0 m前後、深さ 0.8 mを測る。北側は検出面から深さ 0.4 mでテラスがあるが、南側は検出面から底面まで急傾斜になる。底面は平坦であるが、底面中央付近では、円形




第68図　第２面Ａ区１号、Ｄ区２～５号土坑実測図（１/40）




第 69 図　第２面Ｄ区６～８号土坑、Ａ区１号・Ｄ区２号溝実測図（１/40）

で径 0.15 ｍの杭を検出する。埋土は主に暗灰褐色粘質土と灰褐色～灰色粘質土が堆積する。

**２号土坑**（第 68 図、図版 59）

Ｄ区南側に位置し、南側の浅い溝を切る。形状は円形で、径 1.0 ｍ、深さ 1.0 ｍを測る。断面の形状は逆台形で、底面は平坦である。埋土の上層は暗褐色土、下層は灰色土に分層でき、底面付近からは瓦器椀が出土する。

**３号土坑**（第 68 図、図版 59）

Ｄ区南側に位置し、２号土坑の北東側で検出する。形状は長円形で、径 0.8 ～ 0.95 ｍ、深さ 0.9 ｍを測る。断面の形状は逆台形で、底面は平坦である。埋土は黒褐色土で、下層からは木質片が多く出土する。

**４号土坑**（第 68 図、図版 59）

Ｄ区南側に位置し、３号土坑の北側で検出する。形状は長円形で、径 0.9 ～ 1.0 ｍ、深さ 1.4 ｍを測る。断面の形状は逆台形で、底面は平坦である。埋土は暗褐色土である。

**５号土坑**（第 68 図、図版 59）

Ｄ区中央に位置し、４号土坑の北西側で検出する。形状は不整形で、長軸 2.6 ｍ、短軸 1.1 ～ 1.8 ｍ、深さ 1.4 ｍを測る。断面の形状は逆台形で、底面は平坦である。埋土は黒褐色粘質土である。当初、１基の遺構かと思われたが、西側の検出の際に屈曲があることから、２基の土坑が切り合っていた可能性がある。

**６号土坑**（第 69 図）

Ｄ区中央に位置し、５号土坑の東側で検出する。形状は長円形で、長軸 1.65 ｍ、短軸 0.9 ｍ、深さ 0.3 ｍを測る。断面の形状は逆台形で、底面は北側に下がる。埋土は２層に分層でき、黄灰色粘質土や灰白色粘質土が堆積する。

**７号土坑**（第 69 図、図版 60）

Ｄ区中央に位置し、５号土坑の北西側で検出する。形状は長円形で長軸 1.45 ｍ、短軸 0.75 ｍ、深さ 0.5 ～ 0.85 ｍを測る。断面の形状は階段状で、底面は平坦である。埋土は灰白色粘質土である。

**８号土坑**（第 69 図、図版 60）

Ｄ区北側に位置し、６号土坑の北側で検出する。木製の井戸枠で、掘り方の形状は長円形である。長軸 3.0 ｍ、短軸 2.4 ｍ、深さ 2.0 ｍ以上、井戸本体は円形で、径 0.55 ｍを測る。井戸枠の板材は縦 0.75 ｍ、横 0.15 ｍ、厚さ 0.05 ｍ以下の１枚の板材を縦向きに 18 枚並び繋げ、上下を竹のタガで縛り固定する。３段の井戸枠を確認し、上の井戸枠を下の井戸枠に被せるような構造である。掘り方の断面の形状は逆台形であるが、地山の判断が難しく、掘り過ぎている可能性がある。そのため、検出面から深さ 0.8 ｍまでしか掘削していないが、さらに井戸枠に向かって窄まりながら掘削していた可能性がある。掘り方の埋土は、黒青色粘質土に青灰色粘質土が混じる。

溝

**１号溝**（第 69 図、図版 60）

Ａ区東側の調査区東壁近くで検出する。溝は南北方向に延び、長さ 9.6 ｍ、幅 1.45 ｍ、深さ 0.5 ｍを測る。断面の形状は逆台形で、底面は中央部分が窪む。埋土は橙色土と灰褐色粘質土である。

**２号溝**（第 69 図、図版 60）

Ｄ区北側の調査区北壁際で検出する。溝は南北方向に延び、長さ 2.6 ｍ、幅 1.1 ｍ、深さ 0.45 ｍを測る。断面の形状は逆台形で、底面は中央部分が窪む。埋土は灰色粘質土に黄灰色粘質土が混じる。

## Ⅳ　おわりに

令和７年度の坂本町遺跡の報告書は、遺構編のみである。そのため、報告書作成時に出土遺物の検討を行うことができた遺構については、時期を中世と近世とに分けた。大きく２つの時期に分けた理由は、主な出土遺物の中に、中世以前の遺物はなく、多くは 11 世紀後半～ 12・13 世紀の瓦器椀や輸入陶磁器の白磁、青磁が出土するからである。また 16 世紀の中国産（漳洲・景徳鎮）の青花と朝鮮白磁なども出土するが、この遺跡での出土遺物の多くは 17 世紀～ 19 世紀にかけての近世陶器・磁器が出土することが現時点で判明しているからである。

なお、令和８～９年度に報告する遺物編での検討で、遺構の時期を変更する可能性がある。今後、刊行予定である坂本町遺跡遺物編をご一読していただきたい。



写真３　発掘調査にご協力していただいた方々
宮原眞助、四宮正行、松延憲一、村田雅巳、奥薗民介、實松誠志郎、
大江　稔、江藤光男、稗田勝好、江中喜夫、江中喜公、二村智治、
坂口八千代、舟越朝菜、坂口弘子、大淵文子、古賀安弥子
皆様のご協力により、無事調査を終了できました。

# 図　版



1　坂本町遺跡合成写真（真上から）



2　坂本町遺跡（A～C・F区）合成写真（真上から）

図版2







上1　坂本町遺跡周辺風景1（北から）　中2　坂本町遺跡周辺風景2（西から）　下3　坂本町遺跡周辺風景3（東から）



1　A区全景合成写真（真上から）

図版4







上1　A区東側（真上から）　　中2　A区中央（真上から）　　下3　A区西側（真上から）







上1　B区全景（真上から）　　中2　B区西側（真上から）　　下3　B区東側（真上から）

図版6





上1　C区全景（真上から）

下2　F区全景（真上から）





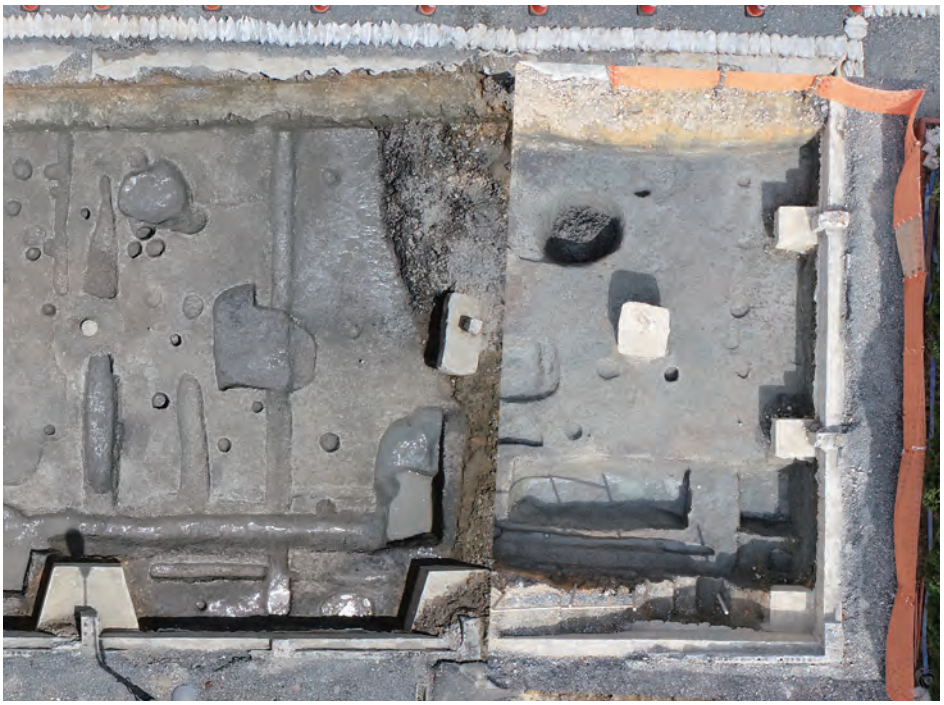


上1　D区全景（真上から）　　中2　D区西側（真上から）　　下3　D区東側（真上から）

図版8







上1　E区全景（真上から）　　中2　E区西側（真上から）　　下3　E区東側（真上から）





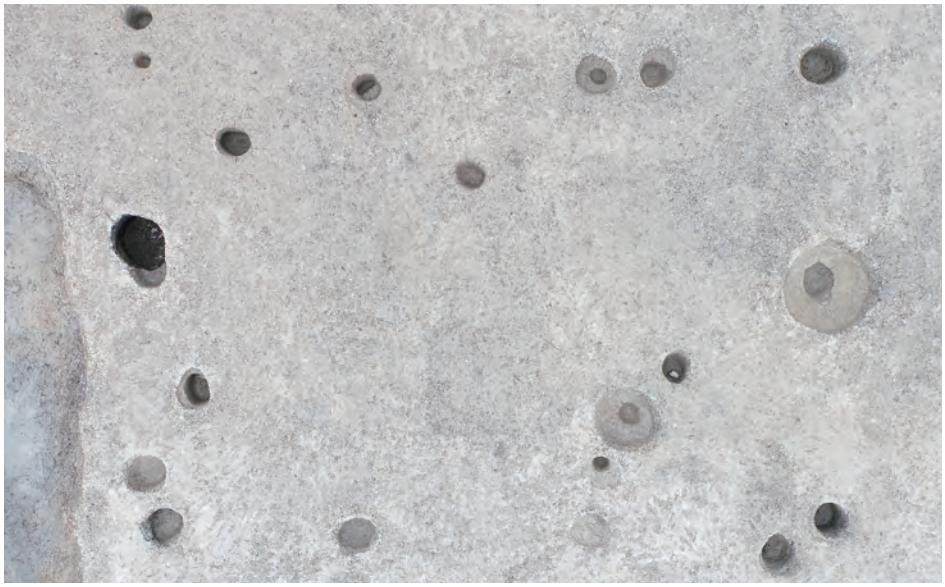


上1　G区全景（真上から）　　中2　G区西側（真上から）　　下3　G区東側（真上から）

図版 10



1　A区1号建物（真上から）



2　A区2号建物（真上から）



3　A区3号建物（真上から）

4　A区3号建物柱穴土層（西から）











上1　A区1～3号柵列
（真上から）



中2　B区4号建物、5～7・9・13・14号柵列
（真上から）



下3　B区5～7号建物、4・10・11・12・15号柵列
（真上から）





上1　B区8号柵列（真上から）

下 2　C区8号建物、16 ～ 23 号柵列（真上から）





左1　D区9・10号建物（真上から）
右2　D区24号建物（真上から）



3　D区11号建物（真上から）



4　E区12号建物（真上から）

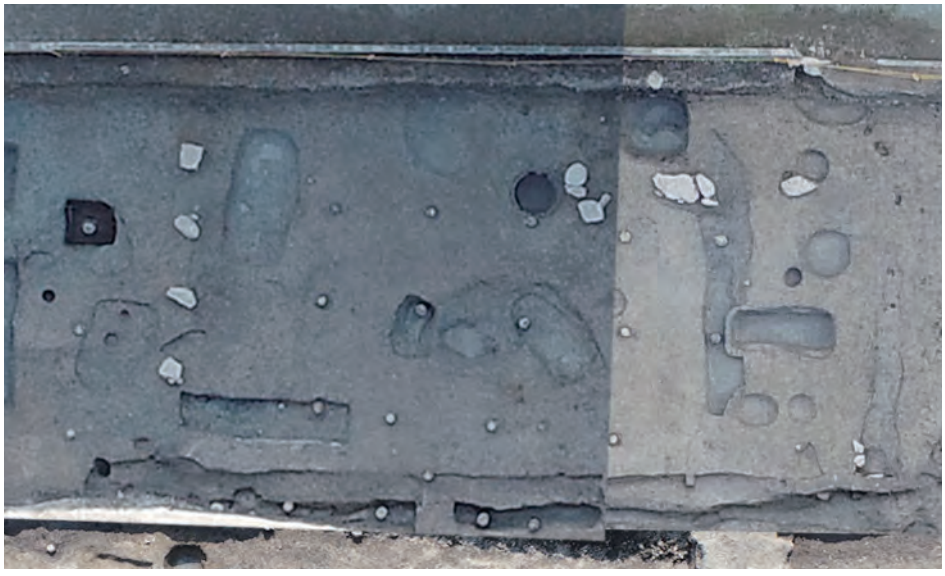
図版 14



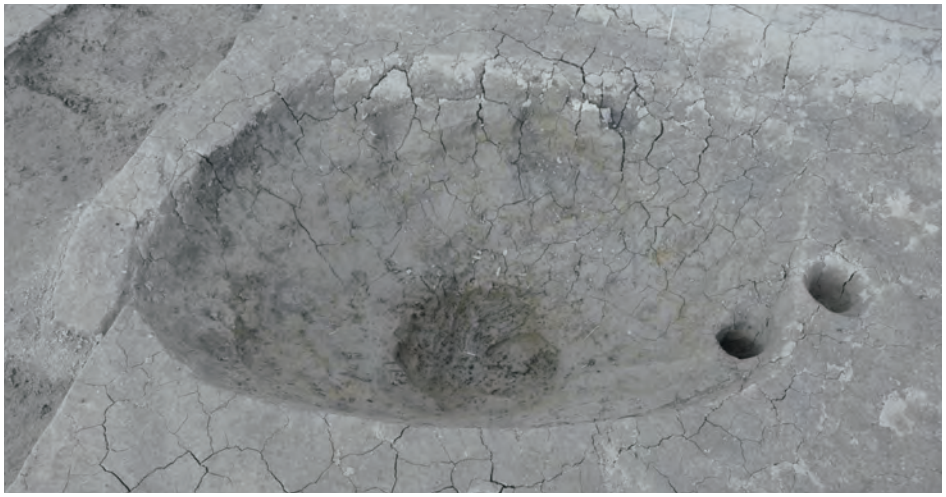
1　E 区 13 号建物（真上から）



2　F 区 25 ～ 27 号柵列（真上から）



3　G 区 14 号礎石建物（真上から）



1　A区1号土坑（南から）



2　A区2号土坑（南から）





左3　A区3号土坑（南から）
右4　A区3号土坑土層（南から）



5　A区4号土坑（南から）





左1　A区5号土坑（南から）
右2　A区6号土坑（南から）



3　A区7号土坑土層（南から）



4　A区7号土坑（南から）



5　A区8号土坑（北東から）



1　A 区9号土坑（南から）



2　A 区 10 号土坑土層（南から）





左3　A 区 11 号土坑（南から）
右4　A 区 12 号土坑（南から）



5　A 区 13 号土坑（南から）





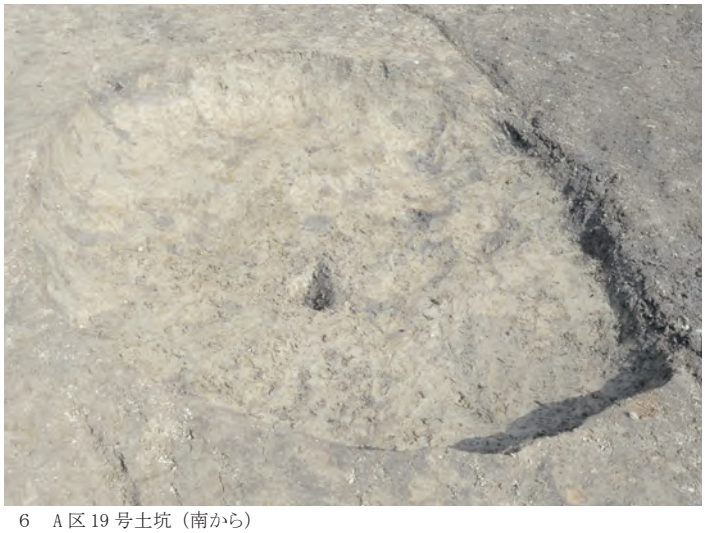


左1　A 区 14 号土坑（南から）
右2　A 区 14 号土坑井戸枠（南から）

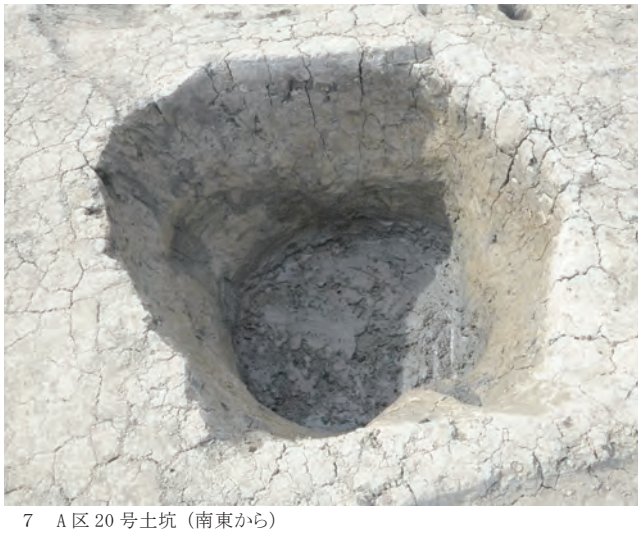
3　A 区 15 号土坑（南から）
下左4　A 区 17 号土坑（南から）
下右5　A 区号 18 号土坑（南から）







6　A 区 19 号土坑（南から）



7　A 区 20 号土坑（南東から）



1　A 区 21 号土坑土層（南から）



2　A 区 21 号土坑（南から）





左3　A 区 22 号土坑1（北から）
右4　A 区 22 号土坑2（西から）



5　A 区 23 号土坑（南から）









左1　A 区 24 号土坑（西から）
右2　A 区 25 号土坑（北西から）
左3　A 区 26 号土坑（南から）
右4　A 区 28 号土坑（西から）
左5　B 区 29 号土坑（北から）
右6　B 区 30 号土坑（南から）

7　B 区 31 号土坑土層（東から）



1　B 区 31 号土坑（東から）



2　B 区 32 号土坑（南から）



3　B 区 33 号土坑土層（南から）



4　B 区 33 号土坑（南から）









左1　A 区 34 号土坑（南から）
右2　A 区 35 号土坑（南から）
左3　A 区 36 号土坑（東から）
右4　A 区 37 号土坑（南西から）



5　A 区 38 号土坑（南東から）



6　A 区 39 号土坑（南から）



1　A 区 40・41 号土坑（南から）





左2　A 区 42 号土坑（南西から）
右3　A 区 43 号土坑（南西から）



4　A 区 44・45 号土坑（東から）



5　A 区 46・47 号土坑（南から）





左1　A 区 46 号土坑（南から）
右2　A 区 47 号土坑（南から）



3　D 区 49・50 号土坑（南から）



4　D 区 51 号土坑（南から）



5　D 区 52 号土坑（西から）

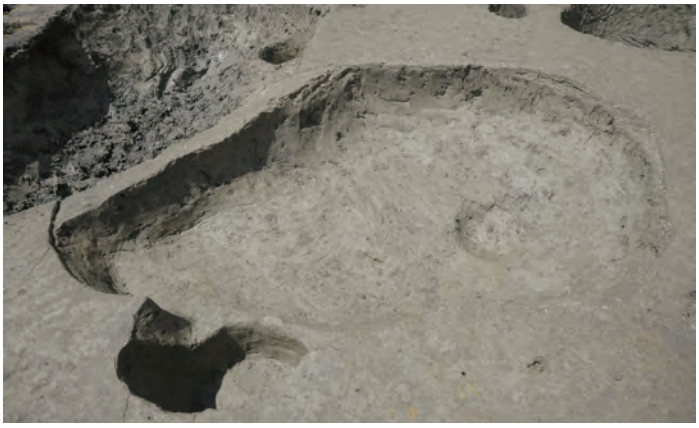


左1　D区 53 号土坑（西から）
右2　D区 53 号土坑（南東から）
左3　D区 54 号土坑（南から）
右4　D区 55 号土坑（南から）
左5　D区 56 号土坑（西から）
右6　D区 57 号土坑（西から）



7　D区 58 号土坑（南から）









左1　D区 59 号土坑（南から）
右2　D区 60 号土坑（東から）
左3　D区 61 号土坑（東から）
右4　D区 62 号土坑（南から）



5　D区 63 号土坑土層（北東から）



6　D区 65 号土坑（西から）









左1　C区 66 号土坑（南から）
右2　C区 67 号土坑（南から）
左3　C区 68 号土坑（東から）
右4　C区 68 号土坑土層（東から）



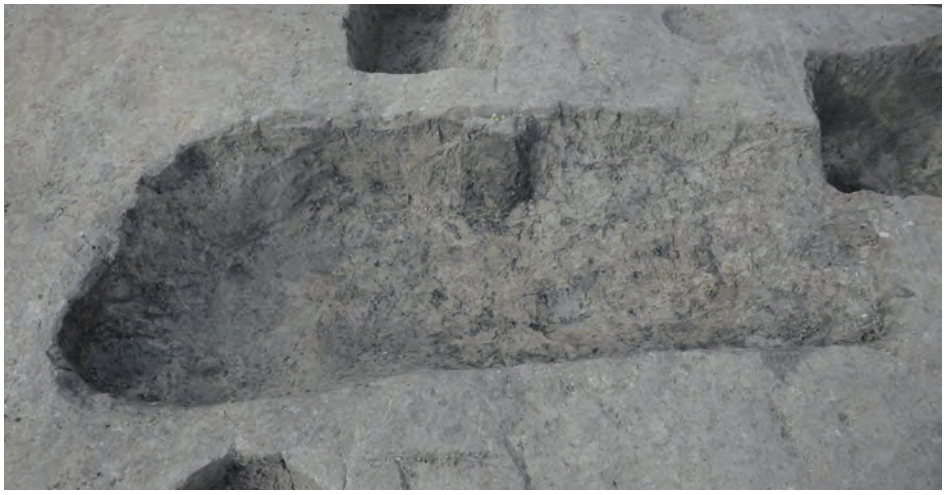
5　C区 69 号土坑（西から）



6　C区 70 号土坑（南から）



1　C 区 71 号土坑土層（南から）



2　C 区 71 号土坑（南から）



3　C 区 72 号土坑土層（南から）



4　C 区 72 号土坑（南から）

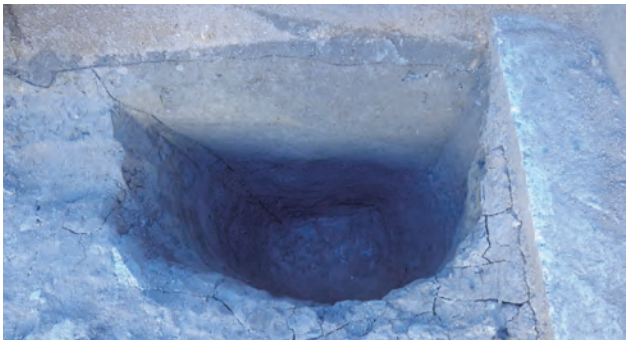


1　C 区 73 号土坑（南から）









左 2　C 区 74 号土坑（北から）
右3　C 区 77 号土坑（南から）
左4　C 区 75 号土坑土層（南から）
右5　C 区 79 号土坑（南から）



6　C 区 75 号土坑（南から）



1　C 区 76 号土坑（南から）



2　C 区 76 号土坑土層（南から）



3　C 区 78 号土坑（西から）



1　B 区 80 号土坑（南から）



2　B 区 81 号土坑（南から）





左3　B 区 82 号土坑（西から）
右4　B 区 82 号土坑土層（西から）



5　B 区 84 号土坑（南から）



1　B 区 85 号土坑土層（東から）



2　B 区 85 号土坑（東から）



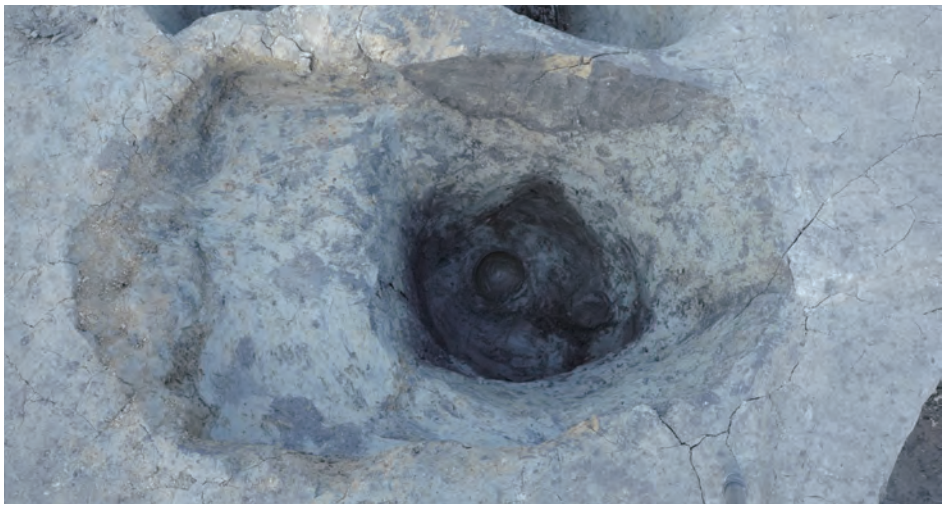
3　B 区 86 号土坑（東から）



4　B 区 88 号土坑（南から）



1　B 区 89 号土坑（北から）



2　B 区 90 号土坑（南から）



3　B 区 91 号土坑（南から）



4　B 区 92 号土坑（南から）



1　B 区 93 号土坑（南から）



2　B 区 94 号土坑（南から）



3　B 区 95 号土坑（南から）
左4　B 区 96 号土坑（南から）
右5　B 区 97 号土坑（南東から）













左1　B 区 98 号土坑（北から）
右2　B 区 99 号土坑（北から）
左3　B 区 100 号土坑（南東から）
右4　D 区 102・103 号土坑（南から）



5　D 区 104 号土坑（北から）



6　D 区 105 号土坑（北から）









左1　B 区 106 号土坑（西から）
右2　D 区 107 号土坑（南西から）
左3　D 区 108 号土坑（北から）
右4　D 区 108 ～ 110 号土坑（北から）
左5　D 区 111 号土坑（南から）
右6　D 区 113 号土坑（南から）

7　D 区 115 号土坑、54 号溝南（西から）










左1　D 区 116 号土坑（南から）
右2　D 区 118 号土坑（西から）
左3　D 区 117 号土坑土層（西から）
右4　D 区 117 号土坑（西から）
左5　E 区 120 号土坑（東から）
右6　E 区 121 号土坑（南から）
左7　E 区 122 号土坑土層（北から）
右8　E 区 123 号土坑土層（西から）



9　E 区 124 号土坑土層（西から）









左1　E 区 122 号土坑（北から）
右2　E 区 123 号土坑（西から）
左3　E 区 125 号土坑（南から）
右4　E 区 126 号土坑（南から）
左5　E 区 128 号土坑（西から）
右6　E 区 129・130 号土坑（西から）

7　E 区 131 号土坑土層（東から）








左1　E 区 131 号土坑（南から）
右2　E 区 132 号土坑（南から）
左3　E 区 133・134 号土坑（西から）
右4　E 区 135・137 号土坑（東から）
左5　E 区 127・138 号土坑（東から）
右6　E 区 139 号土坑（南から）



7　F 区 140 号土坑土層（西から）



1　F 区 140 号土坑（西から）

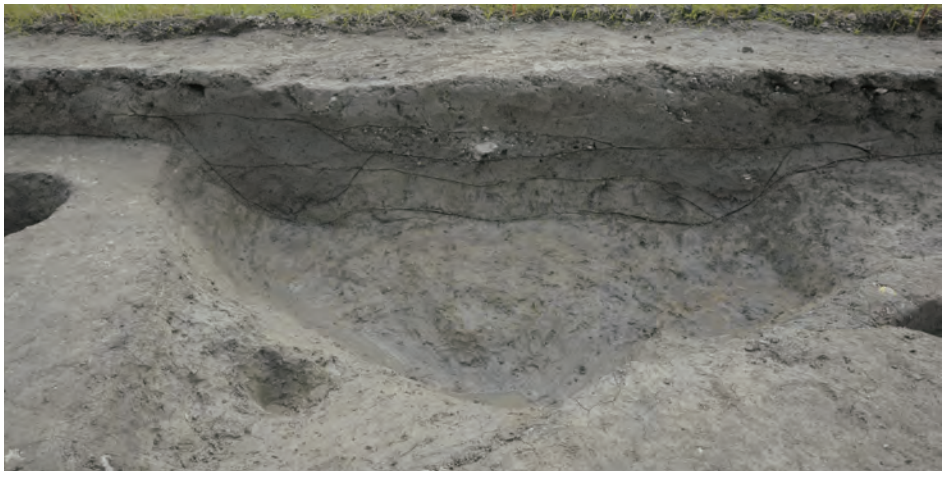


2　F 区 141 号土坑（北東から）





左3　F 区 142 号土坑（南から）
右4　F 区 143 号土坑（西から）

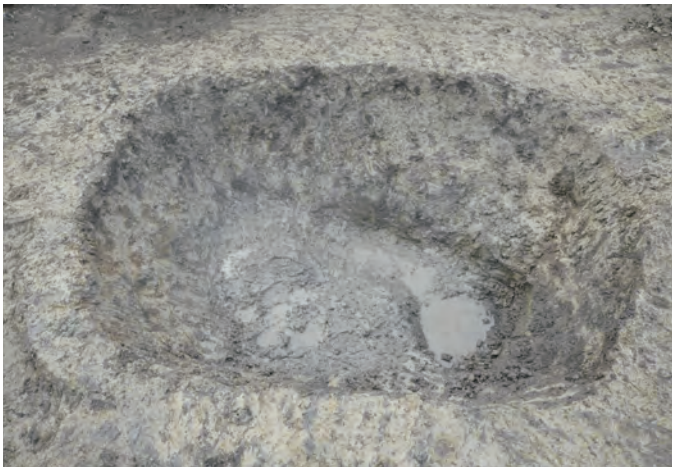


5　F 区 144 号土坑（北から）

1　F 区 145 号土坑（北から）
左2　G 区 146 号土坑（南から）
右3　G 区 147 号土坑（西から）
左4　G 区 148 号土坑土層（東から）
右5　G 区 148 号土坑（東から）
左6　G 区 149 号土坑（東から）
右7　G 区 150 号土坑（南西から）













左1　G 区 151 号土坑（南から）
右2　G 区 153 号土坑（西から）



3　G 区 152 号土坑（南から）
左4　G 区 154 号土坑（南から）
右5　G 区 155 号土坑（北から）
左6　G 区 156 号土坑（北西から）
右7　G 区 157 号土坑（西から）











1　G 区 158 号土坑（南から）



2　G 区 161 号土坑（北東から）
左3　G 区 163・164・166 号土坑（西から）
右4　G 区 163 号土坑（南東から）
左5　G 区 165 号土坑（東から）
右6　G 区 166 号土坑（東から）









図版 44



1　A区2号溝土層（北から）



2　A区2号溝（北東から）



3　A区3号溝土層（北から）



4　A区号3号溝（南から）



1　A区4号溝（東から）



2　A区4号溝土層（東から）



3　A区4号溝木製品出土状況（東から）



1　A区5号溝（東から）



2　A区4・5号溝（南から）
左3　A区5号溝土層（東から）
右4　A区6号溝土層（北から）
左5　A区6号溝（北から）
右6　A区7号溝土層（南から）













左1　A 区8号溝（南から）
右2　A 区9・10 号溝（南から）



3　A 区 11 号溝（西から）
4　A 区 13・14 号溝土層（北から）







左1　A 区 17 号溝土層（南から）
右2　A 区 19 号溝土層（東から）



3　B 区 18 号溝（南から）





左4　A 区 19 号溝（東から）
右5　A 区 22 号溝（東から）



6　A 区 20・21 号溝（南から）





左1　D区 23 号溝（南から）
右2　D区 25 号溝土層（東から）



3　D区 25 号溝（東から）

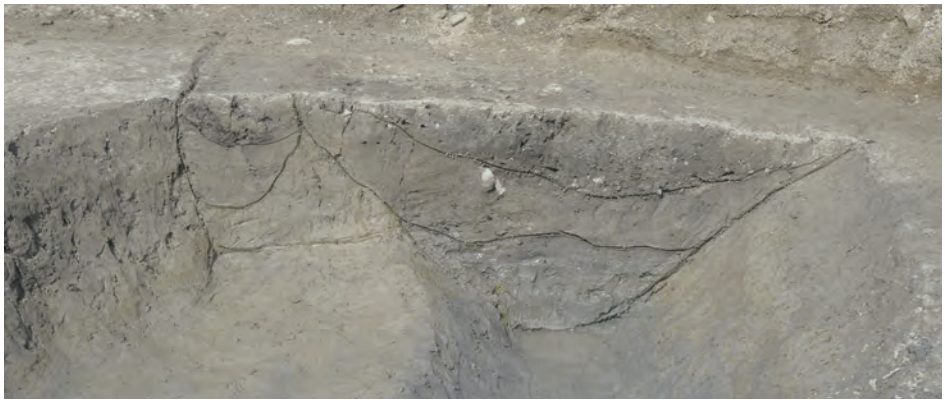


4　D区 26 号溝（南東から）





左1　D 区 31 号溝（北から）
右2　D 区 31 号溝（南から）



3　D 区 31 号溝土層（南から）



4　D 区 29・30 号溝土層（南から）



5　D 区 27 ～ 30 号溝（南東から）



1　C 区 32・37 号溝土層（南から）



2　C 区 32・37 号溝（南から）



3　C 区 33 号溝土層（南から）



4　C 区 33 号溝（南から）







左1　C 区 34 号溝（南から）
中2　C 区 35 号溝（南から）
右3　C 区 36 号溝（西から）
左4　C 区 38・39 号溝（北から）
右5　C 区 43 号溝（南から）



6　C 区 39 号溝土層（東から）



7　C 区 39 号溝（西から）





左1　B 区 44 号溝（北から）
右2　B 区 45 号溝土層（北から）



3　B 区 45 号溝（南から）



4　B 区 45・49 号溝（南から）



5　B 区 46・47 号溝（北東から）

図版 54





左1　B 区 49 号溝（北から）
右2　B 区 50 号溝（北から）



3　B 区 49 号溝土層（南から）

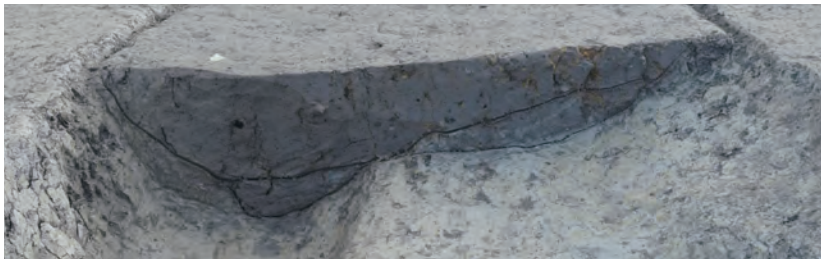


4　B 区号 50 号溝土層（北から）



5　B 区 51 号溝（南から）





左1　D 区 53 号溝土層（南から）
右2　D 区 54 号溝土層（西から）



3　D 区 54 号溝西側（南から）



4　D 区 54 号溝中央（南西から）



5　D 区 54 号溝溜枡遺構（北から）



1　D区 54・55 号溝合流部分（北西から）



左2　D区 56・57 号溝（南から）



右3　D区 60 号溝（南東から）



4　D区 56・57 号溝土層（北から）



左5　D区 58 号溝（西から）



右6　D区 59 号溝（東から）







左１　D 区 61 号溝（北から）
中２　D 区 62 号溝（西から）
右３　D 区 63 号溝（南から）
左４　D 区 64 号溝（南西から）
右５　D 区 64 号溝（東から）



6　E 区 65・66 号溝（西から）



7　E 区 65・66 号溝土層（西から）



1　E 区 67・68 号溝（南から）
左 2　D 区 69・70 号溝（北から）
中 3　E 区 72 号溝東側（東から）
右 4　E 区 72 号溝西側（東から）











左 5　G 区 77・79 号溝西側（東から）
右 6　G 区 77・79 号溝東側（西から）
左 7　G 区 78 号溝土層（北から）
右 4　G 区 84 号溝（北西から）







1　G 区石敷遺構（西から）
左2　A 区 P114（東から）
右3　A 区 P299（東から）





左4　A 区 P301（南から）
右5　D 区 P331（南から）
左6　2面 A 区 1 号土坑（南から）
中7　2面 D 区 2・3 号土坑（北から）
右8　2面 D 区 4 号土坑（西から）





















左１　２面Ｄ区５号土坑（東から）
右２　２面Ｄ区７号土坑（東から）
左３　２面Ｄ区８号土坑（南から）
右４　２面Ｄ区８号土坑木製井戸枠（南から）

５　２面Ｄ区８号土坑土層（南から）
左６　２面Ａ区１号溝（南から）
右７　２面Ｄ区２号溝（南から）





# 報　告　書　抄　録

| | |
|---|---|
| ふりがな | さかもとまちいせき　いこうへん |
| 書名 | 坂本町遺跡　遺構編 |
| 副書名 | 都市計画道路三橋筑紫橋線道路建設関係埋蔵文化財調査報告 1 |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 福岡県文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第 290 集 |
| 編著者名 | 坂本　真一 |
| 編集機関 | 九州歴史資料館 |
| 所在地 | 〒 836-0106　福岡県小郡市三沢 5208-3　TEL 0942-75-9575 |
| 発行年月日 | 令和 8（2026）年 3 月 31 日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| さかもとまちいせき<br>坂本町遺跡 | ふくおかけんやながわしさかもとまち<br>福岡県柳川市坂本町 | 40207 | | 33°<br>9′<br>84″ | 130°<br>24′<br>8″ | 2022.10.27<br>～<br>2025.3.31 | 3,820㎡ | 道路建設 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 坂本町遺跡 | 集落 | 鎌倉時代<br>江戸時代 | 建物 14 棟<br>柵列 27 条<br>土坑 176 基<br>溝 86 条<br>ピット 741 | 土師器<br>土師質土器<br>瓦器<br>瓦質土器<br>輸入陶磁器<br>陶器<br>磁器<br>木製品<br>土製品<br>石製品<br>骨<br>貝 | |

| | |
|---|---|
| 要約 | 柳河城址の北側に位置し、寛政 3（1791）年の絵図によると武家屋敷があった場所になる。武家屋敷に関わる建物、柵列などの遺構を検出した。 |

| 福岡県行政資料 | |
|---|---|
| 分類番号 | 所属コード |
| JH | 2117104 |
| 登録年度 | 登録番号 |
| 7 | 3 |

福岡県文化財調査報告書　第 290 集

# 坂本町遺跡　遺構編

令和 8 年 3 月 31 日

発　行　九州歴史資料館

〒 838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3

印　刷　株式会社　四ヶ所

朝倉市馬田３３６